生活科における教科の目標、見方・考え方、資質・能力の全体構造（案）

目標

柱書

自立し生活を豊かにしていくための資質・能力について、身体性を伴う体験や多様な表現活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
• 活動や体験の過程において、自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気付くとともに、他者との関わりを通してそれらの気付きを深め、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	• 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、気付きや実感を基に自分自身や自分の生活について考えを巡らせ、多様に表現することができるようにする。	• 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、他者と協働し、状況に応じて関わり方を調整するとともに、意欲や自信をもって、学びや生活を豊かにしようとする態度を養う。

見方・考え方

• 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすること

「統合的な理解・総合的な発揮」

学校、家庭及び地域の生活に関する内容	身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	自分自身の生活や成長に関する内容
資質・能力の深まりの状態	資質・能力の深まりの状態	資質・能力の深まりの状態
学校、家庭及び地域との関わりの中で、自分の生活が支えられていることへの気付きを深め、それらに親しみや愛着をもって行動できる。	身近な人々、社会及び自然への働きかけの中で、自分の生活がよりよくなることへの気付きを深め、生活を楽しくすることができる。	これまでの生活や学びを通じた自分の成長の振り返りの中で、他者への感謝や自分のよさ、可能性への気付きを深め、意欲的に生活できる。
内容項目例	内容項目例	内容項目例
(1) 学校と生活 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。	(4) 公共物や公共施設の利用 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。	(9) 自分の成長 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。
(2) 家庭と生活 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。	(5) 季節の変化と生活 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。	
(3) 地域と生活 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。	(6) 自然や物を使った遊び 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。	
	(7) 動植物の飼育・栽培 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。	
	(8) 生活や出来事の伝え合い 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。	

「資質・能力の深まりの状態」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい

① 生活科は、具体的な活動や体験を通して資質・能力の３つの柱を一体的に育成するため、資質・能力を分けて記載しないこととしており、統合的な理解と総合的な発揮に分けず、資質・能力の深まりの状態として一体的に記載。

現在でも、９項目の内容を共通性のある大きなまとまりとして、３つの階層で分類しており、階層毎に資質・能力の深まりの状態を設定。

② 学習を通じて「気付きを深める」ことを共通で示している。生活科の学びでは、単に具体的な活動や体験の楽しさで終わってしまうのではなく、その中で生まれる気付きを基に考えたり、表現したりすることで、新たな活動に結びつけていくことが重要であり、そうした授業改善に繋げていく。

このような体験と表現の往還の詰み重ねが、学習活動の質を高め、その後の学習や生活への意欲と工夫を生み出すと考えられる。

小学校

学校、家庭及び地域の生活に関する内容	身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	自分自身の生活や成長に関する内容
資質・能力の深まりの状態	資質・能力の深まりの状態	資質・能力の深まりの状態
学校，家庭及び地域との関わりの中で，自分の生活が支えられていることへの**気付きを深め**，それらに**親しみや愛着をもって行動**できる。	身近な人々，社会及び自然への働きかけの中で，自分の生活がよりよくなることへの**気付きを深め**，**生活を楽しくする**ことができる。	これまでの生活や学びを通じた自分の成長の振り返りの中で，他者への感謝や自分のよさ，可能性への**気付きを深め**，**意欲的に生活**できる。
内容項目例	内容項目例	内容項目例
(1) 学校と生活	(4) 公共物や公共施設の利用	(9) 自分の成長
(2) 家庭と生活	(5) 季節の変化と生活	
(3) 地域と生活	(6) 自然や物を使った遊び	
	(7) 動植物の飼育・栽培	
	(8) 生活や出来事の伝え合い	

③ 生活科では、自発的・能動的に対象に関わるとともに、学習過程において対象に対して楽しさ・親しみといった肯定的な心情を育み、自分自身の生活や学習に意欲的に取り組むことも重要。資質・能力の深まりの状態においてそれらを明確に位置付け、教師が児童の肯定的な心情を育む授業を構想することを促す。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（小学校・生活科）

次の単元は、年間指導計画では単元名「生きもの大好き」となっています。ここでは、生き物を飼育することが示されています。これは、生活科の内容（７）「動植物の飼育栽培」を踏まえた単元です。子供が今までの経験を生かしながら、思いや願いを実現する過程の中で資質・能力を育成していくことができるのかを考えて単元計画を作成したいです。

まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標　自立し生活を豊かにしていくための資質・能力について、身体性を伴う体験や多様な表現活動を通して、次のとおり育成することを目指す

見方・考え方　身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすること

「統合的な理解・総合的な発揮」

（身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容）
身近な人々、社会及び自然への働きかけの中で、自分の生活がよりよくなることへの気付きを深め、生活を楽しくすることができる

内容

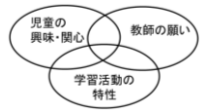
内容（７）「動植物の飼育・栽培」
動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

児童が最終的に「統合的な理解・総合的な発揮」を身に付けられるような活動を考えればいいのか。「自分の生活がよりよくなることへの気付きを深める」ことが、深い学びの鍵になっていますね。生き物を大切に飼育していることや、そうした自分自身に気付くことが、よりよい生活につながりますね。この単元では、どのような学習活動を設定していくのかを考えていきます。

生活科の学習活動は、児童の思いや願いを実現していくようにしたいな。その上で、資質・能力が身に付くようにしたいな。生活科の単元を作成するために、①発想する段階、②構想する段階、③計画する段階の手順で考えよう。

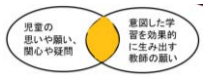
年間指導計画を踏まえながら、

①発想する段階



児童は生き物を探したり、じっと見たりしているから興味・関心はありそうだ。また、生き物図鑑も見ているので、生き物を飼育する活動につなげたいな。飼育する中で、生き物の変化や成長の様子に気付いてほしいな。そのためには、生き物を飼育して、じっくり観察して、そこで気付いたことを子供が「生き物図鑑」を作って、友達と伝え合ってほしいな。

②構想する段階



児童の思いや願い、関心や疑問を生かすことと、生き物を飼育することや「生き物図鑑」を作成することの両方のバランスを考えながら、言葉かけや環境構成などを工夫する必要があります。

③計画する段階



飼育したり、調べたり、伝え合ったりする学習活動を、一連の問題解決の流れと児童の意識の流れに沿った展開にする必要があります。体験活動と表現活動を往還しながら、授業時数、学習環境、学習形態、指導体制、各教科等との関連などを視野に入れながら計画していきます。

本単元における学習活動とそれらのつながりが決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見取れる評価にしたいな。

本単元の活動における「統合的な理解・総合的な発揮」は次のように考えることができそうです。身近な生き物や友達との触れ合いの中で、生き物の生命や大切に飼育した自分自身に気付くことは、これからの自分の生活を楽しくすることにつながりますね。

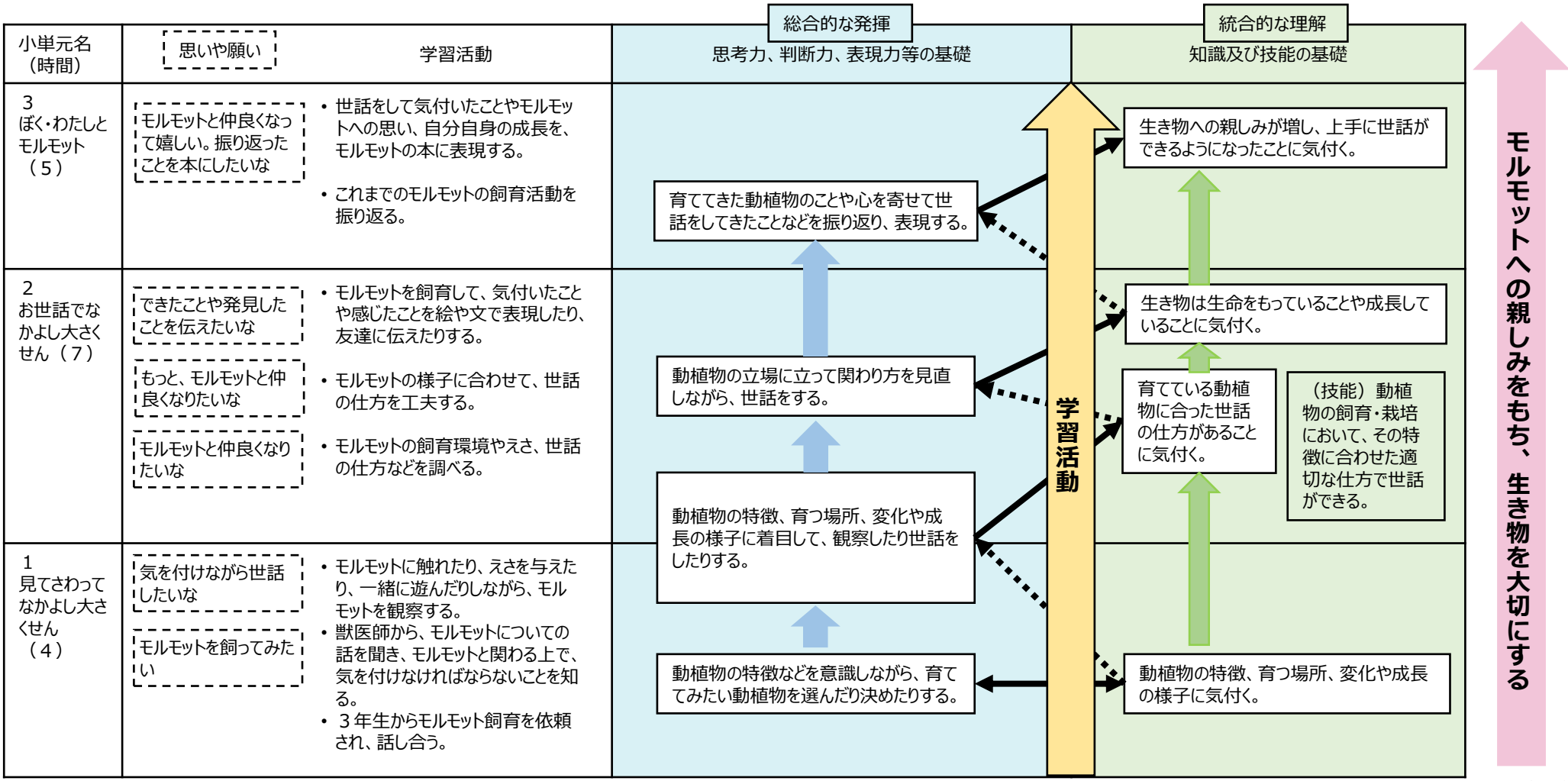
「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（小学校・生活科）

「統合的な理解・総合的な発揮」（身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容）
身近な人々、社会及び自然への働きかけの中で、自分の生活がよりよくなることへの気付きを深め、生活を楽しくすることができる。

内容(7) 動植物の飼育・栽培
動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

単元目標
モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって着目したり世話を工夫したりして、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

小単元名（時間）	思いや願い	学習活動
3 ぼく・わたしとモルモット（５）	モルモットと仲良くなって嬉しい。振り返ったことを本にしたいな	・世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を、モルモットの本に表現する。 ・これまでのモルモットの飼育活動を振り返る。
2 お世話でなかよし大さくせん（７）	できたことや発見したことを伝えたいな もっと、モルモットと仲良くなりたいな モルモットと仲良くなりたいな	・モルモットを飼育して、気付いたことや感じたことを絵や文で表現したり、友達に伝えたりする。 ・モルモットの様子に合わせて、世話の仕方を工夫する。 ・モルモットの飼育環境やえさ、世話の仕方などを調べる。
1 見てさわってなかよし大さくせん（４）	気を付けながら世話したいな モルモットを飼ってみたい	・モルモットに触れたり、えさを与えたり、一緒に遊んだりしながら、モルモットを観察する。 ・獣医師から、モルモットについての話を聞き、モルモットと関わる上で、気を付けなければならないことを知る。 ・３年生からモルモット飼育を依頼され、話し合う。



※生活科の単元づくりは、子供一人一人が思いや願いをもった学習活動の中で考えを巡らせ、気付きを深め、肯定的な心情を育むという「深い学び」となっていくことから、上図の順番で示している。

生活科の「本質的意義」再定義：知を創る学びへの転換

- 生活科における深い学びとは、身体を通して対象と関わり、感じ取ったことを他者との対話や表現を通して捉え直し、自分なりの意味や価値を創り出していく学びの過程である。体験と表現の相互作用を通して気付きを深めていく営みは、まさに生活科に本来備わってきた意義である。
- そのことを踏まえ、生活科の本質的意義を明確にし、それが学校教育において発揮する教育的価値、位置付けを明らかにするとともに、深い学びを実装するための視点として「4つの本質的意義」を体系的に整理。人間的な学びを実現するために、以下の４つの観点を本質的意義として位置付ける。

生活科がもつ４つの〈本質的意義〉

① 身体性

- 身体を通して対象と関わることで、見る、聞く、触れる、嗅ぐなどの諸感覚を通して対象を捉えるとともに、直接的な関わりによって実感的な認識が得られるようにする。AIを含む仮想空間における情報の受容ではない、「身体で身近な生活を捉える」体験や活動を、自分の外に広がる世界との確かな接点をもつ出発点とする。

② 対象と自分との関わり

- 見る、聞く、触れる、嗅ぐといった働きかけによって、身近な物事の変化を実感し、試行錯誤する中で、「自分が動くと対象となる身近な物事が変わる」という経験が、好奇心や探究心を生み、身近な人々、社会及び自然のよさや特徴などに気付き、それらを大切に思いながら自分との関わりを意識することに繋げる。

③ 他者と自分との関わり

- 他者との関わりを通して、互いの力を出し合う経験を重ねる中で、相手の思いに気付き、受け止め、尊重する態度を育むとともに、他者とともに生活する自分の存在を明らかにする。さらに、関わる対象を身近な人から地域・社会へと広げる。

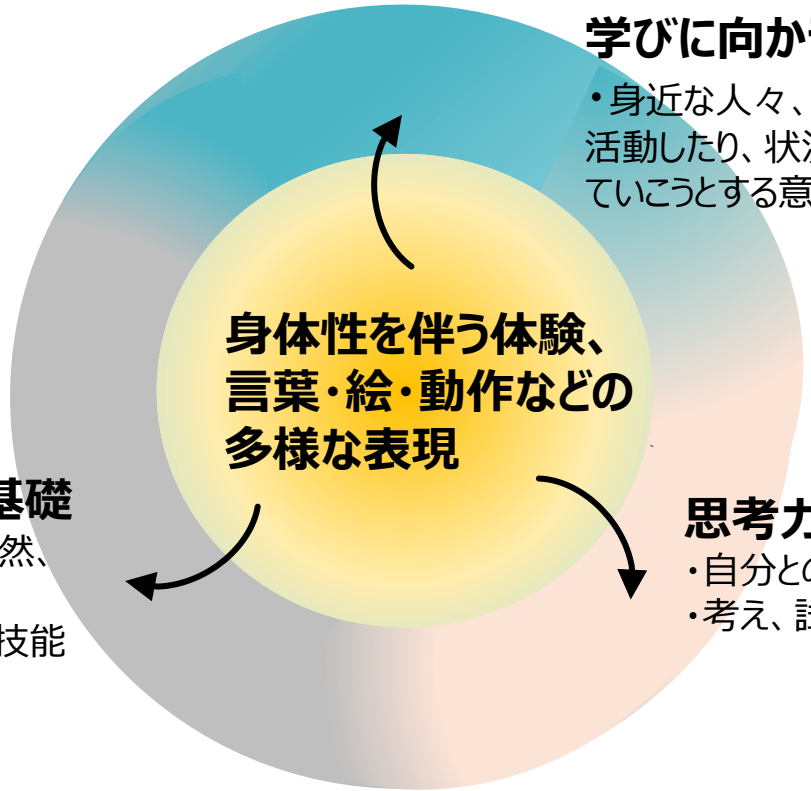
④ 自己認識

- 生活科の学びでは、活動を通して「やってみたい」という気持ちが生まれ、自分で考え行動する主体性や自立性を育む。「自分はこう感じる・考える」ことを生かした学習活動を繰り返す中で、場面や状況に応じて自己調整するとともに、自らの変化や成長に目を向けることで、自分自身のよさや可能性に気付く機会を提供する。

生活科における資質・能力の構成について（イメージ）

- 生活科における資質・能力については、現行学習指導要領の目標に掲げているとおり、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱として整理して捉えることができる。
- その上で、生活科における資質・能力の構成や育成の在り方については、三つの柱を個別・独立に育成しようとするよりも、身体性を伴う体験と言葉・絵・動作などの多様な表現活動を通して、相互に関わり合いながら一体的に立ち上がり、生活科の学びの中で育成されていくことが期待されるものであり、自立し生活を豊かにしていくことにつながるものとして整理する。
- このため、生活科における内容の示し方については、並列パターンをイメージしつつ、学習活動と一体となって育成される資質・能力を包括的に示す。

到達像：自立し生活を豊かにしていく



学びに向かう力、人間性等

・身近な人々、社会及び自然に自ら関わり、他者と一緒に活動したり、状況に応じて働きかけたりして、生活をよりよくしていこうとする意欲や態度を育成する。

知識及び技能の基礎

・身近な人々・社会・自然、自分自身への気付き
・生活上必要な習慣や技能

思考力、判断力、表現力等の基礎

・自分との関わりで対象を捉える
・考え、試し、工夫し、表現する

幼児教育及び小学校中学年以降との接続のイメージ

小学校中学年

小学校低学年

幼児教育

中学年以降の教育への接続

社会科や理科などの系統的な学習や、横断的・総合的に学ぶ総合的な学習の時間に発展的につながっていくことを意識

架け橋期の接続

小学校１年生は、自分の好きなことや得意なことが分かってくる時期であり、小学校６年間の学びや生活の基盤をつくる重要な時期。幼児教育との円滑な接続により、小学校での学びや生活を充実

国語

算数

社会科
【見方・考え方（案）】
社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

総合的な学習の時間
【見方・考え方（案）】
実社会・実生活との関わりの中で見いだす興味・関心や問題意識に基づく課題を、横断的・総合的な視点から捉え、新たな価値を創造し、自分らしい生き方を問い続けること

理科
【見方・考え方（案）】
自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること

音楽

図画工作

体育

道徳

特別活動

外国語活動

生活科
【見方・考え方（案）】身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすること

柱書（案）

自立し生活を豊かにしていくための資質・能力について、身体性を伴う体験や多様な表現活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

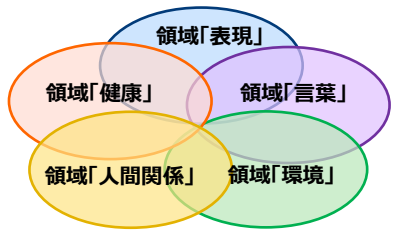
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
活動や体験の過程において、自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気付くとともに、他者との関わりを通してそれらの気付きを深め、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、気付きや実感を基に自分自身や自分の生活について考えを巡らせ、多様に表現することができるようにする。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、他者と協働し、状況に応じて関わり方を調整するとともに、意欲や自信をもって、学びや生活を豊かにしようとする態度を養う。

スタートカリキュラムを通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ

知識及び技能の基礎
（遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったりするのか）

思考力、判断力、表現力等の基礎
（遊びや生活の中で、気付いたことやできるようになったことなどを使い、どう考えたり試したり、工夫したり表現したりするか）

学びに向かう力、人間性等
（心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか）



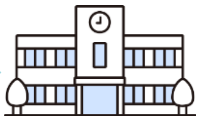
幼児教育と小学校教育との円滑な接続のイメージ

- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るに当たっては、それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実を図る観点から、互いの教育への共通理解を図るとともに、幼児教育と小学校教育との学びのつながりを意識した実践の改善を図ることが重要。
- 設置者や施設類型に関わらず、幼児教育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）及び小学校や地域の実情に応じ、対話を通じて、
  ①互いの教育に対する共通理解を図り、
  ②小学校１年生が幼児教育施設でどのような生活や学びをしていたのかを踏まえつつ、スタートカリキュラムを充実し、
  ③さらに、「架け橋期のカリキュラム」を協働して作成等する過程を通じて、学びのつながりを意識した実践の改善を図る。



幼児教育

合同の会議や研修、保育・授業の相互参観、スタートカリキュラムの充実、「架け橋期のカリキュラム」の協働作成等の機会において、
「対話のための資料」等を活用するなど対話を通じて



小学校教育

互いの教育に対する共通理解

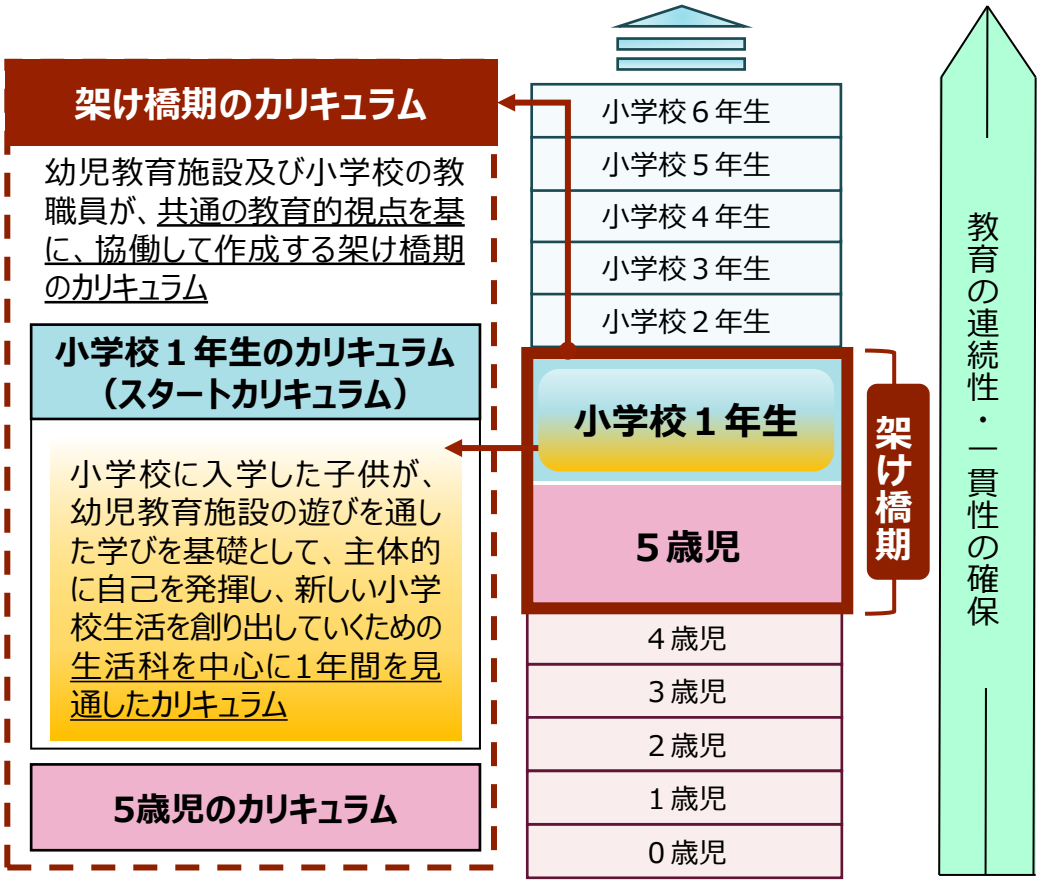
【幼→小】幼児教育の基本的な考え方（環境を通した教育、遊びを通した総合的な指導）、「遊びの深まり」の実現による資質・能力の育成
【小→幼】各教科等の見方・考え方、各教科等における体系的な指導
【幼↔小】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組の改善

学びのつながりを意識した実践の改善

【幼】幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取り、幼児教育において育まれる資質・能力について小学校と共有し、**“学びのつながり”を検討**
➡小学校の各教科等における資質・能力の育成を見通し、幼児教育において遊びを通した指導をどのように工夫するとよいかを踏まえた**実践の改善**

【小】小学校の各教科等において育成を目指す資質・能力について、幼児教育施設と共有し、**“学びのつながり”を検討**
➡幼児教育において育まれる資質・能力を小学校の各教科等の学習にどう生かすかを踏まえた**実践の改善**

それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実



※「幼児教育」：０歳～小学校就学前までの幼稚園、保育所、認定こども園における教育。「幼」は幼児教育の略称として使用。

スタートカリキュラムの充実

- スタートカリキュラムの編成・実施に当たっては、子供一人一人が安心して自己を発揮しながら、新しい小学校生活を創り出していくとともに、幼児期の学びの芽生えから自覚的な学びへと接続していく取組を充実（さらに、これらの学びは中学年以降の探究的な学びに繋げることにも留意）。
- これらの取組が円滑に進められるようにするため、スタートカリキュラムを拡張することで、第１学年の教育課程を充実する。そのため、スタートカリキュラムを入学当初の時期だけでなく、１学期中、各学期始めなど1年間を見通して実施できるよう改善を図る（実施に当たっては、架け橋プログラムの実践も参考にして検討）。

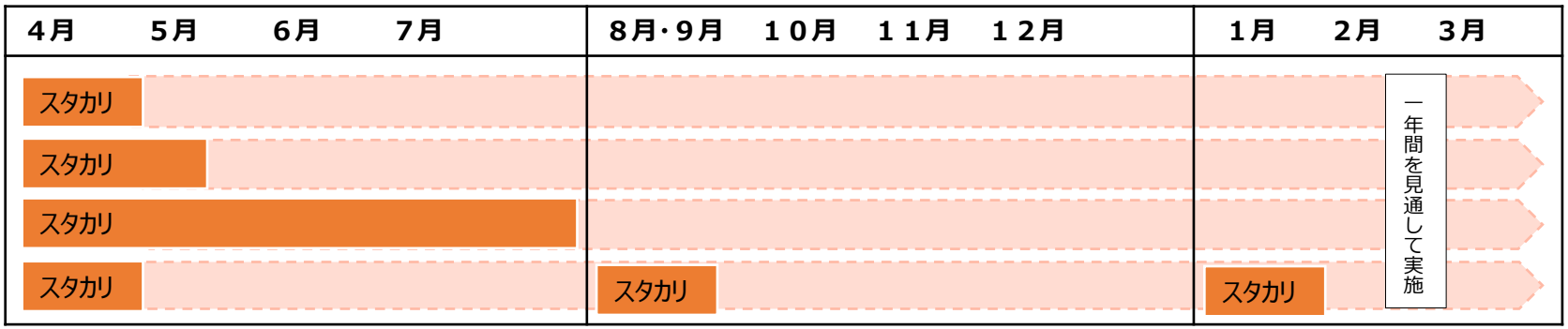
スタカリのタイプ

A：2週間

B：4月中

C：4月～7月に拡張

D：年間に分散



（イメージ例）
※あくまでも一つの例示として示している。

一人一人が安心感を持ち、新しい人間関係を築くなどの活動を中心とした学習

※10～15分という短い時間を活用して、生活・特別活動・国語・音楽等に関わる活動を行うことを想定

生活科を中心とした学習

※生活科を中心としながら、国語・図画工作・体育・算数等を合科的・関連的に組み合わせて単元を編成した活動を想定

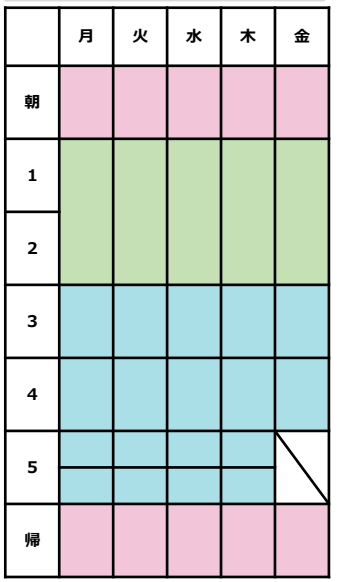
その他の教科を中心とした学習

※黄色ハイライト部分は、各教科等の略称。（国語、算数、生活、音楽、図画工作、体育、道徳、特別活動）

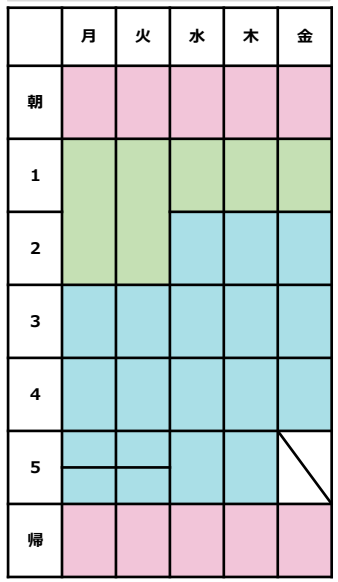
4月2週目のねらい「先生や友達と仲良くなる」～４月末

	月	火	水	木	金
朝	なかよくなろう ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	なかよくなろう ・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	なかよくなろう ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	なかよくなろう ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	なかよくなろう ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう
1					
2	がっこうだいすき 国・図・生	がっこうだいすき 国・図・生	がっこうだいすき 国・図・生	がっこうだいすき 国・体・生	がっこうたんけん 国・算・生
3					はるですよ道
4	あいうえお国 きゅうしょく特	あいうえお国 くらべよう算	あいうえお国 はるのがっこう図	ゆうぐあそび体 いくつかな算	おはなしよんで国 うたおう音
5	あしたもたのしみ ・帰りの支度 ・お話聞いて ・お話読んで	あしたもたのしみ ・帰りの支度 ・お話聞いて ・お話読んで	あしたもたのしみ ・帰りの支度 ・お話聞いて ・お話読んで	あいうえお国	
帰				あしたもたのしみ ・帰りの支度 ・お話聞いて ・お話読んで	あしたもたのしみ ・帰りの支度 ・お話聞いて

５月



６月



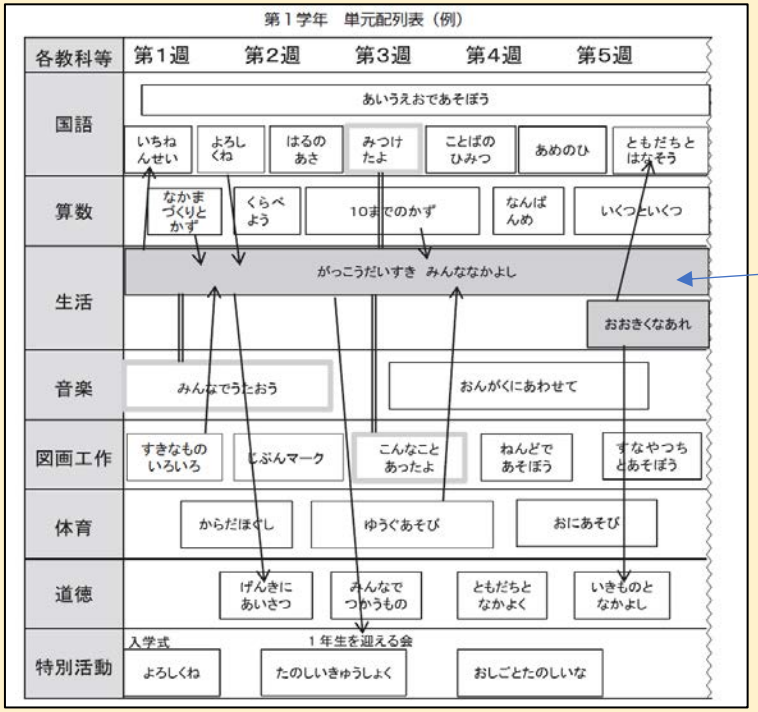
合科的・関連的な指導や弾力的な時間割作成の考え方

- 合科的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割を作成するに当たっての視点として、①学び・発達の連続性、②時間割の工夫、③教科等間のつながり、④環境づくり、⑤資質・能力の育成、の５つの観点で考える。

（１）単元の構成と配列

○主体的に自己を発揮しながら、より自覚的に学びに向かうことが可能となるよう、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を行う

○そのために、第1学年の全ての単元を配列し、俯瞰することができるように単元配列表を作成する



①学び・発達の連続性

発達の特性や学びを踏まえて指導計画を立てるとともに、子供一人一人の児童理解を基にして学習活動を設定したり関わったりする

②時間割の工夫

一日の流れと活動量を意識し、落ち着いて生活できるようにしたり、朝の会や帰りの会の時間の設定を工夫したりする

③教科等間のつながり

日常生活や生活科の活動の中にある発見や驚き、問いなどを生かし、教科の学びにつなげる

④環境づくり

子供一人一人が安心し自己を発揮できるような教室・廊下・学校全体の環境とする

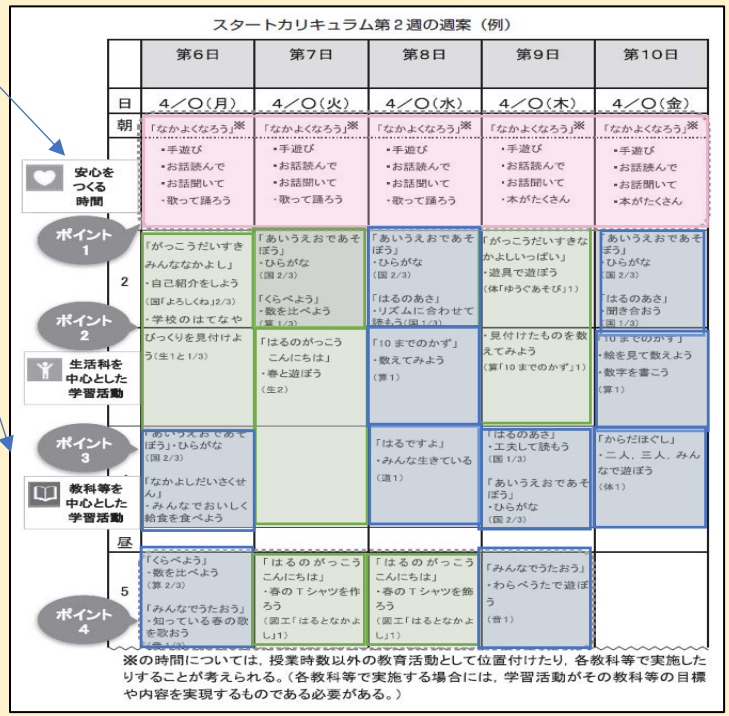
⑤資質・能力の育成

思いや願いをもって、体験と表現を往還しながら自覚的に学べるようにする

（２）週の計画と時間配分

○児童の発達の特性や学びの特徴を踏まえ、短い時間で時間割を構成したり、ゆったりとした活動時間を位置付けたりするなど、弾力的な時間割の設定の工夫を行う

○そのために、実践に向けて具体化・可視化した週案を作成する



一人一人が安心感を持ち、新しい人間関係を築くなどの活動を中心とした学習

合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習

教科等を中心とした学習

(生⑧参照)

「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム～スタートカリキュラム導入・実践の手引き～」（文部科学省、国立教育政策研究所教育課程研究センター）を基に作成

動物園との連携

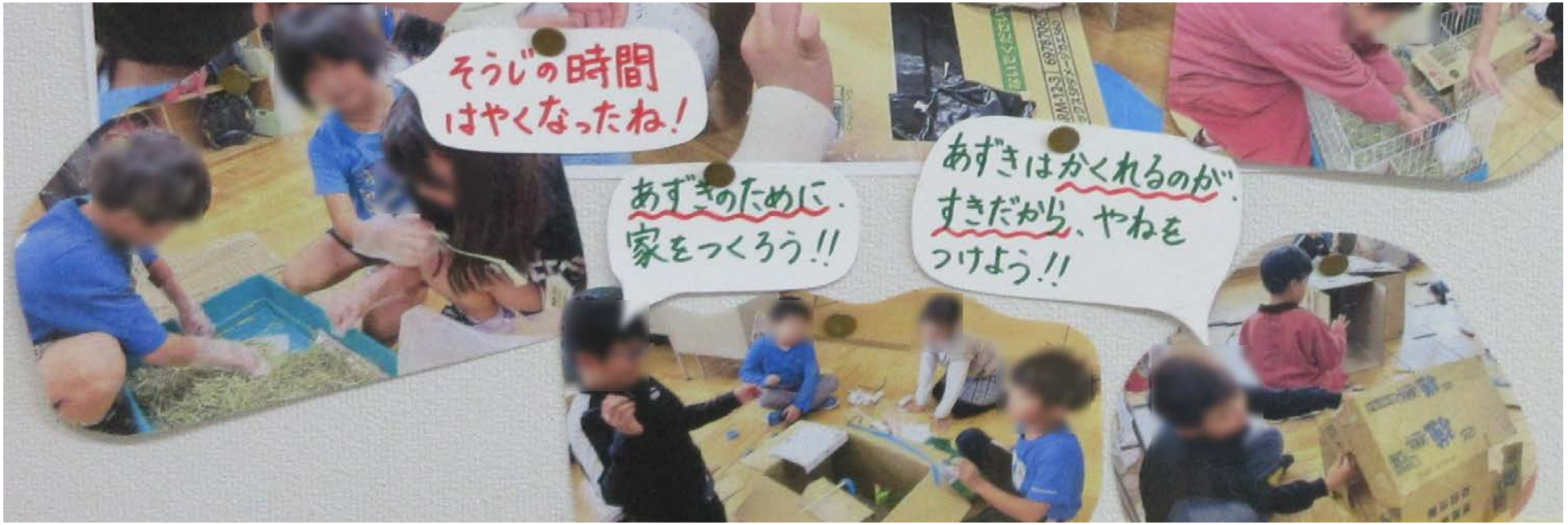
旭川市立高台小学校
旭川市旭山動物園

1　モルモットを飼いたいな
・モルモットとの触れ合い、飼いたいと願う
2　モルモットを飼育しよう
・モルモットを飼育する中で、気付いたことを伝え合ったり、飼育を工夫したりする
3　モルモットを1年生に紹介しよう
・飼育を振り返るとともに、1年生に紹介する
・モルモットとのお別れ会をする

- 旭山動物園の貸出し事業を利用して、モルモットを教室で25日間飼育する。
- よりよい飼育活動となるように、動物園の飼育員と連携し、モルモットの特性や適切な飼育環境などに配慮する。
- 飼育活動を通して、生きものへの親しみをもち、大切にしようとする。



貸出期間が終わっても、動物園でモルモットに会える



掃除が上手にできるようになった自分に気付く

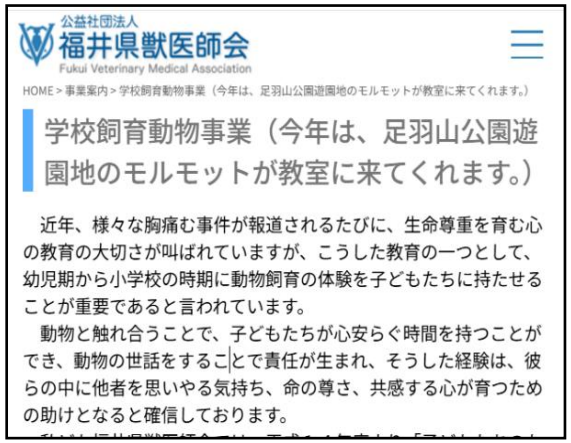
モルモットの特性に気付き、よりよい飼育環境をつくる

獣医師会との連携

福井県内の小学校 (公社)福井県獣医師会

- 2002年度から学校で動物を飼育することへの支援事業を実施している。
- 2012年度からモルモット生体、飼育ケージ、飼料、治療等を無償で提供支援し累積モデル校数は46校となる。
- 2026年度から福井市足羽山公園遊園地と連携して、動物園で展示しているモルモットを学校に貸与する。飼育期間終了後に児童が動物園で再会できる体制とする（R8、9には県内小学校15校が飼育予定）。
- 各学校においてモルモットを飼育できるように、獣医師が出前講座、教師との飼育相談、モルモットの健康診断、体調不良時の治療などを行うとともに、亡くなった時のケアを含む命の授業を実施している。
- 飼育期間は小学校の希望により１ケ月～10ケ月(年度末)としている。
- 土日及び長期休暇の飼育管理は児童・保護者が自宅に持ち帰りモルモットを飼育するホームステイとしている。

☆福井県獣医師会ブログ『獣医さんが応援する学校の動物』での活動等の掲載☆


公益社団法人
福井県獣医師会
Fukui Veterinary Medical Association

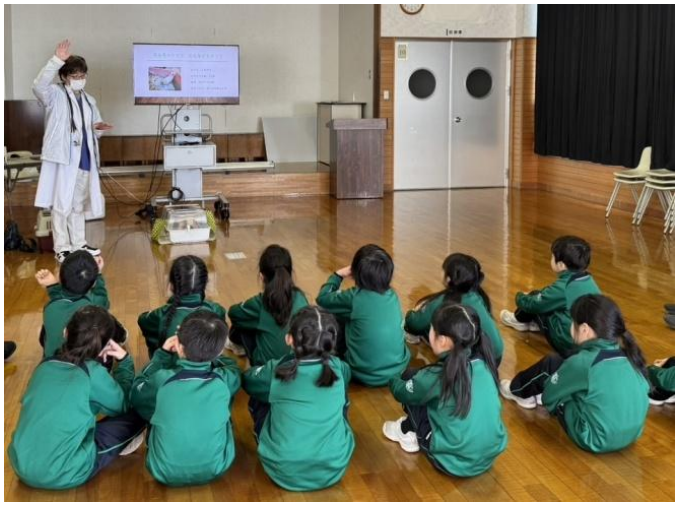
HOME > 事業案内 > 学校飼育動物事業（今年は、足羽山公園遊園地のモルモットが教室に来てくれます。）

学校飼育動物事業（今年は、足羽山公園遊園地のモルモットが教室に来てくれます。）

近年、様々な胸痛む事件が報道されるたびに、生命尊重を育む心の教育の大切さが叫ばれていますが、こうした教育の一つとして、幼児期から小学校の時期に動物飼育の体験を子どもたちに持たせることが重要であると言われています。

動物と触れ合うことで、子どもたちが心安らぐ時間を持つことができ、動物の世話をすることで責任が生まれ、そうした経験は、彼らの中に他者を思いやる気持ち、命の尊さ、共感する心が育つための助けとなると確信しております。

福井県獣医師会ホームページで飼育支援事業の紹介



獣医師がモルモットの特徴などについて説明し、子供の問いに共感したり、答えたりする



モルモットをじっくり見たり、触ったり、抱っこしたりするなどして、温かさや命の鼓動を感じる

生活科におけるICT活用のイメージ

● 生活科におけるICT活用は、身体性を伴う体験をより一層豊かにしていくためであり、直接体験を代替するものではない。
このことを前提とした上で、ICT活用を、生活科の本質的意義をより深化させ、体験・認識・表現の質を高めるための補助・促進する手段と位置付ける。その結果として、
（１）繰り返し関わったり視点を変えたりすることにより、体験の質が高まる（関わりを広げ深める体験）
（２）画像や動画により対象を比較したり、捉え直したりすることにより、認識の質が高まる（気付きの質の高まり）
（３）多様な方法で記録・交流することにより、表現の質が高まる（思いや願いに即した豊かな表現）
ことへとつながっていく。

体験の質の高まり
①諸感覚を働かせながら、撮影・記録を何度も体験する
②拡大したり様々な視点で観察したりしつつ、改めて対象との関わりを深めようとする
③時間・空間を超えて体験する

体験する



表現する

表現の質の高まり
①文字や絵でなく音声や画像で簡便に表現する
②対象を音声や画像で精緻に表現する
③思いや願いをもって多様に表現したり交流したりする

認識の質の高まり
①多くの鮮明な画像や動画によって、対象を比較したり捉え直したりする
②認識したことを言語化し、対話によって考えを巡らす
③児童自身が学習対象や活動を記録し、その後の学習に活用する
④自分の変容や成長を振り返る

ICT活用における幼児教育・総合的な学習の時間との接続

- 幼児教育段階におけるICT活用は、乳幼児期は直接的・具体的な体験が重要であることを踏まえ、主に、記録をして繰り返し見たり、詳しく調べたり、表現の幅を広げたり、その場にいない人とコミュニケーションをとったりするなど、遊びの中で取り入れている。
- 総合的な学習の時間におけるデジタル学習基盤の活用は、探究のプロセスを支える基盤として位置付けられている。
- このようなことを踏まえつつ、生活科におけるICT活用については、生活科の本質的意義（身体性・関わり・自己認識）を支え、幼児教育から総合的な学習の時間へと連なる学習の質の高まりを促進する学習基盤として位置付ける。

幼児教育段階におけるICT活用
・記録する
・詳しく知る
・表現する
・やり取りする

→

生活科におけるICT活用
・撮影・記録
・比較・捉え直し・言語化
・表現・交流

→

総合的な学習の時間におけるICT活用
・課題の設定
・情報の収集
・整理・分析
・まとめ・表現

体験の質の高まり

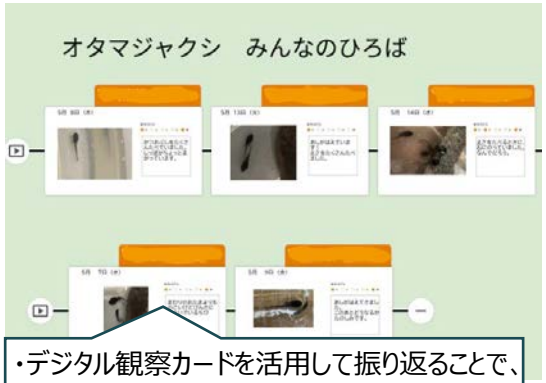
生き物を飼育する中でじっくり見続けることで、「しっぽがだんだん短くなってきた」「足が生えている」と新たに発見する。



・写真と実物を見比べて、違いや変化に驚く
・ヤゴの羽化の様子を低速度撮影して不思議さを感じる

認識の質の高まり

自分が書いた観察カードを手掛かりにして、「上手に世話ができるようになった」と世話を重ねてきたことや、自分の成長に気付く。



・デジタル観察カードを活用して振り返ることで、生き物と自分との関わりや自分の変容や成長に気付く

表現の質の高まり

自分で実際に世話をしたり発見したからこそ、「友達に見せたい、伝えたい」と思いや願いが高まり、表現したり交流したりする。

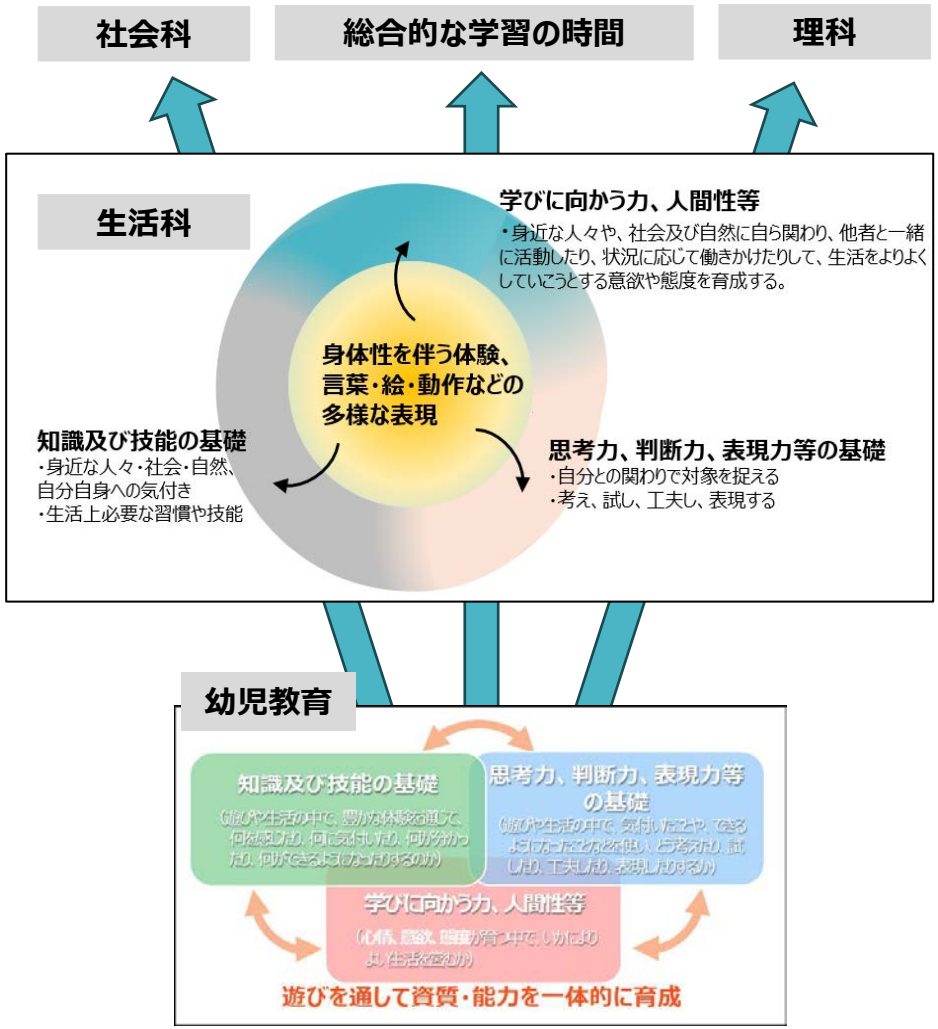


・デジタル観察カードを見ながら、伝えたい思いや願いを高める
・動画で感動場面を記録し、共感し合う

※生活科におけるICT活用は、初等教育資料2026年1月号の実践事例を基に作成

学習評価面で捉えた、幼児教育、中学年以降の学習との接続

- 生活科は教科として位置付けられているとともに、その学びは、社会科及び理科の土台となる性質を有していることに加え、３つの資質・能力についてそれぞれの観点で評価することでより分析的に適切に見取ることができることから、観点別評価を行うことが適当。
- その際、児童一人一人の発達や学びの過程を捉え、そのよさや成長を見取ることを基本とし、幼児教育、中学年以降の教科、総合的な学習の時間の学びとの継続性を踏まえた評価が必要である。



【社会科・理科における評価の特徴】
単元目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、評定

【総合的な学習の時間における評価の特徴】
各学校が評価の観点を設定し、児童のよさや成長の様子などを文章で記述

【生活科における評価の特徴】
- 社会科や理科につながる教科としての認識の側面（身の回りに様々な場所があり多様な人々が生活していることが分かる、動植物の特徴、変化や成長の様子に気付くなど）を重視
- 一方、活動や体験そのもの、すなわち個別の学習過程においては思考・判断・表現を重視
- 学びに向かう力、人間性等については、１単位時間だけでなく、長期にわたる変容も評価の対象となり、一人一人の多様な学びを評価
- 一人一人の児童の多様な学習活動を評価するために、評価規準を具体的かつ明確に設定するとともに、具体的な子供の姿を描くことを通して形成的評価を実施

【幼児理解に基づいた評価の特徴】
- 評価の実施に当たっては、指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握するとともに、教師の指導が適切であったかどうかを把握し、指導の改善に生かすようにすることが重要
- 評価は、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児一人一人が到達すべき目標ではないが、教師が指導を行う際に考慮
- これにより、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意

生活科における「学びに向かう力、人間性等」の育成に繋がる学習評価のプロセス

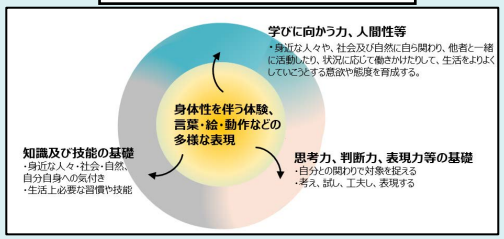
- 生活科の単元では、各内容に示された「学びに向かう力、人間性等」の記載事項を参考にして、単元の目標が設定されることから、その資質・能力が育成されることが重視される。そのために、学習過程の中に、単元の目標で示された「学びに向かう力、人間性等」が育成されるように学習活動を組み立てる（学習過程のデザイン）ことがポイントとなる。
- 単元ごとの「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視するとともに、「見取る姿」の継続的な発揮を見取り、形成的評価を充実させることについて今後も検討を重ねる。

「学びに向かう力、人間性等」の要素



「学びに向かう力、人間性等」の目標

生活科
身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、他者と協働し、状況に応じて関わり方を調整するとともに、意欲や自信をもって、学びや生活を豊かにしようとする態度を養う。



内容ごとの「学びに向かう力、人間性等」

(1)	楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする
(2)	自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする
(3)	それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする
(4)	それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする
(5)	それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする
(6)	みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする
(7)	生き物への親しみをもち、大切にしようとする
(8)	進んで触れ合い交流しようとする
(9)	これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする

「見取る姿」

・思いや願いをもった働きかけ
身近な人々、社会及び自然に自ら関わろうとするとともに、思いや願いをもって働きかけようとしている。

・他者との伝え合いや協働
互いに力を合わせたり伝え合ったりして、他者とともによりよい生活に向けて活動しようとしている。

・試行錯誤や自己調整
場面や状況に応じて、繰り返し対象に関わり、前向きに行動しようとしている。

単元ごとに異なり、単元の中で見取る

単元Aの目標　※内容（２）
家族がにこにこになるための活動を通して、家族のことや自分でできることを考え、家族の大切さや自分が家族によって支えられていることが分かるとともに、**自分の役割を積極的に果たし、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。**

単元Bの目標　※内容（８）
家族がにこにこになるための活動を伝え合うことを通して、家族のことを想像し伝えたいことや伝え方を考え、家族と交流することのよさや楽しさが分かるとともに、**進んで家族と触れ合うことができるようにする。**

単元Cの目標　※内容（９）
書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、過去と現在の自分を比較し、自分自身が成長していることや様々な人が自分の成長を支えてくれていることに気付くとともに、**これからの期待をもって意欲的に生活できるようにする。**

総合所見欄等に反映
多様な子供一人一人のよさや成長を肯定的に評価できるように個人内評価とする

全単元に共通し、継続的な発揮を見取る

思いや願いをもった働きかけ／他者との伝え合いや協働／試行錯誤や自己調整

「思・判・表」の観点別評価に「○」を付記
「見取る姿」に示す「継続的な発揮」を見取る

※生活科の「見取る姿」は、内容ごとの「学びに向かう力、人間性等」と関係付けながら、参照・活用していく

小・中・高等学校 音楽の目標等について＜改善案＞

目標・柱書	
小学校音楽	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校音楽	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校 音楽	音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
中学校 音楽	音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
高等学校 芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	自己のイメージと関わらせて音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージと関わらせた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
小学校音楽 中学校音楽 高等学校芸術（音楽Ⅰ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

※現時点でのイメージであり、今後引き続き検討

高等学校芸術（音楽）の目標等について＜改善案＞

高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅱ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅲ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	自己のイメージと関わらせて音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージと関わらせた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅱ	創意工夫を生かして音楽を創造的に表現したり、曲や演奏の価値を見いだしながら鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、 感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化と関わり親しみ、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅲ	音楽を創意工夫や表現上の効果を生かして創造的に表現したり、芸術としての音楽の価値を見いだしながら鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を解釈したり評価したりしながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、 感性を磨き、音楽や音楽文化に関わりそれらを尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※現時点でのイメージであり、今後引き続き検討

小・中・高等学校 図画工作、美術、工芸の目標等について＜改善案＞

目標・柱書	
小学校図画工作	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校美術	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、表現方法に応じて材料、用具を使ったり、表現の特徴を捉えたりすることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に造形的な創造活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う
中学校	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	創造することの喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の創造活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術や美術文化に関わり親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
小学校図画工作 中学校美術 高等学校芸術 （美術Ⅰ・工芸Ⅰ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

※現時点でのイメージであり、今後引き続き検討

高等学校芸術（美術）の目標等について＜改善案＞

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅱ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅲ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術や美術文化に関わりそれらを尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
美術Ⅰ、美術Ⅱ、美術Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

※現時点でのイメージであり、今後引き続き検討

高等学校芸術（工芸）の目標等について＜改善案＞

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅱ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅲ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸や工芸の伝統と文化に関わりそれらを尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
工芸Ⅰ、工芸Ⅱ、工芸Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

※現時点でのイメージであり、今後引き続き検討

高等学校芸術（書道）の目標等について＜改善案＞

目標・柱書	
高等学校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
書道Ⅰ	書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅱ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅲ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や活力ある社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅰ	書の特性、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 書の伝統と文化に関わり親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅱ	書の特性、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅲ	書の特性、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、 書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方	
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ	感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※現時点でのイメージであり、今後引き続き検討

芸術系教科・科目における新たな「見方・考え方」一覧＜改善案＞

◆教科の系統（音楽／図画工作、美術、工芸／書道）ごとに、小・中・高等学校を通して文言を統一
◆「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものであることから、芸術系教科・科目に共通して重視することとし、教科の特性を踏まえ、感性や想像力を働かせることを示す
◆文化を継承し発展することを一層重視していくため、文化に関する視点を共通に含めつつ教科の特性を考慮して示す
◆芸術の本質的意義である創造性を重視し、意味や価値を追求することを示し、豊かな社会の創造や幸福な人生につながる教育の充実に資するようにする

	見方・考え方
小学校音楽 中学校音楽 高等学校芸術 （音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
小学校図画工作 中学校美術 高校芸術 （美術Ⅰ～Ⅲ ・ 工芸Ⅰ～Ⅲ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと
書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ	感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
高等学校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨やねらい（小学校・図画工作科）

①表現と鑑賞という従来の領域設定に加え、教師の具体的な題材の設定に資するよう、学びの方向性を基に区分を設定し、それぞれに統合的な理解・総合的な発揮を設定。

②総合的な発揮では、表現や鑑賞のよりどころとして、形や色などと関わらせて自分のイメージをもつことを深い学びのポイントとして示した。また、豊かな発想や構想と、表す過程での気付きを生かして表現することを示し、思考、判断、表現が一体的に行われるという今回の再整理の趣旨を明確にした。

これにより、自分の表したいことを工夫して表現するという一連の過程として捉えられるようにし、児童が問いを自分でつくりだして、それを創造的に表現していくという授業づくりに繋げる。

③統合的な理解では、「自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉え」とし、単に頭で理解しているだけでなく、児童が手や体全体の感覚を働かせて、知識及び技能を自分のものとしていくことを示した。また、「場面に応じて活用できる技能を身に付け」とし、場面が変わっても働かせることができる技能を身に付けることを示した。これらを結びつけることにより、知識及び技能を身に付け、それらを用いて生活や社会の中でも創造的に表現したり鑑賞したりできるようにする授業づくりを促す。

小学校	A 表現	自分と表したいこと（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
				表そうとすることから対象や事象を捉え、**形や色などを基に自分のイメージをもちながら**、**豊かに発想や構想をし、表す過程での気付きを生かして表現する**ことができる	・形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 ・絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
			知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
				表そうとすることから、**自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら**、**場面に応じて活用できる技能**を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	・自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 ・絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	B 鑑賞		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
				作品などとの関わりから、**形や色などを基に自分のイメージをもちながら**、**自分や他者、生活における造形の意味や価値について考え、**自分の見方や感じ方を広げ深めることができる	・形や色などを基に、自分のイメージをもつこと〔共通事項〕 ・鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図などについて感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
			知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
				作品などとの関わりから、**自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能**を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	・自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること〔共通事項〕 ・鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品や、親しみのある美術作品などから表現の特徴などを見付けだすこと

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨やねらい（中学校・音楽科）

①表現と鑑賞という従来の領域設定に加え、教師の具体的な題材の構想に資するよう、学習内容のまとまりを基に区分を設定し、それぞれに統合的な理解・総合的な発揮を設定。

②音楽科では、単に歌唱や演奏等が上手くなることを目指すのではなく、感性を働かせながら、音楽表現の自分や他者にとっての意味を創造していく学びを重視。そのため総合的な発揮では「知覚・感受したことをよりどころに」思考を巡らせ、「表現に対する自分の思いや意図をもつ」ことを示しつつ、音楽表現・鑑賞のもつ「意味や価値」を実感しながら「歌唱表現を深めること」などを示した。
また、思いや意図をもつことと、音楽表現を深めることを一連の流れとして示し、これらのプロセス全体を一体化する今回の再整理の趣旨を明確に示した。これにより、表現の工夫について考えることと身体を用いて音楽表現することを別々に位置付けるのではなく、生徒自身が表現したい思いや意図をもち、それを創造的に表現していくという授業づくりに繋げる。

③統合的な理解では、「個々の感じ方等に基づ」き、生徒が個々に感性や諸感覚を働かせることや、自分の身体を用いて実際に声に出したり楽器を演奏したりすることを大切にしながら、知識や技能を身に付けていくことを重視して示した。これにより、生徒個々の感性や感覚に基づく学びが実現できるようにした。

				総合的な発揮	内容項目例
中学校	A表現	器楽	思考力、判断力、表現力等	**音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ**、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、**自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら**、器楽表現を深めることができる	・音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 ・曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などとの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
			知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
				曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を**個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら**、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している	・音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 ・楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方について、知識及び技能を関わらせて身に付けること
	B鑑賞		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
				音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、**自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら**、音楽を聴き深めることができる	・音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること〔共通事項〕 ・生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと
			知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
				音楽の特徴や多様性などを**個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより**、音楽のよさや美しさ、意味や役割などを見いだすことができることを理解している	・音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること〔共通事項〕 ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨やねらい（高等学校・芸術科書道）

①書道の学びは、文字を美しく書くことのみが目的ではなく、表現された作品や書、その美に対して自分なりの意味や価値を見いだしていく力を育むことが重要。そのため総合的な発揮においては、「書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について考え、自分にとっての価値意識を形成」と示した。**書の伝統と文化などについて、社会や自分にとっての意味や価値を自ら見いだし、形成していくことを重視**した授業改善を促す。

②統合的な理解（表現）においては、「身体の機能や感覚を駆使」することと「目的や状況に応じて自在に活用できる」ことを示した。これにより、単に字形を整えて書くことにとどまるのではなく、**線質を追求したり、空間を捉えたり、呼吸を感じ取ったりするなど、身体機能や感覚を駆使し、目的や状況に応じて自在に活用できるようにするための授業づくりを促す。**

③統合的な理解（鑑賞）においては、「書の美を捉える視点」をもつことと、「作品や書から情報を読み取る」ことを示した。これにより、**書の美に対する理解を基盤にしながら、作品や書のよさや美しさを見いだしていくような鑑賞の授業づくりを促す**。

高等学校	A 表現	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
			自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、**書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成**しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	• 名筆を生かした表現や現代に生きる表現、漢字の書及び仮名の書の伝統と文化に基づく表現について考えること • 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
			作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、**身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付ける**ことにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	• 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること〔共通事項〕 • 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること〔共通事項〕 • 各分野の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること • 用具・用材の特徴、古典や名筆等の基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
	B 鑑賞	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
			書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりから、**書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成**しながら、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができる	• 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること • 作品や書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化について考えることを通して、書のよさや美しさを味わうこと
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
			書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、**書の美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から多様な情報を読み取る技能を身に付ける**ことにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している	• 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること〔共通事項〕 • 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること〔共通事項〕 • 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること • 書の美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること

音楽

小学校・中学校

統合的な理解・総合的な発揮

小学校	A表現	歌唱・器楽	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、音楽表現を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している
		音楽づくり	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 音の響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している
	B鑑賞		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 音楽の特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、曲や演奏のよさなどを見いだすことができることを理解している
中学校	A表現	歌唱	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 曲にふさわしい声の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している
		器楽	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している
		創作	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 音や音同士の関係の特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している
	B鑑賞		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や役割などを見いだすことができることを理解している

図画工作 小学校

統合的な理解・総合的な発揮

小学校	A 表現	自分と材料や場所（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 材料や場所などとの関わりから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、造形的な活動をつくる過程での気付きを生かして表現することができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 材料や場所などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
		自分と表したいこと（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 表そうとすることから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、表す過程での気付きを生かして表現することができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 表そうとすることから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
	B 鑑賞		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 作品などとの関わりから、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考え、自分の見方や感じ方を広げ深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 作品などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している

美術 中学校

統合的な理解・総合的な発揮

中学校	A 表現	自分と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
		生活や社会と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 生活や社会と美術との関わりから対象や事象を見つめ、目的や条件などを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
	B 鑑賞	自分と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 自分と美術との関わりから美術作品などを見つめ、自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している
		生活や社会と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 生活や社会と美術との関わりから美術作品などを見つめ、社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している

芸術　音楽（高等学校）

統合的な理解・総合的な発揮

高等学校	A 表現	歌唱	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 曲の特徴や表現上の効果を生かして歌うための声の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している
		器楽	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 曲の特徴や表現上の効果を生かして演奏するための楽器の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している
		創作	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 音や音同士の関係の特徴などを生かした音のつながりや重なりを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している
	B 鑑賞		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や価値などを見いだすことができることを理解している

芸術 > 美術（高等学校）

統合的な理解・総合的な発揮

高等学校	A 表現	自分と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 自分と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
		社会と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 社会と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、目的や条件、意図などを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
	B 鑑賞	自分と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 自分と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している
		社会と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 社会と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している

芸術　工芸（高等学校）

統合的な理解・総合的な発揮

高等学校	A 表現	身近な生活と工芸	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 身近な生活と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
		社会と工芸	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 社会と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している
	B 鑑賞	身近な生活と工芸	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 身近な生活と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つめ、生活における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している
		社会と工芸	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 社会と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つめ、社会における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる
			知識及び技能	統合的な理解	• 社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している

芸術　書道（高等学校）

統合的な理解・総合的な発揮

高等学校	A 表現	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる
		知識及び技能	統合的な理解	• 作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している
	B 鑑賞	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	• 書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができる
		知識及び技能	統合的な理解	• 書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から情報を読み取る技能を身に付けることにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している

「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして題材を構想するプロセスの一例（小学校音楽）①

「歌唱・器楽」の「統合的な理解」「総合的な発揮」を見据えつつ、年間指導計画での位置付けを見通しながら、題材の学習内容と学習活動を構想する

目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う

内容

	歌唱・器楽（表現）	音楽づくり（表現）	鑑賞
総合的な理解・総合的な発揮	統合的な理解：音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している 総合的な発揮：音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、音楽表現を深めることができる	統合的な理解 総合的な発揮	統合的な理解 総合的な発揮
個別の知識、個別の技能（事項）	知識 技能 知識 技能 知識 技能 知識 技能	知識 知識 技能 技能	知識 知識 技能 技能
個別の思考力、判断力、表現力等（事項）	思、判、表等 思、判、表等	思、判、表等	思、判、表等

年間指導計画

題材1	題材2	題材3	題材4	題材5	題材6	題材7	題材8	題材9	題材10
歌唱	歌唱・器楽		歌唱	歌唱	器楽	歌唱・器楽	器楽	歌唱	器楽
		音楽づくり			音楽づくり			音楽づくり	
鑑賞		鑑賞	鑑賞						鑑賞
旋律 呼びかけとこたえ	旋律、音階	リズム、反復	旋律、音階 変化	旋律、音色	音の重なり 反復、変化	旋律、調、変化	音色、強弱、拍	旋律、音楽の縦と横との関係	リズム、強弱 速度

旋律が呼びかけとこたえになっている曲の特徴を生かして歌う（教材A）

旋律の動きを生かし、声の音色を工夫して歌う（教材B）

旋律と調が変化する曲の特徴を生かして歌ったり演奏したりする（教材C）

複数の**旋律**からなる曲の縦と横との関係を生かして歌う（教材D）

※年間指導計画はあくまで一例であり、題材の数や順序、領域や区分の配分の在り方を規定するものではないことに留意が必要

「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして題材を構想するプロセスの一例（小学校音楽）②



教科書に載っている教材や活動から、題材のねらいにつながりやすいものを選んで学習活動を構成しよう。

題材５（歌唱）
題材名「旋律の動きを生かして歌おう」



「総合的な発揮」には「音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに」とあるな。**音楽を形づくっている要素**などを根拠に表現を工夫して歌うことができるよう、**思いや意図をもって表現する過程を、一連のものとして捉える**ことが必要だな。

統合的な理解
音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している

総合的な発揮
音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、音楽表現を深めることができる

見取る姿
音や音楽に進んで関わろうとしながら、自分にとっての音楽を学ぶ意義を見いだそうとしている

他者と関わる中で感じ方や考え方を広げ深めながら、学び方を工夫し、思考を巡らせて音楽表現を深めたり音楽を聴き深めたりしようとする

題材目標(1)
歌い方による声の音色などの違いや変化に関する知識及び技能を身に付ける

題材目標(2)
曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌う

個別の知識、個別の技能

知識
歌い方による声の音色などの違いや変化について理解する（②④）

技能
声の音色などに気を付けながら歌い、身体の使い方の技能を身に付ける（①④）

往還

音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考える（③）

曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌う（④⑤）

判断力、表現力等、個別の思考力、

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等



知識及び技能を生かして、思考・判断・表現するという**資質・能力を一体的に育成**することが大切なのだな。それによって知識及び技能が深まって、**「統合的な理解」**にあるような状態に至るということか。



この題材では、「他者との対話や協働」や「学びの主体的な調整」を重点に子供の姿を見ていきたい。

学習活動のイメージ例（子供の姿はあくまでも一例であり、様々な学習過程があり得る）

①様々な歌い方を試す
自分の声をよく聴き、体の使い方を意識しながら、多様な発音や呼吸、声の出し方を試す

②自分でやってみて分かる
「声を出す方向の意識を変えると、響きのある声になる」

③要素を諸感覚で捉え、曲想と音楽の構造との関わりの知識につなげる
旋律の動きに着目し、旋律の音が高くなる部分が、最も盛り上がる「曲の山」になっていることに気付く

④知識や技能の更新
「曲の山では息の使い方も意識した方がよさそうだ」

⑤曲を様々に歌い試しながら曲にふさわしい表現を考える
「曲の山が盛り上がるように、響きのある声で歌いたいから、息の使い方や声の出す方向を意識しよう」

芸術系教科・科目の改善の方向性等

現状の課題

- 正解のない問いや予測困難な課題に対処できる力、身体性を基本とする技能について育成すること
- 芸術系教科・科目の学びの意義について、児童生徒が十分に実感できるようにすること
- 思いや考えを身体を用いて具現化し、新たなものやことをつくりだしていくという学びの充実を図ること

文化芸術教育への期待

文化芸術は人と人との心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力ある社会を形成する源泉となるもの

- 多様な文化を理解しながら芸術と自分との関わりを考えていくこと
- 感性と知性の両輪を働かせ意味や価値を見いだしたりつくりだしたりすること、情操を涵養すること、感性や想像力を大切にすること
- 身体性を重視し、諸感覚を働かせて対象に向き合うこと。一人一人の特性を生かした学びを、多様性の包摂につなげ、ウェルビーイングへとつなげていくこと
- 異なる分野を連携・統合し新しいものを創造したり、現在の課題解決にとどまらず未来に向かって意味や価値を創出したりすること

改善の方向性（総論）

①捉えたり感じたりしたことを、**要素や特徴、背景にある文化など**との関わりで理解したり、思考、判断、表現したりできるようにする

※ 音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素

②表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という**自分の思いや考えをもつこと**と、諸感覚を働かせつつ**身体性を伴った技能**により表現することを、一連の過程として重視する

③表現及び鑑賞の学習において、心が動く体験を大切にし、唯一の答えに導くのではなく、**児童生徒一人一人のありようが尊重**されるようにする

④感じたことや工夫したことを伝え合うなどの言語活動等や他者とともに協働する学習を通じて、**他者に共感し感じ方や考え方を深めたり、多様な視点で考えたりする**ことができるようにする

⑤生活や社会の中の芸術や芸術文化などと関わり、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりすることなどを重視し、**豊かな社会の創造や幸福な人生**につなげていくことができるようにする

文化芸術基本法（平成13年12月7日法律第148号）（抄）

（学校教育における文化芸術活動の充実）
第二十四条　国は、学校教育における文化芸術活動の充実を図るため、**文化芸術に関する体験学習等文化芸術に関する教育の充実**、芸術家等及び文化芸術団体による学校における文化芸術活動に対する協力への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果の例

・「音楽の授業で学んだことは、私たちの生活や社会でいかすことができると思う」
　→ 肯定的に回答する児童の割合が55.5%

・「図画工作の時間で学習したことを、ふだんの生活の中に生かしている」
　→ 肯定的に回答する児童の割合が60.1%

内容の構造化・表形式化のイメージ

小学校の例

				第１学年及び第２学年相当	第３学年及び第４学年相当	第５学年及び第６学年相当
A 表現	区分①	**思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮** xxxxxxx	〔共通事項〕	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			1）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			2）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
		知識及び技能に関する統合的な理解 xxxxxxx	〔共通事項〕	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			1）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			2）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
	区分②	**思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮** xxxxxxx	〔共通事項〕	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			1）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			2）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
		知識及び技能に関する統合的な理解 xxxxxxx	〔共通事項〕	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			1）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			2）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
				第１学年及び第２学年相当	第３学年及び第４学年相当	第５学年及び第６学年相当
B 鑑賞	区分①	**思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮** xxxxxxx	〔共通事項〕		・xxxxxxx	・xxxxxxx
			1）		・xxxxxxx	・xxxxxxx
			2）		・xxxxxxx	・xxxxxxx
		知識及び技能に関する統合的な理解 xxxxxxx	〔共通事項〕	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			1）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			2）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
	区分②	**思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮** xxxxxxx			・xxxxxxx	・xxxxxxx
					・xxxxxxx	・xxxxxxx
		知識及び技能に関する統合的な理解 xxxxxxx			・xxxxxxx	・xxxxxxx
			1）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx
			2）	・xxxxxxx	・xxxxxxx	・xxxxxxx

活動を繰り返しながら発達の段階に応じ系統的な内容を学習していく

「知識及び技能」が全体として「思考力、判断力、表現力等」の深まりを支える構造

系統的に育成する資質・能力を明確にするため、活動に即して「表現」及び「鑑賞」の２つの領域に整理

音楽、図画工作、美術、工芸では、教科・科目の特質や現状における課題を踏まえ、教師が想定しやすいと考えられる内容のまとまりとして区分を設定

「並行パターン」で構造化

高等学校芸術科における改善イメージ

1．想定される内容例

◆芸術とは（芸術の分野・ジャンル）、芸術の歴史
- どのような芸術があるか：音楽、美術、工芸、書道、文学、舞踊、演劇、建築、服飾、映画、写真など
- 身近にある芸術を考える（アニメーション・映画・音楽など）
- 芸術はどのように変わってきたか／時代・場所を超えて芸術はどう異なるか

◆芸術と社会
- 芸術同士が刺激し合う？：芸術が影響し合うことによる変化や進化
- 総合芸術の広がり：オペラ、ミュージカル、歌舞伎、映画など
- 芸術は社会とどのようにつながることができるか？：芸術とアイデンティティ
- 芸術家だけじゃない芸術の仕事：芸術を支える人たち
- 表現の自由と責任／著作権、知的財産権
- 芸術が生活や社会の中で果たす役割

◆現代の芸術とテクノロジーやメディア
- 科学、テクノロジーの発展によって、芸術はどう変わったか／どう変わるか
- メディアと新しい芸術表現（デジタルアートやアニメーション）

◆自分にとっての芸術
- どのような表現をしていきたいと考えるか
- 芸術はなぜ必要なのか

※これらの事例はイメージであり、生徒の興味・関心等に応じ教科書や学校現場における創意工夫を期待。

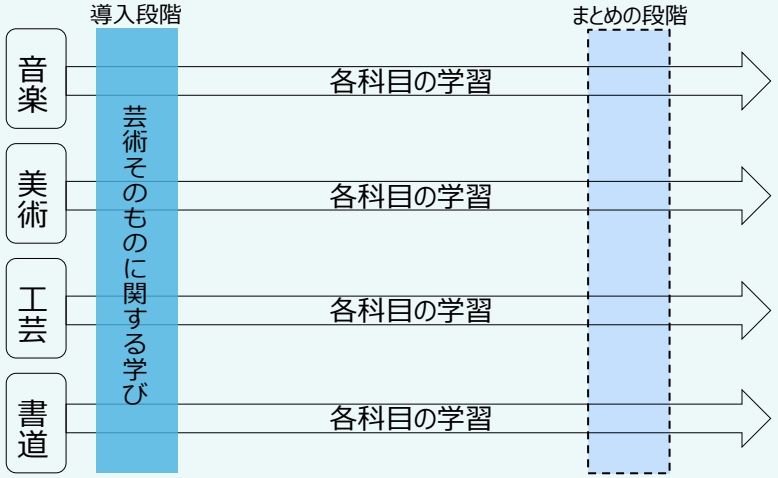
2．芸術そのものについて学ぶ機会の設定

〇実施形態、方法、時期等について
- 実施の形態については、科目ごとに行ったり、複数科目を合同で行ったりするなど、学校の実態に応じて工夫して行う
- 実施の方法については、映像資料や教科書等を活用したり、体験的な活動などを取り入れたりすることが考えられる
- 科目のまとめの段階における実施の時期については、学校の実態等に応じて適切に設定する

〇授業における取り上げ方の例

Ⅰを付した科目（選択必履修科目）の導入段階
- 芸術分野についての分類図を作成し、生徒が様々な芸術の分野やジャンルの共通点を見つけたり、各分野における固有の表現方法について考えたりする
- 「人間にとって芸術がなぜ必要か」についてグループで意見を交わし合い、生活や社会の中で芸術が果たす役割について考える
- 映画や舞台芸術などの一部を鑑賞し、各自が選択している科目の視点から作品のよさなどを発表し合いながら、複数の芸術分野やジャンルが融合して生まれる表現の面白さを味わう

科目のまとめの段階
- 各科目を履修した生徒で合同チームをつくり、ひとつのテーマに基づき、それぞれの表現の特徴を生かした作品などを考え、つくり、発表する
- 学んだことを生かして、他の分野や分野を超えた連携を追求し、芸術によって社会にどのように貢献できるかを考える
- 「今は存在しない」が「いつか生まれたら面白い」と思う新たな芸術分野やジャンルについてアイデアを出し合い、芸術の可能性や発展について考える



多様な芸術や文化に関する学びの充実について（取組イメージ）

舞台芸術に関する取組イメージ

小学校 6年生

音楽劇を通して郷土の音楽を引き継ぐ

音楽　総合的な学習の時間

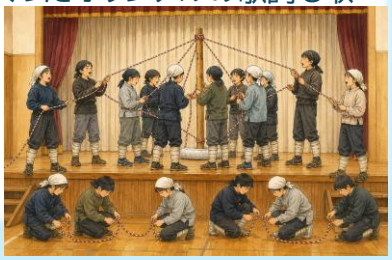
学習のねらい

【音楽】郷土の民謡の特徴にふさわしい歌い方を工夫して歌う。
【総合的な学習の時間】地域の治水事業に携わった人々の苦労や喜び、思いや願いについて考え、音楽劇を通じて表現する。

取組内容

※国語科とも関連

・総合的な学習の時間で、地域の歴史や文化を伝えていくための課題を設定し、地域の資料館を訪問するなどして治水について情報収集した。集めた情報を基に、土地の恵みを生かすための治水事業に取り組む人々の思いや、そこで唄われた作業唄などについて整理し、まとめるなどの取組を行った。
・音楽では、郷土に伝わる河川工事の際に歌われた仕事唄の歌詞や仕事の様子から、仕事の大変さに思いを寄せ、作業の動きに合わせて歌った。郷土のよさを取り入れ国語の授業での俳句づくりを基に七五調でつくったオリジナルの歌詞も取り入れた。
・総合的な学習の時間で、治水事業に携わる人々の思いをどう表現するかを考え、音楽科や国語科で学習した仕事唄を取り入れた音楽劇を制作して演じた。



取組成果

郷土の文化や先人の努力への理解を深めるとともに、地域への愛着をもつことにつながった。また、互いのよさを生かしつつ、協働してつくりあげることの意義を実感することができた。

メディア芸術に関する取組イメージ

中学校 2年生

漫画で伝えよう ～学校紹介漫画の制作～

美術　特別活動

学習のねらい

【美術】伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさなどを考え構想を練り、表現方法を追求し創造的に表す。
【特別活動】小学校6年生に向けた学校説明会で、生徒が説明の計画を立て役割を分担し、協力して運営することに主体的、実践的に取り組む。

取組内容

・美術では、構図、形や色彩などの効果を考えながら、中学校の行事や部活動、生活等の様子を、翌年入学する小学校6年生に向けて、分かりやすく楽しく伝える漫画を制作した。
・特別活動では、小学校6年生を中学校に招く説明会の中で生徒会が中学校を紹介する内容について計画を立て、その際、制作した漫画も活用して中学校生活の魅力を紹介した。



取組成果

他者や社会に形や色彩などを用いて分かりやすく伝えるという、生活や社会の中での美術の働きなどについて考えることができた。また、美術で制作した漫画を活用することで、中学校の学校行事等を説明することへの意欲が高まり、主体的、実践的に取り組むことができた。

※いずれの事例においても、関連を図る教科・領域の目標の実現を図る教育活動となっていることが前提である点に留意

多様な芸術や文化に関する学びの充実について（各教科・科目における改善の方向性）

改善の基本的な方向性

音楽

児童生徒の表した音楽など学習の成果について、教科等横断的な視点を含め、舞台芸術や多様なメディア※と組み合わせたり、デジタル学習基盤を活用して発表や発信を行ったりする機会の充実

図画工作・美術・工芸

デジタル学習基盤を活用し、多様なメディア※による創造的な表現や鑑賞の学習を、発達の段階に応じて充実させるとともに、発表や展示の機会を拡充し、資質・能力を育成

書道

書道の表現の過程における時間性や運動性等の特質・特性を、異なる表現形式の芸術等と組み合わせた総合的な表現の中で生かしたり、多様なメディア※の機能を生かして表現や発表、展示したりする機会の充実

改善の視点（イメージ）

音楽

- **多様な芸術等との組合せを視野に入れ、他教科等との関連を意識した、何を伝えるかを明確にした音楽づくり・創作の学習活動**の充実（デジタル学習基盤の活用を含む）（小、中、高）
- **ダンスなどの身体表現や映像などのメディアを用いた表現など様々な芸術表現等への活用を視野に入れた、音楽を形づくっている要素や音楽の特徴について実感を伴って捉える学習活動**の充実（体を動かす活動を含む）（小、中、高）

図画工作・美術・工芸

- **多様な芸術等との組合せを視野に入れ、他教科等との関連を意識した、想像力を豊かに働かせて新たなものやことをつくりだす学習活動**の充実（小図、中美、高美工）
- 児童生徒の作品などについて、**デジタル学習基盤を活用して発表や展示**を行ったり、発信・交流したりする機会の充実（小図、中美、高美工）
- 地域や学校の実態に応じ、**デジタル学習基盤を活用して、**映像やアニメーションなどに表すことを通して**豊かに発想や構想をすることにつなげる学習**の充実（小図）
- **表現の特質や効果を感じ取ることと、表現することを相互に関連**させ、創造の可能性を広げることにつなげる、**多様なメディアを活用した表現や鑑賞の活動**の充実（中美）
- **多様なメディアと関わらせ、豊かに主題を生成することや、夢のある発想をすることにつなげる学習**の充実（高美、専美）
- **メディア機器等の特性を生かして表現するための技能を明確化した学習**の充実（高美）
- **多様なメディアを活用して、異なる分野を連携・統合させた**表現の追求（高美、専美）

書道

- **多様な芸術等との組み合わせを視野に入れ、他教科等との関連を意識して**総合的な表現の中で生かすことができるような、**書道の表現の過程での時間性や運動性等の特質・特性に係る学習活動**の充実
- 映像などメディアの機能を生かした様々な芸術表現へ生かすことができる、**書道の特質・特性に焦点を当てた表現や発表、展示の方法を工夫する学習活動**の充実

小図：小学校図画工作、中美：中学校美術、高美：高等学校芸術科（美術）、高工：高等学校芸術科（工芸）、専美：高等学校専門教科（美術）

※多様なメディアについては、教科・科目の特性を踏まえ、マンガ、アニメーション、ゲーム、映像、映画などを発達の段階や授業のねらいに応じて取り扱う

個別の資質・能力の精査のイメージ

（小学校音楽科第５学年及び第６学年の例）

現行の構成

A 表現	歌唱		(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
		技	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。 (ｱ) 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能 (ｲ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 (ｳ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
	器楽		(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
		思	ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴をにふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 次の(ｱ)と(ｲ)について理解すること。 (ｱ) 曲想と音楽の構造との関わり (ｲ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
		技	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。 (ｱ) 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能 (ｲ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 (ｳ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
	音楽づくり		(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ｱ)と(ｲ)をできるようにすること。 (ｱ) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。 (ｲ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 次の(ｱ)及び(ｲ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。 (ｱ) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴 (ｲ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
		技	ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ)及び(ｲ)の技能を身に付けること。 (ｱ) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能 (ｲ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
B 鑑賞			(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
		知	イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
〔共通事項〕			(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。
		知	イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表現	歌唱・器楽		歌唱及び器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
		知・技	イ 次の(ｱ)から(ｴ)までに関する知識及び（身体の使い方の）技能を身に付けること (ｱ)歌い方による声の音色などの違いや変化 (ｲ)演奏の仕方による楽器の音色などの違いや変化 (ｳ)歌い方や演奏の仕方による全体の響きの違いや変化 (ｴ)範唱や範奏を聴いたり、楽譜等を見たりして、曲や歌い方、演奏の仕方などの特徴を捉える
	音楽づくり		音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 設定した条件に基づいて、次の(ｱ)と(ｲ)をできるようにすること (ｱ)即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること (ｲ)どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
		知・技	イ 次の(ｱ)及び(ｲ)に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること (ｱ)音の選択や組み合わせ方による音や全体の響きの違いや変化 (ｲ)全体の響きの特徴と、音楽の仕組みなどを用いた音やフレーズのつなげ方や重ね方との関わり
B 鑑賞			鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと
		知	イ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること
〔共通事項〕			「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること
		知・技	イ 次の(ｱ)及び(ｲ)に関する知識及び技能を身に付けること (ｱ) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (ｲ) 音符、休符、音楽に関する記号や用語について、それらの音楽における働きを捉えること□

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

① 「歌唱」及び「器楽」を「歌唱・器楽」の区分として統合し、事項を精査することにより、授業のねらいや児童の実態に応じて柔軟で効果的な指導を行うことができるよう改善

② 自分でやってわかる（理解する）ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、これらの関連を意識した効果的な指導を行うことができるよう改善

③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行するなどにより、学校等の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

（中学校音楽科第１学年の例）

現行の構成

A 表現		(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
	知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
	技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能
		(2)器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。
	知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり
	技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能
		(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
	知	イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 (ア) 音のつながり方の特徴 (イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
	技	ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。
B 鑑賞		(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ) 音楽表現の共通性や固有性
	知	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
（共通事項）		(1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
	知	イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表現	歌唱		歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
		知・技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 声の音色や響き及び言葉の特性を生かした歌い方 (イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした歌い方 ②
	器楽		器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 曲想と音楽の構造や曲の背景などとの関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
		知・技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方 (イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした演奏の仕方 ②
	創作		創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
		知・技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴を生かした音楽のつくり方 (イ) 反復、変化、対照などの手法を用いた音楽のつくり方 ②
B 鑑賞			鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 次の(ア)及び(イ)について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと (ア) 生活や社会における音楽の意味や役割 (イ) 音楽表現の共通性と固有性 ①
		知	イ 次の(ア)から(ウ)までについての知識を身に付けること (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
（共通事項）			「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		知・技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること ②

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

① 記載が内容の取扱いと重複している部分について、事項を整理することにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

② 自分でやってわかる（理解する）ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、これらの関連を意識した効果的な指導を行うことができるよう改善

③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行するなどにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

（高等学校芸術科（音楽Ⅰ）の例）

現行の構成

		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
A 表現		(1)歌唱
		歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。
	知	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり (イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり (ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴
	技	ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (ア) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ) 他者との調和を意識して歌う技能 (ウ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能
		(2) 器楽
		器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
	知	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり (ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴
	技	ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能 (イ) 他者との調和を意識して演奏する技能 (ウ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能
		(3) 創作
		創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。
	知	イ 音素材 音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
	技	ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (ア) 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能 (イ) 旋律をつくったり、つくった旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくったりする技能 (ウ) 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能
		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
B 鑑賞		(1)鑑賞
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値 (ウ) 音楽表現の共通性や固有性
	知	イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と表現上の効果と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴
		表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を次のとおり育成する。
（共通事項）		(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
	知	イ 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
A 表現		(1) 歌唱
		歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などとの関わりについて考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
	知・技	イ 次の(ア)から(ウ)までについて、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 声の音色や響き及び言葉の特性を生かした歌い方 (イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした歌い方 (ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴を生かした歌い方
		(2) 器楽
		器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 曲想と音楽の構造や曲の文化的・歴史的背景などとの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
	知・技	イ 次の(ア)から(ウ)までについて、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 楽器の音色や響きを生かした演奏の仕方 (イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりの特徴を生かした演奏の仕方 (ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴を生かした演奏の仕方
		(3) 創作
		創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
	知・技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴を生かした音楽のつくり方 (イ) 音型の特徴や構成上の特徴を生かした音楽のつくり方
B 鑑賞		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 鑑賞
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 次の(ア)及び(イ)について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを自ら味わって聴くこと (ア) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値 (イ) 音楽表現の共通性と固有性
	知・技	イ 次の(ア)から(ウ)までについての知識を身に付けること (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴
（共通事項）		表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を次のとおり育成する。
		(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
	知・技	イ 次の(ア)及び(イ)について、知識及び技能を関わらせて身に付けること (ア) 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること (イ) 音楽に関する用語や記号などの役割や音楽における働きを捉えること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

① 記載が内容の取扱いと重複している部分について、事項を整理することにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

② 自分でやってわかる（理解する）ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、これらの関連を意識したした効果的な指導を行うことができるよう改善

③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行するなどにより、生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

④ 生徒がつくった旋律に限らず、既成の旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくるなど、生徒の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

（小学校図画工作科第５学年及び第６学年の例）

現行の構成

A 表現	思	（1） 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴などを基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。
	技	（2） 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
B 鑑賞	思	（1） 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。
（共通事項）		（1） 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
	思	イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表現	自分と材料や場所		(1) 表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
		思	造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
		技	造形遊びをする活動を通して、活動をつくる方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	自分と表したいこと	思	絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付け主題へと高め、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
		技	絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
B 鑑賞			(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
		思	鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
		技	鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などから表現の特徴や表し方の変化などを見付けだすこと
（共通事項）			(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
		知	ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴や造形の働きを理解すること
		思	イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

① 各区分に共通する材料や用具の扱い、表現方法などを考慮して示し、技能を相互に関連付け指導内容の重点化を図ることができるよう改善

② 鑑賞の技能について整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

（中学校美術科第１学年の例）

現行の構成

A 表現	思	(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。
		ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
		イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。 (イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。 (ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。
	技	(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
		ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。 (イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。
B 鑑賞	思	(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。
		ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。 (イ) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
		イ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。 (イ) 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
〔共通事項〕	知	(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表現		表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	自分と美術 思	対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩など、想像したことなどを基に主題を生み出し、意図に応じた構成などについて考えながら心豊かな構想を練り、工夫して表現すること	
	自分と美術 技	材料や用具を生かし、表現方法を追求すること	①
		材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること	
	生活や社会と美術 思	目的や条件、意図などを基に、身近な生活との関わりなどから主題を生み出し、調和のとれた美しさなどを考え、心豊かな構想を練り、工夫して表現すること	
		伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和などを考え、心豊かな構想を練り、工夫して表現すること	
		使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和などを考え、心豊かな構想を練り、工夫して表現すること	
	生活や社会と美術 技	材料や用具を生かし、表現方法を追求すること	①
		材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること	
B 鑑賞		鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	自分と美術 思	美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること	
	自分と美術 技	美術作品などの造形的な特徴などの情報を読み取ること	①、②
	生活や社会と美術 思	美術作品などの目的や条件、意図や機能などとの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること	
	生活や社会と美術 技	美術作品などの造形的な特徴などの情報を読み取ること	①、②
〔共通事項〕		「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	知	形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること	
		造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること	
		生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること	
		身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などの美術文化について理解すること	

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善

② 鑑賞の技能を整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善

③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することなどにより、授業のねらいや生徒の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

（高等学校芸術科（美術Ⅰ）の例）

現行の構成

A 表現		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1) 絵画・彫刻	
		絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想 (ア) 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。 (イ) 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。	
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (イ) 表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと。	①
		(2) デザイン	
		デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 目的や機能などを考えた発想や構想 (ア) 目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。 (イ) デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。	
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (イ) 表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと。	①
		(3) 映像メディア表現	
		映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想 (ア) 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。 (イ) 色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ること。	
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。 (イ) 表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すこと。	①
B 鑑賞		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1) 鑑賞	②
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (ウ) 映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。	③
		イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と美術との関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考え、見方や感じ方を深めること。	③
〔共通事項〕		表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	知	ア 造形の要素の働きを理解すること。	
		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。	

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表現		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
	自分と美術 思	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練り、創意工夫して創造的に表現すること	
	自分と美術 技	材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること	①
	社会と美術 思	目的や条件、意図や美しさなどを考え、主題を生成し、機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練り、創造的な表現をすること	
	社会と美術 技	材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること	①
B 鑑賞		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
	自分と美術 思	美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること	②
	自分と美術 技	美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること	①、③
	社会と美術 思	美術作品などの目的や条件、意図との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、社会との関わりを踏まえて、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること	②
	社会と美術 技	美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること	①、③
〔共通事項〕		表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を次の通り育成する。	
	知	造形の要素の働きを理解すること	
		造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること	
		環境の中に見られる自然と美術の関わりや、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて理解すること	
		日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などの美意識や創造性、日本の美術の歴史や表現の特質などの美術文化について理解すること	

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善

② 「鑑賞」のアは(ア)～(ウ)を２つにまとめ、創意工夫を生かした効果的な指導を行うことができるよう改善

③ 鑑賞の技能を整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

（高等学校芸術科（工芸Ⅰ）の例）

現行の構成

A 表現		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1) 身近な生活と工芸 身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 身近な生活の視点に立った発想や構想 (ア) 自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をすること。 (イ) 用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練ること。	
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。	①
		(2) 社会と工芸 社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 社会的な視点に立った発想や構想 (ア) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。 (イ) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練ること。	
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。	①
B 鑑賞		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	思	ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 身近な生活の視点に立ってよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 社会的な視点に立ってよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。	②
	思	イ 生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めること。	②
〔共通事項〕		表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	知	ア 造形の要素の働きを理解すること。	
	知	イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。	

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表現		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	身近な生活と工芸 思	自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をし、用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練り、創意工夫して創造的に表すること	
	身近な生活と工芸 技	制作方法を踏まえ、材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること	①
		社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	社会と工芸 思	社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をし、社会における有用性、機能と美しさとの調和を考え、素材の特質や表現の多様性などを生かした制作の構想を練り、創意工夫して創造的に表すること	
	社会と工芸 技	制作方法を踏まえ、材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しがもてるようにすること	①
B 鑑賞		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。	
		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	身近な生活と工芸 思	工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、身近な生活と工芸との関係から作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること	
	身近な生活と工芸 技	工芸作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること	①、②
		社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	社会と工芸 思	工芸作品のよさや美しさを感じ取り、社会や環境との関わりを踏まえて、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること	
	社会と工芸 技	工芸作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること	①、②
〔共通事項〕		表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を次のとおり育成する。	
		(1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	知	造形の要素の働きを理解すること	
	知	造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること	
	知	環境の中に見られる自然と工芸の関わりや、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて理解すること	
	知	工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識、創造性など、工芸の伝統と文化について理解すること	

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善

② 鑑賞の技能を整理し、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を明確にして効果的な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

（高等学校芸術科（書道Ⅰ）の例）

現行の構成

A 表現		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 漢字仮名交じりの書
		漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて構想し工夫すること。 (ア)漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 ① (イ)目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現 (ウ)名筆を生かした表現や現代に生きる表現
	知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり (イ)名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり
	技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア)目的や用途に即した効果的な表現 (イ)漢字と仮名の調和した線質による表現
		(2) 漢字の書
		漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。 (ア)古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 ① (イ)意図に基づいた表現
	知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり (イ)書体や書風と用筆・運筆との関わり
	技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア)古典に基づく基本的な用筆・運筆 (イ)古典の線質、字形や構成を生かした表現
		(3) 仮名の書
		仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。 (ア)古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 ① (イ)意図に基づいた表現
	知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり (イ)線質や書風と用筆・運筆との関わり
	技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア)古典に基づく基本的な用筆・運筆 (イ)連綿と単体、線質や字形を生かした表現
B 鑑賞		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1)鑑賞
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のよさや美しさを味わって捉えること。 (ア)作品の価値とその根拠 (イ)生活や社会における書の効用 ②
	知	イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。 (ア)線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり ① (イ)日本及び中国等の文字と書の伝統と文化 (ウ)漢字の書体の変遷、仮名の成立等 (エ)書の伝統的な鑑賞の方法や形態 ②
〔共通事項〕		表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を次のとおり育成する。
		(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。
	知	イ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善のイメージ（案）

A 表現		表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		漢字仮名交じりの書
		漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	(ア) 漢字仮名交じりの書の名筆を生かした表現や現代に生きる表現について考えること (イ)生活や社会における目的や用途、自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
	知	(ア) 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること
	技	(ア)用具・用材の特徴、名筆や現代の書の用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
		漢字の書
		漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	(ア) 漢字の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること (イ) 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
	知	(ア) 漢字の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること
	技	(ア) 用具・用材の特徴、漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
		仮名の書
		仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	(ア) 仮名の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること (イ) 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
	知	(ア) 仮名の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること
	技	(ア) 用具・用材の特徴、仮名の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
B 鑑賞		鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		鑑賞
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	(ア) 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書とその美の意味や価値について考えること ②
	思	(イ) 書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化を考えることを通して、作品や書のよさや美しさを味わうこと ②
	知	(ア) 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること
	技	(ア) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能を身に付けること (イ) 書の美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること ②
〔共通事項〕		表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を次のとおり育成する。
		「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	ア 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること ①
	知	イ 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

① 各分野（漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書）及び鑑賞のそれぞれにおいて、字形、全体の構成など、具体的に示していたものを、〔共通事項〕において書を構成する要素などとして指導事項を精査することにより、学校等の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善

② 鑑賞の技能を明確にするなど、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、生徒が価値意識を形成しながら書の美とその意味や価値を分析的に捉えることなどにつなげ、効果的な指導を行うことができるよう改善

今後の小・中・高等学校におけるデジタル学習基盤の活用の方向性について

音楽の例

＜ 改善の方向性（案）＞

・児童生徒が様々な感覚を働かせて、音楽への理解を深めるだけでなく、思考・判断し表現することにつながるようにデジタル学習基盤を効果的に活用できるようにしていくこと
・発達の段階に応じて、音楽文化への理解につなげていくこと

＜活用イメージ＞

小学校音楽	中学校音楽	高等学校芸術（音楽）
● リコーダーのタンギングを可視化して確認し、音色と演奏の仕方との関わりに気付く【器楽】 ● 鑑賞曲の速度を変化させて聴き比べ、速度による曲想の変化を確かめ、作曲家の表現の工夫を考える【鑑賞】 ● 端末で自分の担当するパートの音を消した音源を聴き、パートの役割を考える【器楽】	● 自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、技能の習得状況を確認したり課題を自覚したりする【歌唱、器楽】 ● 自分が課題としている技能について、範唱・範奏の音源や動画を視聴して解決の見通しをもつ【歌唱、器楽】 ● 音楽創作アプリなどを活用して、実際に音で確かめながら、音をつなげたり重ねたりして音楽をつくる【創作】 ● 音楽室と外部の人や団体、施設などとをつなぎ、郷土の伝統音楽をオンラインで一緒に表現したり、鑑賞したりする【歌唱、器楽、鑑賞】	● 「響く声」「柔らかい音」など、慣用的に用いる声や音を表す言語について、可視化したり数値化したりして、その性質を捉え、自分の声や楽器の音と比較しながら、技能習得の見通しをもつ【歌唱、器楽】 ● 音楽創作アプリなどを活用して、音色を様々に変えながら、楽器の組合せによる響きの違いを聴き比べ、音素材の特徴を生かした音楽をつくる【創作】 ● 配信された音源や動画などを視聴し、複数の国や地域の諸民族の音楽を聴き比べ、生活や社会における役割や、表現上の効果の共通性及び固有性について考えながら音楽を聴き深める【鑑賞】

※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

今後の小・中・高等学校におけるデジタル学習基盤の活用の方向性について

図画工作、美術、工芸の例

＜ 改善の方向性（案）＞

・デジタル学習基盤の特性を生かした活用を図ることにより、豊かな創造性を育み、表現や鑑賞の活動を充実させ、資質・能力を効果的に育成できるようにすること。その際、教科・科目の特性を踏まえた文化への理解につなげていくこと

・鑑賞の活動においては、多様な見方や感じ方に触れたり、それらを深めたりする学びを支えるため、デジタル学習基盤の効果的な活用を一層工夫していくこと

＜活用イメージ＞

小学校図画工作

- 場所や空間をどのように変化させていくかを考えながら、動く映像をつくり、プロジェクターで投影するなどして、活動を工夫してつくる（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）【表現】
- 材料や用具について、画像や動画などからこれまでの経験を振り返ったり、使い方を確かめたりして、特徴を生かして使う（知識及び技能）【表現】
- 作品を展示する場所を自分で選び、見る方向や作品と周りにあるものとの関係を考えて撮影し、友人と互いに見合ったり、話し合ったりして、自分の見方や感じ方を深める（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】
- 活動の過程を撮影し、整理・蓄積したファイル等を基に自分の学びを振り返り、次の学習につなげようとする（学びに向かう力、人間性等）【表現、鑑賞】

中学校美術

- ポスターのアイデアスケッチをタッチペンを使って画面上で作成し、途中段階を相互鑑賞し、その後、アイデアを修正することで、発想や構想を深める(思考力、判断力、表現力等）【表現】
- 制作した動物や人などを動かして撮影し、アニメーションに表し、何度も試し活動することで、光や動勢などで捉えることを理解する（知識及び技能）【表現】
- 美術館などで公開しているデジタルコンテンツを利用し、日本と諸外国の美術作品を拡大・縮小したり、並べて比較したりして鑑賞し、美術文化の背景などを踏まえ、相違点や共通点などを考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】
- 活動の過程を振り返ったり、鑑賞で感じ取ったり考えたりしたことを共有するなどして、学習を主体的に調整する（学びに向かう力、人間性等）【表現、鑑賞】

高等学校芸術（美術）

- 映像や音、光、文字などの映像メディア表現の要素を複合的に用い、総合的な表現効果を考え、意図や動きに合わせ変形させたり特殊効果などを活用したりして表現方法を追求する（知識及び技能）【表現】
- 日本及び諸外国の美術作品の複数の画像を比較して鑑賞し、美術文化の文脈などを踏まえ、表現の相違点や共通点などを考え、見方や感じ方を深める （思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】

高等学校芸術（工芸）

- ３Dソフトを用いて器のアイデアを考えたり、作成中の器を撮影し画面上で色を試し釉薬のかかった状態を確認したりするなどして発想や構想を深める（思考力、表現力、判断力等）【表現】
- 作者や作品の背景にある社会や時代などを調べたり、美術館などで公開している工芸作品の拡大画像を見たりして、作品、素材や技法、作者についての心情や意図について考え、見方や感じ方を深める（思考力、判断力、表現力等）【鑑賞】

※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

今後の小・中・高等学校におけるデジタル学習基盤の活用の方向性について

書道の例

＜ 改善の方向性（案）＞

・デジタル学習基盤の特性を生かして活用することにより、書特有の視点をもって多様な書の美を捉え、自ら学びを深めることにつなげること

・書の伝統と文化への理解を深められるよう、デジタル学習基盤を効果的に活用すること

＜活用イメージ＞

小学校・中学校	高等学校芸術（書道）
小中学校において培われるデジタル学習基盤の活用能力	● 撮影・録画機能を活用し、長い期間での思考の変化や構想・工夫の過程を振り返ったり、適切なタイミング、適切な方法で効果的に活用したりすることにより、生徒自ら学びを深め、個別最適で多様な学びを実現することにつなげる【表現、鑑賞】 ● 検索・参照できる機能を活用し、自身の学びを調整することにより、多様な技能を習得・習熟することや、豊かに構想・工夫し表現することにつなげる【表現】 ● 美術館・博物館等のデジタルアーカイブや各種動画を活用し、書の表現性や表現効果等に関わる一回性や呼吸、空間意識といった視点から、書の美の多様さに触れ味わうとともに、書の伝統と文化への理解を深めることにつなげる【鑑賞】

※今後の情報技術の発展によって、様々な活用の可能性がある

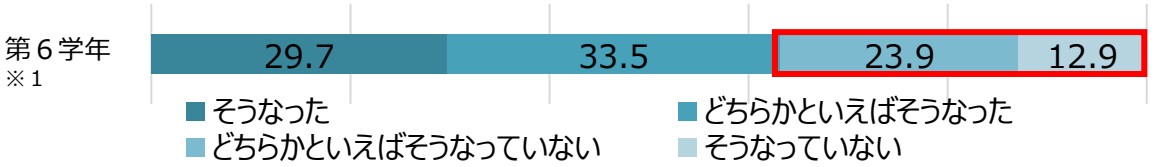
芸術系教科・科目における伝統や文化に関するデータ

- ✓ 音楽科（小学校）において、日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつことについて、一定の成果は見られるものの、児童の３割程度が否定的な回答をしている。
- ✓ 質問項目は異なるものの、我が国や郷土の音楽に対する児童生徒の興味・関心のもちやすさに関する教師の捉えについて、小、中、高等学校へと学校段階が進むにつれて、否定的な回答が増加する傾向がみられる。

音楽科・芸術科（音楽Ⅰ）

小学校 児童

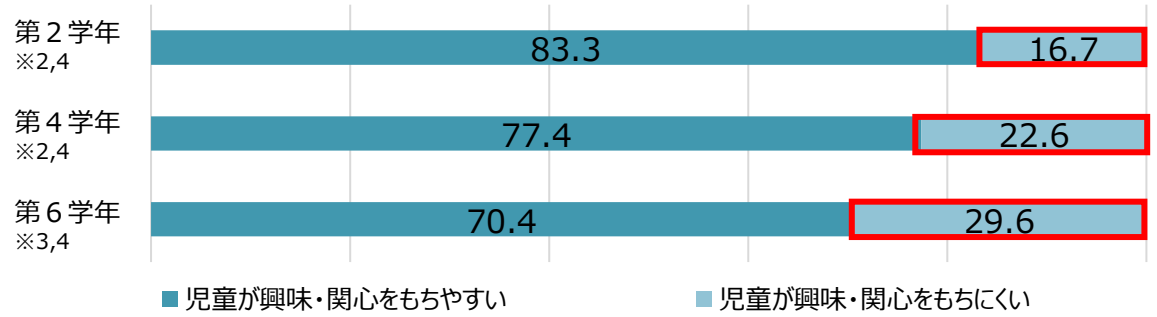
音楽の学習をして、日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつようになった



【児童・生徒の学習状況等について】

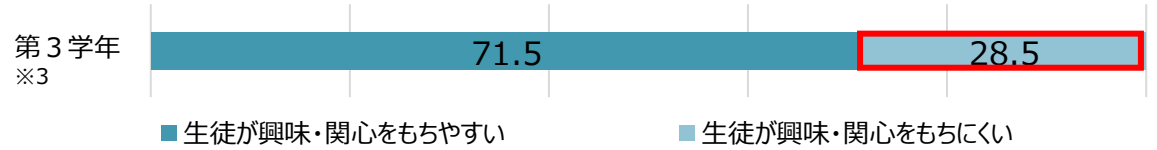
小学校 教師

我が国の音楽や郷土の音楽に親しみ、よさを味わったり、愛着をもったりすること



中学校 教師

我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解すること



暫定値

高等学校 教師

鑑賞の学習において、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解すること



※1 各選択肢を選んだ児童の割合（%）（重み付き）
※2 各選択肢を選んだ教師の割合（%）（重みなし）
※3 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童生徒の割合（%）（重み付き）
※4 中学校及び高等学校に合わせて再計算した数値を用いている
※5 音楽Ⅰの履修を完了した第２学年の生徒への指導を行っていた教師を対象に調査を実施

（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査、令和５年度中学校学習指導要領実施調査、令和６年度高等学校学習指導要領実施状況調査（※暫定値）（国立教育政策研究所）

芸術系教科・科目における伝統や文化に関するデータ

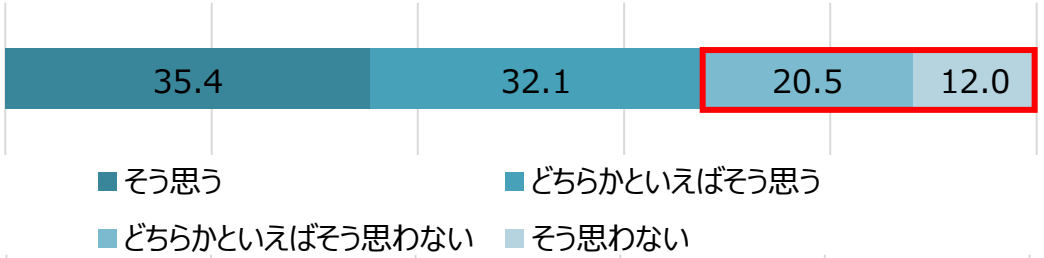
- ✓ 図画工作科・美術科において、日本の伝統や文化に関わる興味・関心について、一定の成果は見られるものの、児童生徒の３割程度が否定的な回答をしている。
- ✓ 芸術科（書道）において、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していきたいという意識や態度が養われたかについて、一定の成果は見られるものの、生徒の３割程度が否定的な回答をしている。

図画工作科・美術科

小学校 児童

日本の伝統や文化を感じる作品に興味がある

第６学年 ※1



中学校 生徒

美術を学習することで、日本の伝統的な美術や文化についての興味や関心をもつようになった

第３学年 ※1



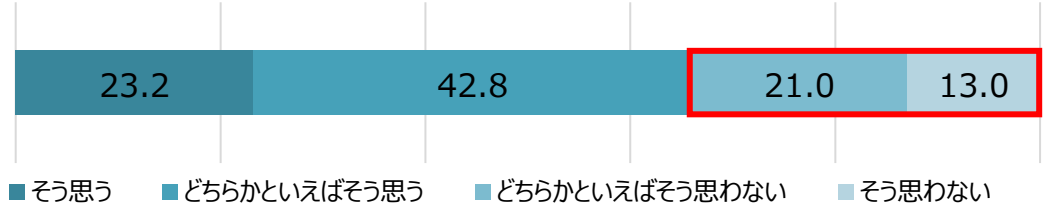
芸術科（書道Ⅰ）

高等学校 生徒

暫定値

「書道Ⅰ」の学習を通して、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していきたいという意識や態度が養われた

第２学年 ※1,2



※1 各選択肢を選んだ児童生徒の割合（%）（重み付き）
※2 書道Ⅰの履修を完了した第２学年の生徒を対象に調査を実施

（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査、令和５年度中学校学習指導要領実施調査、令和６年度高等学校学習指導要領実施状況調査（※暫定値）（国立教育政策研究所）

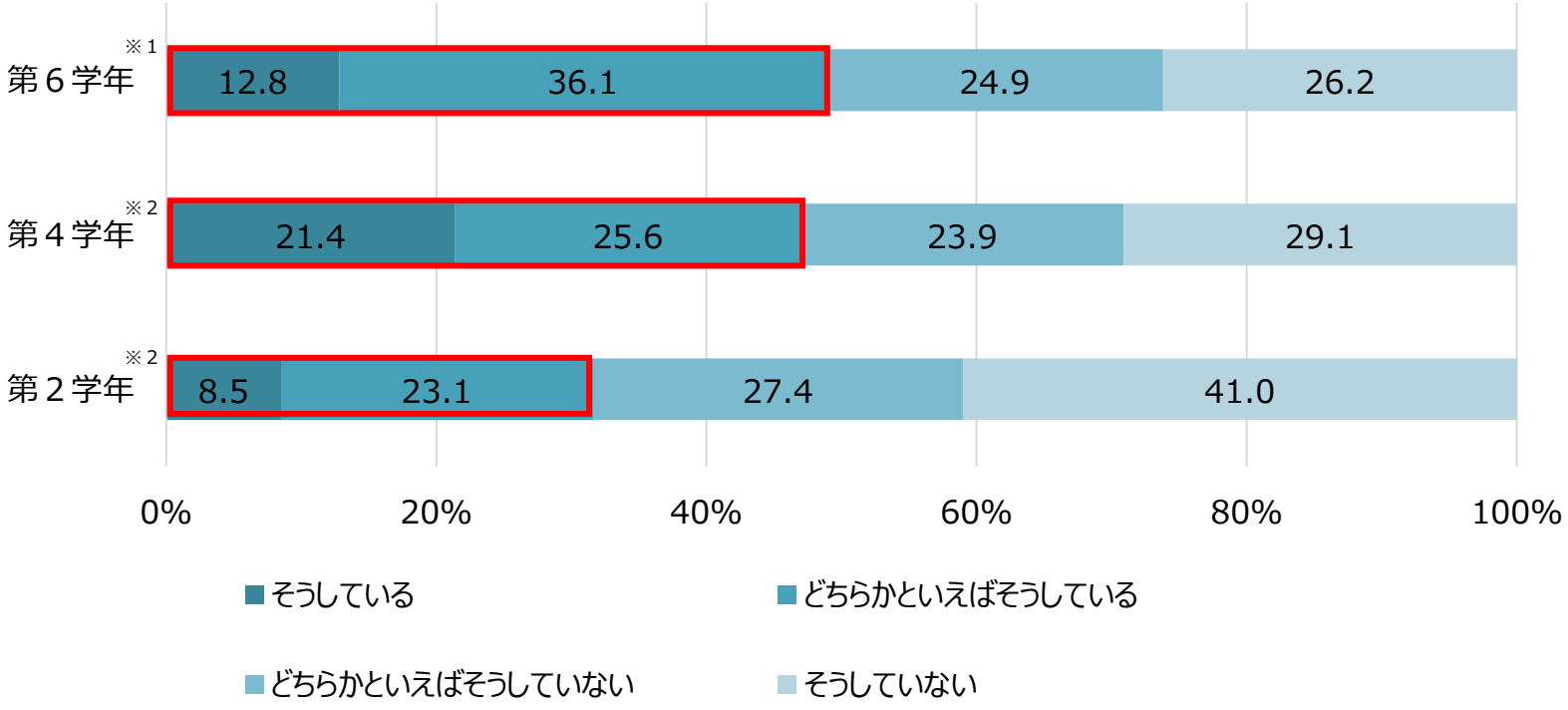
外部人材、学校外の文化施設等や地域との連携に関するデータ

✓ 小学校音楽科において、外部の人々や学校外の施設の活用等について、教師オンライン質問調査の肯定的な回答が半数を下回っている。

音楽科

小学校
教師

音楽科の学習において、外部の人々などの協力を得たり、学校外の施設等を活用した授業を行ったりしている



※１：各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童の割合（%）（重み付き）、※２：各選択肢を選んだ教師の割合（%）（重みなし）

（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査（国立教育政策研究所）

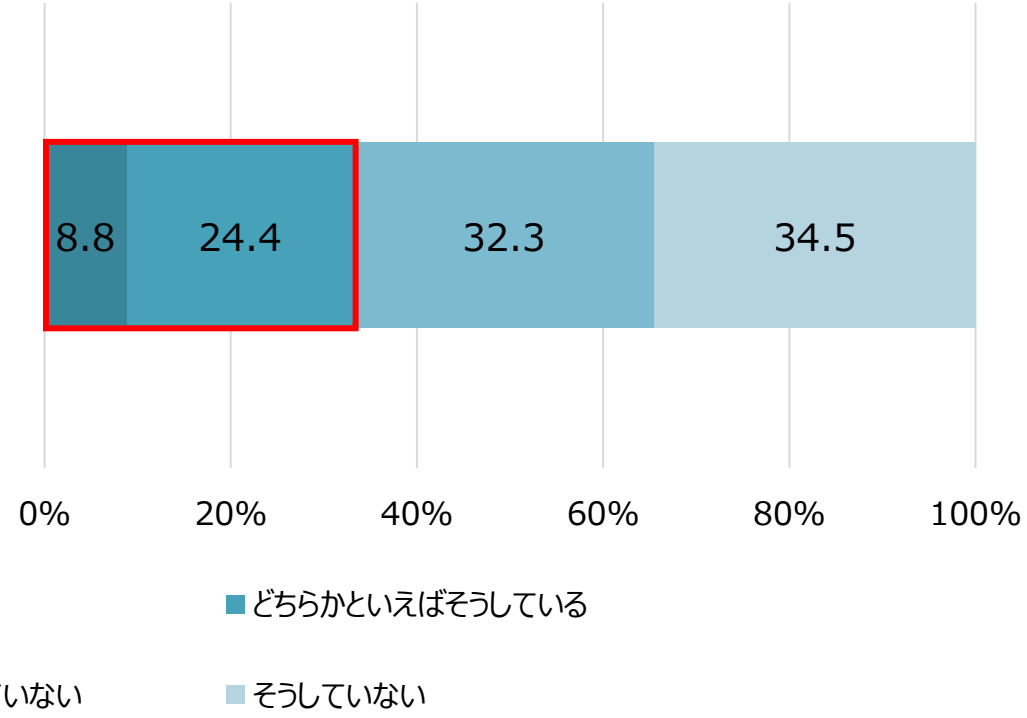
外部人材、学校外の文化施設等や地域との連携に関するデータ

✓ 中学校音楽科において、外部の人の協力や学校外の施設の活用等について、教師質問調査の肯定的な回答が４割を下回っている。

音楽科（第３学年）

中学校
教師

外部の人の協力を得たり学校外の施設等を活用したりして、学習の充実を図るように指導を工夫している



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合（%）（重み付き）

（出典）令和５年度中学校学習指導要領実施状況調査（国立教育政策研究所）

外部人材、学校外の文化施設等や地域との連携に関するデータ

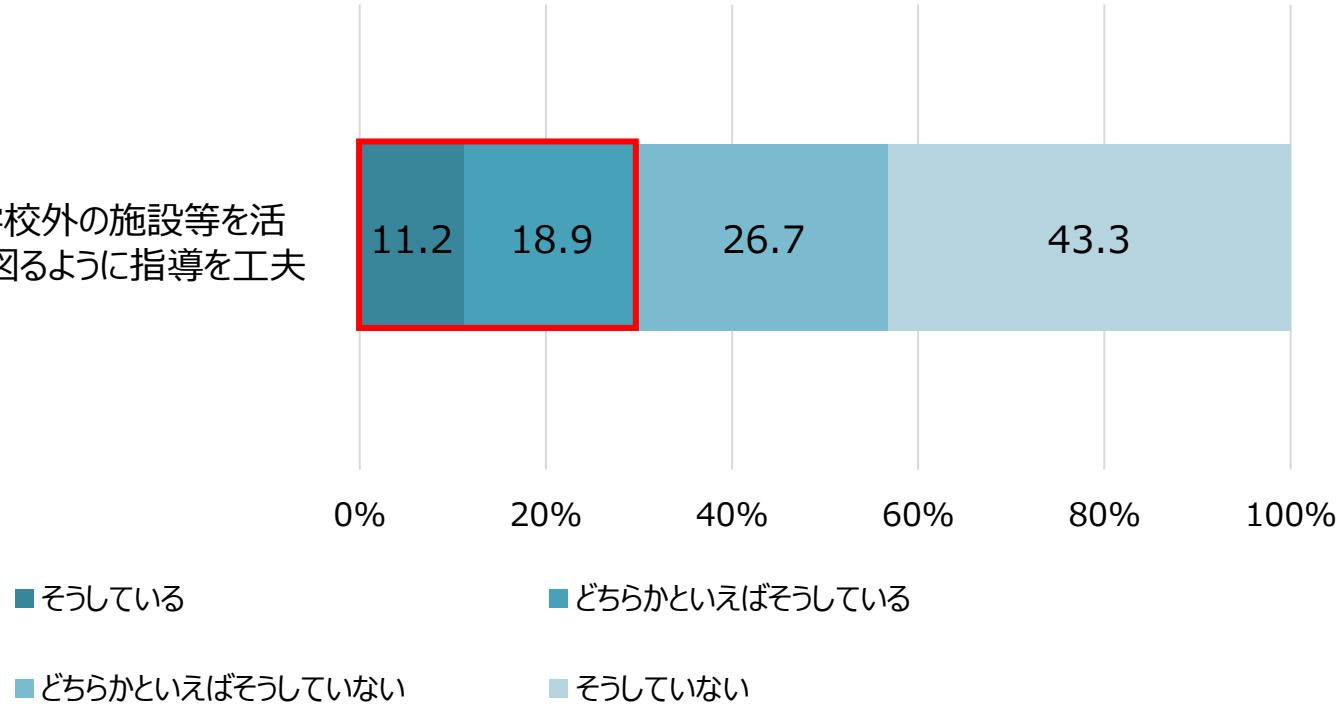
✓ 高等学校芸術科の音楽Ⅰにおいて、外部の人の協力や学校外の施設の活用等について、教師質問調査の肯定的な回答が半数を下回っている。

高等学校芸術科（音楽Ⅰ）

高等学校 教師

暫定値

外部の人の協力を得たり、学校外の施設等を活用したりして、学習の充実を図るように指導を工夫している



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合（%）（重み付き）

（出典）令和６年度高等学校学習指導要領実施状況調査（※暫定値）（国立教育政策研究所）

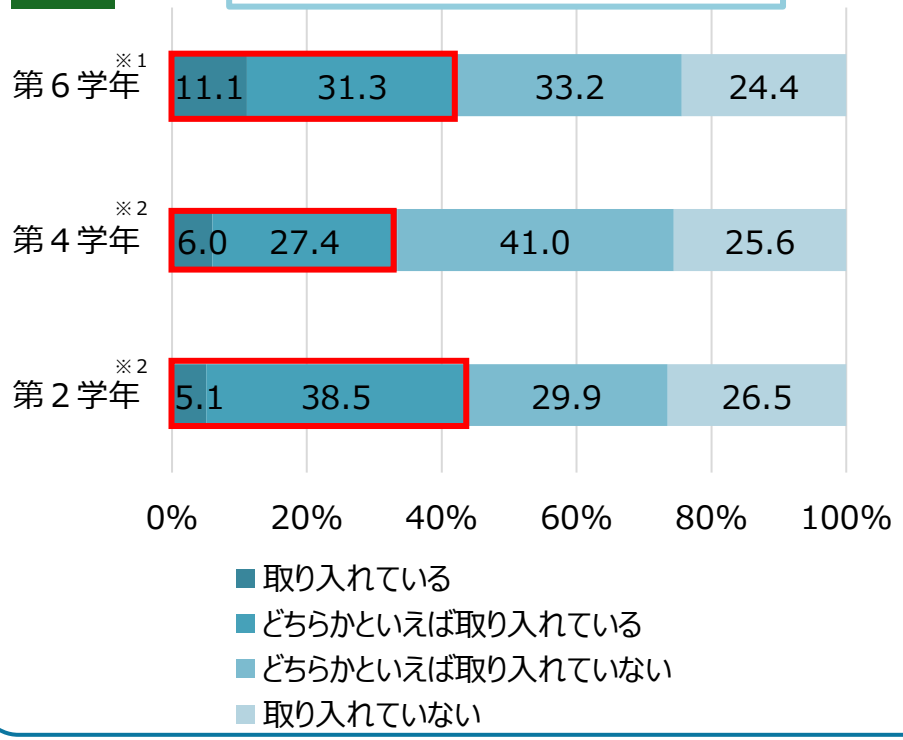
外部人材、学校外の文化施設等や地域との連携に関するデータ

✓ 小学校図画工作科において、地域や文化施設と連携した授業の実施状況について、教師オンライン質問調査の肯定的な回答が半数を下回っている。

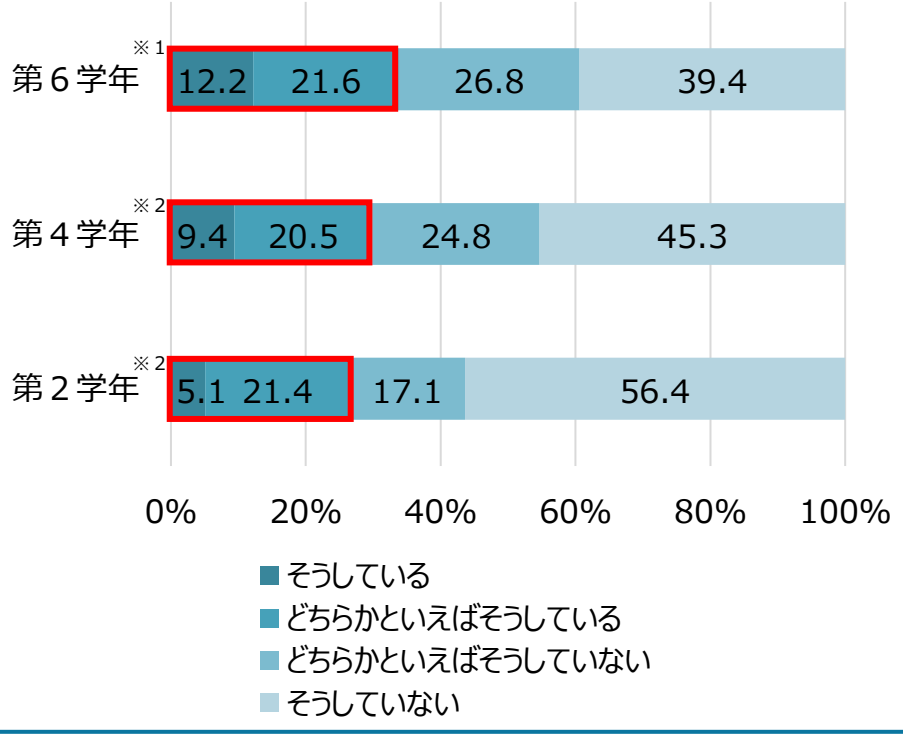
図画工作科

小学校
教師

図画工作の授業で、地域や社会の材料や場所、人を活用した活動を取り入れている



地域の美術館や博物館等を利用したり連携を図ったりするような授業を行っている



※１：各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童の割合（%）（重み付き）、※２：各選択肢を選んだ教師の割合（%）（重みなし）

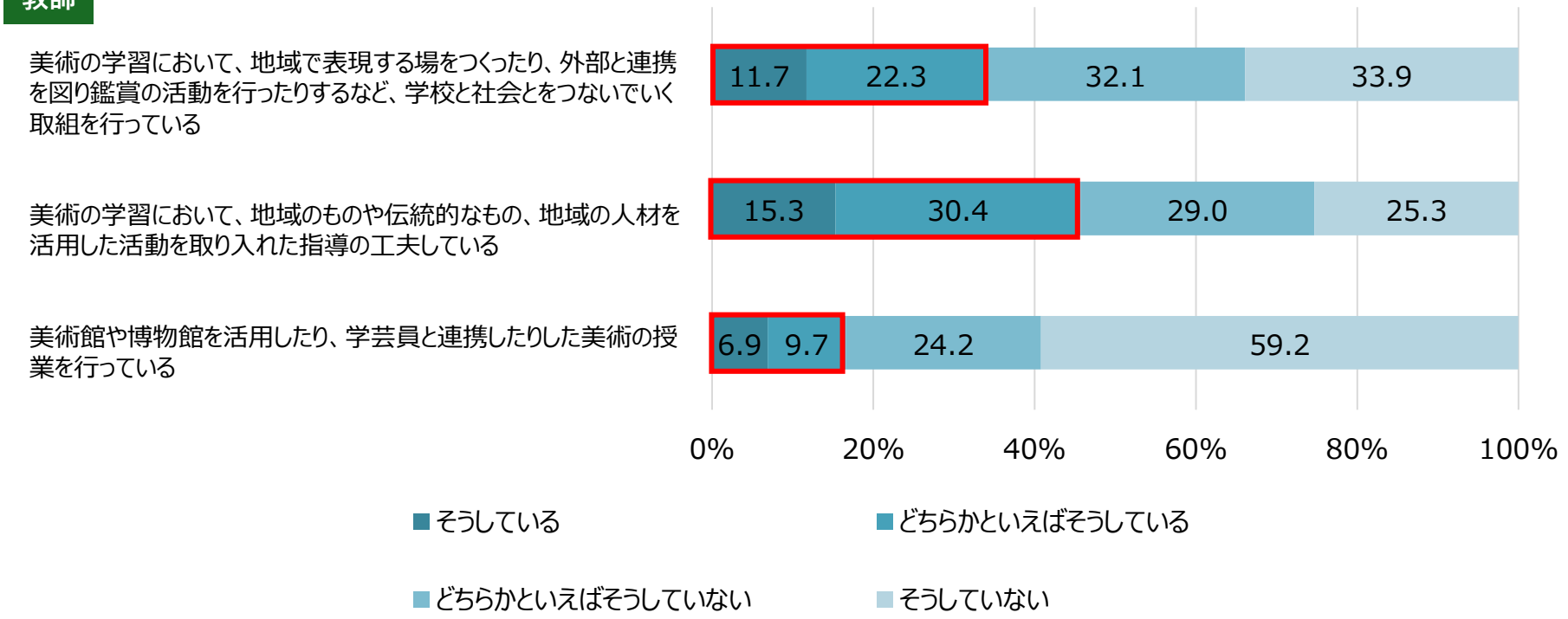
（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査（国立教育政策研究所）

外部人材、学校外の文化施設等や地域との連携に関するデータ

✓ 中学校美術科において、地域との連携や地域の人材の活用等について、教師質問調査の肯定的な回答が半数を下回っており、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は２割以下であった。

美術科（第３学年）

中学校
教師



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合（%）（重み付き）

（出典）令和５年度中学校学習指導要領実施状況調査（国立教育政策研究所）

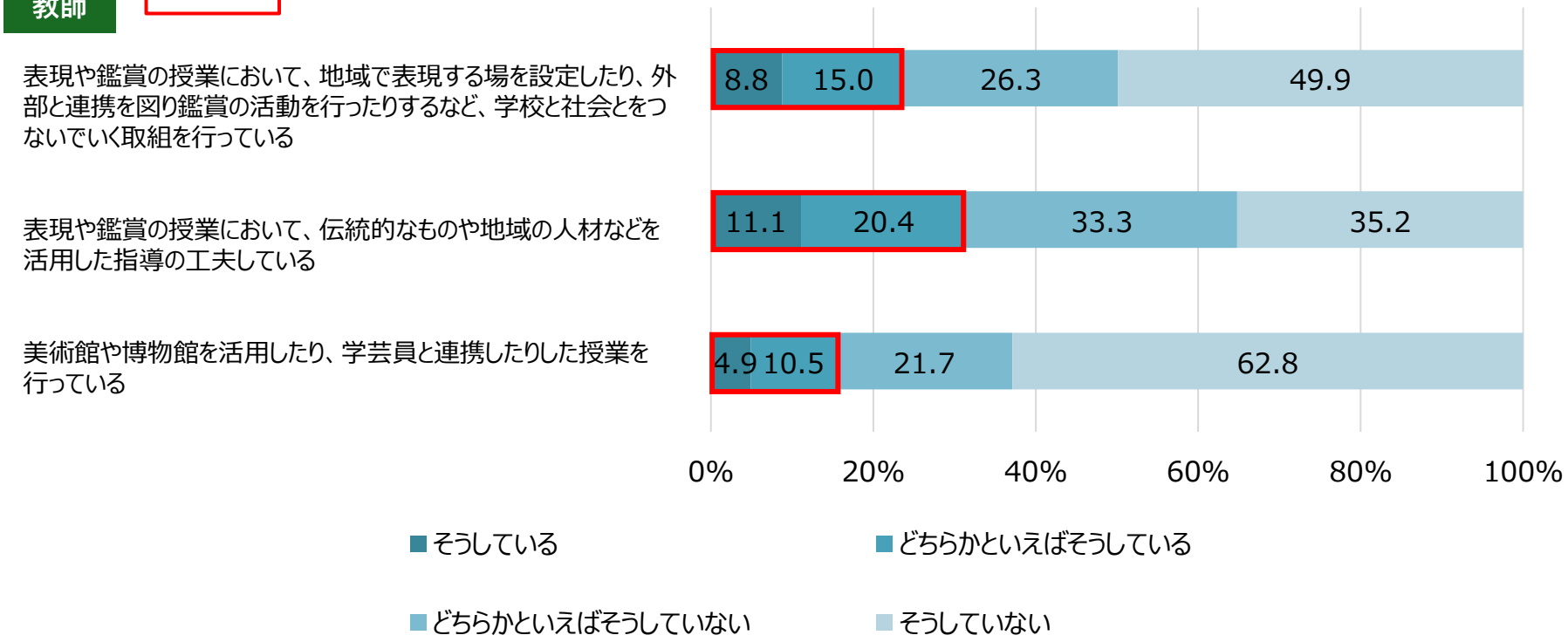
外部人材、学校外の文化施設等や地域との連携に関するデータ

✓ 高等学校芸術科の美術Ⅰにおいて、地域との連携や地域の人材の活用等について、教師質問調査の肯定的な回答が半数を下回っており、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は２割以下であった。

高等学校芸術科（美術Ⅰ）

高等学校 教師

暫定値



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合（%）（重み付き）

（出典）令和６年度高等学校学習指導要領実施状況調査（※暫定値）（国立教育政策研究所）

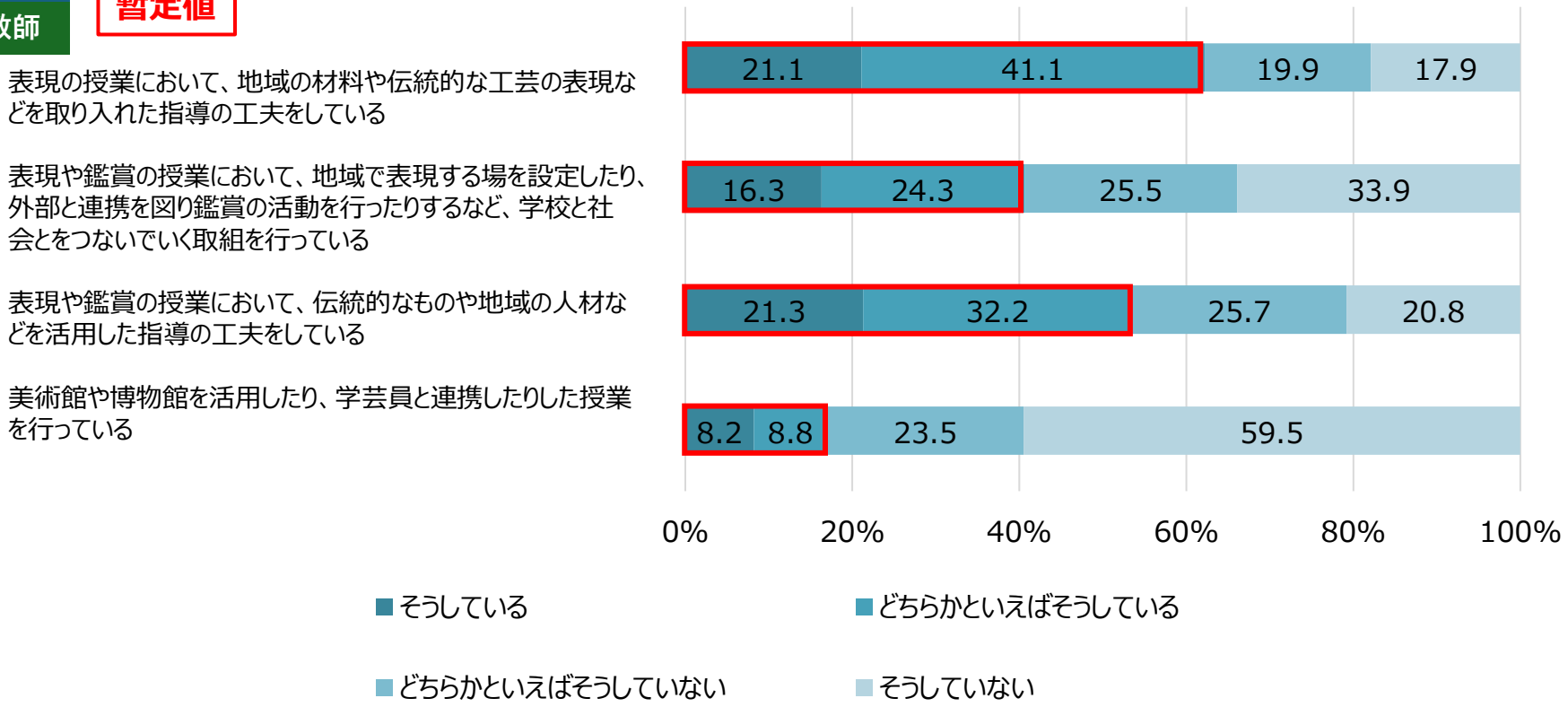
外部人材、学校外の文化施設等や地域との連携に関するデータ

✓ 高等学校芸術科の工芸Ⅰにおいて、伝統的な工芸の表現などを取り入れた指導の工夫について、教師質問調査では６割以上が肯定的な回答を示したものの、特に文化施設等と連携した授業の実施に関する設問においては、肯定的な回答は２割以下であった。

高等学校芸術科（工芸Ⅰ）

高等学校 教師

暫定値



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合（%）（重み付き）

（出典）令和６年度高等学校学習指導要領実施状況調査（※暫定値）（国立教育政策研究所）

小・中・高等学校の家庭科の目標、見方・考え方（案）

- 現行の学習指導要領の系統性の明確化を図るという方向性は引き継ぎつつ、構成を見直すとともに、空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がりを明示することや、社会が複雑化・多様化する中で、実践を多角的に評価・改善することにより、生活をよりよくするための適切な判断をする力を育成する視点を重視。

下線：現行からの変更。

目標・柱書	
小学校	自分や家族・家庭の生活をよりよくしようと工夫する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
中学校	家族・家庭や地域における生活をよりよくしようと工夫し創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
高校	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
家庭基礎	家族・家庭、地域及び社会における生活を支えよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
家庭総合	家族・家庭、地域及び社会における生活を支え、他者と協働しながらよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族や家庭、生活経営や消費、衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を多角的に評価・改善し、考えたことを表現するなど、日常生活の課題を解決する力を養う。	・家庭生活を大切にする心情を育むとともに、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 ・自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
中学校	家族や家庭、生活経営や消費、衣食住などについて、生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。	・家族や地域の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
高校	家族や家庭、生活経営や消費、衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
家庭基礎	家族や家庭、生活経営や消費、衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な根拠に基づく基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
家庭総合	家族や家庭、生活経営や消費、衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な根拠を踏まえた総合的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活を俯瞰しながら問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯やその先を見通して生活の課題を解決する力を養う。	・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。

新しい「見方・考え方」	
小・中・高等学校	自分や家族の生活の営み（当該教科で扱う事象や対象）を、地域や社会との関わりの中で、持続的なものとする視点から多角的（当該教科固有の物事を捉える視点）に捉え、主体的によりよい生活を創り出す（当該教科固有の考え方や判断の仕方）こと

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい

① 衣生活・食生活・住生活など、学習の対象となる生活事象ごと（＝改善後の領域ごと）に「統合的な理解・総合的な発揮」を設定し、教師が題材を構想しやすい抽象度となるよう工夫した。

② 統合的な理解では、領域における学習内容の本質を端的に示しつつ、それらを自分や家族、地域の人々のよりよい生活の実現と結びつけて理解する姿を示す。これにより、衣食住や家族・家庭、生活のマネジメントといった生活を取り巻く諸要素に係る知識を散発的に身に付けるのではなく、それら諸要素を学ぶことの本質的な意義を捉えつつ、自らの生活に対する価値基準を見直したり、学習したことをもとに自己や他者の生活をどのようによりよくできるのかに気づくことができるような授業デザインを促す。

	C 食生活（仮称）	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
中学校	統合的な理解	総合的な発揮
	地域の食文化を大切にし、健康で安全な食事を続けていくことが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	**自分の食生活上の課題を見いだし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたよりよい生活を工夫し、創造する**ことができる。
	内容項目例	
	• 中学生の栄養の特徴と健康によい食習慣 • 栄養素の種類と働き、食品の栄養的な特質 • 中学生の１日分の献立作成の方法 • 調理（焼く、煮る、蒸す、生肉・生魚の扱い）の仕方と調理計画 • 地域の食文化と和食の調理	• 健康によい食習慣について考え、工夫すること • 中学生の１日分の献立について考え、工夫すること • 日常の１食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること

③ 総合的な発揮では、実生活において、自分や家族、地域の人々の生活上の課題に気付き、よりよい生活の実現のための課題解決に向けて、工夫したり、創造したりする姿を示す。これにより、製作や実習をただこなすのではなく、その中で生活上の課題発見・問題解決を促す授業づくりを促進。

※家庭科における「よりよい」とは

家庭科の学習では、経済性・利便性・客観性といった外在的基準ではなく、児童生徒一人一人の価値基準に基づいて生活を見つめ直すことが重要である。その際、「以前よりよくなった」という一時的な改善にとどまらず、「さらによりよくしたい」という意欲をもち、実生活において主体的に生活の質の向上を目指す姿勢を育てる必要がある。そのためには、学習した知識及び技能が生活の向上につながるという期待感をもたせるとともに、実践を通して改善の効果を実感することを積み重ねることが求められる。さらに、実践と振り返りを通じて新たな視点や価値に気付き、「何をよりよいとするか」という自らの価値基準そのものを見直し、広げていくことも重要である。

こうした経験の積み重ねにより、児童生徒が自ら生活の改善を重ねながら、自身の考えや価値を問い直し、より豊かな生活を求め続ける姿の育成を目指す。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（小学校・中学校）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	A　家族・家庭と生涯発達（仮称）	家族の一員として、家族や地域の人々と関わり、協力することが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や地域の人々と関わり、協力する中で自分や家族の生活上の課題を見いだし、よりよい生活に向けて工夫することができる。
	B　生活の経営・消費生活（仮称）	家族の一員として、家庭生活における生活資源を適切に活用することが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	生活資源を適切に活用する中で自分の生活上の課題を見いだし、よりよい生活に向けて工夫することができる。
	C　食生活（仮称）	栄養のバランスを考えた食事を楽しむことが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分の食生活上の課題を見いだし、健康でよりよい生活に向けて工夫することができる。
	D　衣生活（仮称）	健康で快適に過ごすために衣服などを選択し、手入れしながら活用することが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分の衣生活上の課題を見いだし、健康・快適でよりよい生活に向けて工夫することができる。
	E　住生活（仮称）	健康で快適に過ごすために日頃から室内を整えることが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の住生活上の課題を見いだし、健康・快適でよりよい生活に向けて工夫することができる。
中学校	A　家族・家庭と生涯発達（仮称）	家族や地域の一員として、家族や地域の人々との関わりを深め、協力・協働していくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や地域の人々と関わり、協力・協働する中で自分や家族の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。
	B　生活の経営・消費生活（仮称）	家族や地域の一員として、家庭生活における生活資源を適切に管理・活用していくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	生活資源を適切に管理・活用する中で自分や家族の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。
	C　食生活（仮称）	地域の食文化を大切にし、健康で安全な食事を続けていくことが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分の食生活上の課題を見いだし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたよりよい生活を工夫し、創造することができる。
	D　衣生活（仮称）	衣服などを適切に選択し、手入れしながら計画的に活用していくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の衣生活上の課題を見いだし、自立に向けて健康・快適でよりよい生活を工夫し、創造することができる。
	E　住生活（仮称）	日常生活や災害への備えに応じて住まいを整えていくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の住生活上の課題を見いだし、自立に向けて安全・健康・快適でよりよい生活を工夫し、創造することができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」について（高等学校）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	家庭基礎	A　家族・家庭と生涯発達（仮称）	自立した生活を営む当事者として、様々な人々と協力し、家庭や地域における生活を支えるために、継続して改善を図っていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や様々な世代の人々と関わり、協力・協働する中で家庭や地域及び社会における生活上の課題を見いだし、生涯を見通してよりよい生活を創造することができる。
		B　生活の経営・消費生活（仮称）	自立した生活を営む当事者として、生活に必要な情報を収集・整理し、家庭や地域及び社会における生活資源を計画的に管理・活用し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	生活資源を適切な意思決定に基づき管理・活用する中で家庭や地域及び社会における生活上の課題を見いだし、生涯を見通してよりよい生活を創造することができる。
		C　食生活（仮称）	科学的な根拠に基づき、地域の豊かな食文化を大切にし、ライフステージに応じた健康で安全な食事を計画・管理し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家庭や地域及び社会における食生活上の課題を見いだし、生涯を見通して健康・安全で食文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。
		D　衣生活（仮称）	科学的な根拠に基づき、衣文化を大切にし、ライフステージに応じて衣服を適切に選択・着用・管理し、活用し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家庭や地域及び社会における衣生活上の課題を見いだし、生涯を見通して安全・健康・快適で衣文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。
		E　住生活（仮称）	科学的な根拠に基づき、住文化を大切にし、ライフステージに応じて居住空間を整備・管理し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家庭や地域及び社会における住生活上の課題を見いだし、生涯を見通して安全・健康・快適で住文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。
	家庭総合	A　家族・家庭と生涯発達（仮称）	家庭や地域の生活を支える当事者として、様々な人々と協力し、家庭や地域における生活の向上に向けて、継続して改善を図り、家庭や地域に働きかけていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や様々な世代の人々と関わり、協力・協働する中で家庭や地域及び社会における生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通してよりよい生活を創造することができる。
		B　生活の経営・消費生活（仮称）	家庭や地域の生活を支える当事者として、生活に必要な情報を収集・整理し、家庭や地域及び社会における生活資源を計画的に管理・活用し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	生活資源を適切な意思決定に基づき管理・活用する中で家庭や地域及び社会における生活上の複合的な課題を見いだし、生涯やその先を見通してよりよい生活を創造することができる。
		C　食生活（仮称）	科学的な根拠を活用しながら、地域の豊かな食文化を大切にし、ライフステージに応じた健康で安全な食事を計画・管理し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家庭や地域及び社会における食生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通して健康・安全で食文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。
		D　衣生活（仮称）	科学的な根拠を活用しながら、衣文化を大切にし、ライフステージに応じて衣服を適切に選択・着用・管理し、活用し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家庭や地域及び社会における衣生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通して安全・健康・快適で衣文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。
		E　住生活（仮称）	科学的な根拠を活用しながら、住文化を大切にし、ライフステージに応じて居住空間を整備・管理し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家庭や地域及び社会における住生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通して安全・健康・快適で住文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。
		F　総合生活実践（仮称）		家庭や地域及び社会における生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通してよりよい生活を創造することができる。

題材構想に向けた「統合的な理解」「総合的な発揮」の活用イメージ（例：中学校Ｃ領域）

「食生活（仮称）」の領域「中学生に必要な栄養を満たす食事」において「深い学び」を実現するためには、どのような題材を構想すればよいだろうか。

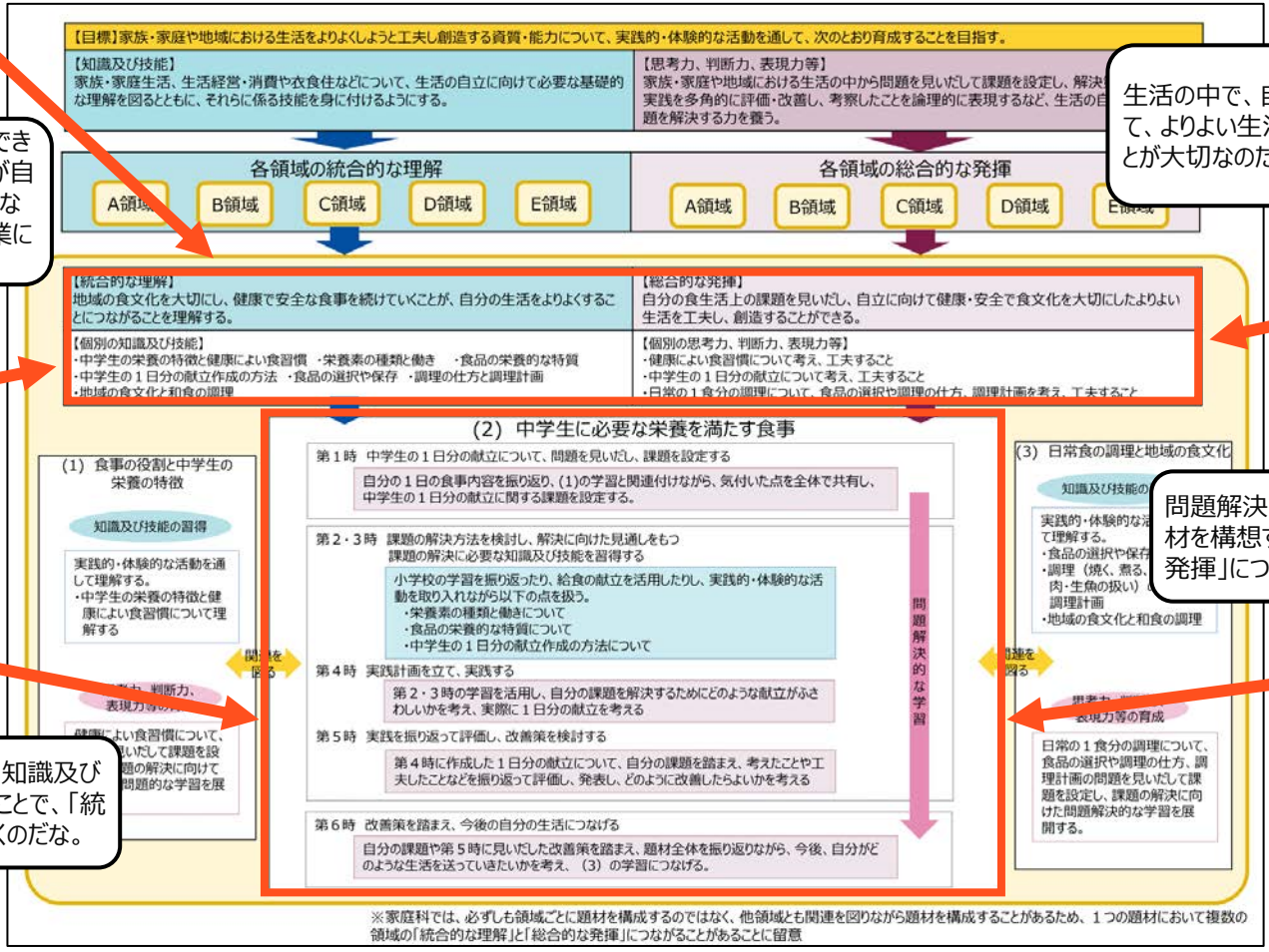
まずは、「食生活（仮称）」の領域で育成すべき資質・能力を確認しよう。
「統合的な理解」と「総合的な発揮」を見れば、この領域において、どのような生徒の姿を目指して題材を構想すればよいかが示されている。
この姿をイメージしながら題材を構想すれば、「深い学び」の実現につながるのだな。

個別の知識及び技能を理解できるようにするだけでなく、それらが自分の生活をよりよくすることにつながることを理解できるような授業にしなければ。

生活の中で、自分で課題を見いだして、よりよい生活を送れるようにすることが大切なのだな。

問題解決的な学習を通して題材を構想することで、「総合的な発揮」につながっていくのだな。

問題解決的な学習の中で、知識及び技能を活用できるようにすることで、「統合的な理解」につながっていくのだな。

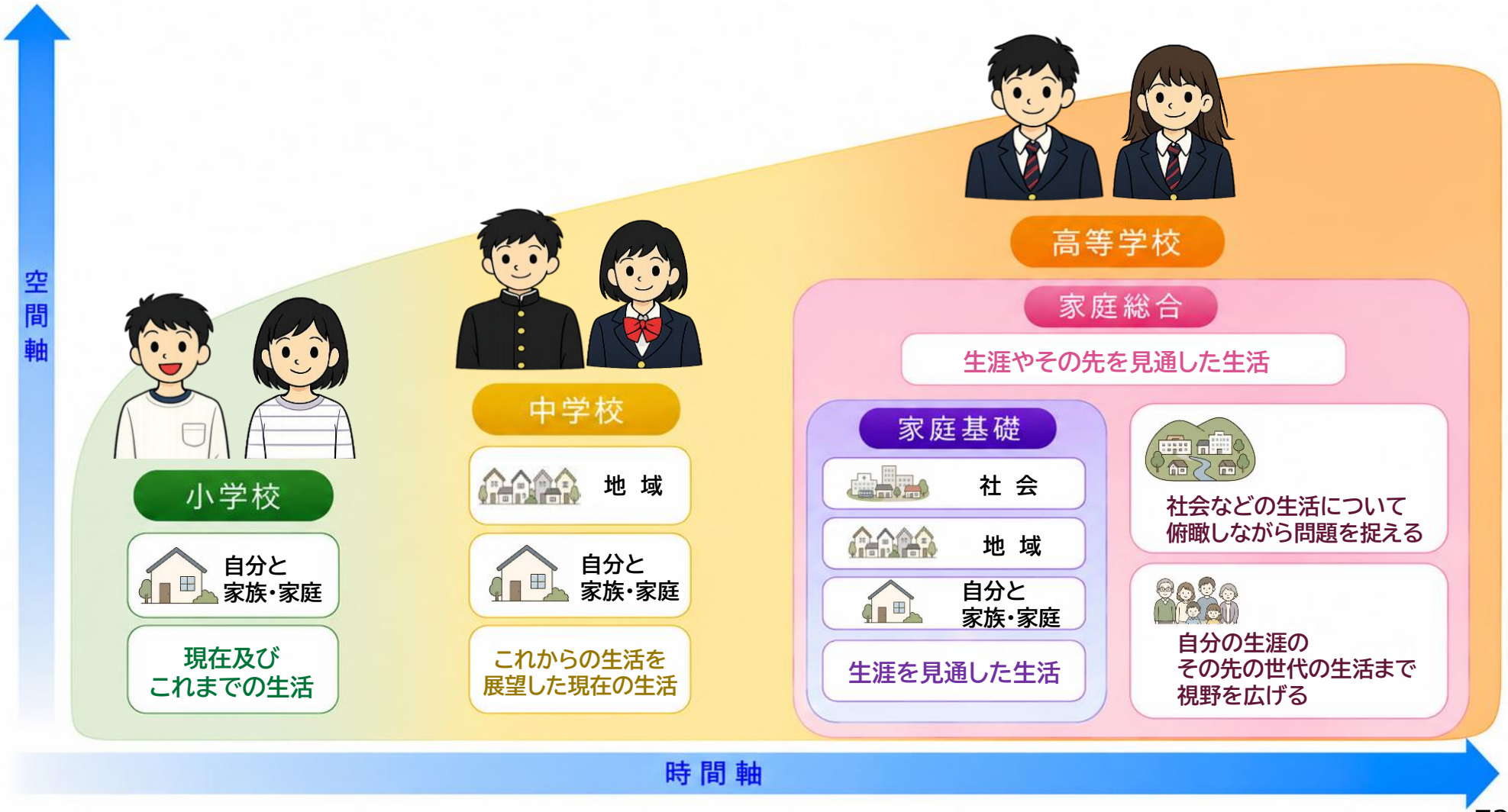


※家庭科では、必ずしも領域ごとに題材を構成するのではなく、他領域とも関連を図りながら題材を構成することがあるため、１つの題材において複数の領域の「統合的な理解」と「総合的な発揮」につながることがあることに留意

「食生活（仮称）」の領域は、消費や環境とも大きく関わっているから、B領域「生活の経営と消費生活（仮称）」の「統合的な理解・総合的な発揮」にもつながる点がありそうだ。
家庭科は、他の領域との関連を図りながら題材を構想することが大切だから、この点も意識して題材を構想していこう。

各学校段階における家庭科の学習と空間軸・時間軸の関係

- 小・中・高等学校における目標や内容等について、改めて系統的・体系的に整理する際、児童生徒の発達段階に応じ、学習対象を空間的・時間的に拡大させていく観点等にも配慮する。



「家庭基礎」「家庭総合」の内容面の整理のあり方のイメージ

● 各科目の趣旨等を明確化しつつ、「高校家庭科の科目の考え方」として、以下の網掛け部分（ピンク色）のとおり整理。

現行

現・家庭基礎
実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する

・基礎的な理解
・実践的・体験的な活動
・技能を身に付ける
・問題解決的な学び

【課題】
・内容が多岐にわたるため、問題解決的な学びが限定的

現・家庭総合
実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する

・科学的な理解
・実践的・体験的な活動
・技能を体験的・総合的に身に付ける
・問題解決的な学び
・生活文化の継承

【課題】
・「家庭基礎」との差異が分かりにくい

改善案

新・家庭基礎
・自らの生活を営み、家庭や地域の生活を支える力を育成する科目
・科学的根拠に基づく知識を基礎的に理解し、実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活に向けて、生活上の課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力を育成する

○小・中学校からの学びの系統性を重視しつつ、科学的な根拠に基づく知識の基礎的な理解と、実験・実習等の実践的・体験的な活動を通して、質の高い学びへと繋げていく（実践的・体験的な活動を通した学習の着実な実施）
○自立した生活を営み、家庭や地域の生活を支えるために、社会に参画し、他者と協働しながら、主体的によりよい生活に向けて、課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力の育成に必要な内容を扱う

（イメージ）
・ 食生活の内容は、小・中学校の食生活に関する知識及び技能を総合的に活用し、例えば、科学的な根拠に裏付けられた食品の特性の理解を基に、ライフステージに応じた献立を整える力を育成する
・ 生涯の生活設計や家計管理等の内容を充実させ、自立する力の育成に繋げる

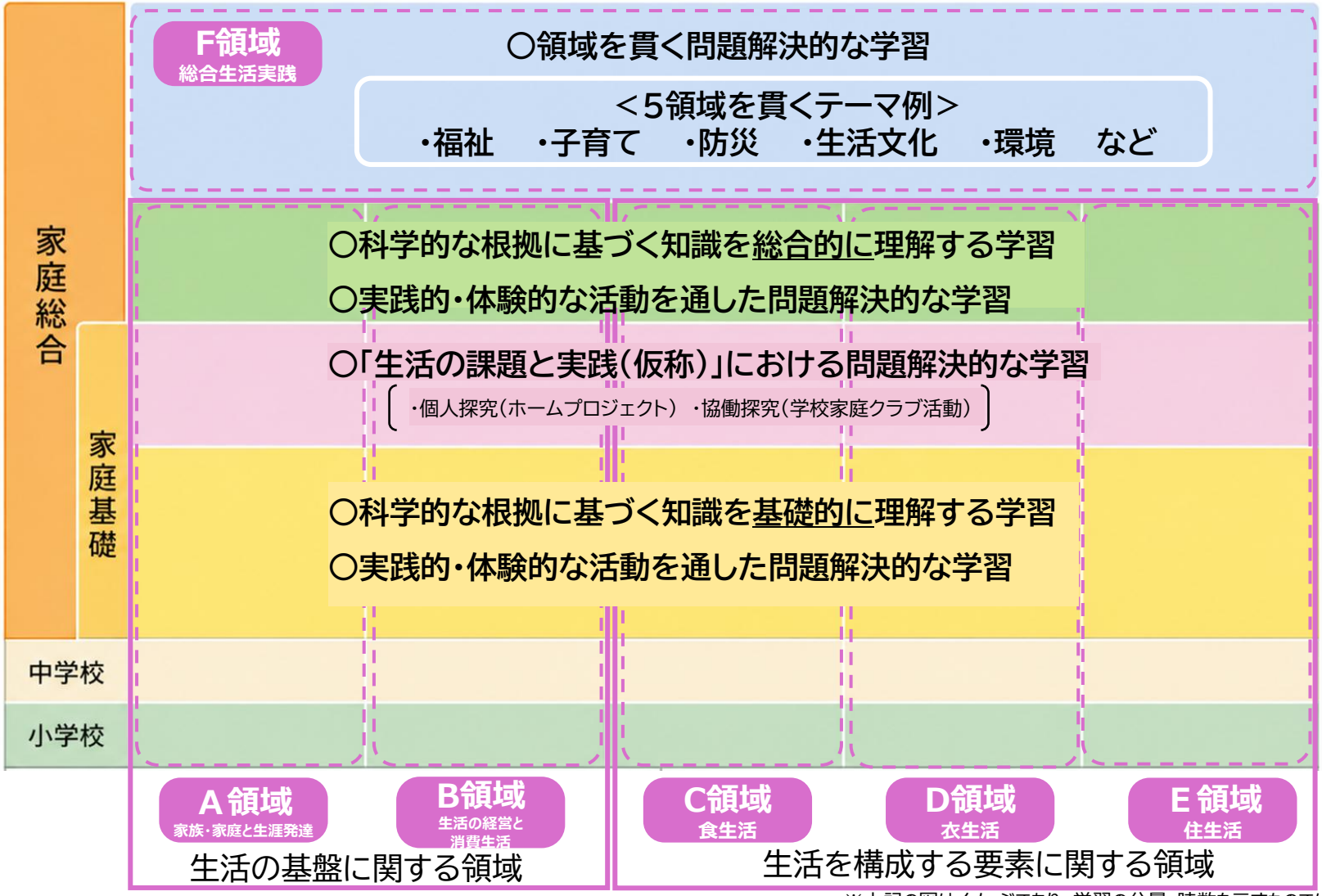
新・家庭総合
・家庭基礎で培う力に加え、多面的に生活を捉え、家庭や地域の生活を向上させる力を育成する科目
・科学的根拠に基づく知識を総合的に理解し、問題解決的な学習を通して、よりよい生活に向けて、地域の実情を踏まえた生活上の課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力を育成する

○科学的な根拠に基づく知識の総合的な理解と、地域の実情を踏まえた生活上の課題について、実践的・体験的な活動を通じた、問題解決的な学習を往還させることで、より質が高い深い学びへと繋げていく（実践的・体験的な活動を通した問題解決的な学習をより充実）
○広い視野で生活を捉え、地域や社会の関わりの中で、社会に参画し、他者と協働しながら、主体的によりよい生活に向けて、複合的な課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力の育成に必要な内容を扱う
○柔軟な教育課程の編成を促進するための課題の改善（隔年での実施や第１学年から第３学年まで連続して履修する形を認める見直し）

（イメージ）
・「食生活（仮称）」においては、「家庭基礎」で学ぶ科学的な理解に加えて、例えば、調理実験を通して調理や加工によるおいしさの変化等について理解するとともに、食品に含まれる成分とその調理上の性質に関する深い理解につなげる
・「家族・家庭と生涯発達（仮称）」においては、「家庭基礎」で学ぶ内容に加えて、例えば、地域の福祉に関する現状の把握と情報の収集など、地域の社会課題に対して、他者と協働しながら課題解決に向けて考える実践活動を充実させ、社会参画する力の育成に繋げる

「家庭基礎」「家庭総合」の内容面の整理を踏まえた学習イメージ図

- 「家庭基礎」及び「家庭総合」の学習イメージは以下のとおり。特に、「家庭総合」については、「家庭基礎」での学習に加え、これまでの学習と領域を横断した実践的・体験的な活動を通した問題解決的な学習を往還した学習を行うことを想定。



※上記の図はイメージであり、学習の分量・時数を示すものではない
※領域の名称はいずれも仮称

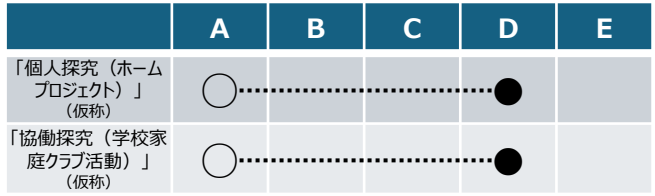
高等学校「生活の課題と実践（仮称）」の履修イメージ

● 「家庭基礎」「家庭総合」の「生活の課題と実践」における「個人探究（ホームプロジェクト）」（仮称）と「協働探究（学校家庭クラブ活動）」（仮称）の扱い方については、以下の方向で整理。

※○：主たる領域、●：関連領域

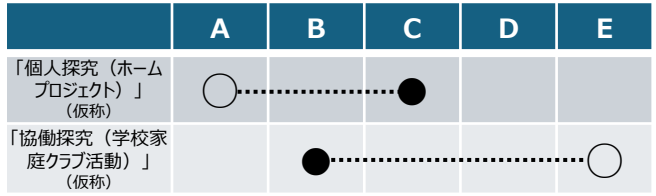
＜例１＞
「個人探究（ホームプロジェクト）」（仮称）と「協働探究（学校家庭クラブ活動）」（仮称）のいずれにおいても選択した主たる領域と関連領域が同じパターンの場合

＜例１のイメージ（案）＞



＜例２＞
「個人探究（ホームプロジェクト）」（仮称）と「協働探究（学校家庭クラブ活動）」（仮称）のいずれにおいても選択した主たる領域と関連領域が異なるパターンの場合

＜例2のイメージ（案）＞



※上記の例以外の実施方法も考えられる

① **「家庭基礎」「家庭総合」のいずれにおいても、「個人探究（ホームプロジェクト）」（仮称）と「協働探究（学校家庭クラブ活動）」（仮称）を実施**することとする。

② 実施する領域については、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に応じて**５つの領域から主たる領域を一つ設定して他領域と関連付けながら取り組む**こととする。

※実社会につなげた実践とするため、主たる領域以外の**他の領域の内容と適切に関連を図り実施**する。
※領域の選択にあたっては、**「個人探究（ホームプロジェクト）」（仮称）と「協働探究（学校家庭クラブ活動）」（仮称）において同じ領域を選択**してさらに深めて実践を実施したり、**異なる領域を選択**して実践の幅を広げながら実施することも考えられる。
※**「家庭基礎」**では、**「個人探究（ホームプロジェクト）」（仮称）で実践した領域の課題を、「協働探究（学校家庭クラブ活動）」（仮称）に発展させて実践につなげる**ことで、**両方の実践を実施しやすくしていく**ことなどが考えられる。
（長期的かつ継続的な実践が可能となるよう、例えば、年間指導計画の中に定期的な中間報告会等を位置付け探究の内容をブラッシュアップしたり、課題や方向性を見直しながら取り組むなどの工夫が考えられる。）

「家庭総合」の履修年次のあり方イメージ

- 高等学校段階での柔軟な教育課程編成の方向性を踏まえ、「連続する２か年において履修する」規定を削除。
その際、下図例３のように学習内容が隔年となる場合において、生徒の学びに支障が生じないよう、国において、各学校における指導計画の編成にあたっての留意事項を示すこととする。

【現行の家庭科】

○現行は上記２例の履修パターンのみ認められている。

	第１年次	第２年次	第３年次
例１	家庭総合(2)	家庭総合(2)	
例２		家庭総合(2)	家庭総合(2)

【改善のイメージ（案）】

○改善のイメージ（案）は、新たに例３及び例４のパターンが考えられる。

	第１年次	第２年次	第３年次
例１	家庭総合(4)	家庭総合(4)	
例２		家庭総合(4)	家庭総合(4)
例３	家庭総合(4)		家庭総合(4)
例４	家庭総合(2)	家庭総合(2)	家庭総合(4)

※括弧書きの数字は複数年次における学習指導要領の標準単位数の例を示しているものであり、必ずしもこの単位数での実施を規定しているものではない。

なお、【現行の家庭科】は、現行学習指導要領での標準単位数で示しており、【改善のイメージ（案）】は、次期学習指導要領の標準単位数で示している。

（参考）高等学校学習指導要領第２章第９節家庭科　第２「家庭総合」
第３款　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
１　指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
（４）「家庭総合」を複数の年次にわたって分割して履修させる場合には、原則として連続する２か年において履修させること。また、内容のＣについては、原則として入学年次及びその次の年次の２か年のうちに取り上げること。

小・中・高等学校家庭科における領域の見直しのイメージ図（案）

- 家庭科における「統合的な理解・総合的な発揮」を活用し、「深い学び」を実現する授業づくりにつなげていくためには、小・中・高等学校を通じた学習内容の系統性を意識しつつ、領域における学習の特質を明確にし、資質・能力の育成とその深まりの過程がより具体的に示されることが求められることから、領域の在り方について、以下のとおり見直し、Ａ～Ｅの５領域（家庭総合のみ６領域）へと再編する。

現行の家庭科

- 内容A　家族・家庭生活
- 内容B　衣食住の生活
- 内容C　消費生活・環境
- 内容D　ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

「人」に関する内容

「営み方」に関する内容

見直しのイメージ（案）

生活の基盤に関する領域

- 領域A　家族・家庭と生涯発達（仮称）



- 領域B　生活の経営と消費生活（仮称）



生活を構成する要素に関する領域

- 領域C　食生活（仮称）



- 領域D　衣生活（仮称）



- 領域E　住生活（仮称）



【高等学校「家庭総合」のみ】

- 領域F　総合生活実践（仮称）



個人探究（ホームプロジェクト）（仮称）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（仮称）として、A～Eの各領域に位置付ける

※上記の図はイメージであり、各領域の分量・時数を示すものではない。

小・中・高等学校における「統合的な理解・総合的な発揮」のイメージ（Ａ領域・Ｂ領域）

● 家庭科として、児童生徒が獲得してほしい「知識及び技能に関する統合的な理解」や「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」として、「深い学び」を実現する題材づくりのイメージを教師がもてるようにするために、各領域ごとに構成した上で整理する。

		小学校	中学校	高等学校 「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
A 家族・家庭と生涯発達（仮称）	統合的な理解	家族の一員として、家族や地域の人々と関わり、協力することが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や地域の一員として、家族や地域の人々との関わりを深め、協力・協働していくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自立した生活を営む当事者として、様々な人々と協力し、家庭や地域における生活を支えるために、継続して改善を図っていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家庭や地域の生活を支える当事者として、様々な人々と協力し、家庭や地域における生活の向上に向けて、継続して改善を図り、家庭や地域に働きかけていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。
	総合的な発揮	家族や地域の人々と関わり、協力する中で自分や家族の生活上の課題を見いだし、よりよい生活に向けて工夫することができる。	家族や地域の人々と関わり、協力・協働する中で自分や家族の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。	家族や様々な世代の人々と関わり、協力・協働する中で家庭や地域及び社会における生活上の課題を見いだし、生涯を見通してよりよい生活を創造することができる。	家族や様々な世代の人々と関わり、協力・協働する中で家庭や地域及び社会における生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通してよりよい生活を創造することができる。
B 生活の経営と消費生活（仮称）	統合的な理解	家族の一員として、家庭生活における生活資源を適切に活用することが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や地域の一員として、家庭生活における生活資源を適切に管理・活用していくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自立した生活を営む当事者として、生活に必要な情報を収集・整理し、家庭や地域及び社会における生活資源を計画的に管理・活用し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家庭や地域の生活を支える当事者として、生活に必要な情報を収集・整理し、家庭や地域及び社会における生活資源を計画的に管理・活用し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。
	総合的な発揮	生活資源を適切に活用する中で自分の生活上の課題を見いだし、よりよい生活に向けて工夫することができる。	生活資源を適切に管理・活用する中で自分や家族の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。	生活資源を適切な意思決定に基づき管理・活用する中で家庭や地域及び社会における生活上の課題を見いだし、生涯を見通してよりよい生活を創造することができる。	生活資源を適切な意思決定に基づき管理・活用する中で家庭や地域及び社会における生活上の複合的な課題を見いだし、生涯やその先を見通してよりよい生活を創造することができる。

小・中・高等学校における「統合的な理解・総合的な発揮」のイメージ（C領域・D領域）

		小学校	中学校	高等学校 「家庭基礎」	高等学校 「家庭総合」
C　食生活（仮称）	統合的な理解	栄養のバランスを考えた食事を楽しむことが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	地域の食文化を大切にし、健康で安全な食事を続けていくことが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	科学的な根拠に基づき、地域の豊かな食文化を大切にし、ライフステージに応じた健康で安全な食事を計画・管理し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	科学的な根拠を活用しながら、地域の豊かな食文化を大切にし、ライフステージに応じた健康で安全な食事を計画・管理し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。
	総合的な発揮	自分の食生活上の課題を見いだし、健康でよりよい生活に向けて工夫することができる。	自分の食生活上の課題を見いだし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたよりよい生活を工夫し、創造することができる。	家庭や地域及び社会における食生活上の課題を見いだし、生涯を見通して健康・安全で食文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。	家庭や地域及び社会における食生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通して健康・安全で食文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。
D　衣生活（仮称）	統合的な理解	健康で快適に過ごすために衣服などを選択し、手入れしながら活用することが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	衣服などを適切に選択し、手入れしながら計画的に活用していくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	科学的な根拠に基づき、衣文化を大切にし、ライフステージに応じて衣服を適切に選択・着用・管理し、活用し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	科学的な根拠を活用しながら、衣文化を大切にし、ライフステージに応じて衣服を適切に選択・着用・管理し、活用し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。
	総合的な発揮	自分の衣生活上の課題を見いだし、健康・快適でよりよい生活に向けて工夫することができる。	自分や家族の衣生活上の課題を見いだし、自立に向けて健康・快適でよりよい生活を工夫し、創造することができる。	家庭や地域及び社会における衣生活上の課題を見いだし、生涯を見通して安全・健康・快適で衣文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。	家庭や地域及び社会における衣生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通して安全・健康・快適で衣文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。

小・中・高等学校における「統合的な理解・総合的な発揮」のイメージ（Ｅ領域・Ｆ領域）

		小学校	中学校	高等学校 「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
Ｅ　住生活（仮称）	統合的な理解	健康で快適に過ごすために日頃から室内を整えることが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	日常生活や災害への備えに応じて住まいを整えていくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	科学的な根拠に基づき、住文化を大切にし、ライフステージに応じて居住空間を整備・管理し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	科学的な根拠を活用しながら、住文化を大切にし、ライフステージに応じて居住空間を整備・管理し続けていくことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。
	総合的な発揮	自分や家族の住生活上の課題を見いだし、健康・快適でよりよい生活に向けて工夫することができる。	自分や家族の住生活上の課題を見いだし、自立に向けて安全・健康・快適でよりよい生活を工夫し、創造することができる。	家庭や地域及び社会における住生活上の課題を見いだし、生涯を見通して安全・健康・快適で住文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。	家庭や地域及び社会における住生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通して安全・健康・快適で住文化を大切にしたよりよい生活を創造することができる。
Ｆ　総合生活実践（仮称）	統合的な理解				
	総合的な発揮				家庭や地域及び社会における生活上の複合的な課題を適切に見いだし、生涯やその先を見通してよりよい生活を創造することができる。

家庭科における具体的な精選の方向性（イメージ）　小学校・中学校

- 「整理にあたっての基本的な考え方」を踏まえ、以下の観点から整理を図る。
  - ➢「統合的な理解・総合的な発揮」の育成が見直しによっても図られると認められる事項
  - ➢ 学習内容をまとめて行うことで効率的かつ効果的に学習が可能となる事項

小学校

内容項目	現行	整理（案）
A（1）	・自分の成長の自覚 ・家庭生活と家族の大切さ	・自分の成長と家族 ・家族との触れ合いや団らん ・地域の人々との協力
	・家族との触れ合いや団らん ・地域の人々との協力	
B(2)	・ 買物の仕組みや消費者の役割 ・ 物や金銭の大切さと計画的な使い方 ・ 身近な物の選び方、買い方 ・ 購入するために必要な情報の収集・整理	・ 身近な物の選び方、買い方 ・ 情報の収集・整理 ・ 消費者の役割 ・ 自分の生活と身近な環境との関わり 環境に配慮した物の使い方
	・ 自分の生活と身近な環境との関わり 環境に配慮した物の使い方	
D(2)	・ 製作に必要な材料や手順と製作計画 ・ 目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱い	・基本的な縫い方と製作計画 ・用具の安全な取扱い
E（1）	・住まいの主な働き	（高）へ移管

中学校

内容項目	現行	整理（案）
A（1）	・自分の成長と家族や家庭生活との関わり ・家族や地域の人々との協力・協働	・自分と家族や地域の人々との協力・協働 ・高齢者など地域の人々との関わり方
	・よりよい家族関係 ・高齢者など地域の人々との関わり方	
B(2)	・ 購入方法や支払いの特徴 ・ 計画的な金銭管理の必要性 ・ 売買契約の仕組み ・ 消費者被害の背景とその対応 ・ 物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 ・ 消費者の基本的な権利と責任	・ 購入方法や支払いの特徴 ・ 物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 ・ 消費者の基本的な権利と責任 ・ 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響
	・ 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響	
D(2)	・ 製作する物に適した材料や縫い方 ・ 用具の安全な取扱い	・ 布や縫い方の特性を生かした、目的に応じた製作計画
E（1）	・住居の基本的な機能	（高）へ移管
	・家族の安全を考えた住空間の整え方（内、家庭内の事故のみ）	（高）へ移管

家庭科における具体的な精選の方向性（イメージ）　高等学校①

高等学校（新Ａ領域）

内容項目		現行	整理（案） （家庭基礎・家庭総合）
A(1)	基礎	・人の一生 ・自己と他者 ・社会との関わりと様々な生き方 ・生涯発達の視点からの青年期の課題 ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題 ・家族・家庭と社会との関わり	・自己と他者 ・社会との関わりと発達 ・生涯発達とライフステージの課題 ・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題
	総合	・人の一生 ・自己と他者 ・社会との関わりと様々な生き方 ・生涯発達の視点からの各ライフステージの特徴と課題 ・青年期の課題 ・意思決定の重要性 ・家族・家庭と法律 ・家庭生活と福祉 ・家族・家庭の意義 ・家族・家庭と社会との関わり ・家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題	
	基礎	・家族・家庭の機能と家族関係	（中）と重複
	総合	・家族・家庭の機能と家族関係	
A(2)	基礎	・乳幼児期の心身の発達と生活 ・親の役割と保育 ・子供を取り巻く社会環境 ・子育て支援 ・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能	・乳児の心身の発達と生活 ・乳児との適切な関わり方 ・子育て支援と福祉
	総合	・乳幼児期の心身の発達と生活 ・親の役割と保育 ・子育て支援 ・子供の発達に応じて適切に関わるための技能 ・子供を取り巻く社会環境の変化や課題 ・子供の福祉	
	総合	・子供の遊びと文化	（中）と重複

内容項目		現行	整理（案） （家庭基礎・家庭総合）
A (3)	基礎	・高齢期の心身の特徴 ・高齢者を取り巻く社会環境 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護 ・生活支援に関する基礎的な技能	・高齢期の心身の特徴と生活 ・高齢者の尊厳と自立 ・生活支援に関する基本的な技能
	総合	・高齢期の心身の特徴 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護 ・高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題 ・高齢者福祉	
A(4)	基礎	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援	・地域、社会と関わり、共に支え合って生きることの意義
	総合	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援 ・家庭と地域との関わり ・高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義	

家庭科における具体的な精選の方向性（イメージ） 高等学校②

高等学校（新B領域）

内容項目		現行	整理（案）（家庭基礎・家庭総合）
B(1)	基礎	・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理 ・生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をしていくことの重要性	・生涯を見通した生活課題への対応とリスク管理を踏まえた意思決定 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理（社会制度を含む）
	総合	・生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をしていくことの重要性 ・情報の収集・整理	
	総合	・生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源	（中）へ移管
B(2)	基礎	・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理 ・消費者の権利と責任 ・消費生活の現状と課題 ・消費行動における意思決定 ・契約の重要性 ・消費者保護の仕組み ・生活情報の適切な収集・整理	・家計の構造 ・生活における経済と社会との関わり ・家計管理 ・消費行動における意思決定 ・自立した消費者としての権利と責任 ・生活と環境との関わり ・持続可能な社会へ参画することの意義
	総合	・家計の構造 ・生活における経済と社会との関わり ・消費生活の現状と課題 ・消費行動における意思決定 ・責任ある消費 ・生活情報の収集・整理 ・消費者の権利と責任 ・消費者問題や消費者の自立と支援 ・契約の重要性 ・消費者保護の仕組み	
	基礎	・生活と環境との関わり ・持続可能な消費 ・持続可能な社会へ参画することの意義	
	総合	・生活と環境との関わり ・持続可能な消費 ・持続可能な社会へ参画することの意義	

高等学校（新C領域）

内容項目		現行	整理（案）（家庭基礎・家庭総合）
C (1)	基礎	・ライフステージに応じた栄養の特徴 ・食品の栄養的特質 ・健康や環境に配慮した食生活 ・自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能 ・おいしさの構成要素 ・食品の調理上の性質 ・食品衛生 ・目的に応じた調理に必要な技能	・ライフステージごとの食生活の特徴や課題 ・食事計画 ・食品の特性を生かした調理 ・食生活を取り巻く課題 ・持続可能な食生活 ・食文化の成り立ちと意義
	総合	・食生活を取り巻く課題 ・食の安全と衛生 ・日本と世界の食文化 ・食と人との関わり ・ライフステージの特徴や課題 ・栄養の特徴 ・食品の栄養的特質 ・健康や環境に配慮した食生活 ・自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能 ・おいしさの構成要素 ・食品の調理上の性質 ・食品の衛生 ・目的に応じた調理に必要な技能	

家庭科における具体的な精選の方向性（イメージ） 高等学校③

高等学校（新D領域）

内容項目	現行		整理（案） （家庭基礎・家庭総合）
D(1)	基礎	・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装 ・健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理 ・被服材料 ・被服構成 ・被服衛生 ・被服の計画・管理に必要な技能	・ライフステージごとの衣生活の特徴や課題 ・目的に応じた被服の機能と着装・管理 ・衣文化の成り立ちと意義 ・衣生活を取り巻く課題 ・持続可能な衣生活
	総合	・衣生活を取り巻く課題 ・日本と世界の衣文化 ・被服と人との関わり ・ライフステージの特徴や課題 ・身体特性と被服の機能及び着装 ・健康と安全 ・環境に配慮した自己と家族の衣生活の管理・計画に必要な情報の収集・整理 ・被服材料 ・被服構成 ・被服衛生 ・被服管理 ・衣生活の自立に必要な技能	

高等学校（新Ｅ領域）

内容項目	現行		整理（案） （家庭基礎・家庭総合）
E(1)	基礎	・ライフステージに応じた住生活の特徴 ・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能	・ライフステージごとの住生活の特徴や課題 ・住まい・住環境の選択 ・住文化の成り立ちと意義 ・現代の住生活の課題 ・持続可能な住生活 ・住まいの役割
	総合	・住生活を取り巻く課題 ・日本と世界の住文化 ・住まいと人との関わり ・ライフステージの特徴や課題 ・住生活の特徴 ・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能 ・住生活の計画・管理に必要な技能	

小・中・高等学校を通じた系統性・体系性の整理のイメージ

● 小・中・高等学校の内容については、小・中・高等学校について系統性・体系性を見直す方向で整理。

	小学校	中学校	高等学校 「家庭基礎」	高等学校 「家庭総合」
A 家族・家庭と生涯発達（仮称）	(1)自分の成長と家族や地域の人々との関わり	(1)自分と家族や地域の人々との関わり・協働	(1)生涯発達と社会との関わり	(1)生涯発達と社会との関わり
		(2)幼児の生活と保育	(2)子供の生活と保育・子育て	(2)子供の生活と保育・子育て
			(3)高齢者の生活と福祉	(3)高齢者の生活と福祉
			(4)共生社会の一員としての自分	(4)共生社会の一員としての自分
				(5)地域福祉への参画
	(2)生活の課題と実践	(3)生活の課題と実践	(5)生活の課題と実践 【個人・協働】	(6)生活の課題と実践 【個人・協働】
B 生活の経営と消費生活（仮称）	(1)家庭生活と生活の営み	(1)家庭生活と生活資源のマネジメント	(1)生涯の生活設計	(1)生涯の生活設計
	(2)身近な消費生活・環境	(2)家庭の消費生活・環境	(2)持続可能な消費生活	(2)持続可能な消費生活
				(3)生活におけるリスク管理と社会保障
		(3)生活の課題と実践	(3)生活の課題と実践 【個人・協働】	(4)生活の課題と実践 【個人・協働】
C 食生活（仮称）	(1)食事の役割	(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴	(1)ライフステージに応じた食生活	(1)ライフステージに応じた食生活
	(3)栄養を考えた食事	(2)中学生に必要な栄養を満たす食事		(2)調理実験
	(2)調理の基礎	(3)日常食の調理と地域の食文化		
		(4)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践 【個人・協働】	(3)生活の課題と実践 【個人・協働】
D 衣生活（仮称）	(1)衣服の役割・着用・手入れ	(1)衣服の役割・選択・手入れ	(1)ライフステージに応じた衣生活	(1)ライフステージに応じた衣生活
	(2)布を用いた製作の基礎	(2)生活を豊かにする布を用いた製作		(2)被服製作
		(3)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践 【個人・協働】	(3)生活の課題と実践 【個人・協働】
E 住生活（仮称）	(1)室内の整え方	(1)住まいの整え方	(1)ライフステージに応じた住生活	(1)ライフステージに応じた住生活
				(2)住まいの計画
		(2)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践 【個人・協働】	(3)生活の課題と実践 【個人・協働】
F 総合生活実践（仮称）				(1)総合生活実践

※【個人・協働】…個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）

小・中・高等学校を通じた系統性・体系性の整理のイメージ（Ａ領域①）

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
Ａ　家族・家庭と生涯発達（仮称）	**(1)自分の成長と家族や地域の人々との関わり** ・自分の成長と家族 ・家族との触れ合いや団らん ・地域の人々との協力 ・家族や地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること	**(1)自分と家族や地域の人々との関わり・協働** ・自分と家族や地域の人々との協力・協働 ・高齢者など地域の人々との関わり方 ・家族や高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること	**(1)生涯発達と社会との関わり** ・自己と他者、社会との関わりと発達 ・生涯発達とライフステージの課題 ・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 ・家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく行動について考え、工夫すること	**(1)生涯発達と社会との関わり** ・自己と他者、社会との関わりと発達 ・生涯発達とライフステージの課題 ・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 ・家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく行動について考え、工夫すること
		(2)幼児の生活と保育 ・幼児の心身の発達と生活、幼児との関わり方（高との重複部） ・幼児の発達や生活の特徴に応じたよりよい関わり方について考え、工夫すること	**(2)子供の生活と保育・子育て** ・乳児の心身の発達と生活、乳児との関わり方、子育て支援と福祉 ・子供を生み育てることの意義、親や家族、地域、社会の役割、子供との適切な関わり方について考え、工夫すること	**(2)子供の生活と保育・子育て** ・乳児の心身の発達と生活、乳児との関わり方、子育て支援と福祉 ・子供を生み育てることの意義、親や家族、地域、社会の役割、子供との適切な関わり方について考え、工夫すること

※　（　）は「知識及び技能」、〔　〕は「思考力、判断力、表現力等」を示す。

小・中・高等学校を通じた系統性・体系性の整理のイメージ（Ａ領域②）

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
A 家族・家庭と生涯発達（仮称）			**(3)高齢者の生活と福祉** （・高齢期の心身の特徴と生活、高齢者の尊厳と自立、生活支援に関する基本的な技能） （・高齢者の状況に応じた適切な支援方法や関わり方）	**(3)高齢者の生活と福祉** （・高齢期の心身の特徴と生活、高齢者の尊厳と自立、生活支援に関する基本的な技能） （・高齢者の状況に応じた適切な支援方法や関わり方）
			(4)共生社会の一員としての自分 （・地域、社会と関わり、共に支え合って生きることの意義） （・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合い生活する方法について考え、工夫すること）	**(4)共生社会の一員としての自分** （・地域、社会と関わり、共に支え合って生きることの意義） （・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合い生活する方法について考え、工夫すること）
				(5)地域福祉への参画 （・地域の福祉に関する現状の把握と情報の収集） （・地域の社会課題に対して、他者と協働し、解決に向けて考え、工夫すること）
	(2)生活の課題と実践	**(3)生活の課題と実践**	**(5)生活の課題と実践** （【個人・協働】）	**(6)生活の課題と実践** （【個人・協働】）

※　（　）は「知識及び技能」、（　）は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

小・中・高等学校を通じた系統性・体系性の整理のイメージ（B領域）

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
B 生活の経営と消費生活（仮称）	**(1)家庭生活と生活の営み** （・家庭生活を見つめる ・家庭生活を支える仕事と生活時間の有効な使い方） （・家庭の仕事の計画を考え、工夫すること）	**(1)家庭生活と生活資源のマネジメント** （・家族・家庭の機能（A領域から） ・生活資源のマネジメント（高から）） （・自分や家族の生活資源を活用した暮らし方（生活の仕方）を考え、工夫すること）	**(1)生涯の生活設計** （・生涯を見通した生活課題への対応とリスク管理を踏まえた意思決定 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理（社会制度を含む）） （・生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考え、生活設計を工夫すること）	**(1)生涯の生活設計** （・生涯を見通した生活課題への対応とリスク管理を踏まえた意思決定 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理（社会制度を含む）） （・生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考え、生活設計を工夫すること）
	(2)身近な消費生活・環境 （・身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理 ・消費者の役割 ・自分の生活と身近な環境との関わり、環境に配慮した物の使い方） （・購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方、環境に配慮した物の使い方、廃棄の仕方を考え、工夫すること）	**(2)家庭の消費生活・環境** （・購入方法や支払いの特徴、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 ・消費者の基本的な権利と責任 ・自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響） （・物資・サービスの選択に必要な情報を活用し、自立した消費者としての責任ある消費行動について考え、工夫すること）	**(2)持続可能な消費生活** （・家計の構造、生活における経済と社会との関わり、家計管理 ・消費行動における意思決定、自立した消費者としての権利と責任 ・生活と環境との関わり、持続可能な社会へ参画することの意義） （・生涯を見通した生活における家計の管理や計画、倫理的かつ責任ある消費の仕方について考え、工夫すること）	**(2)持続可能な消費生活** （・家計の構造、生活における経済と社会との関わり、家計管理 ・消費行動における意思決定、自立した消費者としての権利と責任 ・生活と環境との関わり、持続可能な社会へ参画することの意義） （・生涯を見通した生活における家計の管理や計画、倫理的かつ責任ある消費の仕方について考え、工夫すること）
				(3)生活におけるリスク管理と社会保障 （・生涯を見通した生活におけるリスク管理の考え方、情報の収集・整理（(2)から） ・社会保障制度とセーフティーネット） （・生涯を見通し、ライフステージごとの課題や社会保障制度を踏まえた生活設計について考え、工夫すること）
		(3)生活の課題と実践	**(3)生活の課題と実践** （【個人・協働】）	**(4)生活の課題と実践** （【個人・協働】）

※　（　）は「知識及び技能」、（　）は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

小・中・高等学校を通じた系統性・体系性の整理のイメージ（C領域）

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
C　食生活（仮称）	**(1)食事の役割** ・食事の役割と食事の仕方 ・楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること	**(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴** ・中学生の栄養の特徴と健康によい食習慣 ・健康によい食習慣について考え、工夫すること	**(1)ライフステージに応じた食生活** ・ライフステージごとの食生活の特徴や課題、食事計画 ・食品の特性を生かした調理 ・食生活を取り巻く課題、持続可能な食生活、食文化の成り立ちと意義	**(1)ライフステージに応じた食生活** ・ライフステージごとの食生活の特徴や課題、食事計画 ・食品の特性を生かした調理 ・食生活を取り巻く課題、持続可能な食生活、食文化の成り立ちと意義
	(3)栄養を考えた食事 ・五大栄養素、食品の体内での主な働き ・栄養バランスを考えた１食分の献立の作成方法 ・１食分の献立についての栄養のバランスを考え、工夫すること	**(2)中学生に必要な栄養を満たす食事** ・栄養素の種類と働き、食品の栄養的な特質 ・中学生の１日分の献立作成の方法 ・中学生の１日分の献立について考え、工夫すること	・健康及び環境に配慮した自己と家族の食生活の在り方について考え、工夫すること	・健康及び環境に配慮した自己と家族の食生活の在り方について考え、工夫すること
	(2)調理の基礎 ・安全や衛生的な調理（ゆでる・いためる）の仕方と調理計画 ・伝統的な日常食の調理 ・おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること	**(3)日常食の調理と地域の食文化** ・食品の選択や保存 ・調理（焼く、煮る、蒸す、生肉・生魚の扱い）の仕方と調理計画 ・地域の食文化と和食の調理 ・日常の１食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること		**(2)調理実験** ・調理や加工によるおいしさの変化 ・加熱方法による比較（電子レンジ加熱等） ・ライフステージに応じた献立の調理において、おいしさや調理のしやすさなどを考え、工夫すること
		(4)生活の課題と実践	**(2)生活の課題と実践** 【個人・協働】	**(3)生活の課題と実践** 【個人・協働】

※　（　）は「知識及び技能」、〔　〕は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

小・中・高等学校を通じた系統性・体系性の整理のイメージ（D領域）

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
D 衣生活（仮称）	**(1)衣服の役割・着用・手入れ** （・衣服の主な働き、日常着の快適な着方 ・日常着の手入れ） （・日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること）	**(1)衣服の役割・選択・手入れ** （・衣服と社会生活との関わり ・衣服のライフサイクルを意識した選択・活用 ・材料や状態に応じた日常着の手入れ） （・衣服を目的に合わせて選択し、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること）	**(1)ライフステージに応じた衣生活** （・ライフステージごとの衣生活の特徴や課題、目的に応じた被服の機能と着装・管理 ・衣文化の成り立ちと意義、衣生活を取り巻く課題、持続可能な衣生活） （・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、持続可能な衣生活について考え、工夫すること）	**(1)ライフステージに応じた衣生活** （・ライフステージごとの衣生活の特徴や課題、目的に応じた被服の機能と着装・管理 ・衣文化の成り立ちと意義、衣生活を取り巻く課題、持続可能な衣生活） （・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、持続可能な衣生活について考え、工夫すること）
	(2)布を用いた製作の基礎 （・基本的な縫い方と製作計画 ・用具の安全な取扱い） （・布を用いた物の製作計画を考え、工夫すること）	**(2)生活を豊かにする布を用いた製作** （・布や縫い方の特性を生かした、目的に応じた製作計画） （・生活を豊かにする布を用いた物の製作計画を考え、工夫すること）		**(2)被服製作** （・人の体の形や動きを考慮した被服の製作計画） （・生活を豊かにする衣服の製作計画を考え、工夫すること）
		(3)生活の課題と実践	**(2)生活の課題と実践** （【個人・協働】）	**(3)生活の課題と実践** （【個人・協働】）

※　（　）は「知識及び技能」、（　）は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

小・中・高等学校を通じた系統性・体系性の整理のイメージ（Ｅ領域・F領域）

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
E 住生活（仮称）	**(1)室内の整え方** ・季節の変化に合わせた室内の整え方 ・室内の整理・整頓や清掃の仕方 ・季節の変化に合わせた室内の整え方、室内の整理・整頓や清掃の仕方について考え、工夫すること	**(1)住まいの整え方** ・家族の生活に合わせた住まいの整え方 ・災害に備えた住まいの整え方 ・家族の生活に合わせた住まいの整え方、災害に備えた住まいの整え方について考え、工夫すること	**(1)ライフステージに応じた住生活** ・ライフステージごとの住生活の特徴や課題（家庭内の事故・中から）、住まい・住環境の選択 ・住文化の成り立ちと意義、現代の住生活の課題、持続可能な住生活、住まいの役割（小・中から） ・ライフステージに合わせた居住空間の整え方、持続可能な住生活について考え、工夫すること	**(1)ライフステージに応じた住生活** ・ライフステージごとの住生活の特徴や課題（家庭内の事故・中から）、住まい・住環境の選択 ・住文化の成り立ちと意義、現代の住生活の課題、持続可能な住生活、住まいの役割（小・中から） ・ライフステージに合わせた居住空間の整え方、持続可能な住生活について考え、工夫すること
				(2)住まいの計画 ・住まいの計画に必要な情報の収集・整理（(1)から） ・住まいの計画について考え、工夫すること（(1)から）
		(2)生活の課題と実践	**(2)生活の課題と実践** 【個人・協働】	**(3)生活の課題と実践** 【個人・協働】
F 総合生活実践（仮称）				**(1)総合生活実践** ・地域の実情を踏まえた生活上の課題について考え、工夫すること

※　（　）は「知識及び技能」、（　）は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

高等学校「生活の課題と実践（仮称）」とF領域「総合生活実践（仮称）」の比較

- 「生活の課題と実践（仮称）」は、年間指導計画に位置付けられた一つの領域を中心として、生徒が興味・関心や課題意識に応じて他の領域とも関連付けながら、生活上の課題の解決に向けて実践的に取り組む学習である。
- 一方、「総合生活実践（仮称）」は、教師が示すテーマの方向性を踏まえてホームルームでテーマを設定し、地域の実情を踏まえた生活上の課題を、生徒が個人やグループで設定して実践に取り組み、その成果や学びをホームルーム内で共有しながら、5つの領域を横断的に関連付けてまとめていく学習である。

	「生活の課題と実践（仮称）」		領域F 「総合生活実践（仮称）」
	個人探究 （ホームプロジェクト） （仮称）	協働探究 （学校家庭クラブ活動） （仮称）	
課題設定の主体	生徒が課題を設定 （個人で設定）	生徒が課題を設定 （グループやホームルームで設定）	ⅰ）教師が生徒や学校、地域の実態に応じてテーマの方向性を示し、生徒とともにテーマを設定 ⅱ）テーマを踏まえ生徒が課題を設定 （グループや個人で設定）
活動の範囲	個人	グループやホームルーム	ホームルーム（５つの領域）
取組の範囲	主たる領域を一つ設定して他領域と関連付けながら取り組む		５つの領域を網羅して取り組む （横断的・多角的）
履修時期	年間指導計画に位置付けられた時期に（他領域と関連付けられる環境下で）履修		Ａから Ｅの全ての領域を学習した後に履修

高等学校F領域「総合生活実践（仮称）」の学習イメージ①（案）

テーマの方向性「高齢者福祉」

● テーマ学習により期待される姿

「高齢者福祉」をテーマの方向性として、家庭科の5つの領域（A～E）を関連付け、科学的な知識の理解と、実際の生活における実践的な活動とを往還させながら、「高齢者が暮らしやすいまちをつくるには」について工夫しながら実践する学習を通して、自身のライフサイクルと関連付けて、自分事として捉えつつ、自分は何ができるか考え、地域を支えることができる。

●概要

高齢者福祉に関する地域の生活課題について、地域の実情を把握し、学習過程に沿って、AからEまでの各領域の視点を関連付けながら、科学的根拠に基づき、実践的・体験的な活動を通して考え、工夫し、ホームルームで共有したことを自分事としてまとめ、テーマに迫る。

学習過程	学習内容
①問題発見 課題の設定	テーマの方向性をもとにホームルームで共通のテーマ「高齢者が暮らしやすいまちをつくるには」を設定し、高齢者福祉に関する問いを立てながら課題設定につなげる
②解決方法の検討と計画	解決方法について、実際に実態を把握（地域の状況を示すデータの収集・確認、高齢者施設や老人会に訪問しインタビュー、役所や社会福祉協議会への聞き取りなど）し、５つの視点（Ａ～Ｅ）から、課題を整理し、解決策を検討し、具体的にどのような実践を行うか、計画を立てる ※教師はこれまでの学びに立ち戻れるような働きかけを行う
③実践活動	各領域（Ａ～Ｅ）のグループもしくは個人でそれぞれ実践 【※途中で経過報告をすることで、計画をブラッシュアップする】 高齢者施設でのレクリエーションの企画・実施、おいしさと栄養を考えた献立の提案、役所へのプレゼンテーションなど、社会への直接的な働きかけを行う
④実践活動の評価・改善	実践を振り返って評価し、改善策を検討、さらに見えた新たな課題を整理⇒ホームルーム内で共有 ＡからＥまでの領域を貫く「高齢者福祉」について、自身の考えを整理し、テーマに迫り、まとめる

■ 学習活動イメージ例



高等学校F領域「総合生活実践（仮称）」の学習イメージ②（案）

テーマの方向性「子育て」

● テーマ学習により期待される姿

「子育て」をテーマの方向性として、家庭科の5つの領域（A～E）を関連付け、科学的な知識の理解と、実際の生活における実践的な活動とを往還させながら、「子育てを支える地域と社会の在り方とは」について工夫しながら実践する学習を通して、自身のライフサイクルと関連付けて、自分事として捉えつつ、自分たちが「地域及び社会の子育てを支える主体」であることを自覚しながら、自分は何ができるか考え、地域を支えることができる。

●概要

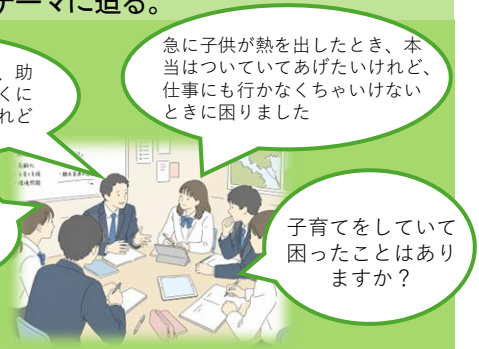
子育てに関する地域の生活課題について、地域の実情を把握し、学習過程に沿って、AからEまでの各領域の視点を関連付けながら、科学的根拠に基づき、実践的・体験的な活動を通して考え、工夫し、ホームルームで共有したことを自分事としてまとめ、テーマに迫る。

学習過程	学習内容
①問題発見 課題の設定	テーマの方向性をもとにホームルームで共通のテーマ「子育てを支える地域と社会の在り方とは」を設定し、子育てに関する問いを立てながら課題設定につなげる
②解決方法の 検討と計画	解決方法について、実際に実態を把握（親へのインタビュー、役所等に聞き取りなど）し、課題を整理し、解決策を話し合う。５つの視点（Ａ～Ｅ）から、具体的にどのような実践を行うか計画を立てる ※教師はこれまでの学びに立ち戻れるような働きかけを行う
③実践活動	各領域（Ａ～Ｅ）のグループでそれぞれ実践 【※途中で経過報告をすることで計画をブラッシュアップする】 簡単にできるおやつの考案、子供が楽しめる遊びについて検討、プレイルームの設計、〇〇市の子育て支援サービスについてまとめる
④実践活動の 評価・改善	実践を振り返って評価し、改善策を検討、さらに見えた新たな課題を整理⇒ホームルーム内で共有 ＡからＥまでの領域を貫く「子育て」について、自身の考えを整理し、テーマに迫り、まとめる

■ 学習活動イメージ例



〇「子育て」をキーワードにこれまでの学習を振り返り、課題を設定



〇校内の子育て中の教師に質問



〇３Ｄソフトを使い、プレイルームを設計



〇これまでの取組をホームルームで共有



〇安全で楽しいおもちゃや、栄養のバランスを助けるおやつの試作品を実習しながら紹介し、意見交換している様子



〇自身の考えを整理し、テーマに迫る

一連の学習過程におけるデジタル学習基盤の活用イメージ

- 家庭科においては、１人１台端末を「主体的・対話的で深い学び」の充実のための問題解決的な学習の中で必要な学習基盤として位置付け、学習指導要領の見直しをする。

問題発見・解決能力

問題発見 課題設定	○既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見いだし、解決すべき課題を設定する	・自分の生活を振り返る（自分の食事記録　等） ・課題設定につながる活動（オンラインで地域の方々の思いを聞く、資料の閲覧、動画の視聴　等） ・既習事項の確認、振り返り
解決方法の 検討と計画	○解決方法を検討し、解決に向けた見通しをもつ ○解決に必要な知識及び技能を習得する ○実践計画を立てる	・調査（ＡＩを活用した情報の収集・整理　等） ・実践的・体験的な活動の補助（教師の示範動画、実験や実習等の記録、栄養計算、３Ｄを活用した間取り計画　等） ・実践計画の作成（家計シミュレーションの活用　等）
実践活動	○実践計画を基に、習得した知識及び技能を活用しながら実践する	・実践活動の記録（動画・静止画の撮影　等） ・家族や地域の方々からのコメント等の収集（アンケートフォームの活用　等） ・既習事項の確認
実践活動の 評価・改善	○実践活動を振り返って評価し、改善策を検討する ○改善策を踏まえ、今後の自分の生活につなげる	・実践活動の振り返り（実践前後の比較、まとめ等） ・実践活動の発表 ・他の児童生徒の取組の共有 ・実践活動の評価（オンラインによる地域の方々からの評価、ＡＩを活用した客観的な評価　等）

学習過程の記録・振り返りの蓄積（題材を通して随時）

デジタル学習基盤の活用

1人1台端末を効果的に活用

中学校 情報・技術科の目標について

（現行）

柱書		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して（学習過程）、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す。		
生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
情報や技術でものを生み出し、生活や社会の問題を発見・解決する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、情報技術やそれを基盤とした生産技術に関する実践的・体験的な探究活動を通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
○情報技術や生産技術の特性及び適切な取扱いについて理解する。 ○情報技術や生産技術でものを創り出す方法を理解し、必要な技能を身に付ける。 ○情報技術や生産技術の発達と生活や社会、環境との関係についての理解を深める。	○生活や社会の問題を技術の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、情報技術や生産技術を活用して、課題を設定する力を養う。 ○検証等を通じて探究的に解決策を構想・具体化する力を養う。 ○仕組みや価値を創造して課題を解決するとともに、そうした実践を評価・改善する力を養う。	○生活や社会の技術に関心や好奇心を持ち、多様な他者と協働しながら試行錯誤を繰り返し、より良い問題解決に向かおうと探究する態度を養う。 ○包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術や生産技術を進んで活用、創造しようとする意思や感性を育む。

高等学校 情報科の目標について

（現行）

柱書		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して（学習過程）、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す。		
情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活や社会を情報の観点から捉え、情報技術で問題を発見・解決したり価値を創造したりする資質・能力（資質・能力の趣旨）について、科学的な理解に基づき情報技術を活用する探究活動を通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
○情報技術の仕組みや情報の特性、情報技術を活用して問題を発見・解決したり価値を創造したりする方法などを理解し技能を身に付ける。 ○社会における情報技術の役割や関係する法や制度、倫理的課題への理解を深める。	○生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり価値を創造したりする力を養う。	○生活や社会を情報の観点から進んで捉え、自ら問いや仮説を立て、多様な他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ね、解決策や表現を考えるとともに次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 ○包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、社会的責任に配慮して情報技術を活用し、問題の発見・解決や価値創造しようとする情意・感性を養う。

※親学問である情報学に基づき、情報科における「情報」とは、事物や事象の持つ構造を整理・表現した結果であり、事物や事象に意味を与え、その作用を通じて価値と秩序をもたらすものとする。

情報Ⅰの目標について

（現行）

柱書		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して（学習過程）、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す。		
効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活や社会を情報の観点から捉え、情報技術で問題を発見・解決したり価値を創造したりする資質・能力（資質・能力の趣旨）について、科学的な理解に基づき情報技術を活用する探究活動を通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
○コンピュータや情報通信ネットワークの仕組み、情報の特性、情報デザイン、データの活用、アルゴリズム、AI、情報セキュリティなどを理解し技能を身に付ける。 ○情報技術と社会とのかかわり、関係する法や制度への理解を深める。	○生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、論理的に分析・整理し、根拠に基づいて問題の解決や価値の創造につなげる力を養う。	○生活や社会を情報の観点から進んで捉え、自ら問いや仮説を立て、多様な他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ね、解決策や表現を考えるとともに次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 ○包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、社会的責任に配慮して情報技術を活用し、問題の発見・解決や価値創造しようとする情意・感性を養う。

※親学問である情報学に基づき、情報科における「情報」とは、事物や事象の持つ構造を整理・表現した結果であり、事物や事象に意味を与え、その作用を通じて価値と秩序をもたらすものとする。

情報Ⅱの目標について

（現行）

柱書		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して（学習過程）、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的，創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す。		
多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

（改訂案）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活や社会を情報の観点から捉え、情報技術で問題を発見・解決したり価値を創造したりする資質・能力（資質・能力の趣旨）について、科学的な理解に基づき情報技術を活用する探究活動を通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。		
○データサイエンスやAI、デザイン、システムなどの理解を発展的に深め技能を身に付ける。 ○情報技術が社会の発展にもたらす影響、関係する法や制度への理解を深める。	○生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、論理的・構造的に分析・整理し、根拠に基づいて問題の解決や価値を創造する力を養う。	○生活や社会を情報の観点から進んで捉え、自ら問いや仮説を立て、多様な他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ね、解決策や表現を考えるとともに次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 ○包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、社会的責任に配慮して情報技術を活用し、問題の発見・解決や価値創造しようとする情意・感性を養う。

※親学問である情報学に基づき、情報科における「情報」とは、事物や事象の持つ構造を整理・表現した結果であり、事物や事象に意味を与え、その作用を通じて価値と秩序をもたらすものとする。

情報・技術科における「見方・考え方」

（現行）

生活や社会における事象（当該教科で扱う事象や対象）を、技術との関わり（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

（改訂案）

生活や社会の問題（当該教科で扱う事象や対象）を、技術的視点で正負の両面を含め多角的に（当該教科固有の物事を捉える視点）捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報や技術を適切に活用したり、新たな価値を創造したりする（当該教科固有の考え方や判断の仕方）こと

※中学校情報・技術科が情報活用能力の育成の中核として働く重要性を示しつつ、技術教育であることを表現できるよう、見方・考え方に再整理

- 当該教科固有の物事を捉える視点について
  私たちの社会は、現在まで情報や技術を基盤として成立し続けているが、その一方で、それらが人や環境に想定外の負荷を与えてきた実態がある。生活や社会の様々な問題に関わっている技術について、人々が抱くどのような思いや願いを実現するために開発されたのか、その実装や運用は安全で経済的か、人間社会の在り方に影響を与えているか、一連の過程が環境に負荷を与えていないか、といった視点から捉える必要があり、そのことを反映

- 当該教科固有の考え方や判断の仕方について
  人々が自らの思いや願いを実現し、包摂的かつより豊かで幸福であるよう社会を発展させていくためには、技術を選択、管理・運用、改良、応用、創造するといった、技術を最適にすることを考える必要があり、そのことを反映

情報科における「見方・考え方」

（現行）

事象（当該教科で扱う事象や対象）を、情報とその結び付き（当該教科固有の物事を捉える視点）として捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミングやモデル化・シミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

（改訂案）

事象（当該教科で扱う事象や対象）を、情報とその結び付き（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点で正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、新たな価値を創造したりする（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること

※高等学校情報科が、情報活用能力の育成の中核として位置付けられており、小中高校の情報活用能力の体系性・系統性を鑑みて、見方・考え方を再整理

●当該教科固有の考え方や判断の仕方について
見方・考え方が、よりよい社会や幸福な人生につなげていけることを示すことと整理されたことを受けて、
単に情報を再構成するだけでなく、情報及び情報技術を、問題解決や価値創造と、今後の包摂的な社会の発展や人生を豊かにすることにつながることがわかりやすくなるように変更。

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい（中学校情報・技術科）

①これまでの技術分野の学習は、木材加工や栽培、電子工作といった体験的な学習にとどまり、生活における活用や課題解決に結び付けて考える学習が十分でないという課題が指摘。

そこで、技術の仕組みを知る、技術を俯瞰して活用の在り方を考える、課題解決を実践するという学習過程を通して、生活の中で技術を活用し未知の状況での課題解決に生かす力の育成を図るような授業改善を促すよう「統合的な理解・総合的な発揮」を設定。

②統合的な理解では、当該技術によりできることやその技術が有している本質的な価値を端的に示しつつ、その趣旨に沿った技術活用が生活や社会における価値創造にどのようにつながるかを明示。

これにより、単に技術に関わる知識を覚えたり実習を通じて技能を磨くということにとどまらず、当該技術活用の有する価値や可能性を理解できるような授業づくりを促す。

③総合的な発揮では、技術に関しての統合的な理解を実際の生活や社会に適用して、できるようになってほしい技術を通じた課題解決の姿を端的に示す。これにより、現実社会における課題解決に近い題材を設定しつつ、将来の職業生活での実践的な力を育むような授業づくりに繋げていく。

なお、技術の正負の両面に目を向けることの重要性を踏まえ、当該技術が持ちうる負の側面への配慮等について冒頭に記載。

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
中学校	情報技術	（1）情報の表現とデジタル化	**情報技術により情報やデータから新たな関係や意味を見いだし**たり、利用者の立場で情報を批判的に吟味・設計したりすることが、**分析結果や考えの分かりやすい表現につながる**ことを理解する。	情報技術の**正負の側面に配慮**しつつ、**情報やデータの分析結果を判断し表現**したり、利用者にとって分かりやすい**情報を批判的に吟味・設計・表現し、評価・改善**したりできる。
			内容項目例	内容項目例
			• ユーザ視点の情報デザイン • データの管理と活用、統計的な分析の方法 • 情報のデジタル化とAIの基本的な仕組み • エコーチェンバー・フィルターバブルといったメディア特性が受信・発信に与える影響 • 偽情報・誤情報の判別や必要な情報の精査、著作権、肖像権などの権利 • 情報を加工する際の倫理的配慮、情報セキュリティ • コンテンツによる問題解決の方法と技能 • データやメディアを扱う技術と生活や社会、環境との関係の理解	• 情報を表現・生成する技術の仕組みや特性を踏まえた適切な取扱いを批判的に考え表現する • 情報を表現・生成する技術の仕組みや特性を踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、情報を加工することで解決する表現の手段を設計して表す • 情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える

統合的な理解・総合的な発揮

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
中学校	情報技術	（1）情報の表現とデジタル化(仮称)	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術により情報やデータから新たな関係や意味を見いだしたり、利用者の立場で情報を批判的に吟味・設計したりすることが、分析結果や考えの分かりやすい表現につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報やデータの分析結果を判断し表現したり、利用者にとって分かりやすい情報を批判的に吟味・設計・表現し、評価・改善したりできる。
		（2）プログラミングと自動化（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術により情報処理の手順を自動化することが、人の判断や活動を支え、生活や社会の利便性を高めることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、自動化する情報処理の手順を設計し、人の判断や活動を支える仕組みを設計・表現し、評価・改善できる。
		（3）情報基盤とシステム化(仮称)	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術や多様な技術の組合せにより情報システムが構築されることを捉え、それらを活用しつつ、情報の信頼性や社会に与える影響に配慮して評価・改善することが、包摂的で豊かな生活や社会につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、それを基盤とする多様な技術を組み合わせ、倫理・法・社会の観点にも考慮して問題を解決するための情報システムを設計・表現し、評価・改善できる。
	情報を基盤とした生産技術	（1）材料加工とデジタル製作（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			材料の加工や構造の工夫によるものづくりと、情報技術を活用した設計・製作や評価・改善の高度化が、安全で利便性の高い生活や社会につながることを理解する。	安全性等に配慮しつつ、情報技術を活用して材料を選択し、意図した形や構造を設計・加工することで、生活や社会に役立つものを製作し表現できる。
		（2）生物育成とデータ活用（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			生物の育成環境の調整による食料供給や環境保全と、情報技術を活用した調整・管理の精緻化が、安定的な生活や社会につながることを理解する。	環境負荷等に配慮しつつ、情報技術を活用して育成環境の調整方法を計画し、収量と品質を高めるための方策を判断し実践できる。
		（3）エネルギー変換とスマート化（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			エネルギーの変換・利用による活動の支援と、情報技術を活用した効率化が、電力や交通等の生活や社会を支える基盤の利便性につながることを理解する。	経済性等に配慮しつつ、情報技術を活用してエネルギーを変換する仕組みを設計し、安全で安定した動作を製作し表現できる。
		（4）技術の統合（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術を基盤とする多様な技術の関係や働きを捉え、それらを統合することが、生活や社会の発展につながることを理解する。	安全性や環境負荷、経済性等に配慮しつつ、情報技術を基盤とする多様な技術を統合して、問題を解決するための仕組みを探究的に設計し表現できる。

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい（高等学校情報科）

①情報科ではこれまで、教師による説明を中心とした座学的な授業が多く見られ、探究的・実践的な学びが十分に行われず、知識は習得しているものの、実際の課題解決の場面で十分に活用できないという課題が指摘されてきた。

知識や技能を実際の課題解決に活用できる力の育成を図るような授業改善を促す「統合的な理解・総合的な発揮」を設定し、深い学びの実現に期待。

②情報科の内容項目(※)は、情報技術の活用場面に即した手段（情報デザイン、データ活用、システム開発…）で内容を構成。「統合的な理解・総合的な発揮」は、その内容項目ごとに設定しており、「統合的な理解」では、当該情報技術の活用手段や情報そのものがもつ本質的な意義を端的に示している。

これにより、単に用語や情報技術の内容を伝える授業ではなく、その意義や実生活・社会における活用場面を掴む授業づくりへの改善を促す。

③総合的な発揮では、情報技術や情報に関しての統合的な理解を実際の生活や社会に適用して、できるようになってほしい課題解決の姿を端的に示す。これにより、現実社会における課題解決に近い題材を設定しつつ、将来の社会生活での実践的な力を育むような授業づくりに繋げていく。

なお、情報技術の正負の両面に目を向けることの重要性を踏まえ、情報技術が持ちうる負の側面への配慮等について冒頭に記載。

(※)内容項目			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	情報Ⅰ	(2) 情報デザインとデザイン思考	**情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく表現する**ことが、**受け手の円滑な理解や行動を促す**ことを理解する。	**情報技術の正負の側面に配慮**しつつ、情報の受け手にとって**適切な理解や行動を促す情報を吟味・設計して表現し、評価・改善**できる。
			内容項目例	内容項目例
			• 目的・対象・文脈に応じた構造化された情報表現 • 人間中心設計の考え方 • ユーザビリティ、アクセシビリティ • 情報デザインに関するツールや技法 • AIを用いた画像・音声生成の基本的な仕組みや特性、留意点 • デザイン思考の考え方 • プロトタイピングやフィードバックを通して、表現を改善していく方法	• 情報の受け手や利用場面を踏まえて、適切な構造や表現方法を判断すること • AIを活用し自らが意図した多様な形式の制作をすること • デザイン思考の考え方を基に、試作やフィードバックを通して表現を見直し、改善の方向性を判断すること

統合的な理解・総合的な発揮

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	情報Ⅰ	（１）情報の仕組みと社会との関わり（仮称）	統合的な理解 情報技術の仕組みや社会との関係を全体的に捉えることが、安全や社会的責任に配慮した情報の吟味・活用を可能にすることを理解する。	総合的な発揮 生活や社会を支える情報技術の正負の側面に配慮し、安全や社会的責任を考慮して情報を吟味・活用できる。
		（２）情報デザインとデザイン思考（仮称）	統合的な理解 情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく表現することが、受け手の円滑な理解や行動を促すことを理解する。	総合的な発揮 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって適切な理解や行動を促す情報を吟味・設計して表現し、評価・改善できる。
		（３）データ分析とモデル化・シミュレーション（仮称）	統合的な理解 データを整理・分析して関係を批判的に見いだすことや、事柄の特徴を抽出・単純化して検証することが、未知の傾向や結果の予測につながることを理解する。	総合的な発揮 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データから見いだした関係や、単純化して検証した事柄から傾向や結果を予測し、批判的に判断・表現できる。
		（４）アルゴリズムとシステム開発（仮称）	統合的な理解 問題解決に必要な条件や手順を整理し、情報システムを構想・実現できることが、それらの妥当性や改善可能性の判断につながることを理解する。	総合的な発揮 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、問題の解決策を手順や条件に分解し、それらを組み合わせて情報システムを構想・実現し、評価・改善できる。
		（５）PBLによる課題解決の実践（仮称）	統合的な理解 目的や条件に応じて、情報や情報技術を活用し、プロジェクトを通してその成果を評価・改善することが、実社会における課題解決や価値創造を可能にすることを理解する。	総合的な発揮 目的や条件に応じて、情報や情報技術を活用し、プロジェクトを通して評価・改善を行い、実社会の課題の解決や価値を創造する方策を考察し表現できる。

統合的な理解・総合的な発揮

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	情報Ⅱ	（1）社会課題とデータサイエンス（仮称）	統合的な理解 多様なデータを整理・分析して得られる新しい傾向や予測を批判的に考察することが、社会的責任に配慮しながら、妥当性や実効性のある課題解決の方策を見いだすことを可能にすることを理解する。	総合的な発揮 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データを整理・分析して導き出した傾向や予測を批判的に考察し、社会的責任を考慮した妥当で実効性のある課題解決の方策を判断できる。
		（2）コンテンツデザイン（仮称）	統合的な理解 人や社会への影響も考慮して情報を吟味・設計・表現し、評価・改善を重ねることが、情報の受け手へのより良い価値の提供を支えることを理解する。	総合的な発揮 情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって最適な理解や行動を促す価値ある作品を設計・表現・吟味し、評価・改善を重ねることができる。
		（3）AI（仮称）	統合的な理解 AIの大量の情報から学習する仕組みや予測・生成できる利点と、偏りやバイアスが内在する特性を捉えることが、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮して利点を生かした活用につながることを理解する。	総合的な発揮 AIの利点や負の側面を捉え、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮して適切に活用できる。
		（4）先端技術と情報システムデザイン（仮称）	統合的な理解 先端技術の試作、検証、改善を重ねて実装される特徴を見いだし、その効果を批判的に評価して有効性や限界を判断することが、情報技術の利点を生かし、弊害を抑える活用につながることを理解する。	総合的な発揮 先端技術を活用した情報システムの効果や働きを、その利点や弊害等に配慮して批判的に評価し、情報技術の有効性や限界を判断して適切に活用、評価・改善できる。
		（5） PBLによる価値創造の実践（仮称）	統合的な理解 目的や条件に応じて、情報や情報技術を活用し、プロジェクトを通してその成果を多面的に評価・改善を重ねることが、実社会における課題解決や価値創造を実現することを理解する。	総合的な発揮 目的や条件に応じて、情報や情報技術を活用し、プロジェクトを通して価値を創出し、実装後も多面的に評価・改善を重ね、実社会の課題解決や価値創造を実現する方策を考察し表現できる。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・情報・技術科）



次は、今回新たに入った「情報デザイン」を学ばせる必要があるな。教科書をなぞるだけでは、子供たちも学習内容を深く理解したり技能を身に付けたりできないだろうし、資質・能力も身につきにくいだろうな。そもそもこの学習内容は本質的にどういう資質・能力を育てたいんだっけ?



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標

見方・考え方

（統合的な理解）

情報技術により情報やデータから新たな関係や意味を見いだしたり、利用者の立場で情報を批判的に吟味・設計したりすることが、分析結果や考えの分かりやすい表現につながることを理解する。

（総合的な発揮）

情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報やデータの分析結果を判断し表現したり、利用者にとって分かりやすい情報を批判的に吟味・設計・表現し、評価・改善したりできる。

知・技

思・判・表

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、生徒が最終的に「統合的な理解・総合的な発揮」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。**情報技術による問題解決を設計する過程で情報デザインを学び、それを生かしてわかりやすい表現を設計できるようにしたい**な。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される生徒も減りそうだ。



教科書の見開き２ページを毎コマ積み重ねるだけでは実践的・体験的な探究活動にならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「統合的な理解・総合的な発揮」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、問題解決の活動を通じて情報デザインを学ばせた場合に、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか．．．



情報技術で生活や社会における情報の表現に関わる問題を解決する探究活動の中で、**その設計に情報デザイン**を学ぶことが必要な学習の流れを設定しよう。
また、生徒が個別に学習課題を決めることに大きな負担を感じさせず、かつ、私が支援可能な状況をつくるために、「生活の中の分かりづらい表示や案内に関わる問題」というように、問題の範囲を決めよう。
制作するアプリを考えたり作品を評価・改善するときには、つくった情報デザインがユーザに意図しない情報を想起させることがないか、注意深く吟味する場面を単元全体に意図的に多く設けよう。

まずは、学校の校内表示版を例に**情報デザインの基本を学ぶ**時間を３時間設けよう。この時、美術科で学ぶことも生かしながら、**UI以外の情報デザインにも育成した力を発揮**できるようにしよう。

次の「問題と課題を設定」に２時間あてよう。この時、従前のデータの学習を生かして、**情報やデータから新たな関係や意味を批判的に見いだしたりすることを体験的に理解**させよう。

そして、情報デザインの知識を活用して、アプリのUIを探究し設計する学習活動を３時間、実際に制作し評価・改善する活動を4時間設定しよう。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。身に付けさせたい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



特に、情報デザインについて、その知・技や思・判・表が、**学校外の場面に近い状況で設計で発揮されているかを見取りたい**な。

よし、**制作した作品を、評価・改善することをパフォーマンス課題に設定して、その実現状況を読み取る**ことにしてみよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・情報・技術科）

単元構想のイメージ

1．単元名：エンジニアになって分かりづらさを解決するアプリを開発しよう！

2．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

生活や社会の問題を、技術的視点で正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報や技術を適切に活用したり、新たな価値を創造したりすること

3．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
情報技術により情報やデータから新たな関係や意味を見いだしたり、利用者の立場で情報を批判的に吟味・設計したりすることが、分析結果や考えの分かりやすい表現につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報やデータの分析結果を判断し表現したり、利用者にとって分かりやすい情報を批判的に吟味・設計・表現し、評価・改善したりできる。

4．学びに向かう力、人間性の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

生活や社会を情報の観点から進んで捉え、自ら問いや仮説を立て、多様な他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ね、解決策や表現を考えるとともに次の学びにつなげていこうとしている

- 生活や社会の技術に関心や好奇心を持ち、問題解決に取り組もうとしている
- 多様な他者の発想や価値観を尊重し、協働しながら解決に向かおうとしている
- 試行錯誤とその過程を自ら振り返って改善することとを往還して、より良い解決に向かおうと探究している

※暫定的に記載したものであって、「見取る姿」の検討は改訂後速やかに行う

5．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする
【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識・技能	思考・判断・表現
	・情報技術を活用して適切、有用に表現等する方法を身に付ける ・情報デザインを踏まえ、ユーザに分かりやすいUIを発想・検討し、意図した表現を行うコンテンツを制作して成果物を改善・修正・・・	・情報を表現する技術について、開発に至る思いや願い、意図をしない受け手に与える影響といった正負の側面を捉え、その折り合いをつける技術的な工夫等を考える ・生活の問題を捉え、情報やデータで・・・

6．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

「発表を踏まえて設計を改善し理想のアプリを再設計してまとめよう！」

7．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2 3	●人にやさしい情報の表現を学ぶ ・情報デザインの原則 ・情報デザインの考え方を用いた簡易なデザインの制作 ・情報デザインの考え方のまとめ	知 思	○	※ 情報デザインの原則では、デジタル化されたものだけでない情報デザインを、美術との関連も踏まえて取り上げる。 ※ 以降、全ての学習で生成AIを補助的に利用する
4 5	●生活に関わる問題を見いだして課題を設定する ・分かりづらい表示や案内などを調査し、ユーザが感じる困難さを明らかにする ・困難さを解決する情報デザインの方法を検討し、そのことを生かす簡単なアプリの制作を課題に設定する	知 思	○	※ 分かりづらい表示や案内などの調査は、可能であれば生徒に、授業前に学習用端末を使って写真を撮ってくるよう伝える ※ 調査結果の分析では、別単元における、データの活用の学習を生かして、集めた情報の種類を踏まえる
6 7 8	●情報を伝えるアプリを設計する ・伝える情報とその画面の構成（UI）を構想する ・構想を批判的に吟味する ・アプリの情報処理の手順を設計する	知 思	○ ○	※ 設計に当たっては、ユーザのニーズを踏まえるだけでなく、意図しない情報の伝わり方が起きないか、包摂性や倫理観に配慮しているか等の視点から吟味させる ※ 情報処理の手順の設計では、小学校「情報の領域」での学習を確認しながら行う
9 10 11 12	●アプリを制作し評価・改善する ・アプリのつくりかたを学ぶ ・アプリをつくる ・つくったアプリを情報デザインやメディアリテラシーの視点から確認しつつアプリを完成させる ・アプリの発表会を行い、その改善・修正を考える	思	○	※ 発表会で生徒が作品を評価する時は、利用者にとって分かりやすい表現になっているか、その表現が制作者の意図しない受け取り方を生んでいないか、情報技術ならではの問題解決になっているか、などの評価の視点を設けること ※ 評価課題で、資質・能力の発揮の水準を確認する



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（高等学校・情報Ⅰ）



次は「デザイン思考」か。教科書をなぞるだけでは、子供たちも学習内容を深く理解したり技能を身に付けたりできないだろうし、資質・能力も身につきにくいだろうな。そもそもこの学習内容は本質的にどういう資質・能力を育てたいんだっけ?



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

目標

見方・考え方

（統合的な理解）　（総合的な発揮）

情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく表現することが、受け手の円滑な理解や行動を促すことを理解する。

情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって適切な理解や行動を促す情報を吟味・設計し表現し、評価・改善できる。

知・技

思・判・表

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

他教科や前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。



なるほど、生徒が最終的に「統合的な理解・総合的な発揮」を身に付けられるように、学習内容を組み立てるのか。デザイン思考の考え方をもとに探究の活動を通じて、情報デザインや価値創造できるようにしたい。デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述も確認できるからヒントになるし、前後の学習内容なども確認しておけば取り残される生徒も減りそうだ。



教科書の見開き２ページを毎コマ積み重ねるだけでは探究的な活動にならないし、深い理解にも繋がらないから、うまくポイントを重点化して単元を組まないといけないな。育成したい「統合的な理解・総合的な発揮」や前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえて、この単元に充てられる授業時数は何時間になるだろうか．．．



「デザイン思考の考え方」を体験しながら学ぶことが大事だから、ルーブリックを設定して生徒が学びを自己調整できるようにしよう。

まずは、「ユーザ分析」と「問題の定義」に１時間、「企画書の作成」に１時間あてて、人間中心設計を理解できるようにしよう。

「プロトタイピング」に３時間かけて、試行錯誤できるようにすることで「情報デザイン」の技能が身に付くようしよう。

特に、価値創造につなげるために評価・改善を行うことに重点を置きたいから、「テスト」の学習内容に２時間を充ててよう。
　第６時には、「評価」を重点として、
　第７時には、「改善」を重点として、実施しよう。

ここまでの活動をメタ認知できるように、最後に振り返りをして「デザイン思考の考え方」のプロセスの中でどのような「情報デザイン」したか確認する時間を１時間指導しよう。

これで、本単元での学習内容の順番が決まった。
これらから、本単元に充てる授業時数は合計で8時間になるな。



学習内容や学習の順番が決まったので、評価計画を立てるか。身に付けさせたい資質・能力をきちんと見とれる評価にしたいな。



知・技も、情報デザインの技能に関しての本質的な理解をペーパーテストで見取るのは難しそうだな。今回は、作品で見取ってみようか。

特に思・判・表は、探究の過程で身に付けた資質・能力を総合的に発揮して表現するような課題で評価しよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるのが便利だな！

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（高等学校・情報Ⅰ）

単元構想のイメージ

1．単元名：デザイン思考

2．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

事象を、情報とその結び付きの視点で正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、新たな価値を創造したりすること

3．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく表現することが、受け手の円滑な理解や行動を促すことを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって適切な理解や行動を促す情報を吟味・設計して表現し、評価・改善できる。

4．学びに向かう力、人間性の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

生活や社会を情報の観点から進んで捉え、自ら問いや仮説を立て、多様な他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ね、解決策や表現を考えるとともに次の学びにつなげていこうとしている

- 事象を情報の観点から捉えて、問いを立て情報技術を活用して探究しようとしている
- 情報の観点で捉えた考えを共有し、他者の多様な視点を取り入れて協働的に解決策や表現を考えようとしている
- 学習の過程を振り返り、情報技術を活用した試行錯誤と評価・改善を重ねながら次の学びにつなげようとしている

※暫定的に記載したものであって、「見取る姿」の検討は改訂後速やかに行う

5．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする
【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識・技能	思考・判断・表現
	・デザイン思考の各段階（共感・定義・発想・試作・テスト）の目的と役割を理解し、ユーザ分析を踏まえて情報を整理し，ワイヤーフレームやサイトマップを作成するとともに、・・・	・ユーザのニーズに基づいて課題を設定し，情報の構成や表現方法を適切に設計し、評価結果やフィードバックを基に，・・・

6．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

「Webサイトの制作」の一連の流れで取り組んだことについて、レポートを作成しなさい。

7．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	●単元のガイダンス ●ユーザ分析 ・簡易ペルソナの作成 ●問題の定義	知		※ガイダンスでは、 ・単元の概要と流れ ・ルーブリック ・デザイン思考の考え方 ・前後の学習内容とのつながり ・ポートフォリオへの記録 を指導する。 ※ポートフォリオは8時間目の学習の振り返りのために行う。
2	●企画書の作成 ・Webサイトの要件の作成	思		※企画書の作成では、グループ全員で共同編集しながら人間中心設計の視点で検討させる。
3 4 5	●プロトタイピング ・ワイヤーフレーム、配色設計、サイトマップの作成 ・Webページのコーディング、素材の作成 ・Webサイトの統合	知 思		※個々の役割分担に分かれて制作する場面と、協働学習により制作する場面を組み合わせて学習を行う。
6 7	●テスト ・評価 ・改善	知 思	○ ○	※観点別学習評価は、 ・情報デザインを踏まえた表現をしているか ・企画書と作品の整合性を考察しているか を記述分析で評価する。
8	●学習の振り返り ・ポートフォリオを活用したプロセス全体の振り返り ●評価課題	思 知 思	 ○ ◯	※評価課題で、資質・能力の発揮の水準を確認する。



このように、学習指導要領を基にして作成することができるんだね。

情報の領域、情報・技術科 、情報科の体系整理の方向性①

- 情報活用能力の抜本的向上に関し、2040年頃の社会を踏まえた重視すべき方向性や、そのために必要な資質・能力としての情報活用能力、新教科・領域等(※)の在り方等について、以下1.、2.及び情技⑧の1.、2. のとおり整理をした上で、新教科・領域等の体系について以下①、②のとおり整理
  - ① 各領域・内容項目が相互にどのような関係にあるのかの整理
  - ② 各内容項目の学習内容イメージを踏まえ、より具体化した内容のまとまりごとの整理

(※)小学校 総合的な探究の時間（情報の領域）、中学校 情報・技術科、高等学校 情報科

1．2040年の社会の想定

✓ **AI・ロボットによる雇用構造の変化**
- 生産年齢人口の約1,100万人の不足
- AI・ロボット等の活用を担う労働者が約339万人不足

✓ **偽・誤情報の拡散による社会の分断**
- フィルターバブル等による価値観の偏りが増大
- 負の側面の理解、適切に対応する力が不十分

✓ **流動化する労働市場とマルチステージ型社会への転換**
- 社会や産業のニーズに応じて柔軟に学び続け働く姿勢の重要性の高まり

教育政策の遅れが、新たな価値創出を阻み、我が国の経済・民主主義の基盤を揺るがす

2．重視すべき方向性

日々の情報を見極め、ゆるぎない健全な民主主義社会を支える主権者の育成



➢ 情報技術やメディアの正負の側面を捉え、日常にあふれる情報の真偽や偏りを吟味して、意見を形成したり、判断を留保したり、異なる他者と対話したりする →イメージⅠ

我が国の経済の維持・発展を担うアドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成



➢ AI、DX等のスキルを駆使し、自身の生産性を向上したり、安全性や信頼性を踏まえ現場で協働的に課題解決を進めたりする →イメージⅢ

社会の変化に積極的に対応し探究し学び続けるアクティブラーナーの育成



➢ 情報技術を活用して自ら問いを立て、多様な情報を収集、整理・分析し学び続ける →イメージⅡ

社会革新を生み出す世界トップレベルのイノベーターの育成



➢ 多様な情報を統合して新たな価値を創造したり、AI等を用いて新たな仕組みやサービスを構想する →イメージⅣ

すべての人々に情報活用能力が必須となる

Ⅰ～Ⅳに繋げるため、すべての子供たちに一定程度以上の情報活用能力を育み、
- ✓ 情報技術の賢い使い手を育てる（**広い裾野**）とともに、
- ✓ できる限り多くの情報技術を活用したイノベーションの創り手を育てる（**高い頂**）方向で改善

具体的には、高校卒業生全員に対し、数理・データサイエンス・AIを「日常の生活や仕事等の場で使いこなす」ことができる「リテラシーレベル」の学習を保障する枠組みを構築する。各学校段階において育成を目指す資質・能力は「情技⑮」のとおり

フィジカルAI技術等の進展

- 近年では、IoTの進展等により現実世界のデータ化が進むとともに、マルチモーダルAIやデータ基盤、センシング技術の進展により、**デジタル技術とフィジカル技術が組み合わされた「統合的な技術」が社会実装される動きが加速**しており、例えば、各産業分野に特化し、創造的・高度な業務を支援するバーティカルAIや、ロボティクス等を通じて物理的な付加価値をもたらすフィジカルAIといった技術が、各産業固有の技術と結び付き実装される動きが**多様な業種に広がりつつある**
- 現代社会では、日常的にほぼすべての国民が複数の技術が統合された「システム」を活用している一方、**その仕組みを十分に理解せずに利用している場合も少なくない**ため、義務教育段階から統合的な技術の理解を深める必要

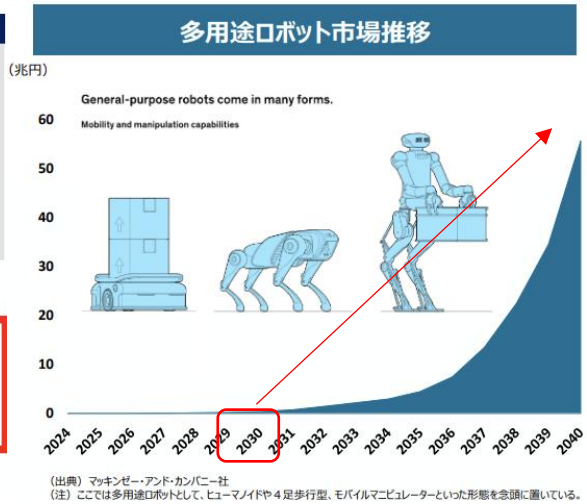
1． 物理的な付加価値をもたらすフィジカルAI

フィジカルAIによりロボティクス等を通じて各産業における物理的な付加価値をもたらし、競争力に抜本的な変革を生むことが可能となる



2． AIロボティクスは多様な業種に拡大していく

- フィジカルAIの代表例として挙げられるAIロボティクス分野の市場は2030年から急拡大
- これまでは未活用だった多様な業種に導入されていく見込み



（出典）マッキンゼー・アンド・カンパニー社
（注）ここでは多用途ロボットとして、ヒューマノイドや４足歩行型、モバイルマニピュレーターといった形態を念頭に置いている。



AIロボティクス戦略検討会議 第１回事務局資料

3． システム利用の理解不足によるリスク

「統合的な技術」やシステムが日常生活に浸透する中で、その仕組みや限界を十分に理解せずに利用すると、かえって事故や誤操作などのリスクが生じるおそれがある

高機能化する介護ベッドと事故注意の喚起



•消費者庁は、介護電動ベッドを使用する際は、手元スイッチを安全な場所に置き、利用者の手足の位置を確認するといった、連動して動作するシステムとして捉える注意喚起をしている※消費者庁、令和2年９月

運転支援システムが作動しない状況の例



急な割り込み（全車速追従クルーズコントロール使用中）



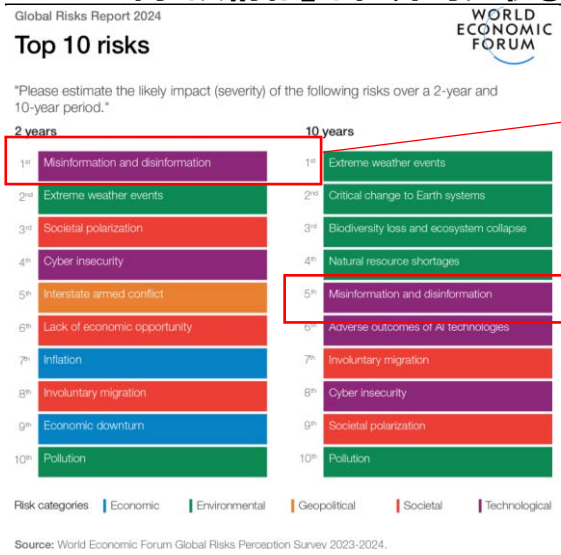
白線を検知できない場合（車線維持支援装置使用中）

•例えば、国土交通省は、**運転支援システム**について**過信や誤解を避け、作動条件や限界を理解する必要**があると注意喚起している　※国土交通省、令和2年３月

「民主的な社会の創り手」の素地としての情報活用能力

- 生成AI等による**偽・誤情報の拡散**は、フィルターバブルやエコーチェンバー等と相まって、**価値観を偏らせ社会の分断を誘引・拡大**し、**民主主義を危険にさらすおそれ**があることが世界的に指摘されている
- **情報活用能力の抜本的な向上**を図り、社会にあふれた情報の中から**真に必要な情報を吟味し適切に取り扱う力**が養われることで、自ら意見を形成し、多様な他者との対話や合意を図るといった**確かな民主主義を担う力が涵養**され、**社会の分断をも防ぎ得る**と考えられる

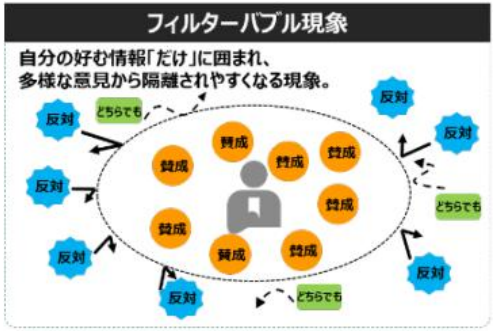
1. 「偽・誤情報」は世界的に最も深刻なリスク

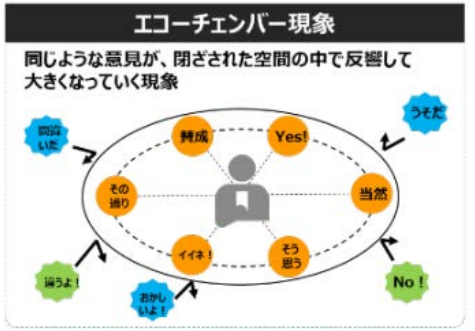


- 偽・誤情報の拡散は世界的に問題
- **今後２年間で予想される最も深刻なリスク**として**「偽情報」**を挙げている（2024年1月、世界経済フォーラム）

【出所】総務省「令和6年版　情報通信白書」を基に作成

2. 「偽・誤情報」の拡散の構造的な要因の例





【出典】令和７年５月12日 教育課程企画特別部会 資料１-１

確証バイアス（Confirmation bias）

人は**「自らの見たいもの、信じたいものを信じる」**という心理的特性を有している※

アテンションエコノミー

アテンションを集めてクリックされるために、過激なタイトルや内容、憶測だけで作成された事実に基づかない記事等が生み出されることがあり、**偽・誤情報の拡散**や**インターネット上での炎上を助長**させる構造を有している※

【出所】総務省「令和5年版　情報通信白書」を基に作成

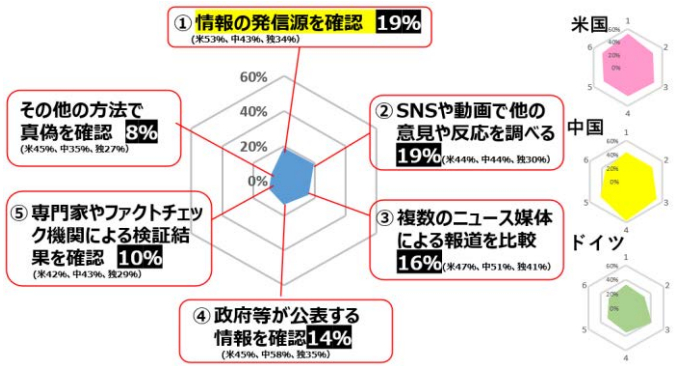
3. 負の側面の理解、適切に対応する力が不十分

- 偽・誤情報の認識率が他国より低い
- ネット情報の信頼性、確認の割合いずれの方法も他国より大幅に低い

SNSやブログなどで偽情報・誤情報だと思う情報を見かける頻度

	ほとんどない（%）	そもそも何が偽情報・誤情報なのかが分からない（%）
日本	15.3	14.5
アメリカ	4.5	1.3
イギリス	7.3	1.9
フランス	8.7	3.3
韓国	7.9	1.1

出所：総務省「令和4年度 国内外における偽・誤情報に関する意識調査」より作成



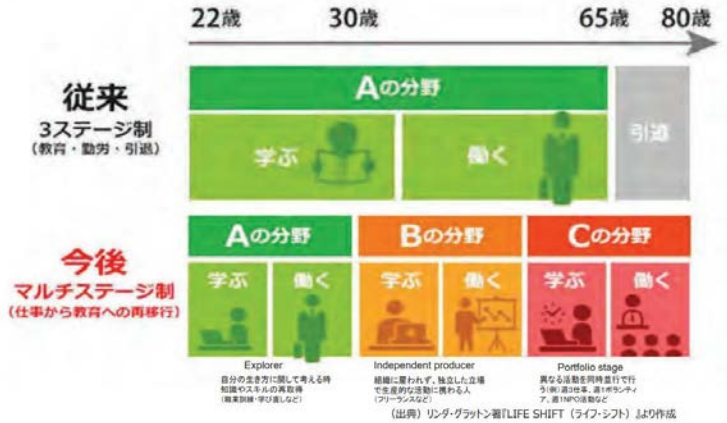
【出所】 総務省「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及び デジタル活用の動向に関する調査研究の請負成果報告書」（2024(令和6年)年3月 総務省情報流通行政局情報通信政策課情報　通信経済室）を基に作成
※アンケート対象：各対象国の居住者及び、20 代から 60 代の男女を対象　日本N=1030　米国、中国、ドイツ　N=520
※オンライン情報の信頼性の確認方法：「あなたはオンライン上で最新のニュースを知りたい時に、どのように情報の信頼性を確かめますか」の問いに「ほぼ全てのニュースについて行う」あるいは「よく行う」と回答した割合

「人生100年時代」に主体的に学び続ける素地としての情報活用能力

- 労働市場の流動化、マルチステージの人生モデルへの転換といった社会変化の中で、**ビジネスシーンで求められるスキルの動向など社会のニーズを敏感に察知**した上で、**柔軟に学び、働く姿勢が求められる**ようになる
- **情報活用能力の抜本的な向上**を図ることは、自身の興味・関心や社会のニーズに応じたキャリア形成をしていく際の**より効果的な学び直しを後押し**し、**人生の舵取りに資する**と考えられる

1. 「人生100年時代」はマルチステージの時代に

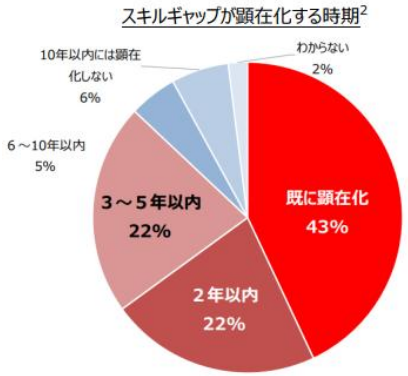
変化の激しい時代×人生１００年時代
●働く期間が長くなる ●マルチステージの時代へ



【出典】令和７年５月22日 教育課程企画特別部会 資料１-１

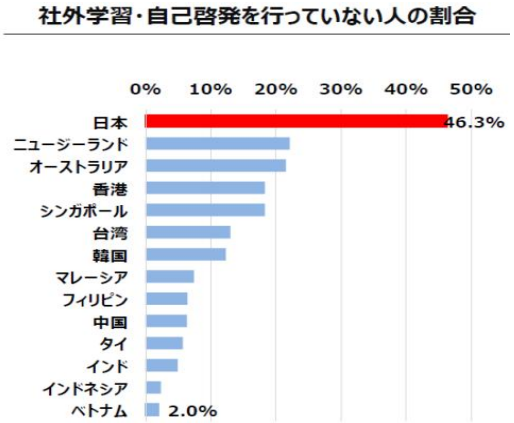
2. 企業が認識するスキルギャップと個人の学び直しの必要性の高まり

- **４割以上**の企業が、技術革新により必要となるスキルと現在の従業員のスキルとの間に**ギャップを認識**



【出典】経済産業省「Society 5.0 時代のデジタル人材育成に関する検討会 報告書－「スキルベースの人材育成」を目指して －」

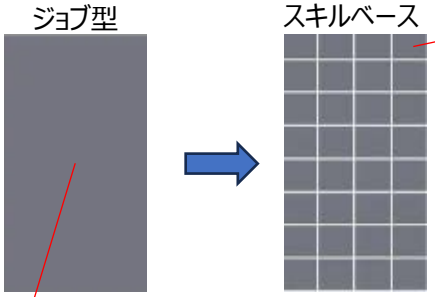
- 社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は**半数近く**



（出所）パーソル総合研究所「APAC就業実態・成長意識調査（2019年）」を基に経済産業省が作成

3. 企業のスキルベース組織への変革

- 企業は**スキルベース組織**へシフトする可能性



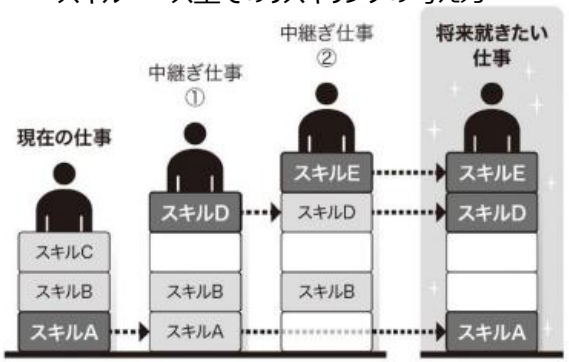
スキル（技術）に応じて人材配置

個人 ✓ 柔軟なキャリア形成が可能
✓ リスキリングへの意欲向上

企業 ✓ 人材の最適配置が可能
✓ 人手不足の解消

職務（職位や肩書）に応じて人材配置

スキルベース型でのリスキリングの考え方



【出所】経済産業省「Society 5.0 時代のデジタル人材育成に関する検討会 報告書－「スキルベースの人材育成」を目指して －」を基に作成

人生100年時代を生き抜くためには、**組織・年代・職種を問わず、ビジネスパーソン一人一人が自身の責任で学び続けることが重要**

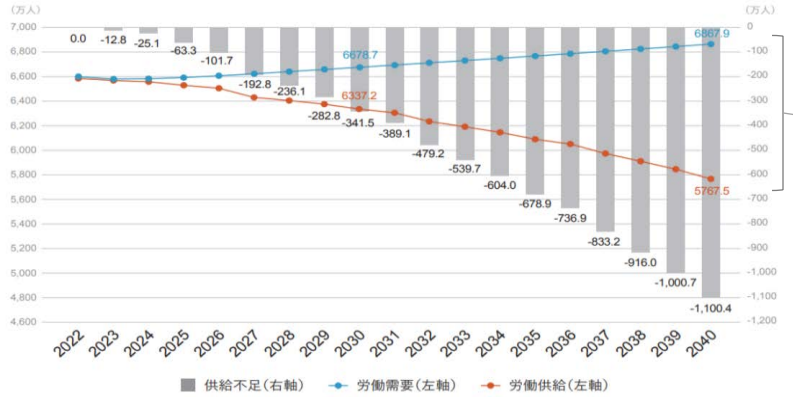
【出所】IPA・経済産業省「デジタルスキル標準ver.1.2 2024年7月」

少子化×AI時代を生き抜くためのDX人材育成の重要性

- 深刻な少子化等により、**2040年には生産年齢人口が約1,100万人不足**するとの予測がある。また生成AI・ロボットによる自動化等の影響で、**事務職に約437万人の余剰**が生じる一方、**専門的・技術的職業のうちAI・ロボット等の活用を担う人材が約339万人不足する**という**ミスマッチの可能性**が指摘されている
- また、現場人材が就業人口の約６割(※1)を占める我が国においては、労働生産性の向上に資する**アドバンスト・エッセンシャルワーカーや、イノベーションを創出する人材の育成**を図ることが不可欠(※2)。**すべての子供たちの情報活用能力の抜本的向上**を図ることが、地方経済の維持・担い手不足の解消を含めた、**我が国の持続的成長を支えるための打ち手**となると考えられる

※１　新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版（令和７年６月13日）
※２　※１中で策定された「産業人材育成プラン」等において、アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成が我が国の政策課題であることが明記されている

１．労働需給シミュレーション



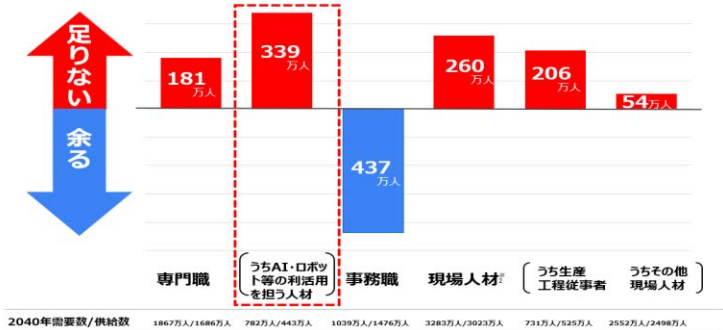
【出典】リクルートワークス研究所 Works Report 2023 「未来予測 2040 労働供給制約社会がやってくる」P.4

労働需給ギャップ：1,100万人（2040年）

【出所】令和６年11月26日 経済財政諮問会議　冨山和彦氏提出資料

２．2040年の人材需給予測（職種間のミスマッチ）

- AI・ロボット等利活用人材、約339万不足
- 事務職は約437万余剰、一方で現場人材は260万不足



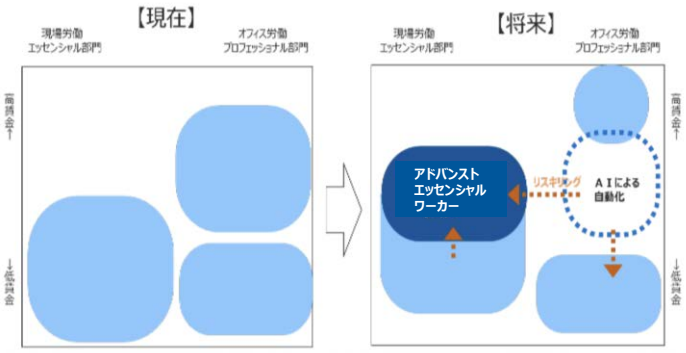
※「2040年の就業構造推計（改訂版）について」（2026年3月5日産業構造審議会経済産業政策新機軸部会）を元に文部科学省で作成（2040年に十分な国内投資や産業構造転換が実現する場合の推計（新機軸ケース））、「新機軸ケース」とは、国内投資拡大と賃上げの好循環を前提に、高付加価値型産業への構造転換を通じて成長を目指す経済シナリオを言う。

※２　現場人材」とは、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計している。

３．AI時代の労働シフト

アドバンスト・エッセンシャルワーカー（デジタル技術等も活用して現在よりも高い賃金を得るエッセンシャルワーカー）：

AI時代のホワイトカラー余剰と現場労働の不足のミスマッチ拡大が見込まれる中、アドバンスト・エッセンシャルワーカーの創出が我が国の強みである**現場力・品質力の維持や付加価値労働生産性向上の切り札**となり得る



【出典】令和６年11月26日 経済財政諮問会議　山田久氏提出資料

（参考）汎用人工知能（Artificial General Intelligence：AGI）

- **AIは今後、AGIに発展し、ますます社会経済活動に浸透するという見方も**

OpenAIは2024年7月、汎用人工知能（AGI）の実現に向けた進捗状況を示す5段階のロードマップを発表。報道によれば、OpenAIのサム・アルトマンCEOは今後10年程度でレベル5に達すると推測。

レベル	名称	説明
1	Chatbots（対話型AI）	現行のChatGPTのような、自然な対話が可能なAI
2	Reasoners（推論型AI）	高度な論理的推論を用いて複雑な課題を解決できるAI
3	Agents（自律型AI）	ユーザに代わって自律的にタスクを遂行し、意思決定ができるAI
4	Innovators（イノベーション型AI）	問題解決に加え、新しいアイデアや解決策を生み出すことができるAI
5	Organizations（組織型AI）	意思決定、管理、運用実行等、組織全体の作業が行えるAI

【出所】総務省「令和７年版 情報通信白書」を基に作成

情報の領域、情報・技術科、情報科の体系整理の方向性②

1．育成を目指す資質・能力

（情報の領域）

	小学校（総合的な学習の時間に付加）		中学校（情報・技術科）	高等学校（情報科）
	低学年	中・高学年		
① 情報技術の活用	● 情報技術の**基本的操作**を習得する（コンピュータで文字を書く、機器・アプリの操作）	● 必要な情報を**集めて整理**し、**分かりやすく表現**しながら、身近な課題を解決できる （学習活動例） ・ウェブアンケートにより情報収集し、結果の集計・グラフ化する ・相手に分かりやすく伝わるようにスライドを作成する	● **複数の方法で情報を収集・分析**し、**根拠を基に表現**しながら、課題を解決できる ・データの分析・解釈を根拠にニーズを判断・解釈し、課題を吟味・決定する ・情報デザインの考え方を元に、コンテンツのUIを設計する	● **多様な情報を収集・構造化**して**多角的に分析**し、**論理的に表現・議論**しながら、課題を解決できる ・情報デザイン・データ分析・システム開発等の考え方を統合して活用する
② 情報技術の適切な取扱い	● 基本的な操作を学ぶ中で、以下を習得 ・正しい姿勢で端末を扱う ・許可なく他人の写真や動画を撮らない ・IDやPWを他人に教えない　など	● **情報技術やメディアの特性やリスク**について理解し、**メディアリテラシーを働かせながら、ルールやマナーを守って安全に**活用できる ・インターネット依存など、心に関わるリスクへの対処を考える ・情報の信頼性の確認や判断の留保、誤情報を拡散しない方法を考える	● **情報発信の責任や他者への影響**を考え、**リスクを判断して**活用できる ・コンピュータのアルゴリズムが人の認知や行動に与える影響を批判的に考える ・情報技術の発展とメディアの役割について考え表現する	● 情報技術の**利便性と負の影響、信頼性を評価**し、**社会的責任をもって**情報を活用できる ・AI活用等に関する法制度や倫理を理解する ・情報メディアの特性を踏まえ、情報の信頼性を批判的に評価する
③ 情報技術の特性の理解		● 情報技術の**基本的な仕組み**を理解し、**考えた手順を基に**解決策を構想・表現できる ・プログラミングを体験する ・生成AIの出力から特性を知る	● 情報技術の**仕組みや社会との関わり**を理解し、**複数の情報を多面的に分析**して解決策を構想・表現できる ・ネットワークの構成を学び、そのセキュリティを考える ・AIを補助的に用いてプログラミングを行う	● 情報技術の**原理や社会的影響を科学的に**理解し、**多様な情報を分析・統合して創造的に**解決策や価値を構想・表現できる ・データを基礎的な指標を用いたり可視化したりすることで、傾向や関係を捉え、分析・考察する

重視すべき方向性
情技①のイメージ
Ⅰ～Ⅳ（※）
の基盤となる、情報活用能力が、小・中・高を通じて、体系的・系統的に育成される

（※）デジタル社会で
- ✓ 民主的な意思形成
- ✓ 探究的な学び
- ✓ 協働的な問題解決
- ✓ 価値創造

等を支える力

※上記の学習活動の例は網羅的に示したものではないことに留意

2．体系化整理に向けた観点

小学校

小学校では、初めて探究的な学びや情報技術の活用に取り組む段階であり、発達段階を踏まえても、体験的な活動を通して一体的に育成することが効果的（ゆえに総合的な学習の時間に「情報の領域」を付加する）

「①活用、②適切な取扱い、③特性の理解」の枠組みを前提に、**情報活用能力の体系的な整理に基づいて**、**「情報の領域」の体系を構造化する**

中学校・高等学校

中学校では、小学校段階で育成された情報活用能力を基盤として、情報技術の適切な取扱いや特性の理解をより専門的・体系的に高めていくことが必要（ゆえに情報・技術科や情報科といった教科で学ぶ）

「③特性の理解」をはじめとする**情報活用能力の体系的な整理と教科固有の内容を統合して**、**各教科の体系として構造化しなおす**

※ 情報活用能力の三つの構成要素は、再構造化後も、各教科の学習内容を支える基盤的観点として位置付ける

※ 3構成要素の整理は、従来の「情報活用能力の３観点８要素」の系譜でアップデートされたものである。

情報活用能力として育成すべき資質・能力を体系的に整理するイメージ

● 情報活用能力の学習の基盤としての位置付け、情報活用能力の範囲、情報技術の変動性に留意しつつ、情報活用能力の構成要素別に（情報技術の①活用、②適切な取扱い、③特性の理解）、各学校段階で育成すべき主な資質・能力の例を以下のとおり「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に整理

		小学校		中学校		高等学校	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
① 情報技術の活用	課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現 基本的な操作	・多様な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータを整理し傾向を把握する方法を身に付ける ・目的に応じた表現技能を身に付ける ・情報技術の適切な操作を身に付ける	・適切な方法で情報やデータを収集・整理し傾向を明らかにした上で、目的に応じて効果的に表現し、身近な課題を解決できる	・効率的な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータの統計的な分析の方法を身に付ける ・複数の情報技術の組み合わせた表現技能を身に付ける	・複数の手段により効果的に収集した情報やデータを統計的に分析し根拠を判断した上で、適切な情報の加工をもって課題を解決できる	・組み合わせによる効果的な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータを構造化し科学的に分析し論理的に考察する方法を身に付ける ・情報技術を統合した効果的な表現技能を身に付ける	・情報技術の特性や信頼の多面性を踏まえ、情報やデータを統計的・多角的に分析し根拠を判断した上で、解決策を論理的に構成・適切に表現し、効果的な議論を経て課題を解決できる
② 情報技術の適切な取扱い	法や制度 倫理 安全・メディア理解	・自他の権利やルール、マナー、セキュリティを理解する ・生活や健康への影響、安全管理を理解する ・メディアにより情報や印象が異なること、誤情報・悪意のある情報もあることを理解する	・権利と責任、ルールとマナー、セキュリティ、情報技術の活用による影響等を踏まえて適切に行動することができる	・権利に係る基本的な法・制度や責任を理解する ・倫理的配慮や情報セキュリティの基本を理解する ・心身を含むリスク評価と適切な対処を理解する	・法や倫理等を多面的に考え、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスクを評価して適切に行動することができる	・法・制度の意義や責任を理解する ・倫理的な配慮を踏まえた適切な活用に関し理解する ・情報セキュリティを踏まえたリスクと利便性の評価・管理を理解する	・法・制度の意義や倫理的課題を考察し責任をもつことや、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスク、利便性、信頼性等を評価して適切に行動することができる
③ 情報技術の特性の理解	情報及びコンピュータの原理 AI アルゴリズム・プログラミング デザイン データの扱い コミュニケーションやメディア 社会的役割	・生成AIを含む情報技術の基本的な仕組みや特性を理解する ・コンピューターに指示するために必要な手順を理解する	・情報技術の特性を踏まえ、プログラミング的思考に基づき、身近な課題の解決策を表現することができる	・情報技術の仕組みを理解する ・AIの仕組みと社会での活用を理解する ・アルゴリズムの理解と構造的な表現方法を身に付ける ・ユーザ視点の情報デザインを理解する ・データの効率的な管理・活用の仕方を身に付ける ・メディア特性が受信・発信に与える影響を理解する ・技術による社会のシステム化を理解する	・情報技術の仕組みや特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、メディアの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における課題を多面的に分析して解決策を構想・表現することができる	・情報技術の原理を科学的に理解する ・AIの特性と課題を踏まえた活用の方法を身に付ける ・アルゴリズムやシステム構築の設計と評価の方法を身に付ける ・ユーザ中心の情報設計・評価の方法を身に付ける ・データの科学的分析・解釈や、モデル化、シミュレーションを理解する ・メディア・ツールの統合・活用の方法を身に付ける ・技術発展の影響を多面的に理解する	・先端技術を含む情報技術の原理や特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、モデリング、シミュレーション、メディア・ツールの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における専門的な課題を分析し的確に捉えて、解決策を創造的に構想・表現することができる

情報活用能力の抜本的向上のイメージ

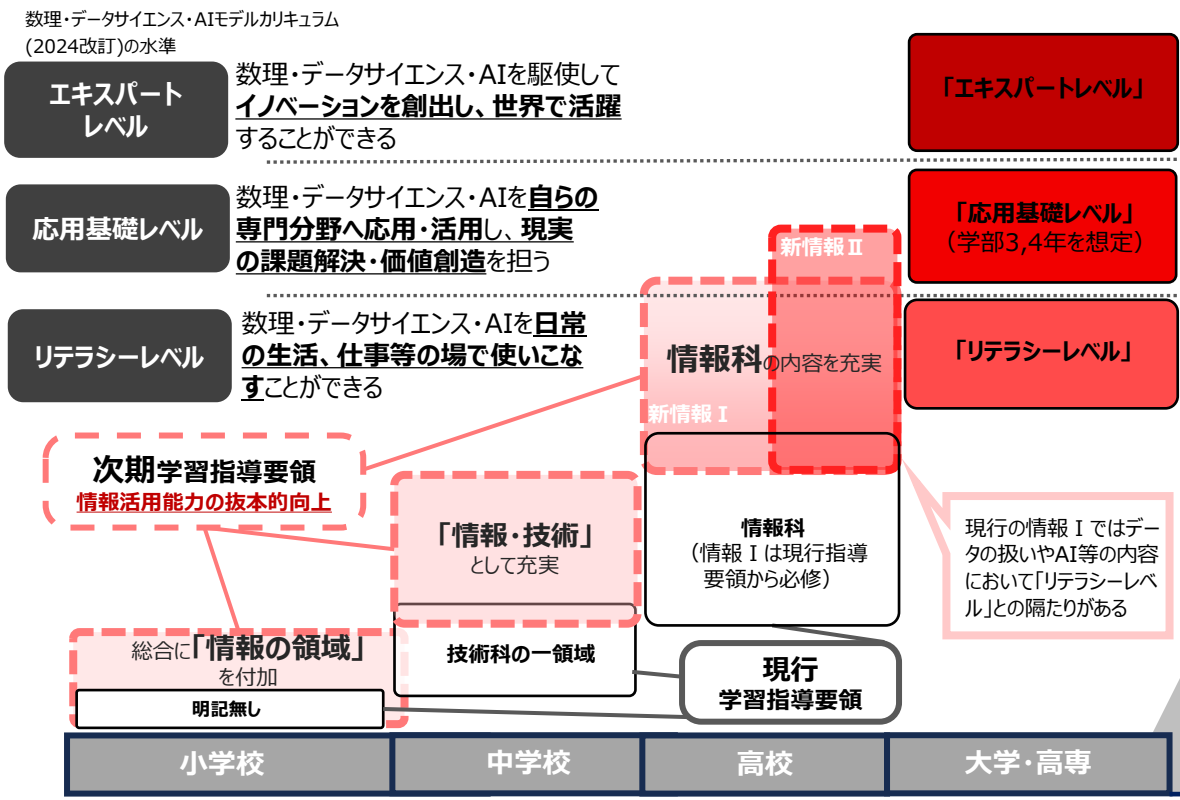
- **❶日々の情報を見極め、ゆるぎない健全な民主主義社会を支える主権者の育成 ❷社会の変化に積極的に対応し探究し学び続けるアクティブラーナーの育成 ❸我が国の経済の維持・発展を担うアドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成 ❹社会革新を生み出す世界トップレベルのイノベーターの育成** という期待に応える前提として、生活や社会の基盤がますますDX化していく中で、常に探究心を持ち、いかなる場面でも**情報技術を自在に活用できなければならない**

- 初等中等教育において**情報活用能力の抜本的な向上**を図ることにより、**文理の枠を超え、高校卒業生全員に対し、数理・データサイエンス・AIを「日常の生活や仕事等の場で使いこなす」ことができる「リテラシーレベル」（※）の学習を保障する枠組みを構築**

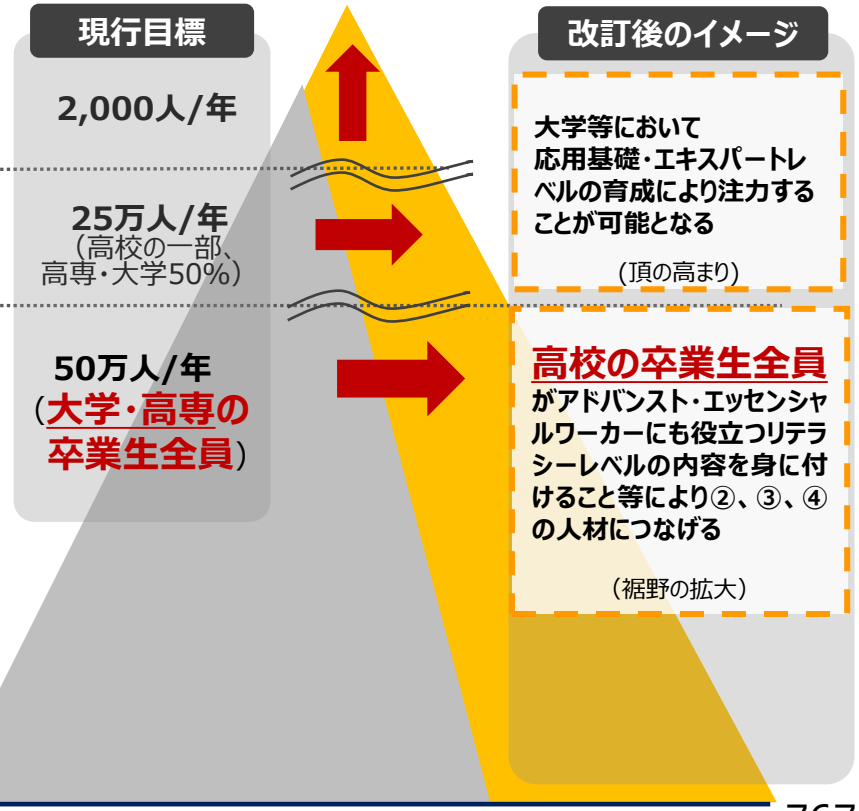
※ 現行目標として、大学・高専の卒業生全員が「リテラシーレベル」を身に付けることとしている

- さらに、学校によってはより高度な情報活用能力の育成を可能とするよう**「応用基礎レベル」までの学習を展開**できるようにすることが適当

1. 教育課程の充実を通じた「情報活用能力の抜本的向上」（イメージ）



2. 育成する人材の規模（イメージ）



総合的な探究の時間の構成要素について（イメージ）

「情報の領域」の具体的な学びの在り方については、**「ミニ探究ユニット」として探究のプロセスに位置付けられるものは位置付けつつ、難しいものについては独立**した形で柔軟に学ぶことで、

① **探究的な学びの特質が十分に発揮されるよう配慮しつつ、探究的な学びと一体的・重点的に指導する**

② **情報活用能力の着実な育成を図る**

という、**２つの考え方を両立させることとすることが適当である。**

総合的な探究の時間

探究の領域

探究活動
（従来行われてきた総合の学びが情報の領域の付加により、活動内容・活動成果ともに充実）

情報の領域

基盤として支える

ミニ探究ユニット
（探究のプロセスにおいて情報活用能力の諸要素を学びながら活用する小単元）

情報ブロック
（情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまり）

中学校 情報・技術科の論点と方向性

【技術分野の現状と課題】

- 現代のものづくりはデジタル技術の恩恵で大きく変化（産業現場ではデジタル技術の活用が急速に浸透 ）
- ノーコードや生成AIなどいわゆる「デジタル技術の民主化」で、一人一人の思いや願い、意志を具現化し得るチャンスが拡大。また、多くの子供たちが担う地域経済においては、いわゆる「アドバンスト・エッセンシャルワーカー」（※）が求められている中、DXによる生産性向上の余地も大きい （※）デジタル技術等も活用して、現在よりも高い賃金を得るエッセンシャルワーカー

➡ こうした視点で現行の学習指導要領を見ると、下記の課題

（１）デジタル技術の学習が「D情報の技術」に閉じており、内容も諸外国と比べて見劣りする

（２）他の３領域（A材料と加工、B生物育成、Cエネルギー変換）でデジタル技術との関連が図られていない

（３）全体として、技術を活かして一人一人が実生活・実社会の課題解決を行う取組が不十分

これを踏まえ、以下の方向で改善を図る

（3） ４領域を横断する内容を含め、技術を活用して実生活・実社会の課題を探究的に解決する内容の充実を図る

A 材料と加工の技術
（木材での作品製作等）

B 生物育成の技術
（作物栽培等）

C エネルギー変換の技術
（電気回路等）

D 情報の技術
（情報メディアの特徴、プログラミングによる問題解決等）

（2） ABCの３領域について、３Dプリンタ、センシングデータ、シミュレータの活用等、情報技術との関わりを強化する観点から、取り扱う内容を充実する

（１） ①情報技術の活用、②情報技術の適切な取扱い、③情報技術の特性の理解の観点から、小学校段階での改善を土台として、大幅な充実（生成AI,プログラミング、情報セキュリティ等）を行うとともに、他の３領域の基盤と位置付ける

中学校情報・技術科で扱う領域の改善イメージ

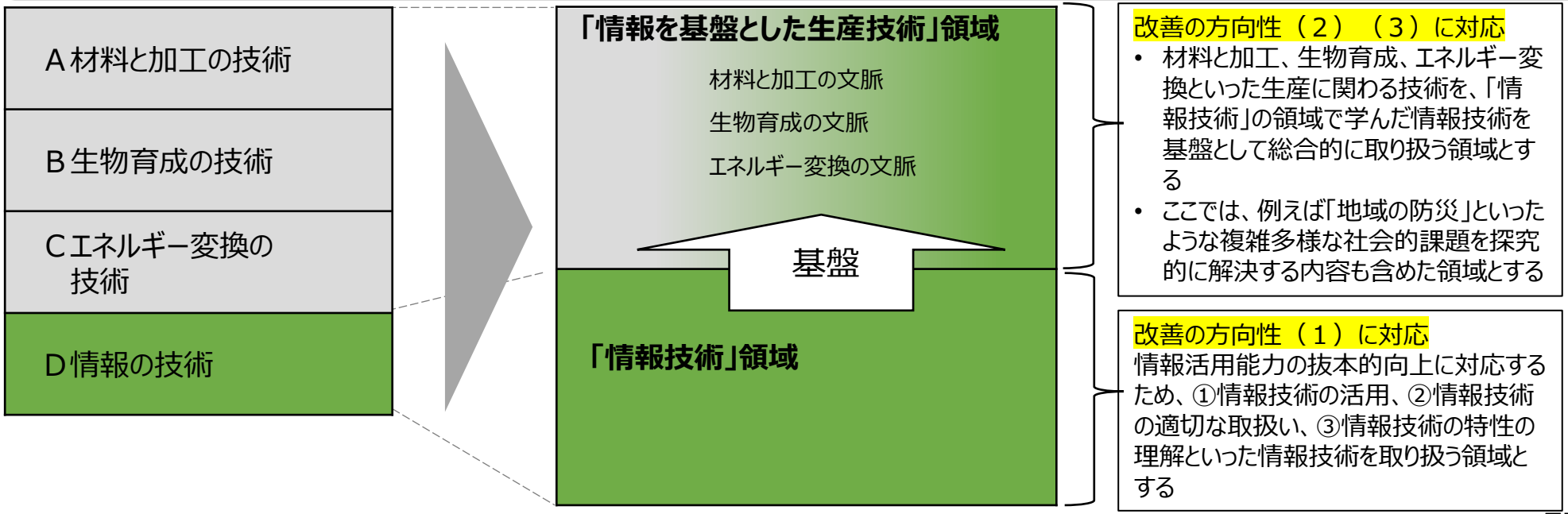
現状

学校教育法に規定する「情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養う」観点から、現代社会で活用されている多様な技術を四つの領域に整理し、内容を構成

領域設置の考え方

- デジタル技術が急速に発展している中、これからの時代を生きる子供たちは、社会の重要なインフラとなる情報技術をより広範かつ深く学ぶ必要性が格段に高まっており、情報技術を重点的に扱う独立の領域を設置する必要
- 一方、情報技術以外の生産技術（現行のA材料と加工の技術・B 生物育成の技術・C エネルギー変換の技術）も、情報技術が生み出す価値を現実の生活や社会で具体化する、引き続き不可欠な技術(※1)
- 生産技術のニーズが情報技術を発展させる側面もあり(※2)、両者は相互に補完しながら豊かな生活や社会を実現する関係にある。社会のデジタル化が進む中、情報技術と生産技術を掛けあわせた学びがより一層重要
- 加えて、生産技術の３領域も、多様化・複雑化する生活や社会の問題に対応できるよう、それぞれを単独で扱うのではなく、横断的かつ探究的に学習(※3)を進めることが不可欠
- 以上を踏まえ、情報・技術科では、生産技術を基盤として支える**「情報技術」**の領域を設置するとともに、情報のみならず生産技術間も横断して、探究的に学ぶことも重視する観点も踏まえ、**「情報を基盤とした生産技術」の領域を設置し、２つの領域構成に改善**することが適当である

※１　例えば、３D CADなどで設計した複雑な形状の部品を３Dプリンタを活用して具現化する
※２　例えば、より小型化・軽量化された電子部品を開発することで、それを利用したより高度な計測・制御機器の開発が可能になるなど
※３　地域防災などに活用するA・C領域を横断した人命救助ロボットの開発や、作物の育成環境を最適に調整するためのA・B・C領域を横断したスマート農業など



改善の方向性（２）（３）に対応
- 材料と加工、生物育成、エネルギー変換といった生産に関わる技術を、「情報技術」の領域で学んだ情報技術を基盤として総合的に取り扱う領域とする
- ここでは、例えば「地域の防災」といったような複雑多様な社会的課題を探究的に解決する内容も含めた領域とする

改善の方向性（１）に対応
情報活用能力の抜本的向上に対応するため、①情報技術の活用、②情報技術の適切な取扱い、③情報技術の特性の理解といった情報技術を取り扱う領域とする

高等学校情報科の科目構成の改善イメージ

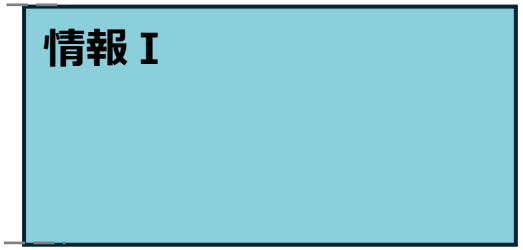
現状

情報活用能力を全ての生徒に育む共通必履修科目としての情報Ⅰと、情報Ⅰで培った基礎の上にコンテンツを創造する力などを育む選択科目としての情報Ⅱを設置

改善の方向性

- 抜本的に充実する**中学校 情報・技術科に内容を一部移行**するが、一方で、高等教育の**数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルを概観できるよう内容を充実**することを踏まえると、指導内容の分量は現行と大きく変わらないことが見込まれることから、引き続き**情報Ⅰを存置**しつつ、生徒が興味関心をもって学べるよう実践的・探究的な内容を充実させることが適当である
- また、情報Ⅰが共通必履修科目となったのは前回改訂時であること、大学入学共通テストに追加されたのは令和７年度であることから、**安易な科目構成の変更は現場の混乱を招くことも考慮する必要**

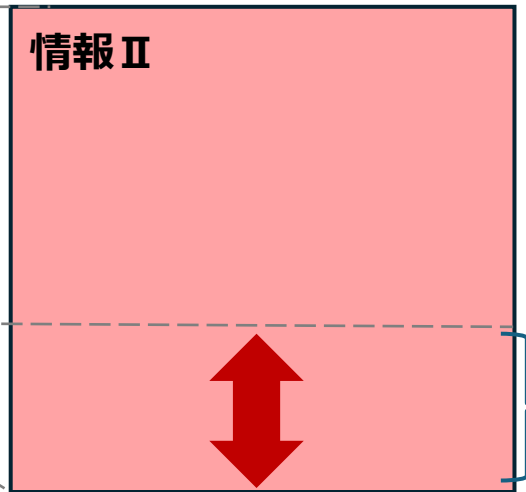
情報Ⅰ
(1)情報社会の問題解決
(2)コミュニケーションと情報デザイン
(3)コンピュータとプログラミング
(4)情報通信ネットワークとデータの活用



【現状】
- 平成30年改訂では、初めての共通必履修科目として「情報Ⅰ」が設けられた
- 令和７年度入試より、大学入学共通テストに「情報Ⅰ」が追加された

- 情報Ⅰで培った基礎の上に選択科目としての**情報Ⅱを設置する考え方は維持**する
- その上で、現場のニーズに応じて、**より高度な情報活用能力の育成を図れる**ようにし、生徒や地域の実情に応じた**特色・魅力ある教育を実現**するため、情報Ⅱは**各学校において、実社会の課題を探究的に解決する内容を充実させられるよう、柔軟に単位数を配当できることとすることが適当である**

情報Ⅱ
(1)情報社会の進展と情報技術
(2)コミュニケーションとコンテンツ
(3)情報とデータサイエンス
(4)情報システムとプログラミング
(5)情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究



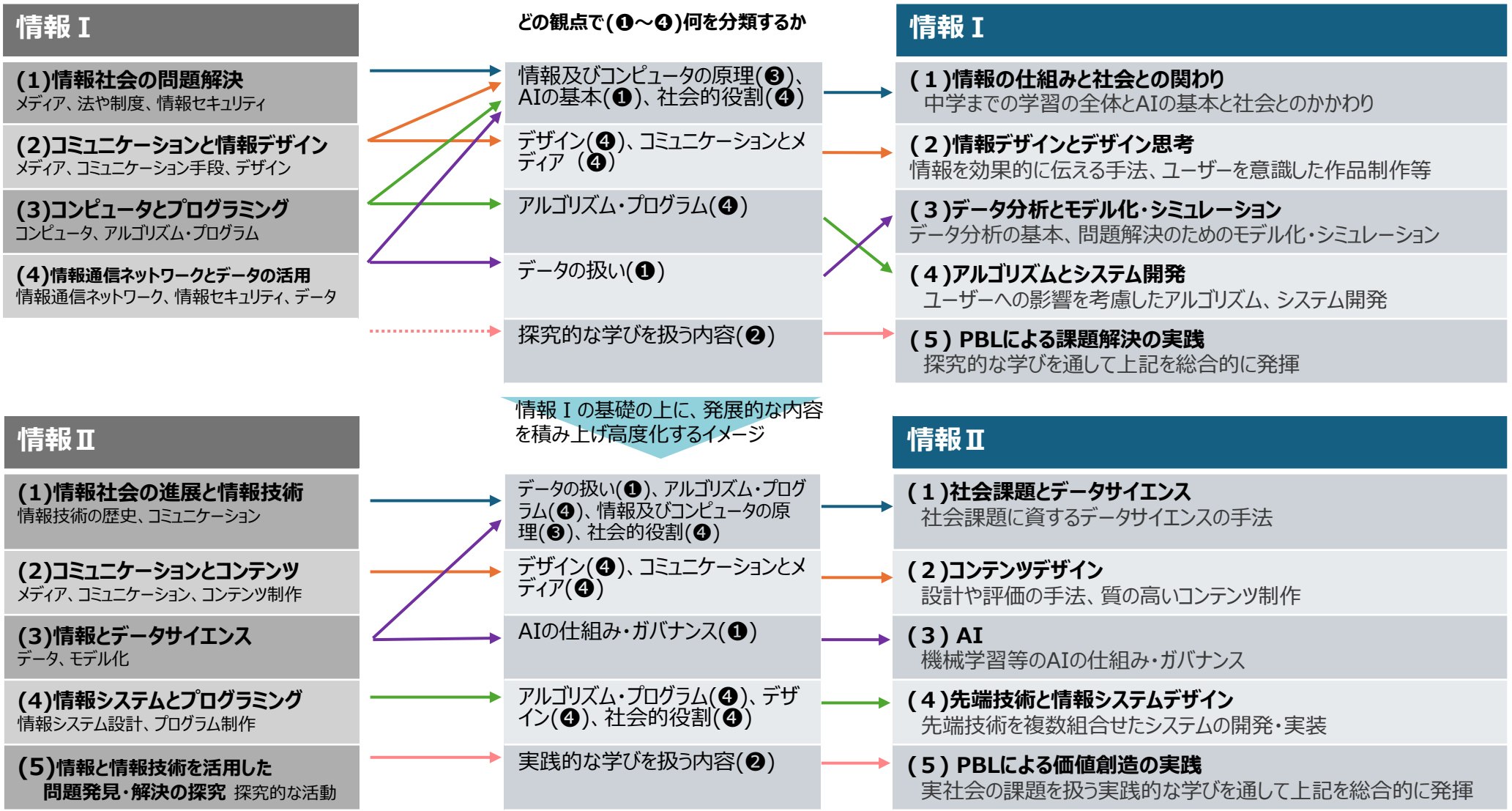
教師の指導力向上や環境整備など指導体制の改善や条件整備が必要

【課題】
- 学校や地域の実情によって設置率に大きな格差があると考えられる
- 一方、「情報Ⅱ」を設置している学校には、生徒の特性に応じて**さらに探究的な学びを増やしたい**等のニーズがある

例えば、仮に情報Ⅱを８新単位で開設した場合、地域に実在する課題に対し、データやAIを活用し、ユーザ調査などからシステムの実装、評価まで行うような、応用基礎レベルのPBL学習を長期的に展開できる

高等学校情報科の内容構成の改善イメージ図

● 前頁で示した検討の方向性に基づいた内容構成の改善イメージを以下のとおり図示



※高校段階で特に重視する「③情報技術の特性の理解」を中心に学習内容ベースで取り扱う内容を例示

※名称等はいずれも仮称

教育課程における「メディアリテラシー」の位置づけ

- 生成AIによるハルシネーションや、人間の認知特性を踏まえたアルゴリズムによる情報の取捨選択や提示の最適化が進む中、真偽不明なものも含めて情報があふれるデジタル社会においては、真に必要な情報を吟味し、適切に取り扱う力の重要性が高まっており教育課程においてもその整理が必要
- そこで、教育課程においては、「メディアリテラシー」を**情報メディアの特性が受け手に及ぼす影響を踏まえ、情報を社会的・文化的背景の中で吟味し批判的に評価したり、発信したりして、社会参画する考え方や態度**であり**情報活用能力の構成要素**と捉え、各教科等の学習過程の中で育まれた**「クリティカル・シンキング(※)」を、情報活用能力育成の「要」となる教科等において統合的に働かせて育成**するものとして位置付けることが適当である

※ 「クリティカル・シンキング」・・・**論理的・合理的に考察し、内省的に思考を振り返りながら、より良い判断を志向する思考の様式**であり、教科や学習場面と切り離して働くものではなく、各教科等の学習過程の中で具体的に働くものと考えられる

学習の基盤となる資質・能力

情報活用能力

情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり 自分の考えを形成したりしていく力

「メディアリテラシー」 ※具体的な学習内容イメージは次ページ

メディアリテラシーとは、以下のことを可能にする**思考力・実践的スキル、知識、態度を持つこと**である ※1
- ✓ **民主主義社会におけるメディアの役割と機能**を理解すること
- ✓ それらの機能が果たされる条件を理解すること
- ✓ メディアコンテンツを**批判的に評価**すること
- ✓ **自己表現、異文化間対話、民主的参加**のためにメディアと関わること
- ✓ ICTスキルを含むスキルを応用し、ユーザー生成コンテンツを制作すること

メディアリテラシーの一部
- 情報を、**多角的に分析（情報源の比較等）**して考える
- 情報の受発信、受け止めに、**社会的・文化的背景**がある（自分のバイアス もある）ことを理解する
- **偽情報・白黒はっきりしない情報は「活用しない」「判断を留保する」**ことも含まれる ※2

日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える

「メディアリテラシー」の文脈で、各教科等で育まれた「クリティカル・シンキング」を活用して、デジタル社会の具体的な状況に適切に参画・対応できるようにする

「要」となる教科等

総合的な探究の時間（情報の領域） / 情報・技術科 / 情報科

直接的に育成に資する場合も

国語 / 社会 / 算数・数学 / 理科 / ・・・

「クリティカル・シンキング（情報の吟味）」

クリティカル・シンキングは、アイデアや解決策を問い直し評価すること。**帰納的推論と演繹的推論、分析、推論、評価を含む。**※3

クリティカル・シンキングとは「批判する」ことではなく、「**吟味する**」こと。
1)論理的・合理的な思考
2)内省的、熟慮的な思考
3)よりよい思考を行うための目標志向的思考

クリティカル・シンキングに基づく主な行動
- ・立ち止まって考える
- ・賛否両方の立場から考え評価する
- ・仮説を立てて検証する
- ・根拠に基づき、論理的に説明する
- ・目的、状況、相手の感情、文化、価値観等を考慮して実行する ※4

各教科等において育む資質・能力

※ 「クリティカル・シンキング」について目標や見方・考え方等においてその旨を言及している教科等もある

※1（出典）UNESCO (2013). Media and information literacy: policy and strategy guidelinesを元に、資料作成者が和訳したものであり、原文の一部を省略している
※2 山脇委員ヒアリング資料より抜粋し一部加工
※3（出典）OECD(2023). THE FUTURE OF EDUCATIONAND SKILLS : OECD Learning Compass for Mathematics.を元に、文部科学省で仮訳したものであり、原文の一部を省略している
※4（出所）「メディアリテラシー吟味思考を育む」（時事通信社、2022年）

「メディアリテラシー」に関する内容の考え方

- 「メディアリテラシー」に関する内容は、現行の情報モラルの考え方（**情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度**）と重複するものと、現行学習指導要領では明確に位置づけられていないものがあり不明確
- **「メディアリテラシー」に関する内容は、情報モラルとともに「②適切な取扱い」の一環として扱うことと整理し明確化**することが適当

② 情報技術の適切な取扱い

法や制度
情報技術に関わる法令・ルール、著作権等の権利、個人情報　他

倫理
情報社会におけるマナー、責任ある利用　他

安全・メディア理解
情報セキュリティ、危険回避、偽・誤情報、メディアや情報との関わり、健康影響　他

情報モラル（現行）

「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」（学習指導要領解説）

＜解説で示されている内容例＞

○ **ルール**や**マナー**を守り、自他の**権利**を尊重し　情報社会での行動に**責任**をもつ
○ 情報機器の使用による**健康**との関わりを理解する

「メディアリテラシー」（一部）

＜解説で示されている内容例＞

○ **情報には誤ったものや危険なものがある**ことを知る
○ 情報を**安全**に利用する
○ 情報発信による**他人や社会への影響**について考える

「メディアリテラシー」の重要な要素である、**情報の吟味**や**批判的な評価**、**デジタル社会への参画**といった要素が内容として**不明確**

「メディアリテラシー」に関して想定される学習内容イメージ（「要」となる教科等）

小学校

○ 情報メディアを介して得る情報には、**誤ったものや危険なものがある**ことから、**すぐ鵜呑みせずに吟味した上で判断する**

○ 情報メディアを介して得る情報は、**送り手が情報の一部を切り貼りするなど再構成して発信していたり、受け手によって情報に対する印象が異なって伝わるといった認識の下、情報を受発信する**　等

中学校

○ 情報メディアを介して得る情報は、**アルゴリズムによって受け手の嗜好に合わせた取捨選択が行われていたり、偽・誤情報も含まれる**ことから、**メディアを比較しながら、情報の信頼性や信ぴょう性を吟味し批判的に考察する**

○ 情報メディアを介して得る情報には、**人間の心理的傾向が働いたり、社会的・文化的な背景があるといった認識の下、情報を受発信する**　等

高等学校

○ 情報の発信などにおいて情報技術を活用する際には、**他者の権利や社会的責任を考慮し、安全で公正な行動を考える**（**情報を吟味**した上で、**あいまいな情報は不用意に用いない**）

○ **情報メディアの特性**（フィルターバブルやエコーチェンバー等）を踏まえつつ得られた情報を根拠に、問題解決に向けて**論理的に仮説・検証を繰り返す**　等

「AI自体を学ぶ」学習内容のイメージ

- 「AIは、情報活用能力育成の「要」となる教科等において扱うすべての情報技術や生産技術と密接に関係している」という認識に基づけば、AI自体を学ぶ内容（「②適切な取り扱い(緑)」「③特性の理解(青)」）は、内容項目横断的に以下の通り整理

- その上で「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえた個別の内容は、以下のような内容を明確化する方向で整理

※以下は、現時点で想定されるものを例示しており、プログラム開発の手法を含め今後の技術の進展に応じ、見直すことが必要であることに留意
※陳腐化の可能性等を踏まえ、指導要領では俯瞰的に規定した上で、解説や教材等で具体化するとともに、必要なアップデートを図れるようにする
※高校情報科は、高等教育段階の数理・データサイエンス・AIプログラムのリテラシーレベル、応用基礎レベルの一部の内容を概観できるように設計

高校情報Ⅱ

（3）AI
（4）先端技術と情報システムデザイン
（1）社会課題とデータサイエンス
（2）コンテンツデザイン
（5）創造的な課題発見・解決の実践

- AIの実装にあたっては、設計段階から倫理・法・責任の所在を踏まえる必要があること
- 信頼性・透明性に関するリスクや社会的影響を踏まえてAIを含む先端技術等を活用した情報システムを設計・検証・改善する必要があること
- AIで社会課題を分析するには、不完全なデータを適切に扱う前処理や判断が不可欠であること
- AIのリスクを踏まえた人間中心の設計と評価が不可欠であること

- 機械学習の基本的な仕組みや学習データの特性を踏まえAIモデルを構築すること
- AIを含む先端技術等を活用した情報システムを構成・実装することができること
- 様々なデータ・AIが社会課題の解決に役立てられていることを理解すること
- AIにより容易にコンテンツの設計・表現し、評価・改善を行うことができること

- 実社会の課題を扱う実践的な学びを通して、(1)~(4)の内容をAIの開発者・提供者の視点を含めより深く理解する

高校情報Ⅰ

（1）情報の仕組みと社会との関わり
（2）情報デザインとデザイン思考
（3）データ分析とモデル化・シミュレーション
（4）アルゴリズムとシステム開発
（5）情報及び情報技術を活用した課題探究

- AIが社会の情報の生成や流通に関与することで利便性とリスクが増幅することを理解すること
- AIは価値判断を行わず、受け手の理解や行動に影響を与えることを踏まえた情報表現を設計する必要があること
- AIの分析や予測は、データやモデルに含める要素の選択によって結果や意味づけが変わること
- ユーザーへの影響を考慮し、AI等の自律的に動作するプログラムを考える必要があること

- 直感的なUIにより、誰でもAIを扱えるようになった結果、情報の受け取り方や判断の在り方が変化していること
- AIを活用することで自らが意図した制作を多様な形式で行うことができること
- 大規模なモデルにより汎用的なタスクをこなすことや各領域に応用できること
- 自律的に動作するようなプログラムの特性を理解し、AIを含む情報システムを構成できること

- 探究的な学びを通して、(1)~(4)の内容をAIの利用者の視点を中心により深く理解する

中学校情報・技術科

1．情報技術
（1）計測・制御のプログラミングとシステム化
（2）コンテンツとデータ
（3）情報技術の発展と社会

2．情報を基盤とした生産技術

- AIの出力には誤りや偏り等を含む可能性があり、人の判断を尊重する必要があること
- AIの利用には権利侵害や悪用、誤情報等のリスクがあり、リスクを踏まえた活用が重要であること
- AIの社会や環境への影響を踏まえ、人の判断が関わる情報システムの活用が必要であること
- AIの正負の側面と応用の対象となる技術等の特性を踏まえて、評価・改善を通じて実装する必要があること

- AIは情報処理の手順を自動化するため、膨大なデータを学習して予測や判断を行い利便性を高めていること
- AIは言葉や画像等の多様な情報をデジタルデータとして処理し、新たな情報を予測・生成することができること
- 様々な立場の人が関与し、AIを他技術と組み合わせて情報システムをつくることで、複雑な課題を解決できること
- 生産技術に実装されたAIは、現実世界の情報を捉えて働き、生活や社会で営まれる作業を自動化すること

小学校総合

情報の領域

- AIには認知や行動に影響を与えるものや既存のリスクを増幅させるものを含むリスクがあること
- 依存のリスク等を踏まえ、AIに頼りすぎないことや自ら適切な距離を取る必要があること
- 出力された内容は最後は人間が判断する必要があること

- AIは既存のデータを基に予測・生成しており、出力結果には誤りや偏りが含まれること
- AIは様々な領域に応用されており、社会変革を促していること

「AIを活用して学ぶ」考え方のイメージ

- 情報活用能力育成の「要」となる教科等における、AIを正負の両面を理解した上で出力を批判的に評価しつつ利点を生かして活用する方策の考え方については、発達段階や生成AIの利活用に関するガイドラインの方向性を踏まえつつ、以下の通り整理

※以下は、現時点で想定されるものを例示しており、プログラム開発の手法を含め今後の技術の進展に応じ、見直すことが必要であることに留意
※陳腐化の可能性等を踏まえ、指導要領では俯瞰的に規定した上で、解説や教材等で具体化するとともに、必要なアップデートを図れるようにする

資質・能力の育成を行う観点から生成AIの活用が効果的か否かを吟味しつつ利活用をしていく必要がある。
※利活用にあたっての具体的なポイント等は技術の進展やそのリスク等の最新動向を踏まえた多角的な検討が必要であり、生成AIの利活用に関するガイドライン等で対応

小学校 総合（情報の領域）	中学校 情報・技術科	高校 情報Ⅰ	高校 情報Ⅱ
基本的な仕組みや特徴を理解するために体験的に活用	技術としてのAIを**原理や特性を踏まえて使い方を設計・判断・評価する対象**として捉え、**技術の学習過程を充実させる**ために活用	AIを**「多様な情報を結び付け、処理し、新たな情報を予測・生成する情報技術」**として捉え、**情報技術の科学的な理解を確かなものとし、それに基づく探究的な活動を含む学習過程**を充実させるために活用	
ミニ探究ユニットの中において体験的に活用する	**情報技術の領域** AIを補助的な役割として、情報やデータの整理・分析を含む問題発見や課題設定、設計及び制作の評価・改善の過程で活用するとともに、プログラミング等にも活用する	**（１）情報の仕組みと社会との関わり** 一つの情報としてAIの出力を捉え、予測・生成過程や前提を踏まえて妥当性・偏りを検討し、その情報が受け手の判断や行動に与える影響を考察する過程で活用する	**（１）社会課題とデータサイエンス** AIによる分析結果を唯一の根拠とせず、社会データの特性や前提条件、偏りを踏まえて解釈の妥当性を評価し、課題解決への有効性を検討する過程で活用する
		（２）情報デザインとデザイン思考 AIによる複数の画像・動画・音等の表現を比較し、目的や対象に照らして情報の構成や表現の違いを分析するとともに、受け手の理解や行動への影響を検討する過程で活用する	**（２）コンテンツデザイン** AIが生成した表現について、目的や対象を踏まえて誤解・偏見・不利益が生じる可能性を検討し、人間の判断で修正・再構成する過程で活用する
		（３）データ分析とモデル化・シミュレーション AIを用いてデータの傾向を把握し、その結果がどのような前提やモデルに基づくものかを理解するとともに、条件やデータの扱いを変えて結果の違いを検討する過程で活用する	**（３）AI** 構築したAIモデルの出力を比較・検証し、どのような前提や仕組みに基づく結果かを整理した上で、その有効性や限界を判断する過程で活用する
	情報を基盤とした生産技術 AIを補助的な役割として、問題発見や課題設定、設計及び製作・育成の評価・改善の過程で活用するとともに、問題解決のために生み出す仕組み等にも活用する	**（４）アルゴリズムとシステム開発** AIを用いて処理の流れを言語化してプログラムを作成し、入力・条件・出力の対応を踏まえて、アルゴリズムとして成立しているかや改善点を検討する過程で活用する	**（４）先端技術と情報システムデザイン** AIを組み込んだシステムについて、構成や設計条件を整理した上で、想定される影響やリスクを踏まえ、改善方針や運用上の留意点を考察する過程で活用する
		（５）情報及び情報技術を活用した課題探究 AIを活用して課題に関する情報を整理し、目的や制約に照らしてその活用の方法が課題解決に適しているかを評価・検討する過程を含めて活用する	**（５）創造的な課題発見・解決の実践** AIによる試作や分析結果を、目的や制約に照らして検証し、人間の判断によって社会実装に向けた解決策を改善・修正する過程を含めて活用する

「プログラミング的思考」の考え方

1．プログラミング教育のフロー（現行）

（※）小学校プログラミング教育の手引（第三版）（令和２年２月文部科学省）に基づき、作成

①問題を見いだす
例）コンピュータにどのような動きをさせたいのかという自らの意図を明確にする【自然言語】

②順序を考える
例）コンピュータにどのような動きをどのような順序でさせればよいのかを考える【自然言語】

③命令（記号）に置き換える
例）一つ一つの動きを対応する命令（記号）に置き換える【コード】

④組み合わせを考える
例）これらの命令（記号）をどのように組み合わせれば自分が考える動作を実現できるかを考える【コード】

⑤試行錯誤しながら改善する
例）その命令（記号）の組合せをどのように改善すれば自分が考える動作により近づいていくのかを試行錯誤しながら考える【コード】

問題解決

「プログラミング的思考」（※）の範囲

- 小学校におけるプログラミング教育の考え方として「自分が意図する一連の活動を実現するために、論理的に考えていく力」と整理

（※）自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを**論理的に考えていく力**

✓ **AI技術の進展やバイブコーディングの普及により、②～⑤はAIの活用により省力化できるようになる**
✓ **一方で、人間には、何を実現したいのかを構想し、生成・作成したものを責任を持ってどう判断するかを含め、全体を見通して考える力がこれまで以上に求められる**

2．改訂後イメージ

- 「プログラミング的思考」について、従来の考え方を**発展的に捉えなおし**、プログラミングによって何を実現したいのかを考える最初の段階や、生成・作成したものを責任をもって判断し問題を解決する最後の段階までを含む考え方とすることが適当である

※ AIを活用する場合にも、成果物の検証・改善や責任を持って活用するためには、コーディングをはじめプログラムを構成する仕組みや方法を理解することも引き続き必要となる
※ 以下のフローは主に高等学校段階を想定したものであり、小学校・中学校においては、発達段階に応じて内容や難易度を調整しながらプログラミング教育を実施することを想定

（AIを活用する場合のプログラミング教育のフロー）

①実現したいことを構想する
例）コンピュータを用いて実現したい価値や、目的を明確にする【自然言語】

②課題や条件を整理する
例）AIに任せること、自身で対応できることを手順ごとに整理する【自然言語】

③AIに指示する
例）考えた順序の通りに動かせるようAIに指示する【自然言語／コード】

④生成・作成したものの妥当性を検討する
例）目的通りの動きをするか、他者等への影響はないか考える【自然言語／コード】

⑤試行錯誤しながら検証・改善する
例）どのように改善すれば自分が考える動作により近づいていくのかを試行錯誤しながら考える【自然言語／コード】

⑥責任をもって判断し問題を解決する

「プログラミング的思考」を発展的に捉え、情報活用能力育成の「要」となる教科等において体系的に育成する

教育課程におけるプログラミング教育の方向性

- 従来の「プログラミング的思考」を発展的に捉えなおす方向性に合わせ、学習内容についても、何を実現したいのかを構想し、生成・作成したものを責任をもって判断し問題を解決することまで含めて、課題解決全体を見通して考える力を育成できるものへとアップデートを図る必要
- また、情報活用能力育成の考え方に基づき、「要」となる教科等で育成し、他の各教科等において機能する関係と考えることが適当である

1．プログラミングに関する学習内容の方向性

「プログラミング的思考」を発展的に捉えなおし、引き続き育成する

✓「プログラミング的思考」の育成という目的は普遍
✓ 学校段階ごとに系統的に指導する

（学習内容）

Before（現行）	After（改訂後イメージ）
正しく作れるか（手順・コード中心）	**どう使って価値を出すか（システム・プロセス中心）**
＜小学校＞ プログラミングを体験しながら、意図した処理を実現するための手順を順序立てて考え、正しく実行させることを通して論理的思考力を育成する **＜中学校＞** 課題解決の手順を図などで整理し、プログラムの作成・動作確認・デバッグを通して、正確に動作するように作り上げる力を育成する **＜高等学校＞** プログラミングやシミュレーション、情報システムの開発を通して、問題解決の手順を設計し、意図どおりに正しく機能するように実装する力を育成する	**＜小学校＞** 身の回りには、プログラムによって便利に動いているものがあることに気づき、生活をより便利にする仕組みをプログラミングしてみようと考える プログラミングの体験を通して、順次・分岐・反復といった手順を理解し、簡単な課題解決に活用しながら、身近な場面で価値を生み出す使い方を学ぶ **＜中学校＞** アルゴリズムやデータ構造を理解し、センサー等も扱ったプログラムで情報システムの仕組みを表現・改善しながら、目的に応じて活用し価値を創出する力を育成する **＜高等学校＞** 情報Ⅰ：プログラミングを用いて、要件定義、設計、実装、テスト、改善までを含めたシステム開発を行う 情報Ⅱ：先端技術等を活用し、組み合わせ、試作・検証・改善を繰り返しながら、課題解決・価値創造につなげる構想・実現する学習プロセスを重ねる

2．各教科等の関係

各教科等の文脈で強化され、
情報活用能力育成の「要」となる教科等での
「プログラミング的思考」の育成にも還元

「要」となる教科等 ⇔ **各教科等**

核となる教科等において、「**プログラミング的思考**」を育成し、
各教科等の学びで効果的に機能

現行では小学校は各教科等の学びを確実にすることをねらいとしてプログラミングを体験する

例①）小学校・算数
プログラミングを用いて、正多角形の意味をもとにした正多角形をかく方法を考える

例②）小学校・理科
人感センサーや照度センサーを使い、人の有無や明るさによって、自動的に扇風機を制御するプログラミングの体験をする

次期では「要」となる教科等においてプログラミング的思考を育成する

小学校 総合（情報の領域）で実施

例)絵を表示し、動かしたり、大きくするプログラムを作成する【中学年】
例)おそうじロボットの動きや仕組みを調べ、順次、分岐、反復などのプログラムの基礎を学びながらオリジナルロボットの動きをプログラムし改良する【高学年】

総合的な探究の時間　①情報の領域の内容項目間の関係

目標

よりよく課題を発見・解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力について、**情報活用能力を効果的に発揮した探究**を通して、育成することを目指す

領域

「情報の領域」について「探究の領域」を基盤として支えるものとして位置付ける

- 探究の領域：**探究活動**（従来行われてきた総合の学びが情報の領域の付加により、活動内容・活動成果ともに充実）
- 発揮することで育む ⇄ 基盤として支える
- 情報の領域：**ミニ探究ユニット**（探究のプロセスにおいて情報活用能力の諸要素を学びながら活用する小単元）／**情報ブロック**（情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまり）

内容項目（情報の領域）

① 情報技術の活用

必要な情報を**集めて整理**し、**分かりやすく表現**しながら、**身近な課題を解決**できる

課題の設定　情報の収集　整理・分析　まとめ・表現　基本的な操作

- 情報モラルやメディアリテラシーを含む情報技術の適切な取扱いを身に付けることで、情報技術に関するリスクを回避・低減し、安心して効果的に活用することができる

- 情報技術の科学的な特性を理解することで、情報技術の利点と弊害、限界を踏まえ、より効果的に活用することができる

体験的な活動を重視し、①を中核としながら、
②、③と相まって培うことで、
「探究の領域」を支える**情報活用能力を総合的に育成**
（「探究の領域」で情報活用能力を発揮することが前提）

② 情報技術の適切な取扱い

情報技術の特性やリスクについて理解し、メディアリテラシーを働かせながら、ルールやマナーを守り、他者や社会への責任を考え、安全に活用できる

法や制度　倫理　安全・メディア理解

③ 情報技術の特性の理解

情報技術の**基本的な仕組みを理解**し、**考えた手順を基に**解決策を構想・表現できる

情報及びコンピュータ　AI　アルゴリズム・プログラミング　デザイン

データの扱い　コミュニケーションやメディア　社会的役割

- 情報技術の特性を理解することで、限界やリスク、影響を正しく捉えることができ、より適切に取扱いえる
- また、適切な取扱いを踏まえた情報技術の活用の経験が、特性の理解を深めることにもつながる

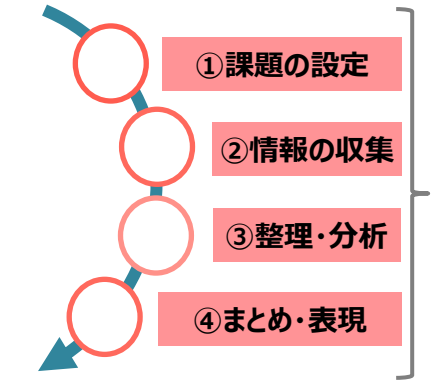
②内容のまとまり間の関係（総合 情報の領域）

内容項目

情報技術の活用	情報技術の適切な取扱い	情報技術の特性の理解
必要な情報を**集めて整理**し、**分かりやすく表現**しながら、**身近な課題を解決**できる	**情報技術の特性やリスクについて理解し、メディアリテラシーを働かせながら、ルールやマナーを守り、他者や社会への責任を考え、安全に**活用できる	情報技術の**基本的な仕組みを理解**し、**考えた手順を基に**解決策を構想・表現できる
探究のプロセスの中で、課題解決に向けた各場面で必要な情報技術の活用方法や技能を身に付ける	３つの分野を偏りなく相互に関連付け、メディアリテラシーや情報モラルを身に付け、正負の側面に対処する	発達の段階に応じて、７つの分野の仕組みや科学的な特性を偏りなく、多面的に理解する

内容のまとまり

＜探究のプロセス＞

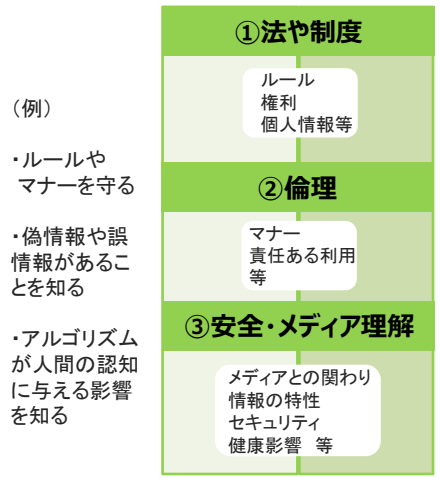


各場面で方法・技能を一体的に学習する関係

必ずしも探究のプロセスに限らない学習活動の中で、必要に応じて未習得の情報技術の操作方法等を学ぶ

相互に補完し合う関係

3分野を結び付け身に付ける情報モラルとともに、メディアリテラシーを働かせる



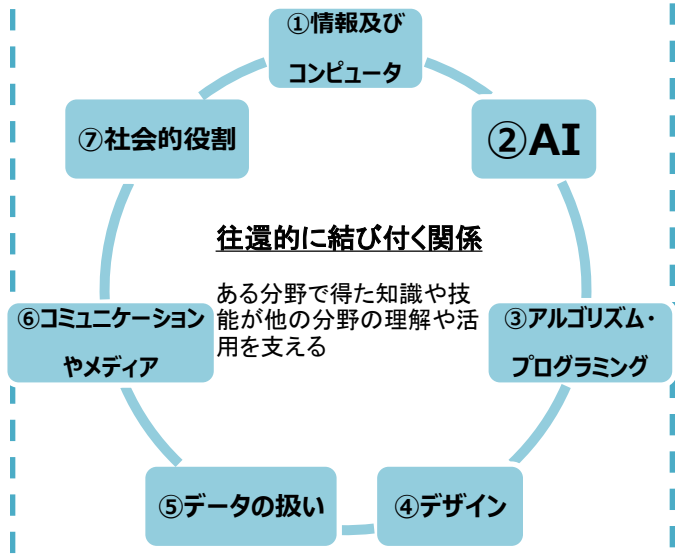
（例）
・ルールやマナーを守る
・偽情報や誤情報があることを知る
・アルゴリズムが人間の認知に与える影響を知る

（例）
・情報を吟味することの重要性を理解する
・情報の信頼性を確認したり、判断を留保したり、誤情報を拡散しないようにする
・多様なメディアを比較して、情報を吟味する

情報モラル　メディアリテラシー

「クリティカル・シンキング（情報の吟味）」
※各教科等の学習過程の中で具体的に働くもの

※「メディアリテラシー」は、各教科等の学習過程の中で育まれた「クリティカル・シンキング」を統合的に働かせて育成するものとして整理。



往還的に結び付く関係

ある分野で得た知識や技能が他の分野の理解や活用を支える

※　上記7項目については、日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会『情報教育課程の設計指針』における内容・範囲を参照して整理

※ 上記の内容は、「ミニ探究ユニット」（探究のプロセスにおいて情報活用能力の諸要素を学びながら活用する小単元）として探究のプロセスに位置付けられるものは位置付けつつ、位置付けることが難しいものについては「情報ブロック」（情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまり）として独立した形で柔軟に学ぶこととなる

情報の領域
内容のまとまりごとの学習イメージ

第３学年

情報技術の適切な取扱い

① 法や制度

a. 著作権
・ファイルの共有や共同編集をしながら、勝手に消さないなどの使い方のルールを考え、人のデータの扱い方を確かめる

b. 情報に関わる権利
・作品をコピーしたり書き換えたりする体験を通して、デジタルでは簡単に複製できることや、人の作品を大切に扱う必要性について考える

② 倫理

a. ルールを守る大切さ
・クラスメイトと文章やスライドを共同編集した記録を見ながら、文章を誰かが消したり、書き換えることで困ることなどに気づき、情報を大切に扱う理由やルールについて話し合う

③ 安全・メディア理解

a. 受け取る情報の特徴
・文章や画像それらを組み合わせたものを例に、全ての情報は切り取られており、受け取る印象が異なることや、情報は再構成されていること、情報の真偽を意識することについて考える

b. 利用時間と影響を知る
・１日の端末の利用時間やその内容を振り返りながら、長時間利用による目の疲れなど健康や生活への影響を知り、自分なりの賢い付き合い方を考える

c. ID・パスワード管理
・ID・パスワードの変更や管理を体験しながら、情報を守るために秘密にして大切に扱うことについて考える

情報技術の特性の理解

① 情報及びコンピュータの原理

a. コンピュータと生活の関わり
・学校や家庭で便利だと感じる場面を振り返り、コンピュータやAIが使われているものをスライドにまとめて発表しながら、身近な生活との関わりを確かめる

b. コンピュータとアクセシビリティ
・画面の明るさや文字の大きさ、音量などを調整することで情報機器が多くの人にとって使いやすくなる工夫がなされていることを知る
・スライドに合わせてナレーションを録音・修正し、音声を加えることで内容が伝わりやすくなることを知る

③ アルゴリズム・プログラミング

a. コンピュータに意図した処理を行わせる
・プログラムを使って、命令の順番によって動きが変わることを確かめる
・作った作品を見せ合い、感想を伝え合いながら動きや表現を工夫してプログラムを改良する
・好きな楽器の音を組み合わせてリズムを作るプログラミングを体験し、自分の考えた表現をコンピュータで実現する活動を行う

④ デザイン

a. 情報の整理・可視化
・スライド編集ソフトで情報を整理し、表や図、画像等を用いて情報を分かりやすく伝えるための表現方法を知る

⑤ データの扱い

a. データの保存・管理・検索
・写真や動画・文書等を作成し、保存しながら、クラウド上の保存ファイルの場所の確認や、ファイルの複製、フォルダに整理・保存・検索する方法を知る

⑥ コミュニケーションとメディア

a. メディアの仕組みを知る
・文字・画像・音について、単独の場合と組み合わせた場合の伝わり方を比較し、コンピュータではそれらを組み合わせたり加工したりできることを知り、情報の組合せ方によって分かりやすく相手に伝えられることを確かめる

※ 内の情報ブロックは、ミニ探究ユニットにおいて、探究のプロセスに位置付けて学ぶ（以下 で記載）

※情報ブロック：情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまり
ミニ探究ユニット：探究のプロセスにおいて情報活用能力の諸要素を学びながら活用する小単元

情報技術の活用

適切な取扱いや特性の理解で学んだことを総合的に活用し、リアルな課題を解決しながら、生活や将来に繋がる力にする

ミニ探究ユニット例❶「おもしろい生き物の図鑑をつくろう」

①課題の設定 総合的に活用（ ①b. ④a. ⑤a. ）
・おもしろい生き物についてインターネット検索で情報を集め、図鑑にまとめることを課題として設定する

②情報の収集 総合的に活用（ ①a. ③b. ①a. ）
・インターネットで情報を検索したり、文書作成ソフトで貼り付けてファイルを作成し、適切かつ効率的にデータやファイルやフォルダを整理・管理する方法を知る
・インターネット検索を通して情報を集め、ファイルに名前を付けて保存し、整理し蓄積する
インターネット検索
⑤a. データの保存・管理・検索
ファイルの作成

③整理・分析 総合的に活用（ ①b. ①b. ）
・収集したおもしろい生き物の画像や説明などを共有フォルダに整理して保存する
・スライド編集ソフトを使って、蓄積した情報を整理して入力したり、文字の大きさや形、配置等を工夫して見やすくしたりする
フォルダの整理
④a. 情報の整理・可視化

④まとめ・表現 総合的に活用（ ②a. ⑥a. ）
・スライド編集ソフトを使って、表や図をつくり、画像と説明文を組み合わせて、わかりやすく表現する方法を知る
・おもしろい生き物図鑑を作成し、友達と共有フォルダを活用して交流する
④a. 情報の整理・可視化
スライドの作成・交流

ミニ探究ユニット例❷「学校の自慢を写真や動画で紹介しよう」

①課題の設定 総合的に活用（ ③a. ⑥a. ）
・学校の自慢を写真や動画を使って紹介することを課題として設定する

②情報の収集 総合的に活用（ ③c. ①a. ）
・学校の自慢を写真や動画で撮影して情報を集め、ファイル名を付けて整理し記録する
・撮影した写真や動画を保存・蓄積したり、トリミングして整えたりする方法を知る
写真・動画の撮影
⑤a. データの保存・管理・検索

③整理・分析 総合的に活用（ ②a. ）
・スライドの構成を工夫して、情報を効果的に伝えるための文字・写真・動画・音を配置する方法を知る
・写真を思考ツールを使って整理したり、写真にコメントを付けて分類したりしながら選定する
④a. 情報の整理・可視化
コメント・分類

④まとめ・表現 総合的に活用（ ③a. ⑥a. ）
・スライドに合わせてナレーションを録音し、聞き取りやすさを確認しながら撮り直す方法を知る
・作成したスライドを分かりやすく修正・工夫し、学校の自慢を複数のスライドを使って発表する
①b. コンピュータとアクセシビリティ
スライドの作成・発表

・基本的な操作

a. タイピング ・キーボードで文字を入力する基本的な方法を学ぶとともに、Web上の練習サイト等を使ってみながら、慣れるまで反復することが大事であることに気付く

b. クラウドの使い方 ・各教科等の学習活動で活用するクラウド上の汎用的なアプリケーション（文書作成ソフト、表計算ソフト等）について、基本的なアクセス方法や簡単な操作をまとめて学ぶ

※メディアリテラシーに関する内容は、個別の情報ブロックで指導した上で、すべての情報ブロックやミニ探究ユニットにおいて働かせることに留意

※ミニ探究ユニットは仮のイメージであり、予算事業等を通じた教材の検討過程で具体化を図る

情報の領域
内容のまとまりごとの学習イメージ

第４学年

情報技術の適切な取扱い

① 法や制度

a. 著作権
・©マークやWebページの注意書きを調べ、作品には作った人の権利があることや使う際の配慮について考えた上で、引用や出典の書き方を確かめながら、情報を正しく扱う意味について考える

② 倫理

a. ルールを守る大切さ
・インターネットで情報を調べたり発信したりする場面をもとに、写真の公開や書き込みの影響について考えるとともに、投稿内容が長く残る事例を確かめながら、自分や他人の情報を安易に公開しないことの大切さについて考え、自分の行動が社会にどのような影響を与えるかについて考える

③ 安全・メディア理解

a. 受け取る情報の特徴
・同じ写真をもとに、全体や一部を切り出して情報を伝えようとする体験を通じて、同じ事物でも伝え方や内容が変わり、受け手の印象も変わることを確かめる。また、偽・誤情報の例をもとに、AIも含めて情報を鵜呑みせずに立ち止まって考えたり、真偽がはっきりしない情報は活用しないことも含めて考える

・SNSで発信した情報がすぐに拡散していく場合があることや、SNSで流れている情報にはどのようなものがあるかなどを知り、情報技術の特性による便利さと危険性を整理し、その仕組みが生活に与える影響について考える

b. 計画的な利用
・家庭などでの端末やデジタル機器の使い方を振り返り、使い過ぎや夜遅くまでの利用が睡眠に与える影響に気付き、使う時間や場面を見直しながら、自分なりの端末の利用計画を立てる

c. セキュリティ
・フィッシングサイトの疑似体験を通して、情報を鵜呑みにせず、偽サイトの見分け方を確かめ、安全な行動や相談の仕方について考える

情報技術の特性の理解

① 情報及びコンピュータの原理

a. インターネットやSNSの仕組みや特徴
・動画教材などでSNSの種類や基本的な仕組みを調べ、便利な点と問題点を出し合いながら、使い方による影響の違いについて考える

・インターネットやSNSの特徴を知り、複数の情報を比較して判断することの大切さを知る

b.クラウドの仕組みや特徴
・クラウド上で回答形式を工夫したウェブアンケートを作成し、共有して情報を集める方法を知る

③ アルゴリズム・プログラミング

a. コンピュータに意図した処理を行わせる
・センサやスイッチで動く機器を調べたり簡単なプログラミングを体験したりしながら、情報を受け取って判断し、動作する仕組みを確かめる

b. コンピュータの有用さを知る
・作ったプログラムの動きを確かめながら不具合を修正することを通して、コンピュータを使った問題の解決を体験する

④ デザイン

a. 情報を整理して可視化する
・表計算アプリで目的に応じて適切に情報を伝えることができるグラフの表現や、配色、表示項目等の表現方法を知る

・クラウド上でグラフを作成して可視化し、分かりやすく表現して共有し、情報の伝わり方の違いを確かめる

⑤ データの扱い

a. データを安全に共有する工夫
・共同編集や閲覧・編集の権限設定を体験しながら、設定による違いを確かめ、権限設定により目的に応じて安全に共有する方法について考える

b. データの種類に合わせ可視化する
・データの種類や分析の目的に応じた表や様々なグラフを適切に可視化する方法を知る

・表計算アプリでデータを可視化した表や様々なグラフをもとに複数の種類のグラフ等を比べながら、分析して考察する

⑥ コミュニケーションとメディア

a. 情報を写真や動画に加工する
・端末のカメラやマイクで集めた情報を写真や動画に編集しながら、加工によって情報の伝わり方が変わることをかめる

※ 内の情報ブロックは、ミニ探究ユニットにおいて、探究のプロセスに位置付けて学ぶ（以下 で記載）

※情報ブロック：情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまり
ミニ探究ユニット：探究のプロセスにおいて情報活用能力の諸要素を学びながら活用する小単元

情報技術の活用

適切な取扱いや特性の理解で学んだことを総合的に活用し、リアルな課題を解決しながら、生活や将来に繋がる力にする

ミニ探究ユニット例❸ 「みんなの『好き』をポスターにまとめよう」

①課題の設定 総合的に活用（ ③b. ④a. ⑤b. ）
・クラスの友達の興味・関心の傾向をランキングで明らかにすることを課題として設定する

②情報の収集 総合的に活用（ ②a. ）
・ウェブアンケートで、記述式や選択式などの回答の種類や回答数を設定し、答えやすい質問を考えて作成する。その際、SNSなどでURLを共有し情報を集められることを知る
・ ウェブアンケートを作成して回答を募集したり、友達のウェブアンケートに回答したりする
①b. クラウドの仕組みや特徴
Webアンケートの作成・回答

③整理・分析 総合的に活用（ ③a. ⑤b. ）
・様々なグラフを比較しながら、どのグラフを使うと分かりやすいのかを考え、データの表し方によって印象が変わることを知る
・アンケート結果を表計算ソフトを使ってグラフにし、傾向を比較・検討する
④a. 情報の整理・可視化
表・グラフの作成

④まとめ・表現 総合的に活用（ ②a. ⑤a. ）
・クラウド上で共同編集しながら、グラフや文字を用いて分析結果をポスターにまとめる。オンライン授業ツールで、ポスターを相互に参照し、コメントを付け合うなどして交流する方法を知る
・整理・分析したみんなの好きに関する情報をポスターで表現して発表する
④a. 情報の整理・可視化
作品の共同編集・交流

ミニ探究ユニット例❹ 「デジタル技術の正と負の側面を踏まえたマイルールをつくろう」

①課題の設定 総合的に活用（ ②a. ③b. ）
・端末の使用傾向から問題状況を見出し、マイルールをつくることを課題として設定する

②情報の収集 総合的に活用（ ③a. ）
・インターネットやSNSの大まかな特徴や、生活や学習で役立つことや困ったことを出し合う。また、複数のウェブページを閲覧・比較しながら情報の内容が異なることを知る
・SNSに関する情報を学習支援ツールの掲示板機能やチャット機能、インターネットを使って収集する
①a. インターネットやSNSの仕組みや特徴
掲示板・チャットの閲覧・収集

③整理・分析 総合的に活用（ ②a. ⑤b. ）
・クラウドを使って情報をグループに分けたり並べ替えたりして整理し図で表し、分析する方法を知る
・「こうしたら気持ちよく使える」「こうすると困りごとが起きやすい」などをグループで話し合いながら、収集した情報を整理し、SNSの使い方を表計算ソフトを使って表・グラフ化して分析する
④a. 情報の整理・可視化
表・グラフの作成

④まとめ・表現 総合的に活用（ ③b. ④a. ⑤a. ）
・SNSを安全に使うためのマイルールをスライドでまとめ、オンライン掲示板で共有する
・SNSの仕組みの良い点と悪い点について話し合い、拡散の速さと多くの人に伝わる仕組みが便利さと危険の両方につながっていることを知る
オンライン掲示板での交流
③a.受け取る情報の特徴

※メディアリテラシーに関する内容は、個別の情報ブロックで指導した上で、すべての情報ブロックやミニ探究ユニットにおいて働かせることに留意

※ミニ探究ユニットは仮のイメージであり、予算事業等を通じた教材の検討過程で具体化を図る

情報の領域 内容のまとまりごとの学習イメージ 第５学年

情報技術の適切な取扱い

① 法や制度

a. 知的財産
・身近なロゴやキャラクター、音楽などを調べて分類しながら、知的財産を守る理由や守られない場合の影響について考える

b. 個人情報
・身近な情報の中から個人情報につながるものを話し合い、情報を守る方法や肖像権などについて考えながら、自分の端末設定や使い方を見直す

c. AI等に係る権利
・AIが作った文章や画像を見て、著作権や利用ルールについて考え、使用時の注意点をまとめる

② 倫理

a. 責任ある利用
・インターネット上のトラブル事例を調べる。また、どのような行動がそのような事態を生んだのか話し合い、情報社会で守るべき責任や行動について整理し、社会でどのように行動したらいいか考える

③ 安全・メディア理解

a. 受け取る情報の特徴
・報道メディアと、様々な情報が様々な人から発信される場であるSNSとの違いを知り、情報の信頼性や影響、情報メディアごとの特徴を整理して、多様なメディアとの接し方を考える

・表現の工夫やプライバシーへの配慮、情報発信元への反応や評価を受け手が簡易に行うことのできる仕組みの影響など、メディアの情報の特徴を考える

b. 利用時間のルールを立てる
・学校や家庭での端末の使い方を振り返り、視力や姿勢、生活リズムなど健康との関わりを整理し、適切な利用時間ルールを考える

c. セキュリティ
・コンピュータウイルスや情報漏えいなどの事例をもとに危険や対策を整理し、ソフトウェア更新やメールの扱い方など、自分にできる情報セキュリティ対策を考える

情報技術の特性の理解

① 情報及びコンピュータの原理

a. ネットワークやセンサー
・ネットワークや海底ケーブルの図を踏まえ、情報通信の仕組みを調べる。また、身近な機器に使われるセンサーの種類や働きを確かめる

② AI

a. AIを体験する
・画像判定AIに身近な物の画像を読み取らせ、AIが多くのデータを学習して動くことや、判定を間違える場合があることを確かめる

③ アルゴリズム・プログラミング

a. 手順を考える
・身近な生活の中で、自動で動く機械の仕組みを調べ、その手順を図に整理して説明する

・自動で動く手順には、物理的な技術と情報技術が組み合わさっていることを知る

b. プログラミングを行う
・プログラムによる処理の流れを考えながら作成し、命令の順序によって結果が変わることを確かめる。
・条件や繰り返しを用いたプログラムを作成し、結果を確かめながら改善する方法を知る。
・作成したプログラムを比較し、よりよいものとなるよう改善する

・ロボットの基本動作を順序立ててプログラムで再現し、プログラムが身近な課題の解決に活用できることを知る

c. センサーを活用する
・センサーの値をもとに条件分岐を設定し、ロボットの動きが変わることを確かめる

⑤ データの扱い

a. データの保存・管理・検索
・画像、文書、音楽、動画などのファイルの種類や名前、日付などによるファイルの整理・検索方法を通して、データの扱いに関する特性や構造化について知る

・ファイル形式や保存設定によるデータ容量の違いを知り、適切に保存する方法を知る

⑥ コミュニケーションとメディア

a. SNSの表現と特性
・SNSの利便性や、文字・画像・動画・音の伝わり方の違いを比較し、メディアの表現方法による印象の違いを考える

⑦ 社会的役割

a. 身近な情報技術の役割
・身近な情報技術の事例をもとに、役割や社会での働きを考え、情報社会における情報技術の役割についてまとめる

※ 内の情報ブロックは、ミニ探究ユニットにおいて、探究のプロセスに位置付けて学ぶ（以下 で記載）

※情報ブロック：情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまり
ミニ探究ユニット：探究のプロセスにおいて情報活用能力の諸要素を学びながら活用する小単元

情報技術の活用

適切な取扱いや特性の理解で学んだことを総合的に活用し、リアルな課題を解決しながら、生活や将来に繋がる力にする

ミニ探究ユニット例❺「友達の好きや得意を紹介する動画をつくろう」

①課題の設定 総合的に活用（ ②a. ⑤a. ⑥a. ）
・友達の好きや得意についてのインタビュー動画を使って、CM動画を作成することを課題として設定する

②情報の収集 総合的に活用（ ①b. ）
・インタビューにおける質問、画角、音量、配慮事項（プライバシー、肖像権、話す人が安心できる環境整備、データの保存方法や取扱いなど）を踏まえて動画の撮影を計画する
・インタビュー撮影の目的や内容を説明し、撮影の許可を得ることができた友達に、動画の撮影をしながらインタビューする

③a.受け取る情報の特徴
インタビューの録画・録音

③整理・分析 総合的に活用（ ⑥a. ）
・ファイルの形式ごとの種類や特性、ファイルの保存の設定や形式の違いによるデータ量の違いについて知る
・インタビュー動画から、必要な場面をカットするなどしてCM動画のパーツを作る

⑤a. データの保存・管理
動画の素材づくり

④まとめ・表現 総合的に活用（ ②a. ⑦a. ）
・パーツを組み合わせ、テロップを入れて編集し、CM動画で表現して発表しまとめを行う
・完成したCM動画を視聴し合い、オンライン掲示板を使って、「いいね」やコメントを伝え合う。与える影響について考える。

動画の作成・発表
受け手の反応からメディアの
③a.受け取る情報の特徴

ミニ探究ユニット例❻「プログラムでオリジナルロボットを作ろう」

①課題の設定 総合的に活用（ ③a. ③b. ⑦a. ）
・自分のお掃除ロボットをデジタルで描き、プログラミングで動かすことを課題として設定する。

②情報の収集 総合的に活用（ ①a. ③c. ）
・ロボットの行動パターンを記録し、「センサなどで感知→プログラムに従って判断→モータなどで動作」という流れがあり、実際にプログラミングでロボットの動きとして再現できることを知る
・「前に進む」「もし〇〇なら」の手順やイベントなどのプログラムを設計し、ロボットの動きを再現する

③a. 手順の構想
プログラムによる創作

③整理・分析 総合的に活用（ ⑤a. ）
・オリジナルロボットの動きをフローチャートにまとめることを知り、簡単なプログラムを設計・制作する
・ロボットが進む・止まる・向きを変えるなどの動きを考え、動きを確かめながらプログラムを改良する

③b. プログラムの作成
プログラムによる創作

④まとめ・表現 総合的に活用（ ③b. ⑦a. ）
・友達のロボットを体験し合い、自分のオリジナルロボットのプログラムを評価し、改善する
・プログラムの操作や工夫、今後どのようなプログラムを作ってみたいかを考えたことをスライド動画でまとめたり発表したりして、プログラムによって身近な課題を解決できることを話し合う

③b. プログラムの作成
プログラムの評価・改善

※メディアリテラシーに関する内容は、個別の情報ブロックで指導した上で、すべての情報ブロックやミニ探究ユニットにおいて働かせることに留意

※ミニ探究ユニットは仮のイメージであり、予算事業等を通じた教材の検討過程で具体化を図る

第６学年

情報技術の適切な取扱い

①　法や制度

a.　情報発信に係る法や制度
・SNS投稿の拡散による炎上やプライバシー侵害、犯罪につながる事例を知り、誹謗中傷や個人情報の無断公開などが法律で問題となることを踏まえ、適切な情報社会の一員として責任ある情報発信の在り方について考える

・AIが作る文章や画像は、誰かが作った作品を学習している場合があることを知り、著作権など創作者を守る法や制度を通して、ルールを踏まえたAI活用について考える

②　倫理

a.　AIを使うときのマナー
・AIで作られた文章や画像を発表・共有する際に、出典の明記やデータの安全性、差別や偏見への配慮などの責任について整理し、自分が学習や生活でAIを使う際の注意点をまとめ、社会の中でどのように活用していくか考える

③　安全・メディア理解

a.　情報の偏りと多角的な見方
・SNSや動画投稿サイトを体験しながら、アルゴリズムによって個々の人に合わせた投稿が表示されやすいことに気付く
また、エコーチェンバーやフィルターバブルの仕組みを踏まえて、情報の受け止めに自分のバイアスがあることを自覚しつつ、多角的に情報を捉える姿勢について考える

b.　情報の信頼性を確かめる
・偽情報や誤情報の事例をもとに、複数の情報源での確認や発信元の調査など、情報の信頼性を可能な限り確かめる方法を考えながらも、誤情報や曖昧な情報は用いず拡散しないことなど、情報との向き合い方についてグループでまとめ、共有する

c.　ネット利用と生活習慣の見直し
・インターネット依存の事例をもとに、サービスの中には興味を強く引き付け続ける仕組みになっているものがあることなどを確認し、自分の利用を振り返って、健康的な生活のためのルールや時間の使い方を考える

d.　不正アクセス
・サイバー犯罪の事例や影響を調べて対策をまとめるとともに、新しい手口が次々と現れ、それに合わせて対策も変わっていることを確認する。また、不正アクセスの仕組みを振り返り、IDやパスワード管理、認証方法などの安全対策について整理する

情報技術の特性の理解

①　情報及びコンピュータの原理

a.　コンピュータの入出力を認識する
・コンピュータの入出力の仕組みを振り返り、身近な機器の例から「入力→処理→出力」の働きを調べてまとめる

③　アルゴリズム・プログラミング

a.　アルゴリズムの工夫
・手作業とコンピュータによる並べ替えや検索を比較し、速さや正確さ、手順の違いで結果が変わることを確かめる

b.　プログラムの作成
・特定の動作に反応して複数のプログラムを作る方法を知る

②　AI

a.　AIを体験する
・AIに質問や依頼を入力し、その応答を読み取ったり友達と比較したりして、同じ入力でも答えが異なることや対話の仕組みに気付く

b.　AIの仕組みを知る
・AIに質問や画像生成を行い、入力の仕方で結果が変わることや誤情報が含まれる場合があることを確かめ、指示の工夫について考える

・AIへの様々な指示による結果を比較し、AIのハルシネーションや得意・不得意を知るとともに、人が結果を確認する大切さについて考える

④　デザイン

a.　効果的なデザインを考える
・デザインや画像編集の工夫で伝わり方が変わることを体験し、わかりやすく効果的に伝える情報の表現を考える

・情報を効果的に表現するために、AIの利点や注意点を理解し、責任に配慮しながら人とAIが協力して創作する方法を考える

⑥　コミュニケーションやメディア

a.　動画を編集する
・画像、動画・音の編集の仕方を知り、動画等の複数の表現メディアを統合した表現メディアの作成等の体験を通して情報の構成と伝わり方の関係について考える

b.　メディアの特性を知る
・フィルターバブルやエコーチェンバーが生じる仕組みを知るとともに、インターネットだけでなく、身近な集団の中でも似たようなことが起こり得ることを、自分の経験と結び付けて考える。

⑤　データの扱い

a.　分析したデータの比較
・アンケート結果を共同編集で分析した後、生成AIの分析と比較し、違いや気付きを共有する

・実際に集めたデータと生成AIによる情報を比較し、データを多角的に捉える方法を知る

⑦　社会的役割

a.　未来の社会と情報技術
・未来の社会での情報技術の役割や影響を考え、よりよい活用のあり方をまとめ発表する

※［　］［　］内の情報ブロックは、ミニ探究ユニットにおいて、探究のプロセスに位置付けて学ぶ（以下［　］［　］で記載）

※情報ブロック：情報技術に関する基礎的な内容を学ぶ小さなまとまり
ミニ探究ユニット：探究のプロセスにおいて情報活用能力の諸要素を学びながら活用する小単元

情報技術の活用

適切な取扱いや特性の理解で学んだことを総合的に活用し、リアルな課題を解決しながら、生活や将来に繋がる力にする

ミニ探究ユニット例❼　「生成AIの特性やリスクを理解して創作しよう」

①課題の設定　総合的に活用（ ②a. ②a. ③b. ）
・「AIを使って作品を制作するときに気をつけることは何か」を課題として設定する

②情報の収集　総合的に活用（ ②a. ）
・AIに同じ質問でも表現を変えたり、難しい質問や曖昧な指示を出したりして結果を比較する。また、AIの得意なことと苦手なことを整理し、人が確認する必要があることを知る　②b. 生成AIの仕組み
・検索サービス、翻訳などAIが利用されている場面を調査する　生成AIの入出力

③整理・分析　総合的に活用（ ②a. ）
・AIの学習元となるクリエイターの意見を調べ、作品には作者の権利があることを知る　①a. 情報発信に係る法や制度
・調査した情報を整理し、AIの使い方に留意しつつ、作りたいポスターや動画を試作する　試作的な制作

④まとめ・表現　総合的に活用（ ③b. ⑦a. ）
・AIを活用して作成したポスターや動画の発表会を通して生成AIの留意点を考える　生成AIの活用・創作
・AIを使うと効果的な場面と注意が必要な場面（著作権、バイアス、情報の不正確さ）を知り、便利さだけでなく責任も伴う技術であることを踏まえ、AIと人が協力して創作する感覚をもつ　④a. 効果的なデザイン

ミニ探究ユニット例❽　「プログラムでデジタルガイドブックをつくろう」

①課題の設定　総合的に活用（ ①a. ③b. ③a. ）
・町のおすすめスポットを紹介するデジタルガイドブックをつくることを課題として設定する

②情報の収集　総合的に活用（ ②a. ③a. ②a. ）　インターネット検索
・町のおすすめスポットの位置やその場所に関する情報をインターネット検索やAIを活用した情報収集をする
・クラスの収集した結果と生成AIの結果を比較して、多面的・多角的に捉える　⑤a. データの比較

③整理・分析　総合的に活用（ ③b. ③a. ）　③b. プログラムの作成
・画面上の特定の位置を指定したら動くプログラムなど、特定の動作に反応して複数のプログラムを作る方法を知る
・町のおすすめのスポットの紹介内容と紹介方法を考え、町のおすすめスポットの内容（説明・写真・クイズなど）を配置し、位置によってキャラクターが表示されて紹介を話してくれるプログラムを設計・制作する　プログラムによる創作 評価・改善

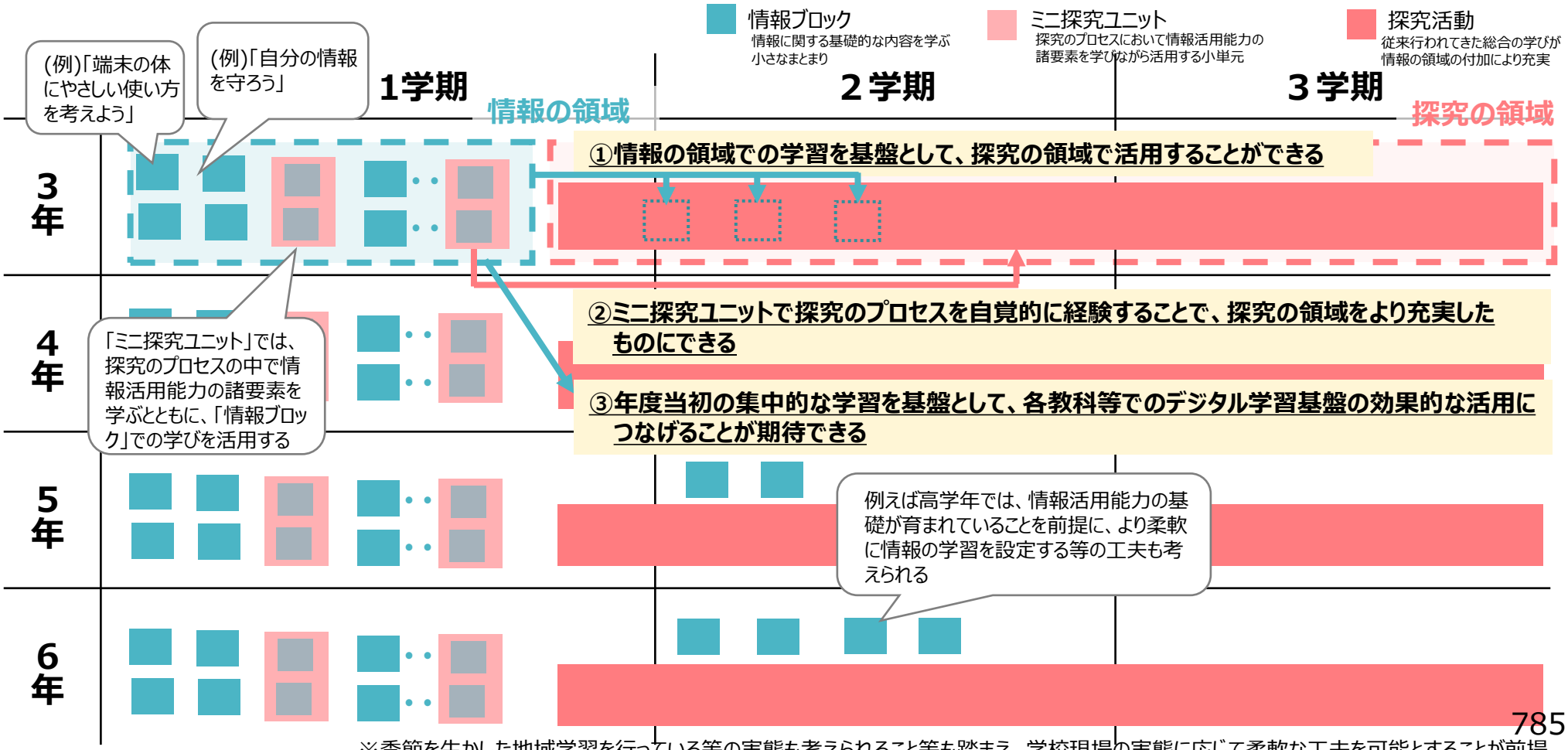
④まとめ・表現　総合的に活用（ ①a. ⑦a. ）　ウェブアンケートの作成・集計
・友達や保護者のウェブアンケートの結果を参考にして、デジタルガイドブックを改良する
・デジタルガイドブックを体験してもらった感想から、今後プログラミングで取り組みたいことを考える　③b. プログラムの作成

※メディアリテラシーに関する内容は、個別の情報ブロックで指導した上で、すべての情報ブロックやミニ探究ユニットにおいて働かせることに留意

※ミニ探究ユニットは仮のイメージであり、予算事業等を通じた教材の検討過程で具体化を図る

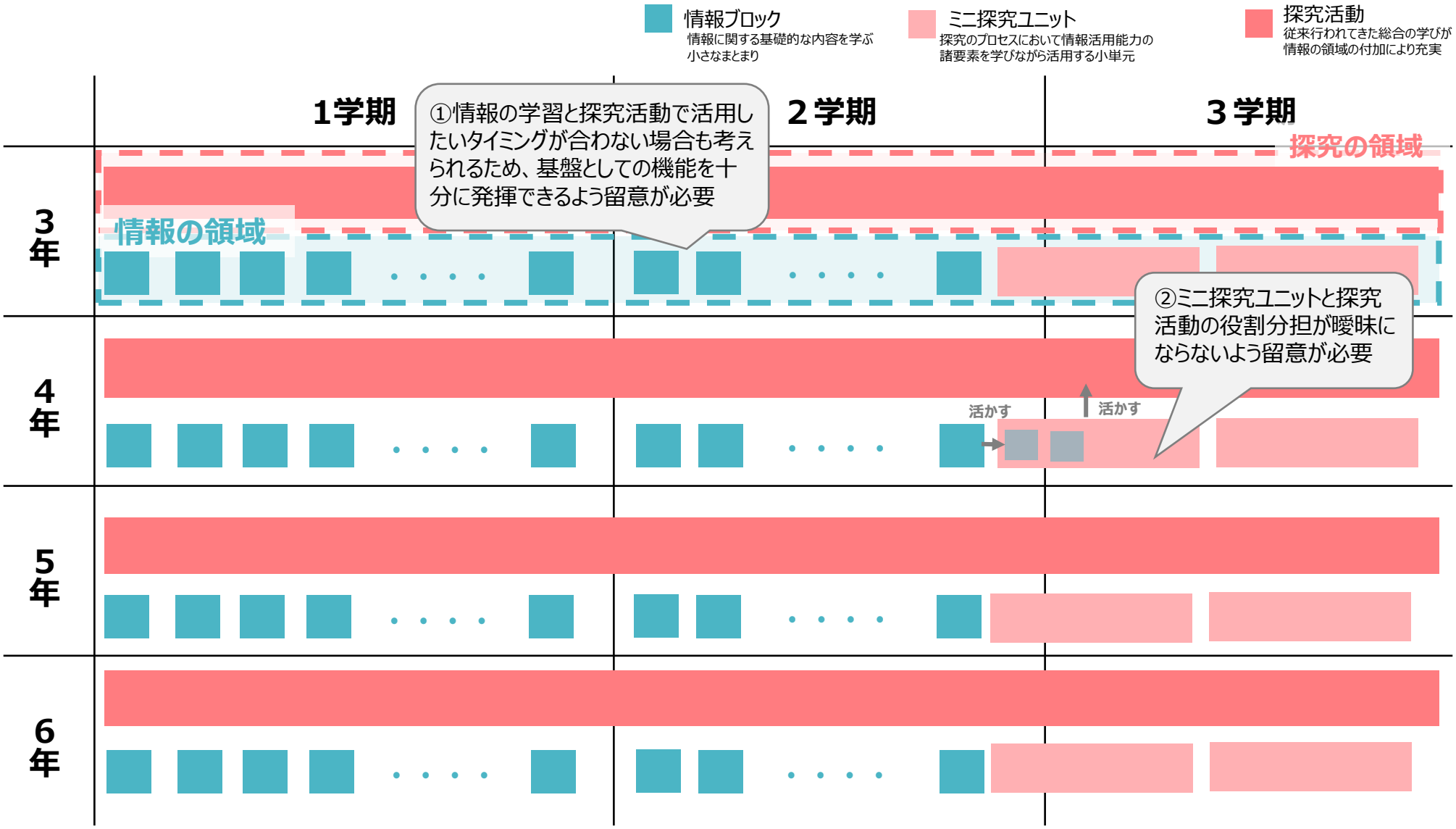
小学校総合 情報の領域 配置イメージ例

- 総合に情報の領域の学習を付加するにあたり、**各学校において指導計画を作成する際の参考**として、以下の観点から、**例えば１学期に情報の領域を集中的に配置**する等、**探究の基盤として情報の領域をよりよく生かすための工夫例を示す**ことが適当である。
  - ① 情報の領域での学習を基盤として、探究の領域で活用することができる
  - ② ミニ探究ユニットで探究のプロセスを自覚的に経験することで、探究活動をより充実したものにできる
  - ③ 年度当初の集中的な学習を基盤として、各教科等でのデジタル学習基盤の効果的な活用につなげることが期待できる



※季節を生かした地域学習を行っている等の実態も考えられること等も踏まえ、学校現場の実態に応じて柔軟な工夫を可能とすることが前提

小学校総合 情報の領域 配置イメージ例
（通年で情報の領域に取り組む場合）



小学校低学年における情報活用能力の育成イメージ

- 「基本的な操作」について、「コンピュータで文字を書くこと」と、「機器・アプリケーションの基本操作」の２つに整理し、各学年における学習活動と中学年以降への展開は以下のような流れとすることが適当である
- 「②適切な取扱い」と「③特性の理解」は、「基本的な操作」の中で体験的に学ぶこととすることが適当である

デジタルに体験的に慣れ親しむ ➡ デジタル学習基盤を効果的に活用する

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①情報技術の活用 基本的な操作 A コンピュータで文字を書くこと			総合的な探究の時間・情報の領域：探究的な学びを一層充実する観点から、タイピングを含めた文字入力について学ぶ 国語：ローマ字指導に伴う文字入力の学習 各教科等：デジタル学習基盤を活用した学習活動の中で、文字入力を学ぶ			
	児童の実態に即した簡易な文字入力（手書き入力、キーボード入力、タッチパネル入力等）					
①情報技術の活用 基本的な操作 B 機器・アプリケーションの基本操作	各教科等の目標を達成する観点から、体験的に慣れ親しむ （学習活動の例） 生活：植物の観察をする際に、写真を撮って保存する 算数：身の回りのものを写真に撮り、図形を重ねて描画し、形の特徴を掴む 音楽：自分たちの歌唱や演奏を記録して視聴する 図画工作：自分の活動を写真に撮って振り返る　等		総合的な探究の時間・情報の領域：低学年での体験を土台として、情報技術の活用を学ぶ中で機器・アプリケーションの基本操作を学ぶ 各教科等：低学年での体験や総合情報の領域での学習を生かしつつ、各教科等の目標を達成する観点から機器・アプリケーションを活用			
②適切な取扱い ③特性の理解	「①活用」の中で、体験的に慣れ親しむ （学習活動の例）各教科等において、 ・自身の情報端末のIDやパスワードは他人に教えない ・情報端末を正しい姿勢で使用する ・許可なく他人の写真や動画を撮らない　等		総合的な探究の時間・情報の領域：低学年での体験的な学びを踏まえ、系統的な学習を開始 各教科等：各教科等での探究的な学びを支える			

中学校情報・技術科の内容構成（案）

- 各内容項目の中で技術の学習過程（①技術の原理と仕組み、②技術による問題解決（問題と課題の設定→構想→制作等→評価・改善）、③技術の社会における吟味と活用）を順序性（（ｱ）～（ｳ））をもって示すとともに、それぞれの下に個別の「知識及び技能」やそれに対応する「思考力、判断力、表現力等」が列挙される階層構造として示す
- また、学習過程を分かりやすく捉えられるよう、以下の通り見出し化（（ｱ）～（ｳ））するとともに、的確な用語で共通性を示す（※本資料では現行のＡ領域を例示しているが、Ｂ～Ｄ領域も同様の構成）

現行の内容項目

A 材料と加工の技術

（１）生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。（知識及び技能）
イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。（思考力、判断力表現力等）

内容項目の見出しが端的でなく学習過程を示す記述もないため、**見出しだけでは学習過程**（左記であれば、①技術の原理と仕組み）**を把握しづらい**

技術の学習過程は、A～Dの各領域に通底して働く基本的な考え方であるが、現行の記載では、**その共通性が必ずしも十分に表現されていない**

（２）生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア ～個別の（知識及び技能）に関する文章～
イ ～個別の（思考力、判断力、表現力等）に関する文章～

（３）これからの社会の発展と材料と加工の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア ～個別の（知識及び技能）に関する文章～
イ ～個別の（思考力、判断力、表現力等）に関する文章～

新しい内容項目

１．情報技術領域

（１）情報の表現とデジタル化

(ｱ) 情報技術の原理と仕組み
(ｲ) 情報技術による問題解決
(ｳ) 社会における情報技術の吟味と活用

※その他の内容項目においても同様の構造とし共通性を表現

※(ｱ)～(ｳ)のそれぞれに個別の（知識及び技能）と（思考力、判断力、表現力等）がぶら下がる

(ｱ)：情報技術に関する原理や法則、基礎的な仕組みを理解する

(ｲ)：解決すべき課題の設定、解決策の構想・具体化、解決のための制作、解決策の評価・改善をする

(ｳ)：(ｲ)までの学習を通じて、当該情報技術の概念の理解を深め、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けた**技術の吟味、選択、管理・運用、改良、応用について考える**

（２）プログラミングと自動化

（３）情報基盤とシステム化

情報活用能力育成の観点から整理した資質・能力の体系性に基づき、必要な内容を漏れなく(1)～(3)の３つの分野に配置

既習の内容を踏まえ、技術の領域や分野にとらわれず、実生活・実社会の課題に対し最適な技術を判断・活用して探究的に解決する内容

２．情報を基盤とした生産技術領域

（１）材料加工とデジタル製作　**（２）生物育成とデータ活用**　**（３）エネルギー変換とスマート化**　**（４）技術の統合**

情報・技術科　①各領域・内容項目間の関係

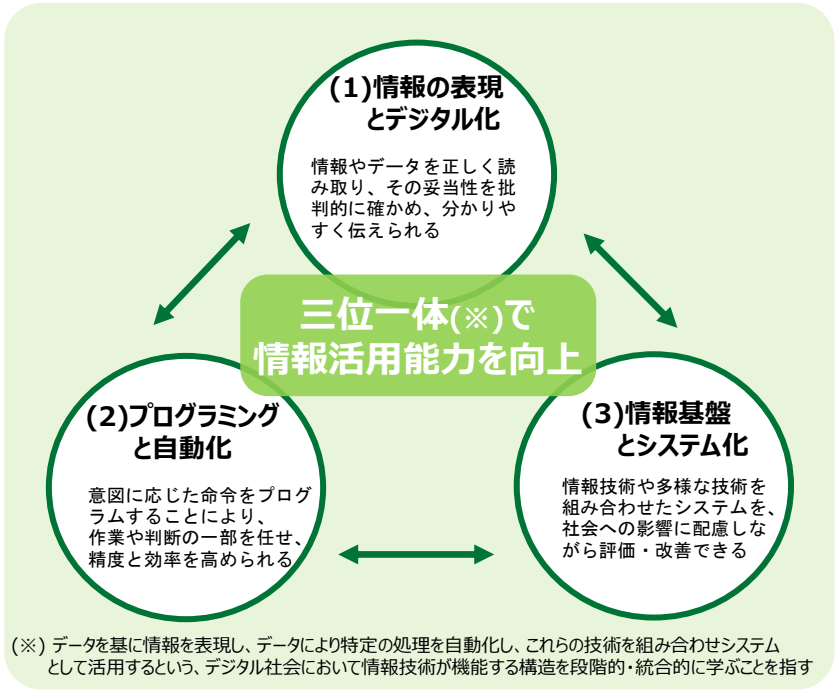
目標

情報や技術でものを生み出し、生活や社会の問題を発見・解決する資質・能力について、
情報技術やそれを基盤とした生産技術に関する実践的・体験的な探究活動を通して育成することを目指す

領域

情報技術　デジタルを活用して新たな価値を生み出す技術

内容項目

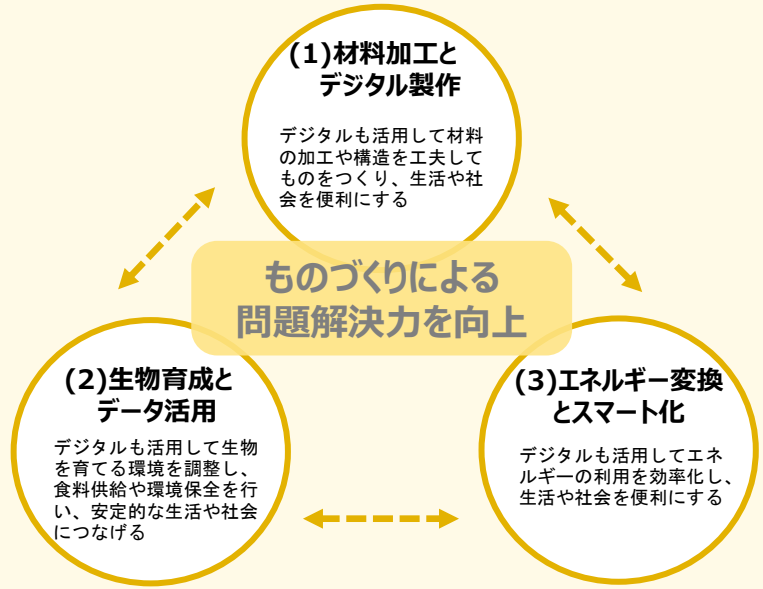


(※) データを基に情報を表現し、データにより特定の処理を自動化し、これらの技術を組み合わせシステムとして活用するという、デジタル社会において情報技術が機能する構造を段階的・統合的に学ぶことを指す

課題解決の構想と具体化を一体的に担う

情報技術と生産技術の融合により、包摂的で豊かな生活や社会を実現

情報を基盤とした生産技術　実生活や実社会を支えるものや仕組みを生み出す技術



外化(※)を通じた課題解決の構想と具体化を実践する機会を充実

(※)特定の技術にとらわれない、「つくる」活動を通した、知識の理解や思考した内容の表現

技術の統合

技術を関連付けて活用し、
未知の課題を解決する学習を強化

以下のプロセスを通して、情報・技術科で育成した力を
生活で生かし、未知の課題を解決する力として、より確かなものにする

仕組みの理解 → 課題の設定 → 解決策の構想 → 解決策の制作等 → 評価・改善 → 技術の俯瞰

※「技術の統合」は、教科の構造としては、「２．情報を基盤とした生産技術」領域の内容項目（４）として位置付けられる

※内容項目の名称はすべて仮称であることに留意

②内容のまとまり間の関係（１．情報技術領域）

内容項目

内容のまとまり

俯瞰し考える・問題を解決する

仕組みを知る（※）

(1)情報の表現とデジタル化

情報やデータを正しく読み取り、その妥当性を批判的に確かめ、分かりやすく伝えられる

情報の吟味と表現を往還

③ 情報を批判的に吟味する
フィルターバブル、エコーチェンバーなど情報の特性や偏りを踏まえて、情報の信頼性を批判的に吟味する

④ 情報を分かりやすく表す・伝える
相手の立場に立って、見やすく分かりやすく情報を伝えられる方法を知り、発信する

基盤として支える

① 情報のやり取りに関する特性を知る
データの構造やデータの管理・分析の方法、ネットワーク、AI、メディアの特性など基本的な仕組みを知る

一体的に理解

② 安全に情報を扱う
個人情報やセキュリティを踏まえるとともに、偽・誤情報を判別して、安全に情報を使う

(2)プログラミングと自動化

意図に応じた命令をプログラムすることにより、情報技術を活用して作業や判断の一部を任せ、精度と効率を高められる

手順の設計と実装を往還

③ 情報処理の手順を設計する
アルゴリズムやプログラミングの特性を踏まえ、目的に応じコンピュータが自動で処理する手順を設計する

④ 自動化の仕組みをつくる
情報技術を活用してユーザーのニーズを捉え、判断や活動を支える仕組みをつくり、評価・改善する

基盤として支える

① コンピュータと自動化の仕組みを知る
アルゴリズムやプログラミング、AIによる自動化、インターネットを構成する機器などの基本的な仕組みを知る

一体的に理解

② 自動化を批判的に考える
アルゴリズムが人間の認知特性に与える影響などを踏まえ、情報やプログラムを批判的に考える

(3)情報基盤とシステム化

情報技術や多様な技術を組み合わせたシステムを、社会への影響に配慮しながら評価・改善できる

価値の創出と改善・活用を往還

③ 情報技術を組み合わせ価値を生む
情報技術の負の側面に配慮しつつ、技術を多様に組み合わせて情報システムをつくる

④ 情報システムを見直し、より良く使う
法や制度、マナー、社会との関わりを考えながら、情報システムを批判的に評価・改善し、より良く活用する

基盤として支える

① 情報システムの仕組みを知る
コンピュータやネットワークを利用した情報システムの構造や、AIがシステムに果たす役割など基本的な仕組みを知る

一体的に理解

② 情報技術のリスクに対処する
情報に関わる法や制度、マナー、健康への影響に伴う情報技術のリスクを理解し、適切に対処する

(※)技術の学習過程に対応（「(ア)技術の原理と仕組みの理解」、「(イ)技術による問題解決」、「(ウ)社会における技術の吟味と活用」）

情報活用能力としての資質・能力

- ①活用　複数の方法で情報を収集・分析し、根拠を基に表現しながら、課題を解決できる
- ②適切な取扱い　情報発信の責任や他者への影響を考え、リスクを判断して活用できる
- ③特性の理解　情報技術の仕組みや社会との関わりを理解し、複数の情報を多面的に分析して解決策を構想・表現できる

※　各内容のまとまりに対応した情報活用能力の構成要素は、主として関連の深いものを示したものであり、次ページの学習内容の水準では、各内容のまとまりに三つの構成要素が相互に関連しながら含まれていることに留意

②内容のまとまり間の関係（２．情報を基盤とした生産技術領域）

内容項目	(1)材料加工とデジタル製作	(2)生物育成とデータ活用	(3)エネルギー変換とスマート化	(４)技術の統合
	デジタルも活用して材料の加工や構造を工夫してものをつくり、生活や社会を便利にする	デジタルも活用して生物を育てる環境を調整し、食料供給や環境保全を行い、安定的な生活や社会につなげる	デジタルも活用してエネルギーの利用を効率化し、生活や社会を便利にする	多様な技術を統合し問題を解決して生活や社会をよりよくする

内容のまとまり

俯瞰し考える

(1)材料加工とデジタル製作
③ **技術を俯瞰し活用の在り方を考える**
材料や加工の技術の実践を踏まえ、その技術が生活や社会に与える影響を捉え、よりよい活用の在り方を考える

(2)生物育成とデータ活用
③ **技術を俯瞰し活用の在り方を考える**
生物育成の技術の実践を踏まえ、その技術が生活や社会に与える影響を捉え、よりよい活用の在り方を考える

(3)エネルギー変換とスマート化
③ **技術を俯瞰し活用の在り方を考える**
エネルギー変換の技術の実践を踏まえ、その技術が生活や社会に与える影響を捉え、よりよい活用の在り方を考える

(４)技術の統合
③ **技術を俯瞰し活用の在り方を考える**
統合した技術の実践を踏まえ、その技術が生活や社会に与える影響を捉え、よりよい活用や新たな技術の在り方を考える
例）将来の災害に備え、学んだ技術をどう活用したらよいか考える

問題を解決する

(1)材料加工とデジタル製作
② **材料や構造を工夫して製作する**
安全性に配慮しつつ、材料の性質や構造を生かし、情報技術や加工機を用いて設計し、試作や評価を通してよりよいものを製作する

(2)生物育成とデータ活用
② **環境を調整し計画的に生物を育成する**
環境負荷に配慮しつつ、生物の特性やデータをもとに育成計画を立て、情報技術等を用いて環境を調整しながら管理・記録し、試行錯誤して育成する

(3)エネルギー変換とスマート化
② **エネルギーを変換・利用する仕組みをつくる**
経済性に配慮しつつ、電気回路や機構の組み合わせを、情報技術も活用して設計・製作し、試行や改善を通して動く仕組みをつくる

(４)技術の統合
② **技術を統合してシステムを設計・構築する**
技術の正負の側面に配慮しつつ、多様な技術やAIを組み合わせて仕組みを設計・構築し、試行や評価・改善を通して動くシステムをつくる

課題の設定 → 解決策の構想 → 解決策の制作等 → 評価・改善

例）
- 課題の設定：防災上の問題を見いだし、被害軽減の観点から課題を設定する
- 解決策の構想：既習の技術を統合し、課題解決のシステムを考え設計図に表す
- 解決策の制作等：技術を統合して設計した防災システムのプロトタイプを製作する
- 評価・改善：製作した防災システムのプロトタイプを評価し、改善・修正する

仕組みを知る（※）

(1)材料加工とデジタル製作
① **技術の仕組みや安全な使い方を知る**
情報技術を活用した材料や加工の仕組みや役割、リスクやルールを理解し、安全で適切な使い方を身に付ける

(2)生物育成とデータ活用
① **技術の仕組みや安全な使い方を知る**
生物の成長のしくみや環境の調整、情報技術を活用した育成技術の役割を理解し、安全で適切な管理や作業の方法を身に付ける

(3)エネルギー変換とスマート化
① **技術の仕組みや安全な使い方を知る**
情報技術を活用した電気や機械によるエネルギー変換の仕組みや回路・機構の働きを理解し、安全な使い方や点検の方法を身に付ける

(４)技術の統合
① **技術の統合の仕方や役割を知る**
多様な技術が組み合わさるシステムのしくみや役割、AIの働きやリスクを理解し、適切な扱い方を身に付ける
例）統合された技術が防災に応用されていることを知る

（※）技術の学習過程に対応（「(ア)技術の原理と仕組みの理解」、「(イ)技術による問題解決」、「(ウ)社会における技術の吟味と活用」）

内容項目

（第１学年）❶ 情報の表現とデジタル化

①情報技術の活用
②情報技術の適切な取扱い
③情報技術の特性の理解

仕組みを知る

① 情報のやり取りに関する特性を知る

a. データの集め方と整理の仕方
・データを収集するときには、天気等の公開データを活用することが有効であることを知り、目的に適したデータを収集する。
・収集したデータ等をデータの種類に応じた分析方法を選択し、表に分類・整理してまとめる。

b. データを分析して考察する方法
・データを分析したい目的に応じて適切なグラフや表にして傾向を読み取り、分析し、読み取った傾向や分析結果をもとに、条件を変えてその変化を考察する。

c. 情報がやり取りされる仕組み
・Webページ制作を通して、デジタル化されたさまざまな種類の情報を統合できることを体験して、インターネット上で情報が共有される仕組みや安全な利用方法をワークシートにまとめる。

d. 情報をデジタル化する仕組み
・アナログとデジタルの表現の違いを考え、デジタルの表現の特徴や複数のメディアのデジタル化の特性や情報量の違いを整理し、気付いたデジタルの表現の特徴を共有する。
・数や文字、音、画像、動画等の情報は技術によって細かく区切られ、その特徴を数値で表してデータにする処理が施されデジタル化していることを知る。

e. AIやメディアの特性
・AIがデータをもとに生成を行う仕組みであることを知り、プロンプトを学習して様々な指示を試す。
・指示の仕方により生成物が異なることに気付き、AIがもたらす偏りやそれに伴う影響をワークシートにまとめる。

一体的に理解

② 安全に情報を扱う

a. SNS等のリスクと影響
・レコメンドシステム等でフィルターバブルを体験し、情報技術の便利さの弊害をワークシートにまとめる。
・SNSと報道メディアの違いや情報技術の役割を比較しながら、その影響を考えて共有する。情報接触時に起きるエコーチェンバーを体験的に理解する
・共有された事柄を整理し、SNS等が心身に与える影響や曖昧な情報は判断を留保するなどすぐできる対策についてワークシートにまとめて発表する。

b. 個人情報や著作権
・自分がこれまで作成してきたスライドや文書ファイルを例に挙げて、個人情報の保護や、著作権がなぜ必要なのかを知る。
・生成AIを利用すればだれでも画像や動画を生成できる中で、個人情報保護や著作権がより大事になることを考え、適切な生成AIの利用方法を話し合う。

c. 生成AI等のリスクや影響
・最新の実態に基づき、正しい画像や動画と生成AIが生成したフェイク画像や動画を見比べ、問題点を考え共有する。
・自分が授業でつくった作品の紹介スライドを生成AIで生成し、誤った情報や誇張がないか確認し、生成AIによる情報の表現・生成において留意すべきことを話し合いスライドにまとめ発表する。

d. 情報を表現する技術と社会との関わり
・生成AI等の技術により加工された情報の表現やメディアを介することによる影響等、情報を表現する技術と生活や社会とのかかわりを考え共有する。
・情報の表現には法や倫理、社会的な観点から留意すべき点があることを考え、ワークシートにまとめる。

①、②で学んだことを活用し、未知の状況でも課題を解決できる力とする

内容のまとまり

問題を解決する・俯瞰し考える（※）

③ 情報を批判的に吟味する　往還　④ 情報を分かりやすく表す・伝える

単元例①　◆（総合的に活用）①a. c. e.　②a. c. d.
単元例②　◆（総合的に活用）①a. b. c. d. e.　②c. d.

前提となる仕組みの理解	課題の設定	解決策の構想	解決策の制作等	評価・改善	技術の俯瞰

④a. 情報デザインの考え方
・情報デザインの工夫や表現方法について知り、来校者に分かりやすい校内表示版等を制作する。
・来校者の評価やアクセシビリティ等の観点を基に表示版を評価
・修正し、抽象化・可視化・構造化などの情報デザインの考え方やポイントをまとめる。

③a. 情報・データの特性
・デジタル化されたデータの特徴を踏まえ、天気予報などの身近な予測モデルを参考にしながら、データから見付けた傾向や関係を基に、条件を変えたときにどのような変化が起こるかを予測する。
・問題解決にデータを活用できる場面や事象を考え、どのような点に留意すべきかをワークシートにまとめる。

単元例① 情報を伝えるアプリを作る
単元例② 分析したデータを利用するアプリを作る

③b. ユーザのニーズの整理
◆見づらい、分かりにくいと感じる表示や案内などについて、情報デザインの観点から調査し、ユーザーが困っていることや解決すべき課題を明らかにする。
◆問題とは理想と現状の差であることを知り、地域の人々が抱える問題を明らかにする調査の計画を立てる。
◆調査して集めたデータを分析することで、気付きにくいユーザのニーズを明らかにし、解決する問題を定める。

④b. 解決する課題の設定
◆ユーザーが困っていることを解決する情報デザインの方法を話し合ってまとめ、そのことを解決する簡単なアプリの制作を課題に設定する。
◆データを利用し、ユーザに有益な情報を分かりやすく表現することで、問題を解決できそうなアプリのアイデアを、ブレインストーミング等の手法を用いていくつか発想する。
◆発想したアイデアの中から、実現可能なものを検討し、アプリで解決する課題を決定する。

③c. 情報の特性を踏まえた判断
◆アプリの情報のデザインを検討する際、その判断のために収集した情報について、情報やメディアの特性を踏まえて吟味することが大切であることを知る。
◆制作するアプリが、ユーザーに不必要な情報や誤った情報を表現・提供していないか批判的に吟味する。

④c. 構想、試作・検証、設計・表現
◆課題を解決するUIのデザインをいくつか発想し、デジタルワークシートに表現する。
◆発想したデザインを比較し、どの表現が適切か評価しあい1つに決める。
◆課題を解決するアプリについて、どのようなデータが必要かを考え、よいか発想し、アイデアをまとめる。
◆生成AIも補助的に用いて、データを連携したアプリの構造のモデルやUIを設計図に表す。

④d. 仕組みの制作
◆アプリの作り方を学び、自分の考えるUIなどの利用者の困りごとを解決するための情報デザインをアプリで実現する。
◆アプリとデータを連携する方法を学び、そのプログラムをつくる。
◆ユーザの入力に対し、データを利用して応答する仕組みなどを試行と調整を繰り返して完成させる。

④e.仕組みの評価、改善・修正
◆アプリを発表しあい、困りごとの解決につながるデザインの改善を考える。
◆ユーザーを招いて完成したアプリの体験発表会を行い、もらった評価をもとに改善する。

③d. データの分析結果を踏まえた判断
◆アプリを体験した結果について、量的データや質的データなどのデータの種類や特性に応じて整理・分析する方法や、比較して新たな関係や意味を見いだす考え方を知る。
◆制作したアプリへのユーザーからのレビュー等を数値に表せるデータと表せないデータを分類して整理・分析して考察し、評価する。

・情報技術を活用した情報デザインにおける表現の特性に着目し、利用者への伝わり方を検証するとともに、それが情報伝達の在り方にどのような影響を及ぼしているかを考える。
・データを基に情報を表現する情報技術が、社会における課題解決や新たな価値創出の場面でどのような役割を果たしているかをまとめる。

（※）技術の学習過程に対応（「(ア)技術の原理と仕組みの理解」、「(イ)技術による問題解決」、「(ウ)社会における技術の吟味と活用」）

※メディアリテラシーに関する内容は、個別に指導した上で、その他すべてのコマにおいて働かせることに留意

内容項目

（第１学年）② 材料加工とデジタル製作

内容のまとまり

仕組みを知る

① 技術の仕組みや安全な使い方を知る

a.製造技術の役割

・材料とその加工の技術が、身の回りの製品や建物等に役立っていることを知り、それらの製造過程において、現在はAI等の情報技術が使われることでより便利なものに発展できていることを調べ話し合い発表する。

b.材料やその加工の仕組み

・学校の机にはどのような材料がなぜ使われているのか、その形状はどんな加工法で実現されているのかを調査する。

・木質材料、金属、プラスチック、新素材の中から自分が選んだ材料の特性や構造と加工法を調査し発表会を行う。

・発表活動を振り返り、材料や加工法に共通する特性やAI等の先端技術が導入されていることをワークシートにまとめる。

c.構造や形状の工夫

・日本の伝統的な建築物や、最新の工法による建物の構造を調べ、比較し、その共通点や特徴を考える。

・普段目にする製品やその部品を丈夫にしたり、使いやすくしたりする形状の工夫を調べ共有する。

・調べた形状の工夫を踏まえて、簡易なブリッジコンテストを行った上で、工夫のポイント等をワークシートにまとめる。

d.製造による問題解決の工夫

・身の回りの製品や構造物がどのような問題の解決に活かされているか調べて共有する。
・それぞれが共有した内容を吟味し、製造に関わる技術がどのように生活を便利にするか話し合い発表する。

問題を解決する

② 材料や構造を工夫して製作する

a.課題の設定

・身の回りや生活を振り返り、困っていることやもっと便利にしたいことを端末で記録する。製品をつくり解決できそうなことを、先輩のつくった製品を参考にしたり、関連する製品を調べたり、周囲の人にインタビューしたりしながら、提示された材料や製品から選び、課題として設定する。

b.解決策の構想

・世の中の製品は、それをどう使えば便利になるか、無理なく安全に使えるかといった工夫がなされ、つくられていることを知る。

・3DCADの使い方について、簡単な形や簡単な構造の製品を、画面上で設計する練習をする。

・構想した製品の形や構造について、3DCADを使いながら、試行錯誤して設計図や部品図にまとめる。

c.解決策の製作

・設計図や部品図を見ながら、材料に部品の形や切る場所などを書き込む。

・工具や加工機器の安全な使い方を知り、必要な大きさや形になるよう材料を切ったり加工したりする。

・工具や加工機器を使いながら、部品の形や大きさを確かめて整える。

・定規などを使って部品の大きさや形を確認し、必要に応じて削ったり磨いたりして調整する。

・ねじや接着剤などを用いて部品同士をつなぎ、順序を考えながら組み立てる。

・組み立てた製品を設計図と見比べて確かめ、不具合が見つかった場合には修正する。また、必要に応じて前の工程に戻って調整する。

・塗装などの仕上げを行い、長く使えるようにするとともに、見た目や使いやすさを整える。

d.評価・改善

・端末で記録してきた問題解決の過程の写真データなども利用して、製作物を安全や使いやすさの視点から評価し、改善案を3DCADの設計データに反映する。

俯瞰し考える（※）

③ 技術を俯瞰し活用の在り方を考える

a. 生活や社会、環境との関係

・材料を加工する技術を用いて製作した経験から、この技術が社会や環境にどのような影響を与えるのか、自分たちの生活で活用する際にはどのような正負の影響があるのか、情報技術との関わりなど調べ、話し合う。
・3Dプリンタによる建築やAIによる生産工程の自動化等の資料映像を視聴し、こうした技術を活用したり発展させていく上で私たちが気を付けるべきことを考え、レポートにまとめる。

（※）技術の学習過程に対応（「(ア)技術の原理と仕組みの理解」、「(イ)技術による問題解決」、「(ウ)社会における技術の吟味と活用」）

※メディアリテラシーに関する内容は、個別に指導した上で、その他すべてのコマにおいて働かせることに留意

内容項目

（第２学年）❶プログラミングと自動化

①情報技術の活用
②情報技術の適切な取扱い
③情報技術の特性の理解

内容のまとまり

仕組みを知る

① コンピュータと自動化の仕組みを知る

a. コンピュータの構成とその仕組み
・コンピュータが自動化していることを探し、それぞれの役割やコンピュータを構成する機器を調べ共有する。
・コンピュータは、入力された情報を電気信号として処理し、2進数や16進数等で記録・伝達しながら出力する仕組みであること、色の表現の仕組みなどをワークシートにまとめる。

b. 計測・制御システムの仕組み
・計測・制御システムが社会の中でどう利用されているか調べ、基本的な仕組みをワークシートにまとめる。
・栽培における課題を例として、必要なセンサや動作を考えながら、かん水システムを設計・製作し、実際に動作させながら、計測や制御の働きを確認・分析する。
・かん水システムの計測部分をAIによる画像認識に変更し、従来のセンサとの違いや特徴を比較する。

c. 情報通信ネットワークの構成
・情報通信ネットワークを構成する機器や接続の仕組みを調べ、整理してワークシートにまとめた上で、簡易なネットワークの設定を体験して情報通信の自動化の仕組みを話し合い発表する。

d. 情報セキュリティの仕組み
・簡単な個人認証プログラム作成を体験し、その仕組みや情報を安全に守る方法をワークシートにまとめる。

e. ロボティクスやフィジカルAI等の先端技術
・生活の中でAIが処理の自動化に活用されている事例を調べ、スライドにまとめる。
・材料加工で製作した製品にAIの機能を加え、動作の一部を自動化する構想を考える。
・構想した内容を発表した上で、AIが自動化に果たす役割を話し合う。
・フィジカルAIなどの先端技術の可能性を調べ、前時の内容を含めワークシートにまとめる。

一体的に理解

② 自動化を批判的に考える

a. 情報やプログラムの批判的な考察
・ユーザの興味を強く引き続けるよう設計されたアプリのアルゴリズムなどが、人の認知にどのような影響を与えるか知り、身近な事例や実体験を整理して共有する。
・アルゴリズムに着目して処理を自動化するコンピュータの動きや仕組みを読み取る視点を話し合い、スライドにまとめる。

b. 情報通信の自動化とセキュリティ
・公共のWi-Fiなどを利用した経験を振り返り、ネットワークを安全に利用するために気を付けることを調べ共有する。
・コンピュータウイルスやソーシャルエンジニアリングなどの事例を基に、技術面と利用面の両方から情報通信の危険性と対策を考え発表する。

c. AIが自動化に果たす役割
・AIが仕事や家事を行うロボットなどに活用されていることを調べ、自動で動くロボットが社会に広がることで生じる課題や、自分たちが気を付けるべきことを話し合い、ワークシートにまとめる。

d. 情報を自動化する技術と社会の関わり
・データセンターと電力の関係などを調べ、情報技術による自動化が生活や社会、環境に与える影響や、情報技術によって様々な活動が自動化していく中で、私たちが気を付けるべきことを考え、ワークシートにまとめる。

①、②で学んだことを活用し、未知の状況でも課題を解決できる力とする

問題を解決する・俯瞰し考える

③ 情報処理の手順を設計する　往還　④ 自動化の仕組みをつくる

単元例① ◆（総合的に活用）①a. c. d.　②a. b. d.
単元例② ◆（総合的に活用）①a. b. c. d. e.　②a. c. d.

前提となる仕組みの理解	課題の設定		解決策の構想	解決策の制作等	評価・改善	技術の俯瞰
③a. アルゴリズムとコンピュータの働き ・アルゴリズムの考え方や、小学校で学習したプログラムの基本的な構造を、簡単なプログラミングを通して確認する。 ・製作したプログラムを変数やリストを使って改良し、コンピュータを意図した通りに動かす。	単元例①：画面で動作するプログラムを作る 単元例②：ロボットを動かすプログラムを作る	④a. 効率的な情報収集 ◆情報技術を活用して、必要な情報を効率よく集める方法を知り自動化に関わるニーズを調べる。 ◆効率のよい情報収集の方法を計画して、ユーザーのニーズを調査し、分析して問題を特定する。	④b. 解決する課題の設定 ◆アイデアを考える方法を学び、役立つプログラム（席替えルーレットなど）のアイデアを複数考える。 ◆調査したニーズを踏まえて、自動化の技術で解決できそうなことのアイデアを考え、課題として設定する。	③b. 情報処理の手順の図示 ◆情報処理の手順を、アクティビティ図などに表す方法を知り、アイデアを実現するアルゴリズムとそのプログラムを構想して図に表す。 ◆センサ等による装置への情報の入力から、装置の出力による動作までの一連の情報処理の手順を構想し、図に表す。 ④c. 構想、試作・検証、設計・表現 ◆計測・制御システムを発想し、試作・検証をまとめ、システムの構成や動き、エラーの対処方法を設計にまとめる。	③c. プログラムの制作 ◆プログラムの制作・修正において、アジャイルに試しながら改善していく方法があることを知った上で、実際に動かして結果を確かめながら、構想やプログラムをデバッグし、プロトタイプを完成させる。 ◆AIを補助的に用い、計測・制御システムのプログラムを制作する。 ④d. 仕組みの製作 ◆センサのどの値で動作を切り替えるか、閾値を分析などした上で、構想した通りに自動で動くよう、センサや出力、プログラムとその閾値を試行錯誤しながら調整して組み立てる。	③d. プログラムの評価、改善・修正 ◆プログラムの評価方法を知り、クラスメイト同士でプログラムを使いながら相互評価し、より使いやすいプログラムにする視点から改善する。 ◆計測・制御システムの振る舞いをプログラムの面から評価し、改善を考える。 ④e. 仕組みの評価、改善・修正 ◆センサの種類や取付位置、動作を切り替える値等を評価し改善を考える。	・生活で利用している、コンピュータを利用して自動化している技術を吟味し、どのような改善があるとよいか相談する。 ・情報技術によって自動化をすることで、生活や社会を便利にしていくために、情報技術をどのように発展させたらよいか話し合いまとめる。

(※) 技術の学習過程に対応（「(ア)技術の原理と仕組みの理解」、「(イ)技術による問題解決」、「(ウ)社会における技術の吟味と活用」）

※メディアリテラシーに関する内容は、個別に指導した上で、その他すべてのコマにおいて働かせることに留意

内容項目

（第２学年）❷ 生物育成とデータ活用

❸ エネルギー変換とスマート化

内容のまとまり

仕組みを知る

① 技術の仕組みや安全な使い方を知る

a.生物育成の技術の役割

・生物の育成環境を調整する技術が、食料生産や環境保全を実現していることを知り、さらにそうした技術は情報技術によって精緻化していることを調べて話し合い発表する。

b.生物育成の方法

・作物の特性や育成環境がどのように調整されているかなどを調べて、作物の育成に必要な条件等をワークシートにまとめる。
・動物、水産生物の特性や育成環境がどのように調整されているかなどを調べて育成に必要な条件をワークシートにまとめる。

c.生物育成の技術による問題解決の工夫

・スマート農業など、データを活用した生物育成の技術の工夫を調べてスライドにまとめ、発表した上で、生物育成の技術に共通する特徴をレポートにまとめる。

① 技術の仕組みや安全な使い方を知る

a.エネルギー変換の技術の役割

・発送電や交通といったエネルギー変換の技術が人の様々な活動を支えていることを知り、さらにそうした技術は情報技術によって高度化していることを調べて話し合い発表する。

b.エネルギー変換の仕組み

・電気や電子の特徴や、エネルギーを利用する技術の基本的な仕組みを調べる。
・機械の特徴や、動力を伝えたり動きを変えたりする技術の基本的な仕組みを調べる。
・調べた内容を整理し、エネルギー変換の技術に共通する特徴をワークシートにまとめる。

c.安全な技術の利用

・家や学校を探索し、安全に電気を使うための工夫や、機器の点検・手入れの方法を調べる。
・発送電や交通などの社会を支える設備について、安全のための点検や整備がどう工夫されているかを調べてワークシートにまとめる。

d.エネルギー変換による問題解決の工夫

・身の回りの機器や施設、乗り物などに見られる安全を踏まえた問題解決の工夫等を調べ、レポートにまとめる

問題を解決する

② 環境を調整し計画的に生物を育成する（栽培の場合）

※動物の飼育や水産生物の栽培で問題解決を行う場合もある

a.課題の設定

・圃場がない学校でも野菜を育てられるよう、学校の気温などの環境に合った野菜をAIを補助的に活用して調べ、プランターで育てる野菜の種類を決定する。

b.解決策の構想

・AIを補助的に活用し、育成環境に関する過去の記録やデータを参考にしながら、自分が育てる野菜に合った環境の整え方を考え、計画にまとめる。

c.生物の育成

・プランターに土を入れて育てる準備を行い、マルチを敷くなどして苗を植え付ける。
・気温や土の状態などを継続して記録し、そのデータを基に水やりや環境の調整を行う。
・病害虫への対応や受粉など、育てる野菜の特徴を調べ、それぞれに応じた世話の方法を試しながら工夫する。
・生育の様子や積算温度などを参考にしながら、適切な時期を判断して収穫する。

d.評価・改善

・気温や水やりなどの環境データと、収穫した野菜の量や育ち方を比較しながら育成方法を振り返り、継続して育てるための環境調整の計画を考えてまとめる。

② エネルギーを変換・利用する仕組みをつくる（電気回路の場合）

※機械機構の製作や電気と機械の統合で問題解決を行う場合もある

a.課題の設定

・災害によって電気や交通などの設備が使えなくなった場合を想定し、必要となる電気製品をインターネット等で調べ、解決したい問題を決定する。
・問題を解決するための電気製品のアイデアを複数考え、使いやすさや実現できるかを話し合いながら、絞り込む。

b.解決策の構想

・AIを補助的に活用しながら、製作する電気製品に必要な電源や部品、動かし方を考える。
・回路シミュレータ等を用いて、条件を変え試行しながら電気回路を発想する。
・目的に合致するよう発想した電気回路を改善し設計を決定する。
・筐体や部品の配置、基板の配線の方法などを計画する。

c.解決策の製作

・計画を基に、電子部品を、はんだ付けにより、電子基板に取り付ける。
・テスターなどの測定機器で回路が正しく動くか確認し、必要に応じて修正する。
・工具や加工機器を使って、試行錯誤しながら筐体を製作する。
・試行錯誤しながら、筐体に基板を取り付け、配線を行う。
・全体が正しく動くかを確認し、必要に応じて再調整して完成させる。

d.評価・改善

・エネルギーの総量や安全性、効率性の視点から作品や問題解決の過程を振り返り、その改善や修正を考えてまとめる。

俯瞰し考える(※)

③ 技術を俯瞰し活用の在り方を考える

a.生活や社会、環境との関係

・生物育成の技術には、食料生産や環境保全に役立つ面がある一方で、過度な開発による環境への負荷や遺伝子組替えに関わる課題もあることを知り、こうした技術を活用したり発展させていく上で私たちが気を付けるべきことを考え、レポートにまとめる。

③ 技術を俯瞰し活用の在り方を考える

a.生活や社会、環境との関係

・エネルギー変換の技術には、生活を支えるエネルギーの安定供給や、AIなどの情報技術と連携したスマートシティやロボットの発展に役立つ面がある一方で、環境への負荷や資源利用に関わる課題もあることを知り、こうした技術を安全で持続可能な形で活用していく上で私たちが気を付けるべきことを考え、レポートにまとめる。

(※)技術の学習過程に対応（「(ア)技術の原理と仕組みの理解」、「(イ)技術による問題解決」、「(ウ)社会における技術の吟味と活用」）

※メディアリテラシーに関する内容は、個別に指導した上で、その他すべてのコマにおいて働かせることに留意

内容項目

（第３学年）❶情報基盤とシステム化

①情報技術の活用
②情報技術の適切な取扱い
③情報技術の特性の理解

内容のまとまり

① 情報システムの仕組みを知る

a. 情報システムの基本的な仕組み

・身近な情報システム（交通系ICカード、ネット通販の注文・配送管理、天気予報の配信など）と、AIやIoTなどの技術との関わりについて調べて話し合う。
・調べて話し合った、身の回りで使われている情報システムの例をもとに、どのように情報技術が組み合わさっているかをワークシートにまとめる。

b. ネットワークで連携する仕組み

・情報通信ネットワークを通して、いくつかのサービスがデータをやり取りしながらつながっている仕組みについて調べた上で、お天気アプリなどの身近なデータのやり取りを例に、具体的にどのようなデータをどのようなサービスと連携しているか調べ、ワークシートにまとめる。

c. 情報社会におけるセキュリティ

・情報技術を活用した社会の仕組みや行政のサービス等が、生活や社会を便利で安全、効率的にしていることを調べ、話し合う。
・情報技術に頼る社会の仕組みや行政サービス等のセキュリティが破綻するとどのような被害が起きるのか事例を調査し、セキュリティの大切さと対策をワークシートにまとめる。

d. 先端技術と情報システム

・社会で使われているAIを活用した情報システムの例を調べ、そのよさや課題、情報システムにAIを取り入れる方法等を調べて考え、AIなどの先端技術を組み込んだ情報システムの可能性について話し合う。

一体的に理解

② 情報技術のリスクに対処する

a. 健康への影響と適切な対処

・情報技術の使い方によって起こる健康への影響について調べ、情報技術を便利に活用しながら健康にも配慮して使うための工夫やルールを話し合ってまとめ、発表する。

b. 民主主義社会におけるメディアの役割

・メディアの特性、情報技術の民主化で誰もがメディアに情報の公開が可能になっていること、AIは信頼できる情報とそうでない情報の両方を学習していることを踏まえ、情報技術とメディアの役割について話し合い、それらが民主主義社会で果たす役割をまとめる。

c. 情報の利用やセキュリティに係るルール

・メディアから得た情報の利用の仕方やセキュリティ、著作権や個人情報などに関わる法やルール・マナーについて調べ、情報システムが支える社会を安全で適切に利用していくために心がけることについて話し合う。

d. AI等の情報技術の社会的リスク

・AIを悪用した不正なプログラムやサイバー攻撃の事例を調べ、社会への影響を考えながら、AIを安全で適切に利用するために気を付けることをまとめて発表する。

e. 情報システムの技術と社会との関わり

・情報技術によるシステム化やDXが生活や社会を変えていることや、その仕組みを支えるために多くのエネルギーが使われていることを知り、環境への影響も踏まえながら、望ましい情報技術の活用についてワークシートにまとめる。

①、②で学んだことを活用し、未知の状況でも課題を解決できる力とする

③ 情報技術を組み合わせ価値を生む　往還　④ 情報システムを見直し、より良く使う

単元例①　◆（総合的に活用）①a. b.　②a. b. c.
単元例②　◆（総合的に活用）①a. b. c. d.　②a.b.c.d.e.

課題の設定	解決策の構想	解決策の制作等	評価・改善	技術の俯瞰
③a.適切な調査計画 ◆ニーズ調査で大切なポイントを学び、天候や交通、地図に関わる一般的なユーザのニーズを調査する。	**③b. 解決する課題の設定** ◆API等の外部サービスと連携する方法を知り、簡単な情報サービス連携アプリの開発を課題に設定する。	**③c. 構想、試作・検証、設計・表現** ◆課題を解決する情報サービス連携アプリのアイデアを考え、AIを補助として活用しながら、入力・処理・出力・利用するサービスといった情報処理の手順を整理し、モデル化する。	**③d. プロトタイプの仕組みの制作** ◆ネットワークにより情報技術同士がデータをやり取りする方法を知り、AIも補助的に用いながら、考えた情報処理の手順を簡単なプログラムで表し、シミュレーションする。	**④a. 仕組みの評価、改善・修正** ◆制作したプログラムを相互評価し、情報サービスの連携等を活用したIoTシステムを作る上で注意した方がいい点や、取り入れた方がよい点についてまとめる。	**④b. 情報システムの吟味** ・情報技術に関して学習してきたことを生活に生かすために、身の回りで不便に感じていることや、もっと便利になってほしいことを考え、生成AIを補助的に活用しながら、自分が使ってみたいアプリや、あったら便利なシステムは実際にはどのように制作されているかを調べ発表する。 ・調べ学習をもとに、情報技術の便利さや注意点について考えるとともに、生活や社会にどのような影響を与えるかを話し合い、情報技術の進展と社会がどう向き合うべきか考えをレポートにまとめる。
単元例① 情報サービスを連携させる ◆防災や環境等の社会における問題に対する意識やギャップについて調査計画を立て、調べる。	◆簡単なIoTシステムを作ることによって解決できそうな課題を吟味し、グループの課題として設定する。	◆解決策のアイデアを相談しながら発想し、AIを補助として活用しながら、設計図としてモデルを考え、条件を変えてシミュレーションし、ワークシートにまとめる。	◆AIも補助的に活用し、設計図に基づいてIoTシステムの操作を行う簡単なアプリやプログラムを試行錯誤しながら制作する。 ◆データを受け取って機器の動きを表現するプログラムをシミュレーションも行いながら試行錯誤しながら制作し、それぞれのプログラムがネットワークを介して正しく連携して動くか動作を検証・改善し、試作品を完成させる。	◆試作品について、使いやすさだけでなく、ルール・マナーや、生活や社会にどのような影響をもたらすか等、各種のテストも用いて多角的に評価・吟味し、改善・修正を計画する。 ◆プログラムの基本的な修正・デバッグの方法を知り、改善計画に従って実際に制作したプログラムの試作品を修正・デバッグする。 ◆発表会を開催し、ユーザからの評価を受け、社会に実装する上で必要なことをレポートにまとめる。	
単元例② IoTシステムを作る					

問題を解決する・俯瞰し考える（※）

（※）技術の学習過程に対応（「(ア)技術の原理と仕組みの理解」、「(イ)技術による問題解決」、「(ウ)社会における技術の吟味と活用」）

※メディアリテラシーに関する内容は、個別に指導した上で、その他すべてのコマにおいて働かせることに留意

内容項目

（第３学年）❷技術の統合

※より効果的に指導する工夫として、系統性を損なわない範囲で、各技術の時間を「技術の統合」に充てるなど、弾力的な編成が可能

内容のまとまり

仕組みを知る

① 技術の統合の仕方や役割を知る

a.技術の統合が果たす役割、 b.技術の統合とシステム環境との関係、c.先端技術の影響、d.統合した技術による問題解決の工夫

・身近な生活や社会を支える製品やサービス、システムについて調べ、それらがこれまで学んできた情報技術を基盤として、材料加工、生物育成、エネルギー変換などの技術を組み合わせることで成り立っていることに気付く。また、これらの製品やサービス等は、AI等の先端技術との組合せによって新たな機能等が生み出され進化していることを知る。その上で、身近な製品等を連想し、技術の統合によって実現できるその製品等の新たな機能や課題解決の工夫を考えるとともに、それらが人や社会、環境に及ぼす負の側面についても整理し、ワークシートにまとめる。

問題を解決する

② 技術を統合してシステムを設計・構築する

（情報技術×材料加工とデジタル製作×生物育成とデータ活用の場合）

a.課題の設定 、b.解決策の構想

・これまで製作した作品や学んだ技術を組み合わせることで、自分の生活での困ったことや気にかけている社会課題を解決できないか、AIを補助的に活用しながら考えてアイデアにまとめ解決に向けたモデルを考える。（例：授業で製作したプランターを使って育てている花への水やりを家庭で忘れてしまうという課題に対し、「プログラミングと自動化」や「情報基盤とシステム化」で学んだセンサやプログラムを活用し、土が乾くと端末に自動で通知するプランターシステムを製作する。）

c.解決策の製作

・端末や各種加工機器を使いながら、試行錯誤して製作品や技術を組み合わせる。
・システムが意図した通りに動くかをシミュレーションして確認しながら、プログラムの修正やセンサなどの取り付け方を工夫し、改善を重ねて完成させる。
（例：授業で製作したプランターに、情報技術の学習で活用したセンサを取り付けるとともに、生成AIを補助的に活用しながら通知のためのプログラムを作成する。さらに、動作を確認しながら試行錯誤を重ね、システムの改善・修正を行う。）

d.評価・改善

・課題を解決できているか、計画した機能が実現できているか、安全面やトラブルへの対応が考えられているかなどをユーザーに評価してもらい、その改善点を考えてレポートにまとめる。
（例：完成したプランターシステムを家族に使用してもらい、使い勝手や通知機能の有効性、追加してほしい機能などについて意見を聞く。その結果を踏まえ、課題解決の成果や今後の改善の方向性を整理し、レポートにまとめる。）

俯瞰し考える（※）

③ 技術を俯瞰し活用の在り方を考える

a. 生活や社会、環境との関係

・3年間の学習を振り返り、自らが情報技術や生産技術を活用して課題を解決できるようになったことを整理する。また、身近な製品やサービス、システムにおいても、同様の考え方や技術が活用されていることを見いだす。その上で、今後、技術の利用者又は開発者の立場に立って、技術によってどのような社会を実現したいか、また、その際にどのような責任や配慮が求められるかについて考察し、レポートにまとめる。

情報・技術科で育成した力を、

生活や社会で生かし、未知の課題を解決する力として、より確かなものにする

（※）技術の学習過程に対応（「(ア)技術の原理と仕組みの理解」、「(イ)技術による問題解決」、「(ウ)社会における技術の吟味と活用」）

※メディアリテラシーに関する内容は、個別に指導した上で、その他すべてのコマにおいて働かせることに留意

「技術の統合」の考え方①

- 「技術の統合」では、**各領域技術で学んだ知識や技能を関連付けて活用し、日常生活の中で生かせたり、それぞれの場面で身に付けた思考力・判断力・表現力等を組み合わせて働かせ、未知の状況においても自ら課題を解決できたりするようになる**ため、「統合的な技術」に関する学習活動を以下のような学習過程に基づき展開することが考えられる

情報・技術科で育成した力を、
生活で生かし、未知の課題を解決する力として、より確かなものに

仕組みの理解	課題の設定	解決策の構想	解決策の制作等	評価・改善	技術の俯瞰
「統合的な技術」に関する基礎的な仕組みを理解する	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし、現状をさらに良くしたり、新しいものを生み出したりするために解決すべき課題を設定する	課題の解決策を、条件を踏まえて構想（設計・計画）し、試行・試作等を通じて解決策を具体化する	解決活動（製作・制作・育成）を行う	成果や解決過程を評価し、改善・修正する	生活や社会の発展に向けて、「統合的な技術」の活用の在り方を考える
ex.統合された技術が防災に応用されていることを知る	ex. 防災に関わる問題を見いだし、被害軽減などの観点から技術的な課題を設定する	ex.既習の技術を統合して課題を解決するシステムを作れないか考え、設計図に表す	ex.技術を統合して設計した防災システムのモデルを製作する	ex.製作した防災システムのモデルを評価し、改善・修正する	ex.将来の災害に備え、学んだ技術をどう活用したらよいか考える

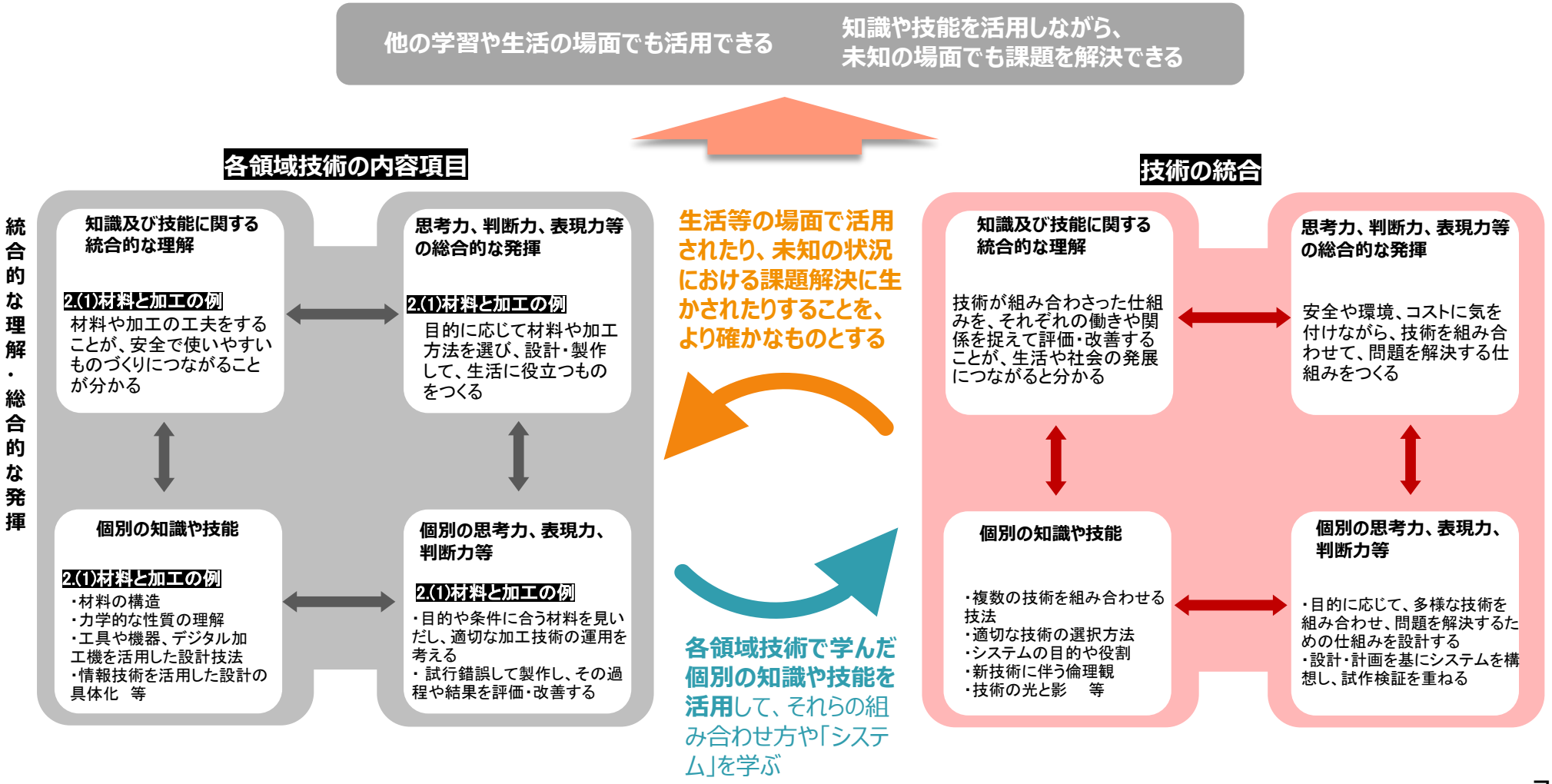
各領域技術で学んだ知識や技能を関連付けて活用

- 材料と加工の技術
- 生物育成の技術
- エネルギー変換の技術
- 情報の技術

「技術の統合」の考え方②

- 「統合的な技術」や「システム」を対象とする「技術の統合」は、**「つくる」活動を通して、知識の理解や思考した内容を表現（外化）する機会を確保することを趣旨としたもの**
- これにより、技術の統合にとどまらず、各領域の技術も含め、情報・技術科全体で育成する資質・能力が、**他の学習や生活の場面で活用されたり、未知の状況における課題の解決に生かされたりすることを、より確かなものとすることが期待**される

総合実習と各領域技術との関係

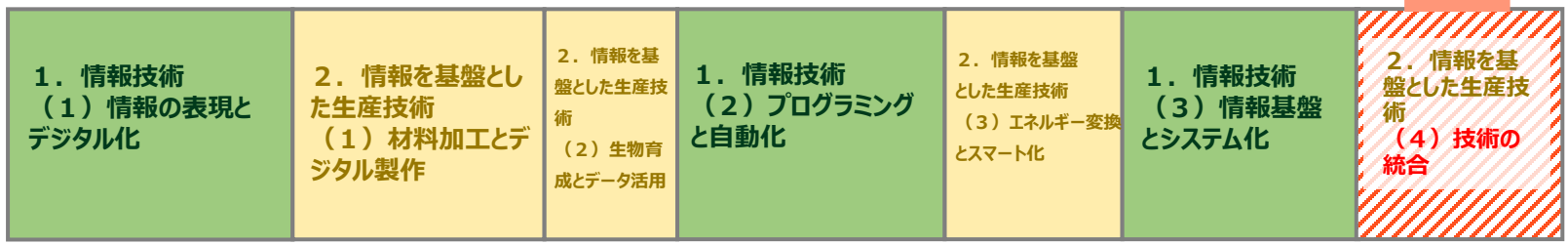


「技術の統合」の指導上の工夫のイメージ

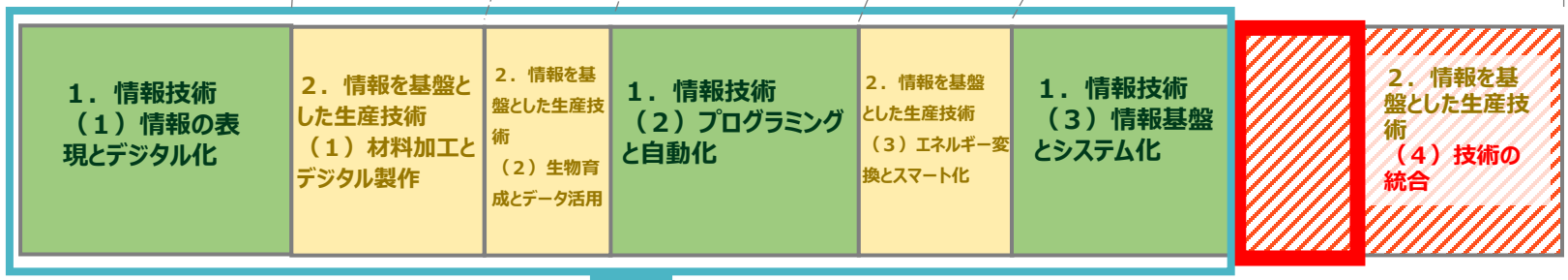
第1学年　第2学年　第3学年

これまでの学習の中で制作等してきた成果物を活用し、別の領域技術を用いた新たな機能を付加することで、利便性を向上した新たな価値をつくりあげるといった題材を設定することが考えられる（既存の成果物の活用により、問題解決の時間が省略）

通常のパターン例



各内容項目の一部を切り出してより充実するパターン例



各内容目から、系統性等を損なわない範囲で、技術の統合の文脈に位置付けが可能な、問題解決を実践する時間等の一部を切り出す

各内容項目から捻出した時間を付加し（赤枠分）、問題発見から、価値創造・解決までの過程において、何度も試行錯誤できたり、一度作り上げてから評価・フィードバックを経て改善する過程を複数回繰り返すなどより深い実践ができるような題材を設定することが考えられる

高等学校情報科の内容構成の改善イメージ

- 現行の内容構成には以下のような課題が存在
  - **高等教育の数理・データサイエンス・AI教育との関係を踏まえると、AIやデータの扱いについて学ぶ内容が不十分（❶）**
  - **探究的・実践的な学びが不十分（❷）**
  - **一部内容**(ex.情報やコンピュータ等)**を複数の項目で扱っているため重複が発生しており、体系性が不明確（❸）**

- 内容構成について、現状の課題（❶～❸）を改善しつつ、情報活用能力の体系を基に**引き続き扱うべき内容項目を高度化**(※)**すること**（❹）を踏まえ、組み替えることが適当である
  (※)小・中において抜本的に内容を充実することから、その接続として、高校段階でもより高度な内容を扱える
- なお、情報活用能力育成の抜本的充実として小・中との系統性がより一層重要となることを踏まえ、情報科では引き続き**学習内容を基に分類する構成**とする

科目構成・内容構成イメージを踏まえた情報Ⅰ・Ⅱの関係性

- 科目構成の改善イメージや内容構成の改善イメージを踏まえた、情報Ⅰと情報Ⅱの**各内容項目の関係性**は以下のとおり考えられる

情報Ⅰ

(１)情報の仕組みと社会との関わり

中学までの学習の全体と**AIの基本**と**社会とのかかわり**を概念的に理解する

(２)情報デザインとデザイン思考

情報を**効果的に伝える手法**等を知り、ユーザーを意識した作品制作を学ぶ

(３)データ分析とモデル化・シミュレーション

データ分析の基本を学び、問題解決のための**モデル**を考えて**シミュレーション**する

(４)アルゴリズムとシステム開発

ユーザーへの影響を考慮して**アルゴリズム**を考え、**システム開発**をする

(５) PBLによる課題解決の実践

探究的な学びを通して上記を総合的に発揮する

情報Ⅰ → 情報Ⅱ

情報Ⅱ

(１)社会課題とデータサイエンス

Ⅰの発展的な内容と社会課題に資する**データサイエンスの手法**を深く学ぶ

(２)コンテンツデザイン

Ⅰの内容を活かし、設計や評価の手法を学び**質の高いコンテンツ制作**をする

(３) AI

ⅠとⅡ(1)データサイエンスの内容を活かし、
大量のデータを扱う機械学習等の**AIの仕組み・ガバナンス**等を学ぶ

(４)先端技術と情報システムデザイン

ⅠとⅡ(1)~(4)の内容を活かし、
メタバースやAIなどの**先端技術**を複数組み合わせて**システムを開発し実装**する

(５) PBLによる価値創造の実践

実社会の課題を扱う**実践的な学び**を通して上記を総合的に発揮する

※名称等はいずれも仮称

情報科　情報Ⅰ　①内容項目間の関係

目標

生活や社会を情報の観点から捉え、**情報技術で問題を発見・解決したり価値を創造したりする資質・能力**について、
科学的な理解に基づき情報技術を活用する探究活動を通して、育成することを目指す

科目

共通必履修科目としての情報Ⅰで培った基礎の上に選択科目としての情報Ⅱを設置する現行の考え方を維持

内容項目

※内容項目の名称はすべて仮称であることに留意

（５）PBLによる課題解決の実践

探究的な学習を通して実社会の課題を対象に問題の発見から解決までの一連の過程を実践する

中学や情報Ⅰで学んだ情報技術を統合して、課題解決プロセスを実践する機会を充実
※探究的な学びを充実する観点から新たに設置

（２）情報デザインとデザイン思考

情報を**効果的に伝える手法**等を知り、ユーザーを意識した作品制作をする

①情報デザイン　②デザイン思考

（３）データ分析とモデル化・シミュレーション

データ分析の基本を学び、問題解決のための**モデル**を考えて**シミュレーション**する

①データの活用　②モデル化・シミュレーション
③データ分析のプロセス

（４）アルゴリズムとシステム開発

ユーザーへの影響を考慮してアルゴリズムを考え、プログラミングを通じてシステム開発をする

①アルゴリズムとプログラム　②データベース
③システム開発

情報技術を活用してどのように課題を解決するか、という観点で（２）～（４）のとおり類型化し、仕組みや活用方法を学ぶ
※　課題解決アプローチとして、高校生の発達段階を踏まえ、（相手に分かりやすく伝える(2)）（データを分析して傾向を捉える(3)）（プログラミングで処理を自動化する仕組みをつくる(4)）の3つに分類する考え方は現行の方向性を維持　（（１）で学んだコンピュータ・ネットワークの仕組みやAIに関する内容が（２）～（４）を支える）

（１）情報の仕組みと社会との関わり　AIの基本や情報技術と社会とのかかわりを概念的に理解する

＜内容のまとまり＞
①コンピュータ・ネットワークの仕組み　②AI　③法・倫理・安全

情報技術を活用した課題解決の前提として、ネットワークやAI等の共通的な技術や、情報社会におけるルールやマナー等を学ぶ

※AIに関する独立した内容項目を設けるのではなく、すべての内容項目においてAIに関する特性や適切な取扱いに関連する内容を扱う

情報・技術科

情報技術領域

（１）情報の表現とデジタル化　（２）プログラミングと自動化　（３）情報基盤とシステム化

小・中で学んだ基礎の上に、情報Ⅰが位置する関係（情報・技術科のそれぞれの内容項目からの接続は矢印のとおり）

情報科　情報Ⅱ　①内容項目間の関係

目標

生活や社会を情報の観点から捉え、**情報技術で問題を発見・解決したり価値を創造したりする資質・能力**について、**科学的な理解に基づき情報技術を活用する探究活動**を通して、育成することを目指す

科目

共通必履修科目としての情報Ⅰで培った基礎の上に**選択科目としての情報Ⅱ**を設置する現行の考え方を維持

内容項目

※内容項目の名称はすべて仮称であることに留意

（５）PBLによる価値創造の実践

探究的な学習を通して実社会の課題を対象に課題解決や価値創造までの一連の過程を実践する

※情報Ⅱは、単位を弾力化し、柔軟に単位数を配当できることとする方向で検討しており、これにより探究的な学びをさらに充実させることも可能

情報Ⅰ・Ⅱで学んだ情報技術を統合して、課題解決・価値創造のプロセスを実践する機会を充実

（１）社会課題とデータサイエンス

情報Ⅰ(3)の発展的な内容と社会課題に資するデータサイエンスの手法を深く学ぶ

＜内容のまとまり＞

①データサイエンスの手法
②社会課題の解決

（２）コンテンツデザイン

情報Ⅰ(2)の内容を活かし、設計や評価の手法を学び質の高いコンテンツ制作をする

①コンテンツ設計・評価の手法
②コンテンツデザイン

（３）AI

情報Ⅰと情報Ⅱ(1)データサイエンスの内容を活かし、大量のデータを扱う機械学習等のAIの仕組み・ガバナンス等を学ぶ

①AIの仕組み
②AIガバナンス

（４）先端技術と情報システムデザイン

情報Ⅰと情報Ⅱ(1)~(3)の内容を活かし、メタバースやAIなどの先端技術を複数組み合わせてシステムを開発し実装する

①先端技術の仕組み
②システムデザイン

情報技術を活用してどのように課題を解決するか、という観点で（１）～（４）のとおり類型化し、より専門的な仕組みや活用方法を学ぶ

※ 課題解決アプローチの考え方は情報Ⅰを踏襲しつつ、高等教育の数理・データサイエンス・AI教育との関係を踏まえ、AIやデータの扱いについて学ぶ内容を抜本的に充実する観点から新たに、(1)のデータサイエンスと(3)AIの要素を加える

※すべての内容項目でAIと関連させながらその内容を学ぶ前提の下、選択科目という特性を踏まえ、さらに「（３） AI」において、AIの開発・提供に資する発展的な内容を深く学ぶ

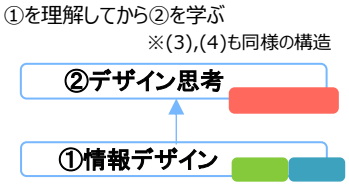
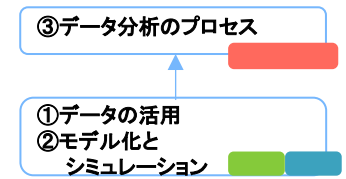
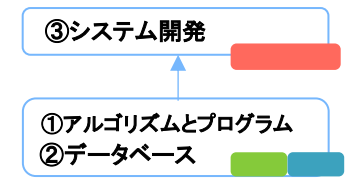
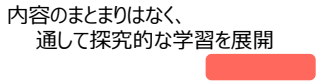
情報Ⅰ

（１） 情報の仕組みと社会との関わり
（２） 情報デザインとデザイン思考
（３）データ分析とモデル化・シミュレーション
（４）アルゴリズムとシステム開発
（５）PBLによる課題解決の実践

小・中や情報Ⅰで学んだ基礎の上に、情報Ⅱが位置する関係（情報Ⅰのそれぞれの内容項目からの接続は矢印のとおり）

②内容のまとまり間の関係と学習内容イメージ（情報Ⅰ）

※以下は、代表的な学習内容を列挙しているものであり、網羅性は担保されていないことに留意
※内容項目の名称はすべて仮称であることに留意

内容項目	内容のまとまり	学習内容イメージ
（1）情報の仕組みと社会との関わり		**①コンピュータ・ネットワークの仕組み** コンピュータの基本構成や情報のデジタル表現、情報処理の流れ、ネットワークの構造や通信プロトコル等の仕組みを理解し、情報処理や通信がもたらす利便性とリスクを多面的に捉える。 **②AI** AIの基本的な仕組みや学習データとの関係、出力結果の特性を理解し、利点や限界を踏まえて、社会における活用事例や影響を考察し、適切な活用や判断の在り方を検討する。 **③法・倫理・安全** 個人情報保護や著作権などの法制度の趣旨、メディアリテラシー、情報モラルやセキュリティの基本を理解し、偽情報への対応も含めて、安全で公正な情報活用と他者の権利や社会的責任に配慮した判断を行う。
（2）情報デザインとデザイン思考		**①情報デザイン** 目的や対象に応じた情報の構造化や表現方法、表現の目的に応じたAIを含む複数のツールや方法を比較検討、ユーザビリティやアクセシビリティ、人間中心設計の考え方を理解し、分かりやすく効果的に伝えるための情報の表現の原理や手法を学ぶ。 **②デザイン思考** ユーザーの立場や利用場面を踏まえて課題やニーズを整理し、共感・定義・発想・試作・評価・改善を繰り返しながら、ユーザーにとって適切な理解や行動を促す表現や解決策を設計・創出するとともに、試作やフィードバックを通して表現を見直し、改善の方向性を判断する。
（3）データ分析とモデル化・シミュレーション		**①データの活用** データの種類や特徴を理解し、課題に応じたデータの収集・整理・加工、表やグラフによる可視化や分析方法を学び、データを適切に扱うための基礎的な知識と技能を身に付け、複数のデータを比較・分類・集計し、基礎的な指標や可視化を用いて、傾向や関係を論理的に捉える。 **②モデル化・シミュレーション** 現実の事象を単純化してモデルとして表現する考え方や、条件や仮定を設定してシミュレーションを行う方法を理解し、結果を比較・検討してモデルの妥当性や活用の在り方を考える。 **③データ分析のプロセス** 課題に応じてデータを収集・分析し、結果を解釈して意思決定につなげる一連のプロセスを理解し、分析結果の妥当性や限界を踏まえて、根拠を示しながらデータ分析やシミュレーションの結果を、根拠を示しながら論理的に説明する。
（4）アルゴリズムとシステム開発		**①アルゴリズムとプログラム** 目的に応じたアルゴリズムの表現方法や、プログラミングによる処理の実現方法を理解し、アルゴリズムの条件等の妥当性を確認し、コンピュータの特性を踏まえて、処理手順の設計・実装・評価の基礎を理解する。 **②データベース** データの構造や管理の考え方、効率的な検索・整理・保存の方法を理解し、大量の情報を扱う仕組みとしてのデータ管理の基礎と、その活用方法を学ぶ。 **③システム開発** アルゴリズムやデータ管理を基に、利用者や社会への影響を考慮しながらAIを含む情報システムを設計・実装・評価し、目的に応じたサービスとして統合的に構築し、情報技術の正負の側面や利用者への影響を考慮して改善案を考え、アルゴリズム・プログラム・データ構造を見直してシステム全体の改善につなげる。
（5）PBLによる課題解決の実践		探究的な学習を通して、情報Ⅰの（１）から（４）で学んだ内容を統合的に活用し、実社会の課題を対象に問題の発見から解決までの一連の過程を実践する。 調査・分析、設計、実装、評価・改善を段階的に進め、データや利用者の視点を踏まえて解決策を具体化する。試作と検証を通して課題や改善点を多角的に見いだし、利便性とリスクの両面や社会的責任を考慮しながら、根拠をもってよりよい解決策へと高め、表現する。

※「①活用、②適切な取扱い、③特性の理解」は主に区分されるものを表示しているため、厳密にはそれ以外の要素も含まれうることに留意

情報活用能力としての資質・能力		
	①活用	多様な情報を収集・構造化して多角的に分析し、論理的に表現・議論しながら、課題を解決できる
	②適切な取扱い	情報技術の利便性と負の影響、信頼性を評価し、社会的責任をもって情報を活用できる
	③特性の理解	情報技術の原理や社会的影響を科学的に理解し、多様な情報を分析・統合して創造的に解決策や価値を構想・表現できる

②内容のまとまり間の関係と学習内容イメージ（情報Ⅱ）

※以下は、代表的な学習内容を列挙しているものであり、網羅性は担保されていないことに留意
※内容項目の名称はすべて仮称であることに留意

内容項目	内容のまとまり	学習内容イメージ
（1）社会課題とデータサイエンス	①を理解してから②を学ぶ ※(2)～(4)も同様の構造 ②社会課題の解決 ①データサイエンスの手法	**①データサイエンスの手法** データの処理方法を選択して、プログラミングを活用してデータ処理を行い、その結果が分析に与える影響を多角的に検討するとともに、データの種類や特性に応じて分析手法を選択して、時系列・テキスト・画像など複数のデータを関連付けて分析する。 **②社会課題の解決** 社会課題の性質を踏まえ、事象や場面を想定してデータを活用することを考え、分析に必要なデータや収集方法を選択し、条件を変えて分析し、分析結果やシミュレーションの結果を基に、社会課題の解決に向けて判断し、データに基づく解決策の社会的影響や有効性、実行可能性を検討し、根拠を示して論理的に説明する。
（2）コンテンツデザイン	②コンテンツデザイン ①コンテンツ設計・評価の手法	**①コンテンツ設計・評価の手法** 人間中心設計の考え方に基づいて、ユーザーの環境や状況などを整理し、コンテンツを設計・制作したものを実際の利用状況を検証し、ユーザビリティやアクセシビリティの観点から評価指標に基づいて検証し、コンテンツを批判的に評価し、その妥当性を検討する。 **②コンテンツデザイン** ユーザ分析をし、プロトタイプを活用し、設計・制作・評価・改善を反復しながら、完成度を高め、その設計や改善の過程及び成果を、ユーザーにとっての価値という観点から整理し、根拠を示して説明する。
（3）AI	②AIガバナンス ①AIの仕組み	**①AIの仕組み** 機械学習の基本的な仕組みや学習データの特性、予測や生成の考え方を理解し、AIの出力結果の妥当性や限界、学習方法や活用方法について考え、基本的な仕組みや学習データの特性を踏まえAIモデルを構築する方法を理解する。 **②AIガバナンス** AIの活用による利点と課題を整理し、AIの活用によって得られる結果を過信せず、倫理的・法的・社会的観点から批判的に評価し、データの偏りやバイアスがもたらす影響を踏まえ、より公正で適切な活用方法を判断するとともに、AIのガバナンスの考え方を基に、AIを安全かつ責任ある形で課題解決や価値創造に向けて活用する方法を多角的に考える。
（4）先端技術と情報システムデザイン	②システムデザイン ①先端技術の仕組み	**①先端技術の仕組み** 社会に実装された先端技術の特徴を踏まえ、社会課題との関係から活用の可能性を論理的に判断し、AIを含む先端技術の有効性や限界を批判的に評価し、社会課題や目的に基づいてシステム要件を整理する方法を理解し、情報技術の組み合わせにより新たな情報技術を生み出す方法について考察する。 **②システムデザイン** 社会課題の解決に向けて目的に応じて先端技術を適切に選択・組み合わせ、機能や制約を考慮しながらシステムを構築し、社会課題の解決につながる提案を論理的に考える。
（5）PBLによる価値創造の実践	内容のまとまりはなく、 通して探究的な学習を展開	探究的な学習を通して、情報Ⅰと情報Ⅱの（1）から（4）で学んだ内容を統合的に活用し、実社会の課題を対象に問題の発見から解決までの一連の過程を実践する。 実社会の課題を多角的に捉え、情報の観点から本質的な課題を見いだし、データ活用・AI・アルゴリズム・情報システム・コンテンツ制作を統合して実行する中で、協働してフィードバックを取り入れながら多角的に評価・改善を重ね、解決策の価値を多角的に判断し、成果を発信する。

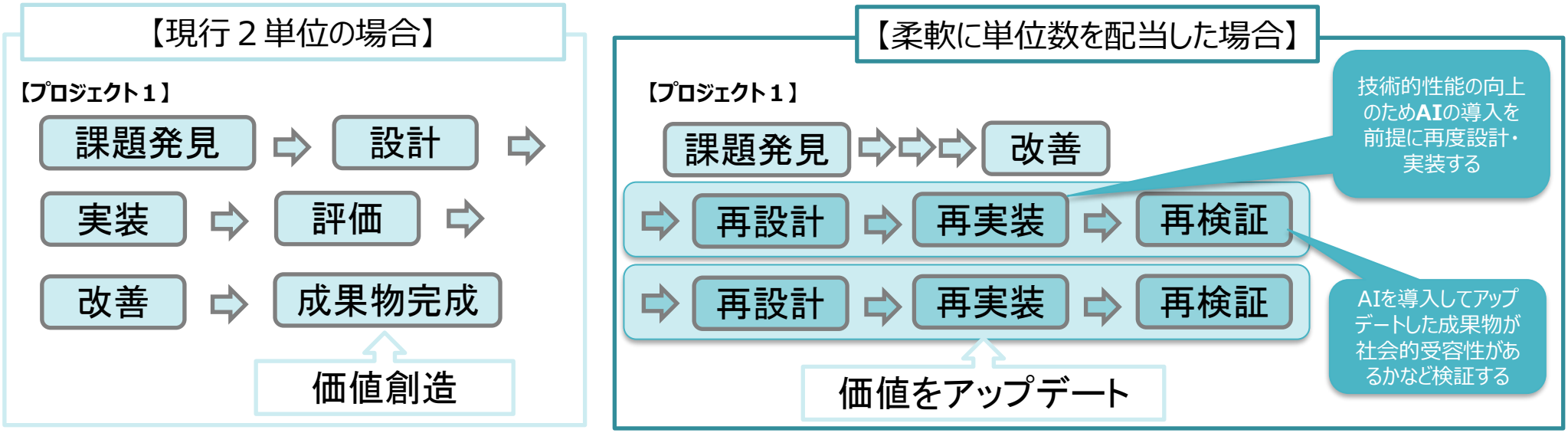
※「①活用、②適切な取扱い、③特性の理解」は主に区分されるものを表示しているため、厳密にはそれ以外の要素も含まれうることに留意

情報活用能力としての資質・能力	
①活用	多様な情報を収集・構造化して多角的に分析し、論理的に表現・議論しながら、課題を解決できる
②適切な取扱い	情報技術の利便性と負の影響、信頼性を評価し、社会的責任をもって情報を活用できる
③特性の理解	情報技術の原理や社会的影響を科学的に理解し、多様な情報を分析・統合して創造的に解決策や価値を構想・表現できる

「情報Ⅱ」の単位数弾力化の考え方

- 情報Ⅱの単位を弾力化し、柔軟に単位数を配当できることとした場合、特に、「（５）PBLによる価値創造の実践」の学習を充実することが見込まれる
- 情報Ⅱの（５）は、一定の制約の下でプロジェクトを管理・進行し、情報システムをはじめとする価値を創出するとともに、実装後のフィードバックを踏まえて改善を重ねるプロセスそのものを学習対象としている。また、情報科の文脈での価値とは、情報技術の進展や社会の変化等に応じて、実装後も、陳腐化しないよう絶えずアップデートしていく必要があるという性質をもつ
- このため、例えば、AI等の先端技術を導入して更なる技術的性能の向上を図るための改善や、そうした先端技術の導入に関し、倫理・法・社会的な観点から妥当性の吟味・評価といった継続が求められる
- こうした前提によれば、**情報Ⅱへ配当される単位数に応じて、価値実装後の改善を重ねるプロセスにおける、技術的性能の向上や、妥当性の評価等を継続的に行うことを可能とすることによって、より洗練された価値創造の実践につながる**

情報Ⅱ（5）の学習過程の比較



１サイクルを通じて、価値を創造する過程を学ぶ

サイクルを繰り返すことで、より洗練された価値を創造する過程を学べる

新教科・領域による各教科等の学びの充実

- 新教科・領域(※)で体系的・系統的に情報活用能力を育成することにより、**教育課程全体の観点から、他教科等の学びの質の向上にどのように資するのか**、以下の観点から整理

(※)小学校「情報の領域」及び中学校「情報・技術科」

① **端末等の活用方法に関する内容の精選に寄与**

これまで各教科等において個別に指導してきた端末等の基本的な活用方法について、改訂後は新教科・領域で体系的に扱うことにより、教科等の文脈に依存することなく習得できるようになる。このことにより、例えば、ある教科で学んだスライド資料の作成方法が、他教科等での発表活動に十分生かされない等といったことの解消が期待され、各教科等において当該内容を精選することが可能となる

② **特定の教科固有の内容の精選に寄与**

特定の教科等において扱われている内容のうち、新たに整理した情報活用能力としての資質・能力の育成に必要な内容について、改訂後は新教科・領域等で扱うことにより、当該教科等において重複して扱う必要性が低下することから、内容の精選が可能となる

- 以上も含め、情報活用能力の育成に関して新教科・領域の果たす役割は極めて大きくなることから、総則において、新教科・領域等を情報活用能力の育成の「要」と位置付けることとすることが適当である

※小学校の例（中学校も同様の考え方で整理）

現行の学習指導要領

◆ 体系的な指導が不十分なために、端末やアプリの操作などが各教科等の指導時間を圧迫し教科固有の内容を十分に指導できていない場合がある

（例）

算数	・プログラミング（正多角形作図）
理科	・プログラミング（センサー）
国語	・タイピング
社会	・コンピュータなどを使った情報収集
図画工作	・ペインティングツールやカメラの操作

改訂後　情報の領域で扱うべき内容の整理とその効果

① 全ての教科等共通の観点

- **端末等の基本的な使い方や各種アプリの操作の仕方**を情報の領域で体系的に扱う
  - ➢ 他教科等での扱いは今後精選する方向で検討が可能

（例）
タイピング、写真撮影、録画、録音、コミュニケーションツール、スライド、表計算ソフト、文書作成ソフト、アンケート、webフォームの使い方等

（情報の領域で扱うことが可能な内容の例）

国語：文書作成ソフトを使って説明文などの文章を書いた時のカット、コピーアンドペーストなどの操作の仕方
社会：Webアンケートで調べる、インターネットで調べる、調べた事を資料にまとめる時のコンピュータの操作の仕方や注意点
理科：実験してその結果をまとめ、複数の結果を比べて考察するための、動画の撮り方や録音の仕方、複数の写真の並べ方
算数：グラフや表を端末で扱うための表計算ソフトの使い方　等

② 特定の教科等の観点

- **各教科等固有の内容**でもあるが、情報活用能力の育成にも資する内容を扱う

他教科等から引き取る具体的な内容は次頁で整理

各教科等から移行可能と考えられる内容の整理

- 特定の教科等において扱われている内容のうち、新教科・領域の創設によって、**各教科等において今後精選が可能と考えられる内容**は次の考え方に基づき整理（今後、告示を見据えて各教科等との調整の上、更に具体化を図っていく必要）

① 現行の各教科等の内容のうち、情報活用能力の育成にも資するものを特定する
② 新教科・領域の体系整理の際に検討した学習活動イメージを踏まえ、新教科・領域ではどのような形で扱えるかを検討する
③ ②の内容の精選により、各教科等において教科固有の学習をどのように重点化できるかなど、その効果を検討する

※各教科等の目標や内容との関係から、移行後も引き続き当該教科等で扱うべき内容が存在するものの、新教科・領域との適切な役割分担が明確になることにより、各教科等の学びの充実に資すると考えられる

各教科から新教科・領域に移行することで精選が可能

特定の教科固有の内容

（小学校の例）以下は主な事項

【算数・第５学年】プログラミング（正多角形）

【現行】
①プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、正多角形の作図に関連して、繰り返しや規則性を学習する

【情報の領域】
②プログラミング的思考や情報技術を活用したデータの収集・整理・可視化を体系的に扱う
※ ③算数では、図形の性質や規則性の理解、データの特徴や傾向を基にした統計的な問題解決などの**算数固有の学習に重点化することが可能**

【理科・第６学年】プログラミング（センサー）

【現行】
①プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う場合には、条件に応じた動作や、条件の変化による動作の違いを考察することなどを学習する

【情報の領域】
②プログラミング的思考の育成の中で、条件に応じた制御や自動化の仕組みを体系的に扱う
※ ③理科では、電気の性質や働き、エネルギー利用の仕組みなど、**理科固有の学習に重点化することが可能**

【社会・第５学年】産業と情報との関わり

【現行】
①情報技術の活用が様々な産業を発展させ国民生活を向上させていること、情報を集め発信するまでの工夫や努力、情報の種類、情報の活用の仕方などを学習する

【情報の領域】
②情報技術の社会的役割やメディアが発する情報の特性等を体系的に扱う
※ ③社会科では、情報通信技術を活用した産業と国民生活との関わりについて考察する**社会固有の学習に重点化することが可能**

（中学校の例）以下は主な事項

【社会・第３学年】情報化

【現行】
①公民的分野において、現代日本の特色として情報化を学ぶ。具体的には人工知能の急速な進化による社会の変化などを学習する

【情報・技術科】
②AI等の先端技術が社会に与える影響等を体系的に扱う
※ ③社会においては、情報化や先端技術の登場に伴う社会や国民生活の変化や課題を考察する**社会固有の学習に重点化することが可能**

【数学・第１学年】データの整理・分析

【現行】
①コンピュータなどの情報技術を活用してデータを収集・整理・分析し、その傾向を読み取って考察・判断したり、標本を抽出したりすることを学習する

【情報・技術科】
②情報技術の活用によるデータの収集・整理・分析に関する内容を体系的に扱う
※ ③数学においては、統計学の数学的な側面や標本調査の数学的な意味を理解する**数学固有の学習に重点化することが可能**

【保健体育・第１学年】健康との関わり

【現行】
①保健分野において、健康の保持増進や健康的な生活習慣の形成の一環として、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりを学習する

【情報・技術科】
②長時間利用等の情報機器が健康に与える影響等を体系的に扱う
※ ③保健体育においては、これらを前提として、健康的な生活習慣の形成や健康の保持増進に関する**保健分野固有の学習に重点化することが可能**

端末等の活用

【国語・第３学年】タイピング

【現行】
①ローマ字による表記の仕方や、読み書きの指導に関連して、コンピュータでローマ字などの文字を入力するといった基本的な操作を学習する

【情報の領域】
②キーボードで文字を入力する基本的な方法や反復して習得していく大切さ等を体系的に扱う
※ ③国語科の文脈に依存することなくキーボード入力を学ぶことができ、**ローマ字入力によるタイピングの習熟や各教科等の端末を活用した学習活動の高度化が期待**

【美術・各学年】メディアの活用

【現行】
①美術の表現の可能性を広げるため、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアを積極的に活用する

【情報・技術科】
②端末を活用した映像メディアの操作や情報デザイン等を体系的に扱う
※ ③**各教科等における端末を介したメディアの活用等による学習活動の高度化が期待**。なお、美術科固有のデザインや映像メディアに関する学習は引き続き美術で指導

各教科等共通の活用方法

【各教科等共通】その他端末等の基本的な使い方や各種アプリケーションの操作の仕方（新教科・領域に新たに記載することで、他教科等の学びの充実に寄与）

【現行】
①端末や各種アプリケーションの使い方を各教科等の文脈の中で指導

【情報の領域、情報・技術科】
②端末等の基本的な使い方や各種アプリケーションの操作の仕方について、発達段階に応じて体系的に取り扱う
※ ③（小学校の例）教科等の文脈に依存することなく習得でき、例えば、ある教科で学んだスライド資料の作成方法が、他教科等での発表活動に十分生かされない等といったことの解消が期待

情報の領域、情報・技術科の授業時数の規模の考え方

- これまで整理してきた、新教科・領域において各学年ごとに必要となる具体的な学習内容や、各教科等の学びの充実や内容の精選へどのように寄与するかといった点を踏まえ、教育課程全体の観点からの授業時数の判断に資する考え方を次のとおり整理
- 今後、以下で示した授業時数の規模を検討する目安を参考としつつ、第１部第８章（１）に基づき教育課程全体の観点から総合的に検討すべきである

- 新教科・領域の必要性や妥当性を平易かつ分かりやすく説明するため、体系整理において各学年の学習活動のイメージをできる限り小さな単位で整理した結果を基に、試行的に各学年の「・」の学習活動を積み上げてみると、小学校第３学年では28項目程度、第４学年では27項目程度、第５学年では31項目程度、第6学年では30項目程度、中学校第１学年では65項目程度、第２学年では66項目程度、第３学年では32項目程度の学習活動が想定される。これらは、新教科・領域で扱う学習内容のおおよその規模感を把握する際の一つの参考になるものと考えられる。

- この学習活動イメージは、内容をできる限り小さな単位で示したものであるが、実際の授業においては、一つの「・」を１コマで扱う場合もあれば、学んだ内容を関連付けて活用できるよう複数の「・」を1コマで一体的に扱う場合もある。また、一つの「・」であっても、知識・技能の習得のみならず、それらを活用して考察したりまとめたりする活動まで含めて扱う場合には、２、３コマ程度を要することもあり得る。
  - ※ 例えば、情報の領域における「ミニ探究ユニット」や、情報・技術科の「１．情報技術」の領域における問題解決の活動などの探究的・実践的な学習は、知識や技能を総合的に活用しながらリアルな課題解決に取り組む学習過程を重視して行われることから、「・」の単純な積み上げではなく、一定のまとまりをもった時間が確保されるよう考慮する必要があると考えられる。

- このように、各「・」の学習活動については、１コマで扱えるものもある一方で、１コマ未満で扱えるものや複数コマを要するものも想定されることから、必要となる授業時数の検討に当たっては、さらに個別具体に精査することが必要である。よって、今回整理した「・」の積み上げは、新教科・領域で扱う学習内容の規模を把握するための参考資料と位置付けた上で、新教科・領域の創設により期待される各教科等の内容の精選の効果等も踏まえながら、教育課程全体の観点から総合的に検討することが適当。

情報の領域、情報・技術科、情報科の条件整備の方向性

現時点での対応策と今後さらに検討すべき事項

- 国では「情報活用能力の抜本的向上を支える指導体制改善プラン（令和7年9月25日文部科学省）」を策定し、安定した指導体制の下で、情報活用能力の育成が展開されるよう、令和８年度から逐次改革に取り組んでいる。
- 本プランに基づき、すでに情報の領域及び情報・技術科に関する教材開発や実証、技術科担当教員の確保に向けた認定講習、新課程にも対応可能な動画教材の作成等に着手しているほか、今後、外部人材の効果的な活用等に着手する。
- 加えて、本プランでは対応が不十分な以下の検討事項も明らかとなっていることから、具体的な実施計画やスケジュールを速やかに整理し、本プランを改訂するとともに、国主導の下で条件整備を抜本的かつ集中的に推進する。

- **作成中の情報の領域に係る教材を指導できるよう、すべての小学校担当教員の指導力向上に資する研修の支援**
  - 令和9年度末までに、情報の領域の趣旨、教材を活用した授業づくり、指導上の留意点などを学ぶための研修動画コンテンツを作成・提供するとともに、国において都道府県教育委員会等と連携し、説明会や研修を実施し、地域における指導者の育成や各教育委員会における研修の促進・充実を図り、情報の領域を担当する全ての小学校教員への研修の実施を図る
  - 全面実施までに、授業実践や指導計画作成の優良事例を周知するとともに、それらを踏まえた研修動画コンテンツを作成・提供する
- **作成中の情報・技術科に係る教材を指導できるよう、すべての中学校担当教員の指導力向上に資する研修の支援**
  - 令和10年度末までに、情報・技術科の趣旨、教材を活用した授業づくり、指導上の留意点などを学ぶための研修動画コンテンツを作成・提供する。加えて、国において都道府県教育委員会等と連携し、説明会や研修を全ての情報・技術科担当教員を対象として実施するとともに、地域における指導者の育成や各教育委員会における研修の促進・充実を図る
  - 全面実施までに、授業実践や指導計画作成の優良事例を周知するとともに、教科担当としての専門性の向上につながる研修動画コンテンツを作成・提供する
- 情報・技術科の**「技術の統合」**について、教員が不安を感じることなく趣旨を十分に理解し、確実に実施できるよう、教材の開発にとどまらず、**指導計画や授業の具体的なイメージを示す参考資料、研修を組み合わせたパッケージの提供**
- 高校情報科の新課程について授業でも使えるような**動画教材を網羅的に作成**
- 情報科担当教員の新課程に対応する**指導力向上に資する研修の支援**
- **新内容を指導するための環境整備**として、いわゆるPC教室の在り方等について、学校のICT環境整備３か年計画（令和７～９年度）期間中に整理。また、PC教室の在り方がより重要となると見込まれることを踏まえ、並行して、PC教室の環境の維持に向けた周知・啓発を行うとともに、活用可能な財政措置等についても整理
- **３Ｄプリンター等の教材の各自治体での整備状況把握、可視化を踏まえた多様な整備の工夫、整備促進策**を令和８年度中を目途に検討
- 地域の実情に応じた持続可能な指導体制を構築するための、**実践自治体の指定を通じた複数校指導・遠隔授業等の実証、成果の横展開**や教育委員会への伴走支援について令和９年度から実施できるよう検討
- 情報・技術科をすべての中学校で着実に実施できるようにするため、教員の計画的な養成・確保に資する免許制度の在り方について検討
- 情報科の単位柔軟化による指導の工夫や、情報Ⅱの設置率の向上に向けた条件整備に関する周知啓発